

社会医療法人 **かりゆし会 年報** 第29巻 2022年度
(2022年4月1日～2023年3月31日)

Annual report of Social medical corporation KARIYUSHIKAI
Vol.29 2022 (April 1, 2022-March 31, 2023)

年報発刊によせて



2023 年 5 月 8 日から、新型コロナウイルス感染症(コロナ2類相当)は 5 類感染症に移行しました。2020 年 2 月 14 日に県内で初めてコロナが確認されてから 3 年 3 ヶ月経過し、2023 年 5 月 8 日時点でコロナ感染者は全国で 33,802,739 人(沖縄県:583,657 人)、死亡者数は 74,694 人で致死率は 0.22%(沖縄県:1,020 人:致死率 0.17%)でした。インフルエンザの致死率は約 0.1%といわれており、オミクロン株はほとんど近似しています。

今後、重症化の高い変異株さえ出現しなければ、2023 年 5 月時点のコロナは症状も軽く(無症状も多い)、医療機関や高齢者施設の感染対策と在宅療養期間(感染後 5 日自宅待機、インフルは解熱後 2 日)を除き、インフルエンザを超えた大きな問題は生じ無いと思われますが、注視する必要があります。高齢者や医療機関・介護施設従事者は積極的なワクチン接種が望まれます。

ハートライフ病院診療圏における受診状況と人口動態、そして近隣医療機関の動向と医療提供体制改革の今後のスケジュールを検討してみます。2022 年の年報によれば、外来は西原町が 22.9%、宜野湾市が 19.5%、中城村が 16.6%、南城市が 9.0%、与那原町が 8.6%。入院は西原町が 22.8%、宜野湾市が 20.8%、中城村が 14.5%、南城市が 11.5%、与那原町が 8.3% です。その 5 市町村の人口動態推移(2020 年～2025 年～2035 年)を見ると、中城村(22,130～22,510～23,030:増)、西原町(34,920～34,820～34,120:減)、与那原町(19,679～19,950～20,140:増)、宜野湾市(99,980～100,880～100,640:増減)、南城市(43,960～43,850～43,120:減)と全体的には横ばいの診療圏です。一方、その期間の医療需要は約 1.4 倍、介護需要は 1.8 倍といわれています。

琉球大学医学部と附属病院は 2024 年末には移転し、診療開始は 2025 年初めの予定です。浦添総合病院は 2023 年度末に竣工し、2024 年度初めより診療が開始されるでしょう。患者動向分析が望まれます。

医療提供体制改革は、2023 年度は第 8 次医療計画策定の年度です。5 疾病・6 事業(新興感染症対策)及び在宅医療に加え、医師・医療従事者の確保、そして医療圏の必要病床の推移(2022 年:地域包括ケア病床 480 床を増床した)を見る必要があります。コロナは収束に進むのか? 地域医療構想は病床期分化連携から病院機能分化連携へ進んで行く可能性が高いでしょう。人口推移と医師の働き方改革下で県下 11 病院のオープンハートが継続しうるか? 当院の強化すべき分野を分析し、医師の働き方改革も含めて推進して行く必要があります。無論、若き医師の確保と育成が大きな課題です。外来機能報告制度の趣旨は、病院と外来の機能分化(分離)です。今回はかかりつけ医機能報告制度で終わるも、今後は義務化の要望が再燃する可能性があります。

在宅医療と介護(介護施設)の連携は、必要とされ強化されるべき領域ですが、中部医療圏診療所の全国比は 60% 台です。訪問看護ステーションとの連携は重要です。台湾の様に 5 ～ 10 ヶ所の診療所が地域医療グループを造り、地域住民の健康管理を 24 時間対応することは見果てぬ夢でしょうか。

社会医療法人かりゆし会
理事長 安里 哲好

目次

年報発刊によせて	2
----------------	---

ハートライフ病院 2022 年度 年次報告	5
--------------------------------	---

年報発刊によせての挨拶	7
-------------------	---

病院概要	8
------------	---

組織概要	8
施設概要	8
診療体制	11

2022年度(令和4年度)ハートライフ病院 事業計画概要	12
---------------------------------------	----

患者統計	15
------------	----

外来・救急外来	15
入院	19
医療の質 Quality Indicator (QI)	25
社会医療法人かりゆし会 2022 年度の活動実績	38
2022 年度 患者満足度調査	39
2022 年度職員満足度調査	44

部署別業務実績	47
---------------	----

医 局	48
-----------	----

部門紹介	48
活動実績	49
各科概要・実績	54
総合内科	54
呼吸器内科	57
循環器内科	58
消化器内科	61
肝臓内科	63
血液内科	65
小児科	67
心療内科	69
外 科	70
整形外科	74

形成外科	76
脳神経外科	78
眼 科	80
耳鼻咽喉科	82
泌尿器科	84
産婦人科	85
皮膚科	87
放射線科	88
麻酔科	89
血液浄化部	91
口腔ケア科	93
救急総合診療部	95
病理診断科	100

看護部	103
-----------	-----

外来	106
救急外来	109
人工透析室	112
手術室・中央材料室	115
ICU	118
HCU	120
東館 4・5 階病棟（産科・婦人科・女性混合）、 産婦人科外来	122
3 階病棟（整形外科・脳神経外科・眼科・ 形成外科）	125
4 階病棟（外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科）	128
5 階病棟（消化器内科・小児科）	130
6 階病棟（血液内科・総合内科）	132
7 階病棟（呼吸器内科・循環器内科）	135
内視鏡センター	137
看護部 年度総括	140

医療技術部	143
-------------	-----

放射線科	143
臨床検査科	152
臨床工学科	156
栄養科	163
薬局	166
リハビリテーション科	168
医療技術部 年度総括	173

医療安全管理室	175
---------------	-----

感染対策管理室	178	クリニック概要	263
栄養サポート室	182	施設概要	263
内視鏡センター	185	患者統計	265
予防医学センター	190	ハートライフクリニック部門別業務実績	269
患者総合支援センター	197	糖尿病内科	270
地域医療連携室	198	内科	275
入退院支援室	200	小児科	278
医療福祉相談室	202	附属施設	279
がん相談支援室	205	疾病予防運動施設 Ryuew-ZA（リューザ）	279
患者サポート窓口	206	ヘルシーカフェ ohana	282
事務部	207	ハートライフ地域包括ケアセンター	
法人担当	208	2022 年度 年次報告	283
経営企画分析室	208	年報発刊によせての挨拶	285
財務・経理課	211	施設概要	288
人事課	212	はーとらいふ保育園	
診療支援室	214	2022 年度 年次報告	291
附随業務部門 食堂とまと	217	年報発刊によせての挨拶	293
法人事務局 年度総括	220	施設概要	294
病院担当	223	組織概要	294
医事課	223	かりゆし会の 1 年	297
管財課	225	2022 年 社会医療法人かりゆし会	
管財課用度係	225	永年勤続者	300
管財課施設管理係	228		
企画室	233		
電算係	233		
広報係	234		
診療情報管理室	236		
総務課	238		
事務部 年度総括	239		
委員会活動	241		
ハートライフクリニック 2022 年度			
年次報告	259		
年報発刊によせての挨拶	261		

笑顔で親切、
ハートライフ病院

笑顔だと、
気持ちいいよね。

ハートライフ病院 2022年度 年次報告

Annual report of Heartlife Hospital 2022



理念

わたしたちは心と心を結ぶ信頼される医療をめざします

基本方針

1. 安全で質の高いチーム医療を提供する
2. 地域完結型医療（地域保健・医療・福祉施設との連携）を実践する
3. 24 時間体制の断らない救急医療を提供する
4. 患者が満足し、納得する医療を提供する
5. 社会に認められる人材を育成する
6. 健全な医療経営を実践する
7. 社会の変化に対応できる組織作りをする

年報発刊によせての挨拶



2022年度は感染力の強いオミクロン株が大流行し、その影響で5月から8月にかけて予定手術を制限せざるを得ない日が続きました。特に7月と8月は、沖縄県の月間の感染者数が10万人を超え、人口当たりで全国平均の2倍以上の感染者を記録しました。当院でも多い時には39床をコロナ専用病床として確保し、地域の感染対策に寄与しました。県内の多くの病院が救急診療を制限する中、当院は一度も救急を制限することなく乗り切りました。これも一重に職員一人ひとりの理解と協力があったのことに感謝しています。

2024年度には働き方改革が導入されます。それにむけて職員を増やす必要がありますが、当院を含めて県内の多くの病院は人手不足です。スタッフの数が増えない中で労働時間の上限を守ってこれまでと同じ仕事量をこなすには時間当たりの労働生産性を上げる必要があります。また、医療の高度化に対応するために専門知識を持ったプロフェッショナル同士が協同で患者中心の医療を実践する、よく言われるチーム医療を強化しなければなりません。医師、看護師、医療技術部、事務部にはそれぞれの専門領域があります。多職種の職員がお互いの専門知識を尊重しながら、協力しあって患者さんの診療に当たることが望まれます。

毎年事業計画を作成しますが、それを基にPDCAサイクルを回し、その成果として年報を作成し、次年度の業務に反映させていただきたいと思います。

2022年度の当院の医業収益は事業計画の100.9億円をわずかに下回って、99.2億円でした。また、医業利益も-4,237万円と事業計画を下回りました。しかしながら、新型コロナ関連の補助金で当期は7.4億円の黒字になりました。これらの実績も職員一人一人の頑張りのお陰と感謝しています。

2023年度は新型コロナが5類相当になり、ウィズコロナが本格化します。これまでの経験を活かして感染対策を十分に講じながら診療していくことになります。人手不足の中ですが、より良い成果を上げるよう最善をつくすしかないと思われます。患者さんが納得し、満足してもらえる医療を提供するようこの1年全職員が力を合わせて頑張りましょう。

社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院
院長 佐久川 廣

病院概要

(2022 年 4 月 1 日時点 / データ作成 総務課 河上)

組織概要

施設名

社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院

所在地

〒901-2492 沖縄県中頭郡中城村字伊集 208 番地

連絡先

電話 (098) 895-3255 (代表)

FAX (098) 895-2534

ホームページ <https://www.heartlife.or.jp/>

管理者一覧

理事長	安里哲好	副院長	秋元芳典	事務部長	當銘秀之
院長	佐久川 廣	医局長	阿嘉裕之		
副院長	西原 実	看護部長	古波倉 美登利		
副院長	普天間 光彦	医療技術部長	宮城竜也		

施設概要

許可病床数

308 床 (開放病床 22 床)

敷地面積及び建物概要

敷地面積 22,225.09㎡

< 本館・西館 >	構造	鉄骨鉄筋コンクリート・鉄骨造陸屋根地下 1 階付き 9 階建
	のべ床面積	23,920.55㎡
< 東館 >	構造	鉄筋コンクリート造地上 5 階・地下 1 階
	のべ床面積	7,551.31㎡
< 別館 >	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根 3 階建
	のべ床面積	542.16㎡
< 立体駐車場 >	構造	鉄骨造陸屋根 4 階建 (駐車場)
		鉄筋コンクリートブロック造陸屋根平屋建 (機械室)
	のべ床面積	3,365.76㎡ (駐車場)
		34.00㎡ (機械室)

職員数

(2022 年 4 月 1 日時点 総務課)

総 数 973 名

職種別

職種	人数	職種	人数	職種	人数	職種	人数
医師	78	臨床検査技師	36	管理栄養士	8	医師事務作業補助者	21
研修医	15	臨床工学技士	18	救急救命士	3	クラーク	28
保健師	6	臨床心理士	1	歯科衛生士	1	施設技術者	5
助産師	27	言語療法士	5	社会福祉士	6	司書	1
正看護師	413	作業療法士	8	診療情報管理士	7	一般事務	119
准看護師	9	理学療法士	23	保育士	1	その他	21
看護補助者	44	放射線技師	21	調理師	15	職員数 総数	973
薬剤師	20	視能訓練士	3	調理補助	10		

指導医・専門医・認定医・その他認定など

(2023 年 3 月末時点 / データ作成 総務課 佐和田)

資格名	人数	資格名	人数
Best Doctors in Ianan 認定	1	日本消化器内視鏡学会専門医	9
ICD 制度協議会認定インфекションコントロールドクター	1	日本消化器内視鏡学会認定医	1
ハワイー沖縄医学教育フェロースhip certified	1	日本消化器病学会指導医	3
検診マンモグラフィ読影認定医	5	日本消化器病学会専門医	7
精神保健指定医	1	日本心血管インターベンション治療学会認定医	1
全日本病院協会および医療安全管理者	1	日本心臓リハビリテーション学会指導士	3
全日本病院協会医療安全管理者認定医	1	日本神経内視鏡学会技術認定医	1
日本アレルギー学会専門医 (小児科)	1	日本人間ドック学会認定医	1
日本がん治療認定医機構認定医	5	日本腎臓学会腎臓専門医	1
日本ペインクリニック学会認定医	1	日本整形外科学会リウマチ認定医	1
日本医学放射線学会診断専門医	2	日本整形外科学会運動器リハビリテーション医	1
日本医師会認定産業医	5	日本整形外科学会脊椎脊髄病認定医	1
日本外科学会外科専門医	6	日本整形外科学会専門医	3
日本外科学会指導医	2	日本精神神経学会指導医	1
日本感染症学会インフェクションコントロールドクター	3	日本精神神経学会専門医	1
日本感染症学会指導医	1	日本専門医機構 (及び日本内科学会) 内科専門医	1
日本感染症学会専門医	1	日本体育協会公認スポーツドクター	2
日本肝臓学会指導医	1	日本大腸肛門病学会専門医	1
日本肝臓学会専門医	2	日本東洋医学会認定医	1
日本眼科学会専門医	1	日本透析医学会専門医	2
日本救急医学会救急科専門医	1	日本透析医学会認定医	1
日本血液学会指導医	1	日本内科学会指導医	3
日本血液学会専門医	3	日本内科学会総合内科専門医	8
日本呼吸器学会インフェクションコントロールドクター	1	日本内科学会総合内科認定医	1
日本産婦人科学会専門医	2	日本内科学会認定内科医	16
日本耳鼻咽喉科学会 耳鼻咽喉科専門研修指導医	1	日本内視鏡外科学会技術認定医	1
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会・日本専門医機構 耳鼻咽喉科専門医	1	日本脳神経外科学会専門医	2
日本手外科学会認定手外科専門医	1	日本脳神経血管内治療学会専門医	1
日本集中治療医学会専門医	1	日本泌尿器科学会指導医	1
日本循環器学会専門医	6	日本泌尿器科学会専門医	1
日本小児科学会小児科専門医	2	日本病院総合診療医学会認定医	1
日本消化器がん検診学会認定医	4	日本病理学会病理専門医	1
日本消化器外科学会指導医	2	日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍指導医専門医	1
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医	1	日本腹膜透析医学会認定医	1
日本消化器外科学会消化器がん治療認定医	2	日本麻酔科学会指導医	3
日本消化器外科学会消化器外科専門医	5	日本麻酔科学会専門医	3
日本消化器外科学会認定医	1	日本麻酔科学会認定医	1
日本消化器内視鏡学会指導医	4	麻酔科標榜医	5

病院機能認定など

1. 医師臨床研修指定病院（基幹型） 厚生労働省発医政第 1030005 号
2. 地域医療支援病院
3. 24 時間二次救急指定病院
4. (財)日本医療機能評価機構一般病院2 認定第GB97-5号
5. DPC 対象病院（標準病院群）
6. 地域災害拠点病院
7. DMAT 指定医療機関

指定医療一覧

1. 保険医療機関
2. 労働者災害補償保険指定医療機関
3. 妊娠中毒症医療費援護法指定医療機関
4. 母体保護法指定医療機関
5. 結核予防法指定医療機関
6. 生活保護法指定医療機関
7. 戦傷病者特別援護法指定医療機関
8. 指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）
《腎臓に関する医療》
9. 原爆医療法指定医療機関
10. 指定自立支援医療機関（精神通院医療）《てんかん》
11. 母子保健法指定病院医療機関（養育医療）
《未熟児医療》
12. 特定疾患治療研究事業指定医療機関
13. 小児特定疾患治療研究事業指定医療機関
14. 指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）
《心臓脈管外科に関する医療》
15. 身体障害者福祉法指定医療機関（更正医療）
18 歳以上、肝臓に係わるもの
16. 児童福祉法指定医療機関（育成医療）
17. 沖縄県肝がん重度肝硬変治療研究促進事業による指定医療機関

施設認定一覧

1. マンモグラフィー検診施設画像認定
2. 非血縁者間造血幹細胞移植認定施設（認定診療科：血液内科） カテゴリー：2
3. 非血縁者間骨髄採取認定施設
4. 人間ドック検診施設機能評価認定施設
5. 日本小児外科学会教育関連施設 B
6. 日本臨床細胞学会施設
7. 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
8. 日本病理学会研修登録施設
9. 日本病院総合診療医学会認定施設
10. 日本泌尿器科学会専門医教育認定施設
11. 日本内科学会認定教育関連病院
12. 日本透析医学会教育関連施設
13. 日本大腸肛門病学会関連施設
14. 日本専門医機構 専門医研修プログラム（内科領域）
15. 日本整形外科学会専門医研修施設
16. 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設群
17. 日本食道学会全国登録認定施設
18. 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
19. 日本消化器病学会認定施設
20. 日本消化器内視鏡学会指導施設
21. 日本消化器内視鏡学会 JED Project 参加施設
22. 日本消化器科外科学会専門医修練施設（認定施設）
23. 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
24. 日本周産期・新生児医学会暫定研修施設
25. 日本産科婦人科学会専門研修連携施設
26. 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設（連携型）
27. 日本呼吸器学会関連施設
28. 日本血液学会専門研修施設
29. 日本血液学会血液研修施設
30. 日本外科学会外科専門医制度修練施設
31. 日本救急医学会救急科専門医指定施設
32. 日本がん治療認定医療機構認定研修施設
33. 日本肝臓学会認定施設

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 34. 日本感染症学会研修施設 | 38. 日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育
研修施設 |
| 35. 日本眼科学会専門医制度研修施設 | |
| 36. 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
認定施設 | 39. 健康保険組合連合会指定日帰り人間ドック実
施施設 |
| 37. 日本医学放射線学会画像診断管理認証施設 | |

診療体制

標榜診療科目

- | | | | | |
|--------|---------|----------|-------------|--------|
| ●内科 | ●リウマチ科 | ●血管外科 | ●泌尿器科 | ●救急科 |
| ●呼吸器内科 | ●人工透析内科 | ●大腸・肛門外科 | ●眼科 | ●病理診断科 |
| ●循環器内科 | ●心療内科 | ●脾臓外科 | ●耳鼻咽喉科 | ●歯科 |
| ●消化器内科 | ●小児科 | ●整形外科 | ●皮膚科 | ●精神科 |
| ●肝臓内科 | ●外科 | ●形成外科 | ●放射線科 | |
| ●腎臓内科 | ●乳腺外科 | ●脳神経外科 | ●麻酔科 | |
| ●血液内科 | ●食道外科 | ●産婦人科 | ●リハビリテーション科 | |

その他、センター・専門外来など

- | | |
|-------------------------------------|-------------------|
| ●予防医学センター
(人間ドック・一般健診・生活習慣病予防健診) | ●不整脈外来 |
| ●内視鏡センター | ●甲状腺外来 |
| ●人工透析センター(昼間・夜間) | ●生活習慣病外来 |
| ●無菌治療センター | ●睡眠時無呼吸症候群(SAS)外来 |
| ●ヘルニアセンター | ●スポーツ関節鏡センター |
| ●患者総合支援センター | ●通院治療室(外来化学療法) |
| ●胸やけ外来 | ●小児アレルギー外来 |
| | ●心臓リハビリテーション |

24 時間救急指定病院【内科・循環器内科・外科・整形外科・脳神経外科】

受付時間

- | | | |
|---------|---------------|----------------|
| 月曜日～金曜日 | 午前 8:00～11:30 | 午後 12:00～16:30 |
| 土曜日 | 午前 8:00～11:30 | 午後 休診 |

診療時間

- | | | |
|---------|---------------|----------------|
| 月曜日～金曜日 | 午前 9:00～12:00 | 午後 14:00～17:00 |
| 土曜日 | 午前 9:00～12:30 | 午後 休診 |

休診日 救急を除き、日曜日・祝日・土曜日の午後

2022年度(令和4年度)ハートライフ病院事業計画概要

1. 2021 年度（令和 3 年度）の振り返り

2021 年度は 2020 年度に引き続き新型コロナウイルス感染対策を行いながら診療する 1 年でした。年度の初めから新型コロナウイルス感染者が増加し、5 月下旬に第 4 波のピークを迎え、コロナ病床を 28 床に増床し、予定手術を大幅に制限しました。その後、一旦感染者は減少しましたが、7 月の下旬から感染力の強いデルタ株が増加し、8 月中旬をピークとする第 5 波を経験しました。コロナ病床を最大 36 床まで増床し、予定手術を再び制限することになりました。10 月～12 月にかけて新型コロナの感染者数は少ない状態で安定し、手術を含めた通常診療を再開することができましたが、2022 年 1 月から第 6 波になり、再び予定手術を制限することになりました。

コロナ感染対策として、中城村、西原町、与那原町住民に対するワクチンの個別接種、集団接種を全職員の協力の下に実行し、地域における感染拡大防止に全力を尽くしました。

コロナ禍で昨年度と同様に入院患者は減少しました。特に第 4 波、5 波及び 6 波の影響を受けた 6 月、9 月、1 月、2 月の病床稼働率は大きく減少し、年間の稼働率も昨年を 1.6% 下回りました。しかしながら、入院の日当額が 6.7 万（昨年度：6.5 万）と増加したことより、入院診療収益は昨年より 0.9% 増加しました。外来患者数は昨年より 4.0% 増加し、日当額が 1.64 万（昨年度：1.58 万）と増加したことより、外来収益は 7.9% 増加しました。

2019 年度に初期研修医マッチングが 3 名であった反省から研修医の獲得に力を入れ、2021 年度は 2020 年度に引き続きフルマッチを達成しました。また、長年の懸案事項であった腎臓内科の常勤医を大学から派遣してもらえることになりました。

2021 年度の総収入は 96.7 億円で、事業計画を 0.8 億円下回り、医業利益は - 1.39 億円でした（空床補助を入れると利益は 7.61 億円になる）。入院診療収益は予算を 4.5% 下回りました。一方、外来は 7.8% 上回りました。

2. 2022 年度事業計画の概要

2022 年度も急性期一般入院料 1（7 対 1）の基準をクリアすることが大前提になります。そのためには救急患者の受け入れ態勢の強化、手術件数の増加、後方連携の強化を図る必要があります。また、国が進める働き方改革への取り組みとして医師及び医療技術職の人材の確保、更に医師事務作業補助者や看護助手を増員し、業務の効率化と時間外勤務の短縮に努めます。

① 病棟運営の 3 指標

2022 年度も引き続きコロナ禍での診療を継続することになります。いまだ収束が見通せない状況ですので 2020 年及び 2021 年の実績を参考にする必要があります。病棟診療会議での検討をもとに 2022 年度の 3 指標を下記のように設定しました。

指標	2022 年度目標	2021 年度目標	2021 年度実績
新規入院患者数	750 人 / 月	750 人 / 月	685 人 / 月
病床利用数	260 床 (84.4%)	260 床 (84.4%)	244 (79.2%)
平均在院日数	10.5 日	10.5 日	10.7 日

② 2022 年度ハートライフ病院の目標

1. より安全でより質の高い医療を実践し、患者満足度の向上を図る
2. 健全な医療経営を行い、コロナ禍の中で利益率 2%以上を達成する
3. 必要な人材を確保するために積極的な情報収集、情報発信を行う
4. 将来急性期充実体制加算の取得の布石として、全麻 1700 件を目指す
5. 業務の無駄を省き、効率化を推進する
6. 全職員が 36 協定を順守できるよう労働環境の整備を行う
7. チーム医療を強化し、ワークシフト・ワークシェアリングを推進する
8. AI（人工知能）、ICT（情報通信技術）などの新しい技術を積極的に導入する
9. 初期研修医のフルマッチを達成する

③ 利益率 2%以上を目指した経営戦略

2022 年度の医業収入は 101 億円、当期利益 2.45 億円（利益率 2.4%）を目指します。今年度もコロナ禍の状況が続くと考えられます。十分な感染対策をしながら収益増と経費節減に努力する必要があります。入院診療単価（日当額）は 6.8 万円を目指します。

入院診療単価を構成するのは DPC、手術料、入院料（入院基本料、特定入院料、入院料加算）です。DPC 機能評価係数Ⅱを上げる取り組み（救急医療管理加算の算定数を維持する。副傷病名ありの患者を増やす等）を今年度も継続します。手術症例が多く含まれる予定入院患者数を増やし（予定入院の目標：350 人 / 月）、手術室の稼働率を上げる取り組み（看護師の確保と ME 及び看護助手の活用）を強化します。また、全麻件数を増やし、近い将来に急性期充実体制加算の取得（全麻 2000 件）を達成できることを目標とします。入退院支援加算を始めとする各種加算が取れるように対策します。

外来診療単価を上げる対策として、紹介患者を増やし、外来診療単価 1,500 円未満の患者の割合を減らすよう努めます。また、紹介受診重点医療機関の指定を目指し、紹介率を上げ、再来患者の見直しを行います。

地域医療支援病院の基準要件は、紹介率 65%以上かつ逆紹介率 40%以上です。今年度は紹介率 85%、逆紹介率 86%を目指し、新規入院患者増に繋がります。

④ 地域の健康増進に対する貢献

急性期病院として、死因の多くを占める癌、脳卒中、心筋梗塞の専門医療を強化します。沖縄県は、癌患者に占める割合が高い 60 歳以上の年齢層が今後急激に増加します。癌の早期発見のために自治体や企業と協力して検診受診勧奨に努めます。そのために市民公開講座、出前健康講話等の機会を有効に活用します。沖縄県のがん登録の資料によりますと、当院での登録癌患者の沖縄県全体に占める割合は 5.1%（2020 年）で同規模の急性期病院と比較すると少なく、今後は癌診療をより強化する必要があります。脳卒中に関しては、血管内治療による発症予防と t-PA による重症化予防の体制を強化して行きます。そのためには脳卒中専門の内科医確保が重要と思われます。心筋梗塞を主とした突然死対策として救急医療のより一層の充実を図っていきます。診療所の要請に応じてドクターカーを出動させ、新しい攻めの救急医療を実践していきます。

高齢者の自立は健康長寿のカギになります。衰えた機能を回復させるために整形外科、泌尿器科、形成外科、眼科、耳鼻科領域の診療を充実させる必要があります。

⑤ 職員の働き方の見直し

職員がいきいきと健康的に働ける労働環境の整備に取り組みます。医師の時間外労働に関しては、月 80 時間、年間 960 時間以内の A 基準を満たすように取り組んでいきます。また、医師や看護師の業務負担を軽減させるために医療事務補助者と看護助手の増員を行います。

⑥ 人材の確保と育成

現在、早急に確保する必要があるのは救急専従医、産婦人科医、脳外科医です。これらの人材を確保するために病院全体で情報収集を行っていきます。もちろん他の領域でも不足している医師、中でも手術増に繋がる外科系の医師の確保が重要になります。また、看護師、医療技術職員、事務系職員の確保及び育成は重要であり、病院の魅力度をアップさせ、選んでもらえる職場に変えていく必要があります。各種加算の取得のために人材の確保や育成に努めます。また、昨年度に引き続き初期研修医のフルマッチを目指して研修医教育に力を入れます。

3. 結び

今年度は急性期一般入院料 1（7 対 1）を死守することが、経営上最も重要な課題になります。幹部職員はそれを念頭に置いて病棟運営をして頂きたいと思います。

患者さんが納得し、満足する医療を提供し、心と心を結ぶ信頼される医療を実践するとともに地域の健康長寿に貢献できるよう皆で力を合わせて頑張りましょう。

ハートライフ病院
院長 佐久川 廣

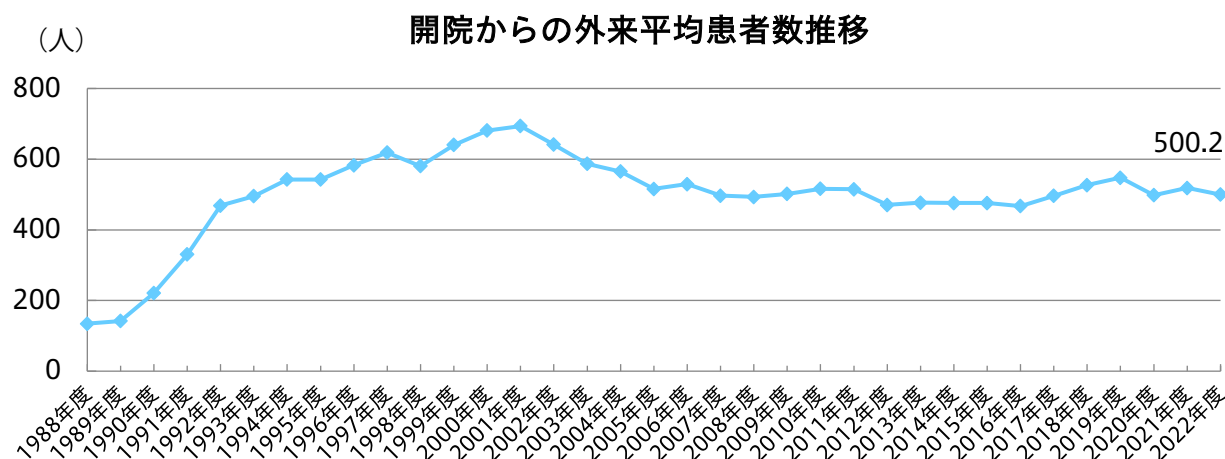
患者統計

外来・救急外来

外来 1 日平均患者数推移

(データ作成：医事課 桑江)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	500.0	525.8	497.5	517.6	514.9	531.2	519.7	533.8	542.3	547.7	546.8	543.0	526.7
2019年度	533.1	542.5	532.0	552.6	531.2	574.8	557.7	540.1	554.3	565.5	540.0	546.6	547.5
2020年度	446.4	427.0	483.8	535.9	461.4	495.4	497.6	533.3	511.4	508.3	533.4	544.1	498.2
2021年度	534.2	515.0	484.9	517.2	508.3	514.5	508.4	562.8	539.7	508.6	512.4	519.5	518.8
2022年度	509.2	536.7	507.8	475.7	440.5	503.4	497.8	512.6	504.8	509.8	514.3	489.6	500.2

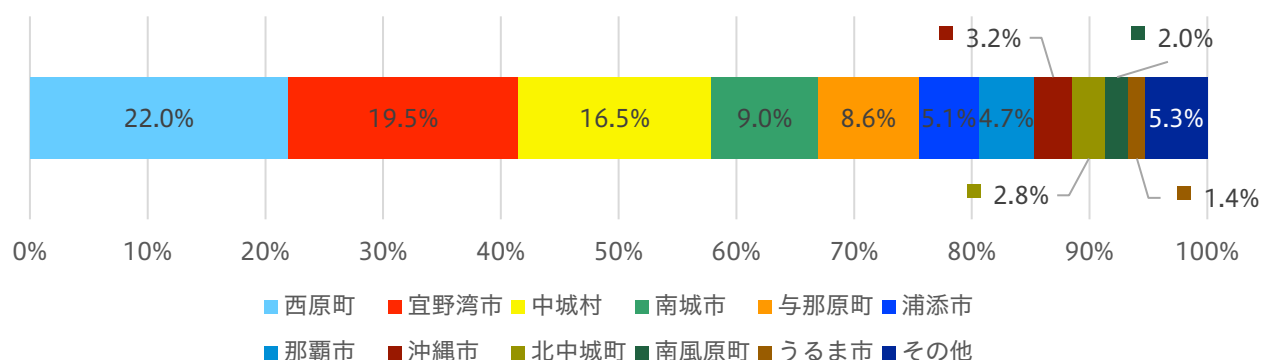


地域別外来患者数（延べ患者数）

(データ作成：広報係 仲田)

地域	患者数
沖縄本島（橋で接続されている島を含む）	149,194
離島	649
県外	660
その他	621
合計	151,124

外来延べ患者構成比



※ 1%未満の県及び沖縄県市町村はその他に集計

救急搬送件数推移と救急患者の入院数

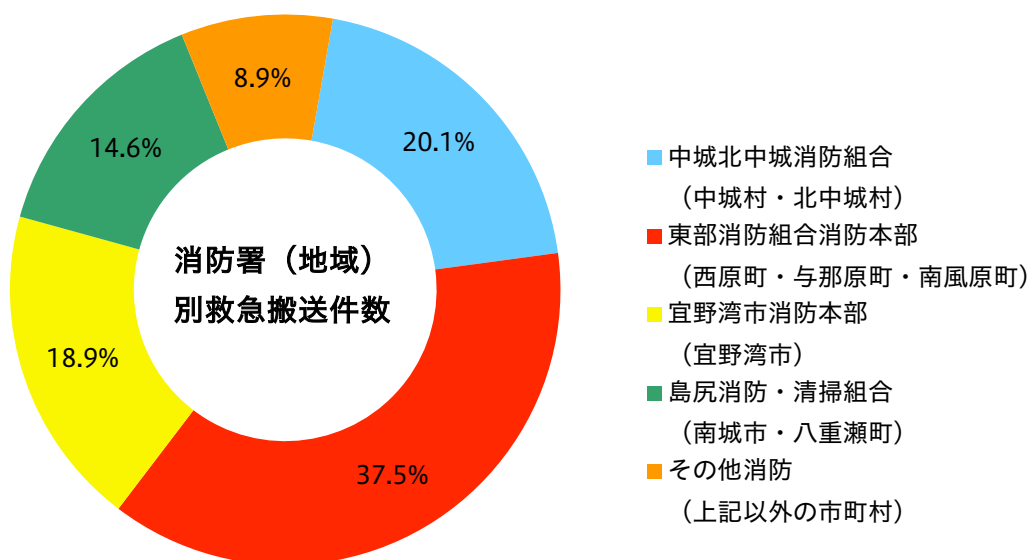
(データ作成：地域医療連携室 金城)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	入院率
2012 年度	搬送人数	205	193	184	230	226	204	215	241	234	228	179	204	2,543	211.9	
	うち入院数	97	99	94	108	107	96	107	127	111	118	91	90	1,245	103.8	49.0%
2013 年度	搬送人数	188	197	212	259	222	218	174	170	208	210	185	200	2,443	203.6	
	うち入院数	93	104	101	99	106	110	92	91	97	104	82	89	1,168	97.3	47.8%
2014 年度	搬送人数	185	188	209	235	204	197	200	193	199	262	187	191	2,450	204.2	
	うち入院数	80	91	95	110	94	98	113	94	106	131	99	97	1,208	100.7	49.3%
2015 年度	搬送人数	194	209	206	217	192	222	218	191	196	212	228	222	2,507	208.9	
	うち入院数	98	106	97	122	98	119	119	90	88	104	101	108	1,250	104.2	49.9%
2016 年度	搬送人数	201	221	225	239	226	219	238	200	241	265	224	266	2,765	230.4	
	うち入院数	104	116	119	105	107	116	120	92	122	130	100	136	1,367	113.9	49.4%
2017 年度	搬送人数	228	229	246	258	286	221	217	216	287	260	269	235	2,952	246.0	
	うち入院数	131	105	113	112	114	92	88	94	129	122	131	129	1,360	113.3	46.1%
2018 年度	搬送人数	222	240	208	265	232	209	221	198	231	273	230	236	2,765	230.4	
	うち入院数	98	110	109	117	109	100	99	102	98	136	100	95	1,273	106.1	46.0%
2019 年度	搬送人数	239	219	252	315	287	255	268	219	280	274	234	224	3,066	255.5	
	うち入院数	108	116	124	144	127	127	125	89	129	138	99	105	1,431	119.3	46.7%
2020 年度	搬送人数	226	225	212	241	254	238	233	265	283	301	232	331	3,041	253.4	
	うち入院数	96	98	94	111	107	112	107	116	144	142	115	155	1,397	116.4	45.9%
2021 年度	搬送人数	304	318	253	320	326	307	235	277	252	306	265	300	3,463	288.6	
	うち入院数	133	127	99	143	136	125	113	121	107	145	131	144	1,524	127.0	44.0%
2022 年度	搬送人数	357	334	336	435	449	279	236	281	326	358	273	299	3,963	330.3	
	うち入院数	163	158	152	163	194	122	107	127	137	134	122	142	1,721	143.4	43.4%

消防署（地域）別救急搬送件数

(データ作成：地域医療連携室 金城)

	当院救急搬送件数	うち、時間外救急搬送件数	時間外の比率
中城北中城消防組合（中城村・北中城村）	796	464	58.3%
東部消防組合消防本部（西原町・与那原町・南風原町）	1,486	903	60.8%
宜野湾市消防本部（宜野湾市）	750	465	62.0%
島尻消防・清掃組合（南城市・八重瀬町）	578	364	63.0%
その他消防（上記以外の市町村）	353	198	56.1%
合計	3963	2,394	60.4%

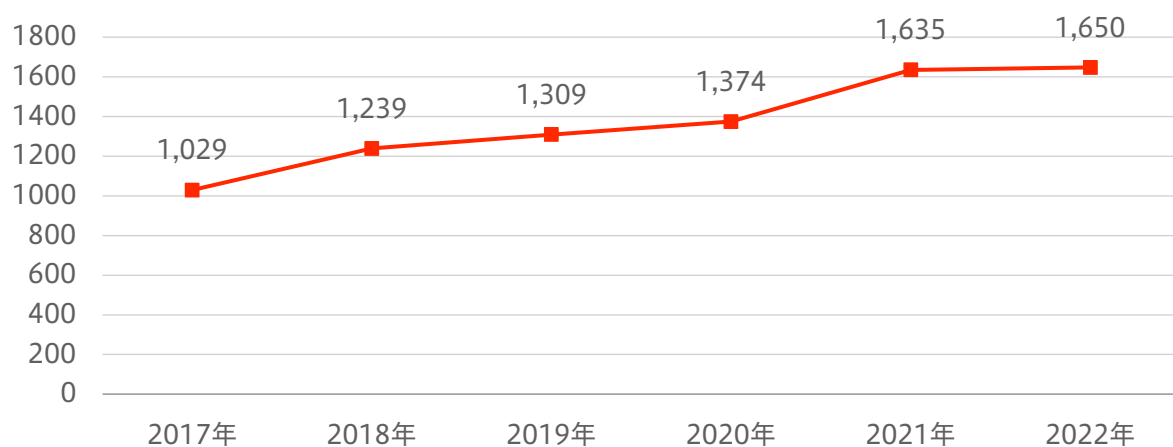


外来化学療法室施行数内訳

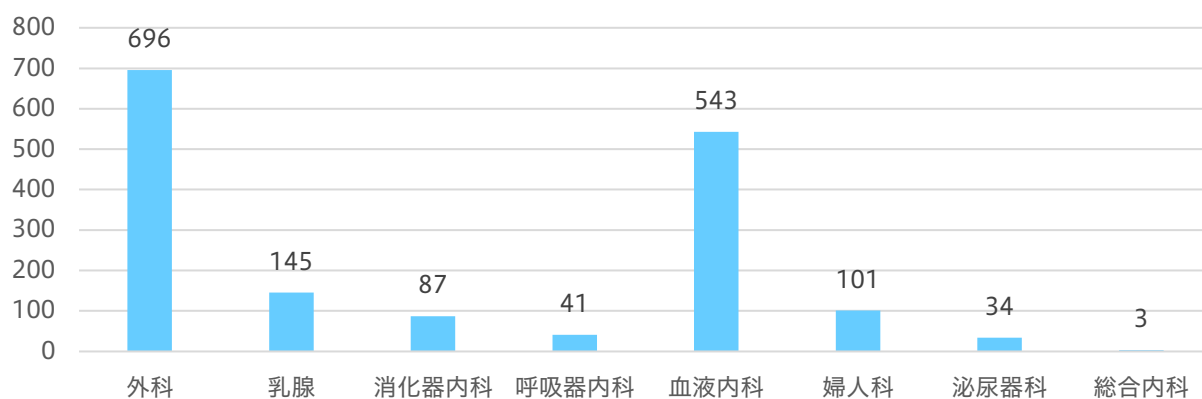
(データ作成：看護部 外来 米須)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外科	60	66	72	62	59	58	59	60	61	41	45	53	696
乳腺	12	10	10	9	13	11	13	13	11	17	10	16	145
消化器内科	5	8	5	6	7	6	6	10	9	9	8	8	87
呼吸器内科	3	3	4	3	6	5	5	6	3	2	1	0	41
血液内科	42	33	60	34	37	48	40	53	47	55	32	62	543
婦人科	8	4	7	5	8	7	14	9	13	7	11	8	101
泌尿器科	1	4	2	2	3	3	2	4	2	3	5	3	34
総合内科	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
合計	131	128	160	121	133	138	140	156	147	134	112	150	1,650

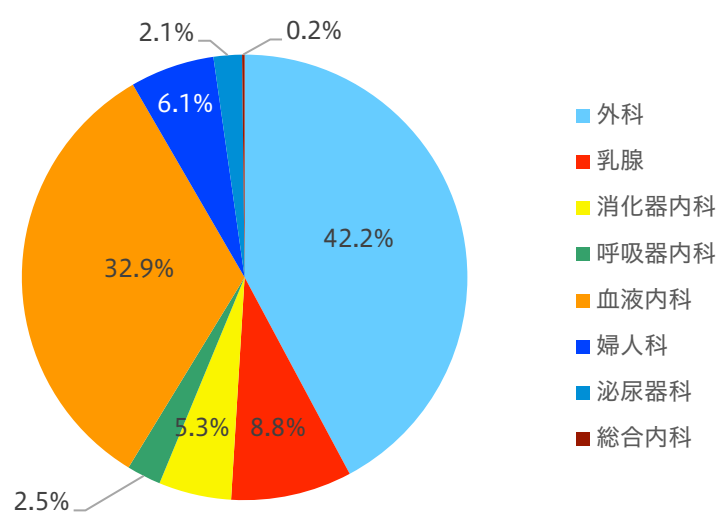
外来化学療法加算の件数年次推移（件数）



科別化学療法総件数



化学療法件数 科別割合

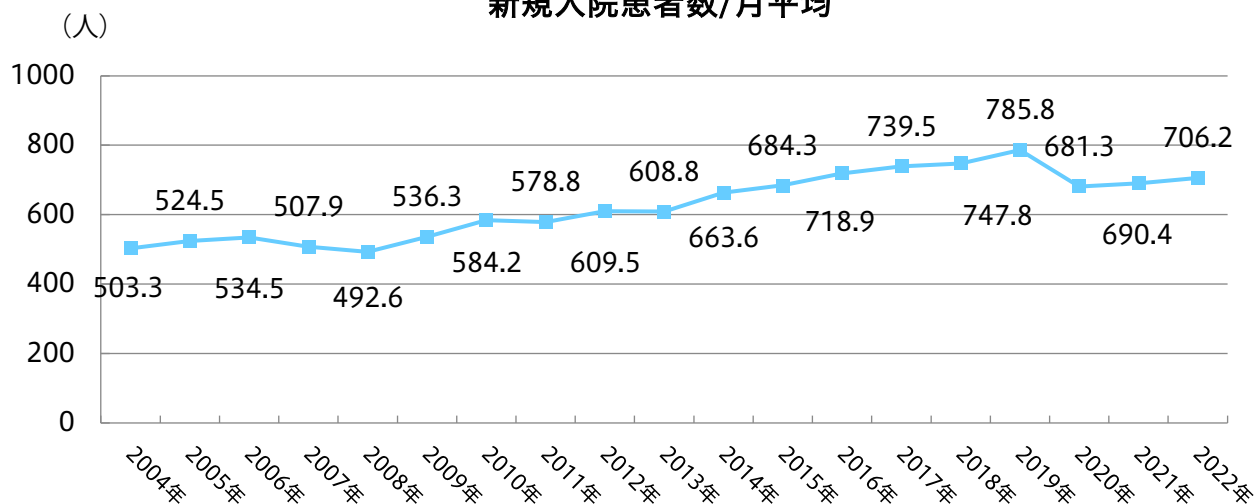


入院

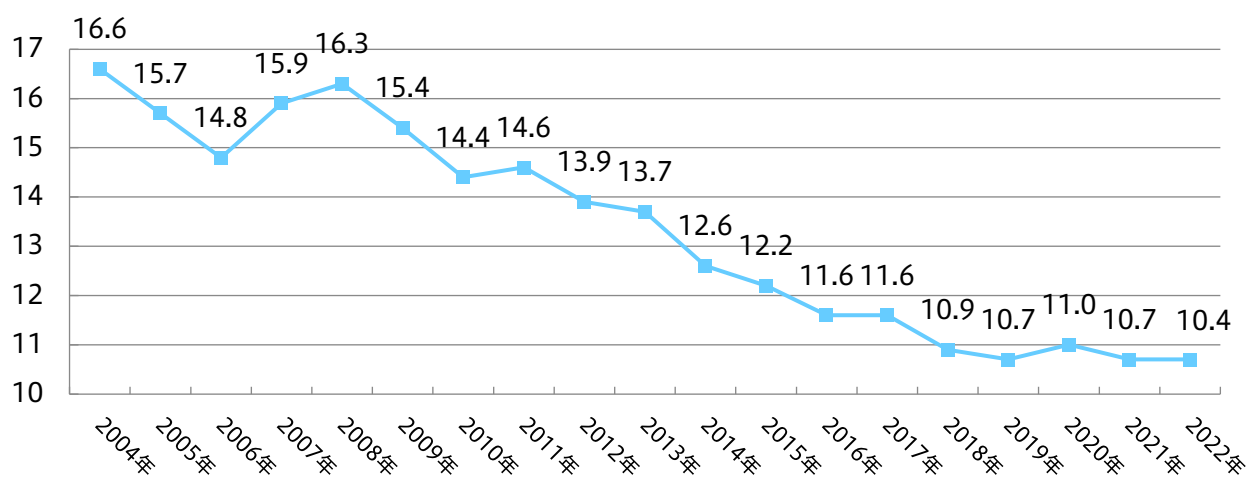
3 指標

(データ作成：地域医療連携室 金城)

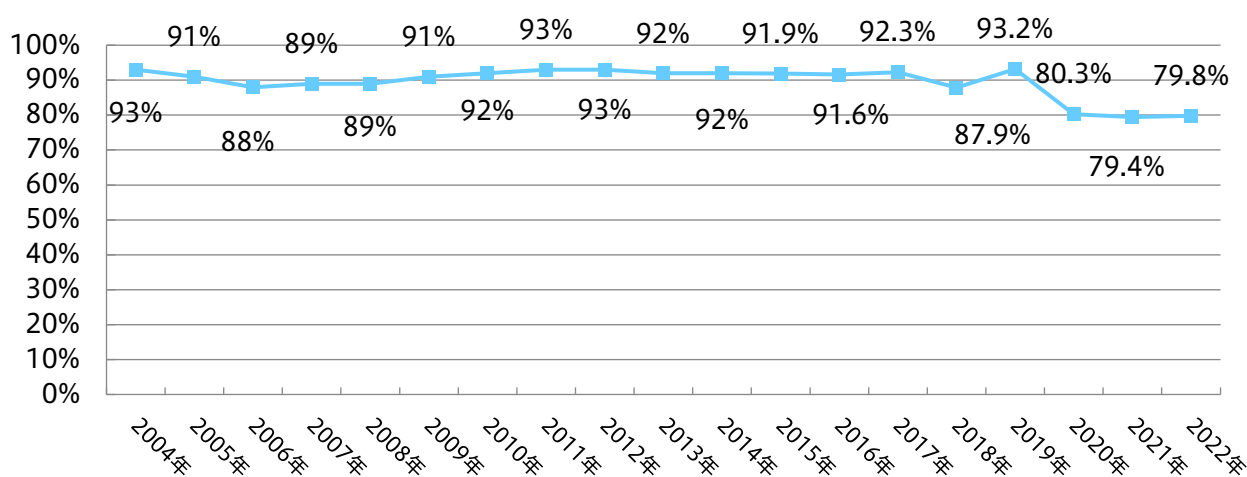
新規入院患者数/月平均



平均在院日数



病床利用率

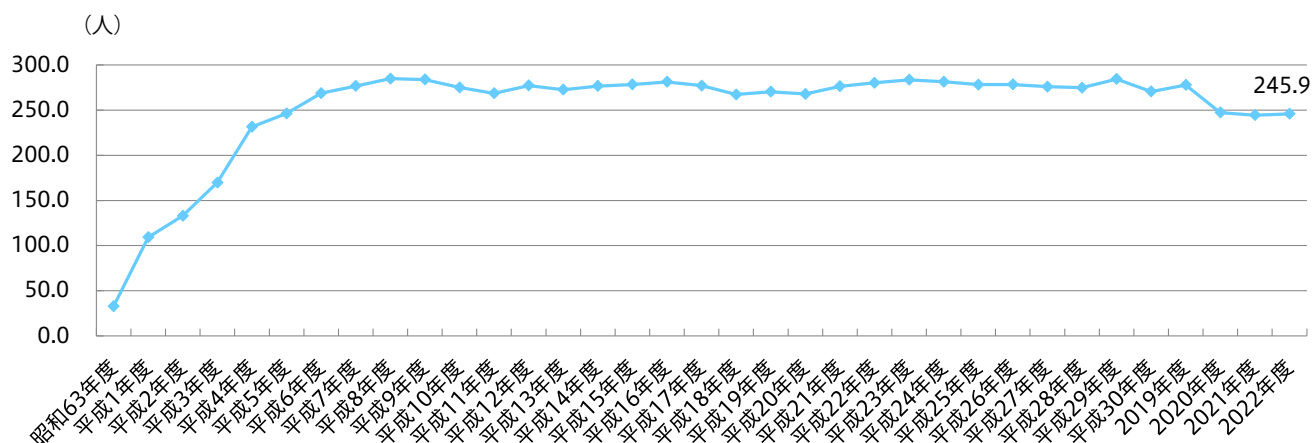


入院 1 日平均患者数推移

(データ作成: 医事課 宮城)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	平均
2018 年度	280.0	252.7	260.8	279.1	279.6	270.0	270.2	275.0	262.5	273.0	281.2	264.3	3,248.5	270.7
2019 年度	265.1	274.3	272.8	297.4	290.2	288.6	272.6	252.4	264.4	276.3	295.9	283.6	3,333.5	277.8
2020 年度	235.8	223.5	246.5	256.9	242.4	229.7	244.3	254.1	244.9	266.0	265.8	259.2	2,969.0	247.4
2021 年度	260.9	267.6	228.2	237.3	247.5	230.4	241.2	260.6	243.6	234.0	232.8	249.1	2,933.1	244.4
2022 年度	250.1	246.0	237.1	247.5	239.4	252.9	236.6	241.3	249.3	256.6	248.6	245.3	2,950.7	245.9

開院からの入院平均患者数推移

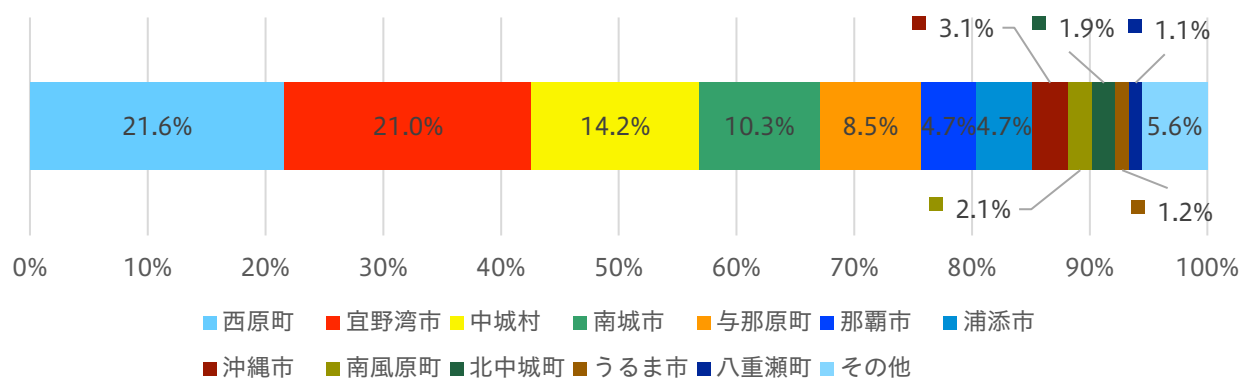


地域別入院患者数 (延べ患者数)

(データ作成: 広報係 仲田)

地域	患者数
沖縄本島 (橋で接続されている島を含む)	90,053
離島	800
県外	465
その他	389
合計	91,707

入院延べ患者構成比



※ 1%未満の県及び沖縄県市町村はその他に集計

ICU 患者統計

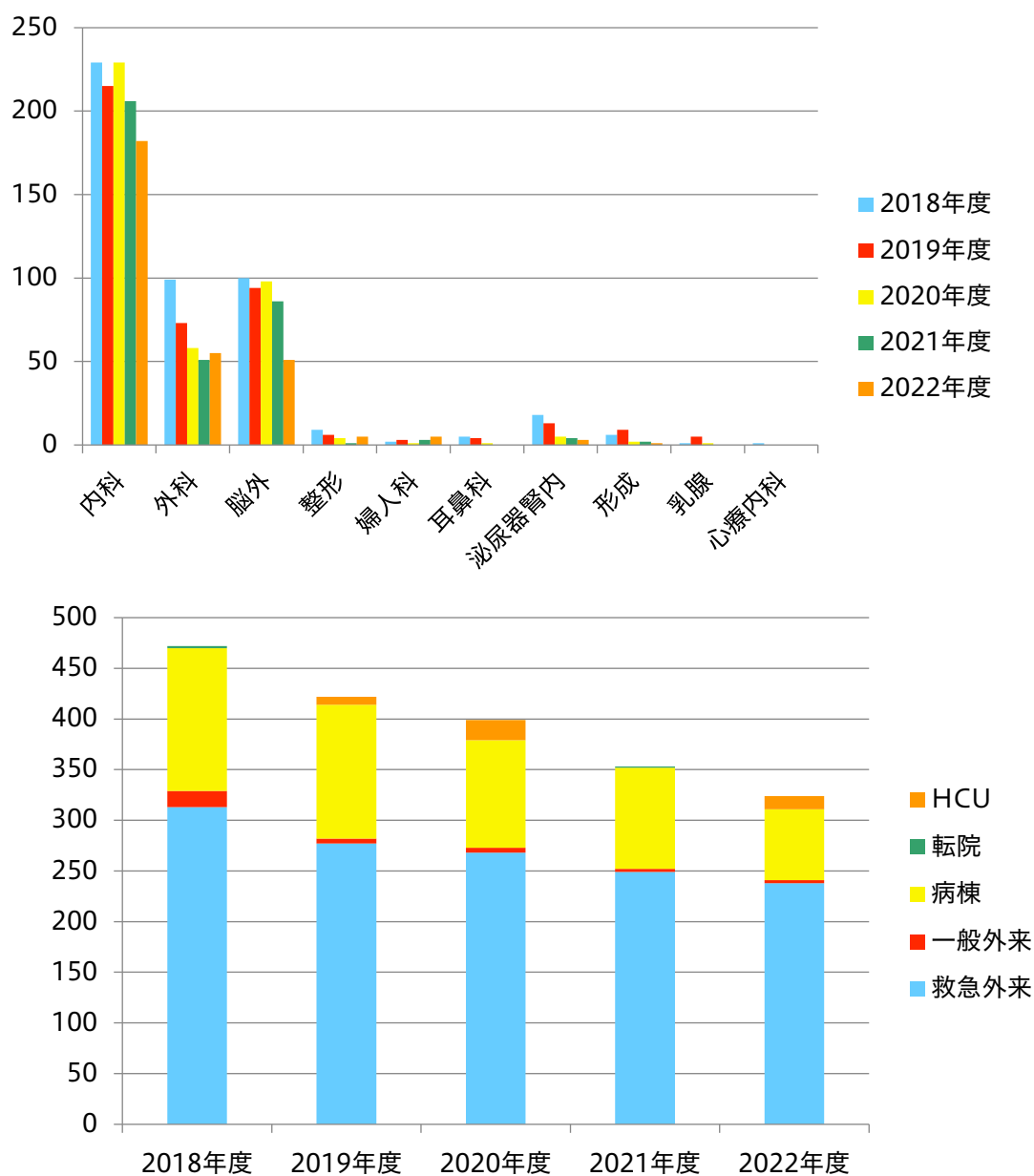
(データ作成 ICU 内間)

科別入院患者数

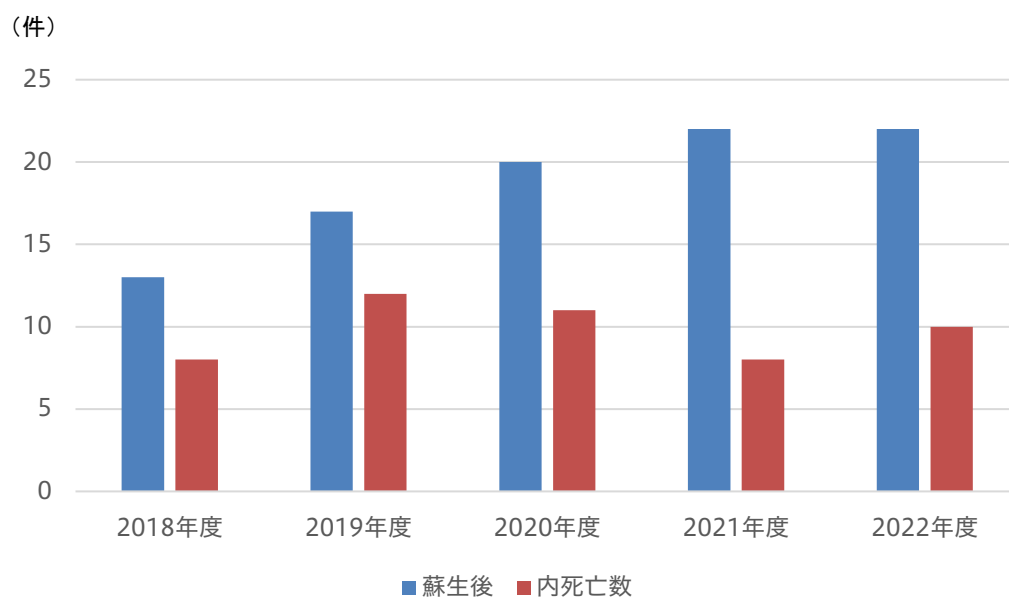
	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
内科	179	215	229	206	182
外科	68	73	58	51	55
脳外	104	94	98	86	51
整形	9	6	4	1	5
婦人科	11	3	1	3	5
耳鼻科	4	4	1	0	0
泌尿器	16	13	5	4	3
乳腺	2	9	1	2	1
形成	2	5	2	0	0
心療内科	0	0	0	0	0
総数	395	422	399	353	302

※収容のルール変更により ICU に収容された外科の患者数は減少傾向にあります。

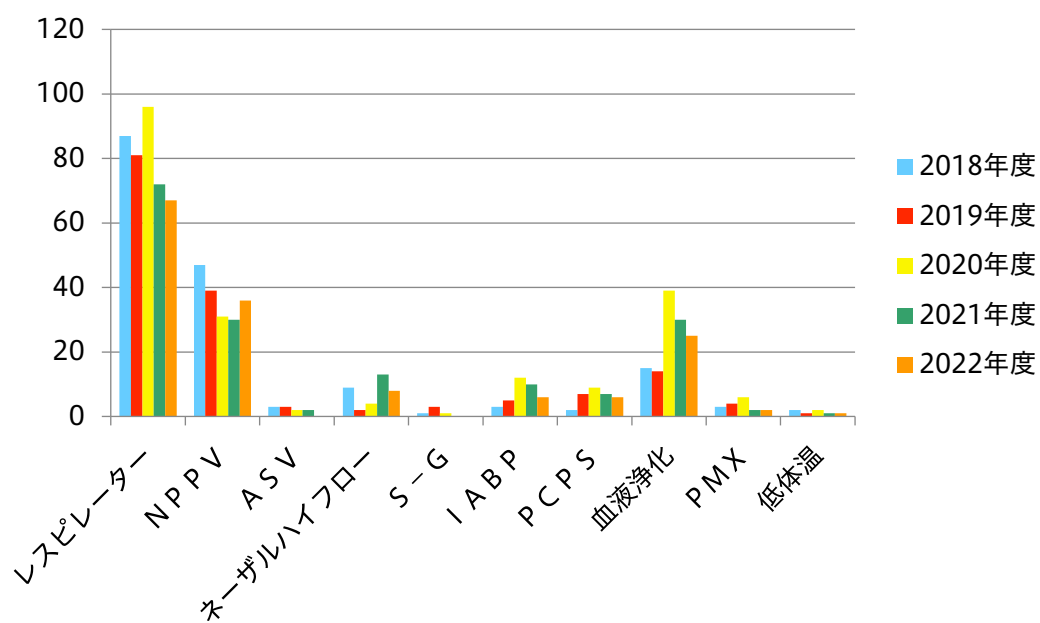
入室経路



CPA 件数（死亡数）動向



特殊治療の動向



退院患者疾患別（病態）分類

（データ作成：診療情報管理室 田河）

		内 科	外 科	泌 尿 器 科	整 形 外 科	脳 神 経 外 科	形 成 外 科	眼 科	耳 鼻 咽 喉 科	小 児 科	産 科	婦 人 科	救 急 科	総 計
Ⅰ．感染症及び寄生虫症 (A00-B99)	男	47	5				1	1	1	13			2	70
	女	58	5	4					3	9	3	2	3	87
	計	105	10	4			1	1	4	22	3	2	5	157
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞ (C00-D48)	男	432	285	33	1		6	1	15					773
	女	216	183	12	1	1	11	1	8		1	134	1	569
	計	648	468	45	2	1	17	2	23		1	134	1	1,342
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(D50-D89)	男	7	3							1				11
	女	13	7						1	1		3		25
	計	20	10						1	2		3		36
Ⅳ．内分泌、栄養及び代謝疾患 (E00-E90)	男	33	2					1		3			5	44
	女	38	3	1		1				1			6	50
	計	71	5	1		1		1		4			11	94
Ⅴ．精神及び行動の障害 (F00-F99)	男	1												1
	女	3	1											4
	計	4	1											5
Ⅵ．神経系の疾患 (G00-G99)	男	37	2	1	7	10			14	2			1	74
	女	21	2	1	12	9			11				5	61
	計	58	4	2	19	19			25	2			6	135
Ⅶ．眼及び付属器の疾患 (H00-H59)	男						1	258						259
	女						5	269						274
	計						6	527						533
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患 (H60-H95)	男	3							30					33
	女	6							39					45
	計	9							69					78
Ⅸ．循環器系の疾患 (I00-I99)	男	335	6	5	1	74	9						41	471
	女	248	7	6	4	66	8			1		1	35	376
	計	583	13	11	5	140	17			1		1	76	847
Ⅹ．呼吸器系の疾患 (J00-J99)	男	300	11	6					48	59			8	432
	女	198	6	4	1				30	41			10	290
	計	498	17	10	1				78	100			18	722
Ⅺ．消化器系の疾患 (K00-K93)	男	394	431		1		1		7				1	835
	女	287	264	3	2				2			3		561
	計	681	695	3	3		1		9			3	1	1,396
Ⅻ．皮膚及び皮下組織の疾患 (L00-L99)	男	10	9	4	11		29		1	3			1	68
	女	19	6		3		23		1	2				54
	計	29	15	4	14		52		2	5			1	122
Ⅼ．筋骨格系及び結合組織の疾患 (M00-M99)	男	20	2		110		17			3				152
	女	9	4		186		16			4				219
	計	29	6		296		33			7				371
Ⅽ．腎尿路生殖器系の疾患(N00-N99)	男	64	4	77	1		2		8	2			3	161
	女	163	7	92	1				6	3	4	97	3	376
	計	227	11	169	2		2		14	5	4	97	6	537
Ⅾ．妊娠、分娩及び産じょく＜褥＞ (O00-O99)	女	1					2				671		2	676
	計	1					2				671		2	676

		内 科	外 科	泌 尿 器 科	整 形 外 科	脳 神 経 外 科	形 成 外 科	眼 科	耳 鼻 咽 喉 科	小 児 科	産 科	婦 人 科	救 急 科	総 計
XVI. 周産期に発生した病態 (P00-P96)	男									101				101
	女									100				100
	計									201				201
XVII. 先天奇形、変形及び染色体異常 (Q00-Q99)	男	1	4				1		3	6				15
	女				1		1		1	4				7
	計	1	4		1		2		4	10				22
XVIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)	男	5							2					7
	女	2							2					4
	計	7							4					11
XIX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響 (S00-T98)	男	20	28	3	273	34	20			120			1	499
	女	20	11	5	396	21	14			93	1	9	4	574
	計	40	39	8	669	55	34			213	1	9	5	1,073
XXI. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 (Z00-Z99)	男	11								176				187
	女	5	1							188				194
	計	16	1							364				381
XXII. 特殊目的用コード (U00-U89)	男	140	6	8	4		1			1			6	166
	女	124	5	4	7	3			1	1	9		5	159
	計	264	11	12	11	3	1		1	2	9		11	325
総 計		3,291	1,310	269	1,023	219	168	531	234	938	689	249	143	9,064

医療の質 Quality Indicator (QI)

(データ作成：経営企画室 安里)

当院は、2013 年 4 月から日本病院会主催の「QI プロジェクト」へ参加しています。「QI プロジェクト 2022」では、日本病院会が指定する 40 項目以上の指標について、全国の参加病院がデータを提出、ベンチマークすることで、自院の立ち位置を確認することが出来ます。これらの指標を観察・分析し、医療の質の向上につとめています。これらの指標の一部をここで紹介します。

患者満足度調査

外来と入院の患者さんに対し、「この病院について総合的にはどう思われますか？」の設問に対し、「不満 / やや不満 / どちらともいえない / やや満足 / 満足」の 5 段階評価をしていただき、「満足 / やや満足」とご回答をいただいた割合です。

外来

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
外来	91.5%	91.9%	93.3%	92.4%	90.5%
入院	96.5%	97.4%	94.1%	96.8%	94.6%

※ 外来の調査期間：2022 年 10 月 24 日～ 10 月 25 日（2 日間）回答数：226 件

※ 入院の調査期間：2022 年 10 月 24 日～ 10 月 29 日（6 日間）回答数：99 件

外来及び入院の患者満足度の「満足 / やや満足」の割合は、2017 年度以降、6 年間連続して 9 割を超えました。

外来

当院の外来の「満足またはやや満足」の割合は 90.5%と、全国平均値（83.7%）より高い状態を維持しています。昨年度と比較し 1.9%減少しました。2020 年度以降減少しており、頂いたご意見をもとに改善に努めます。新型コロナウイルス感染症の外来治療との併存や、院内における感染対策が続いており、待ち時間が延長したり、スペースが狭くなるなど総じて影響していたのだと思います。「とても親切で丁寧な対応をして頂きました。感謝しています。」や「待ち時間に Wi-Fi が使えるのでありがたいです。」といったお褒めのお言葉を頂きました。その一方で、「コロナで説明の言葉数が少なくなっている。」や「車を停めるのが大変。もっと駐車場があると良い。」、「待ち時間が長い。後どのくらい待てばいいか知りたい。」といった改善に関するご指摘も頂戴しました。

入院

当院の入院の「満足またはやや満足」の割合は 94.6%と、全国平均値（89.7%）より高い状態を維持しています。昨年度と比較し、2.2% 減少しました。2022 年度は、新型コロナウイルス感染症の入院治療も併存しており、厳格な感染対策や面会制限、入院延期などで、平時と比べて入院患者さんに多くの不便をおかけすることとなりました。とりわけオミクロン株の大流行に伴う医療従事者の多数休職などにより、人員不足から療養環境への目配りが減ってしまったことも要因の一つだと考えています。「ナースや助手の方、リハビリ担当の職員を含めて皆さんとても親切に対応して頂いています。感謝しかありません。」といったお褒めの言葉も頂戴しました。その一方で「大部屋で患者さんのマナーについて貼り紙等によって周知してほしい。」や「病室に時計を設置してほしい。」、「設置されているテレビの角度が見えづらい。」

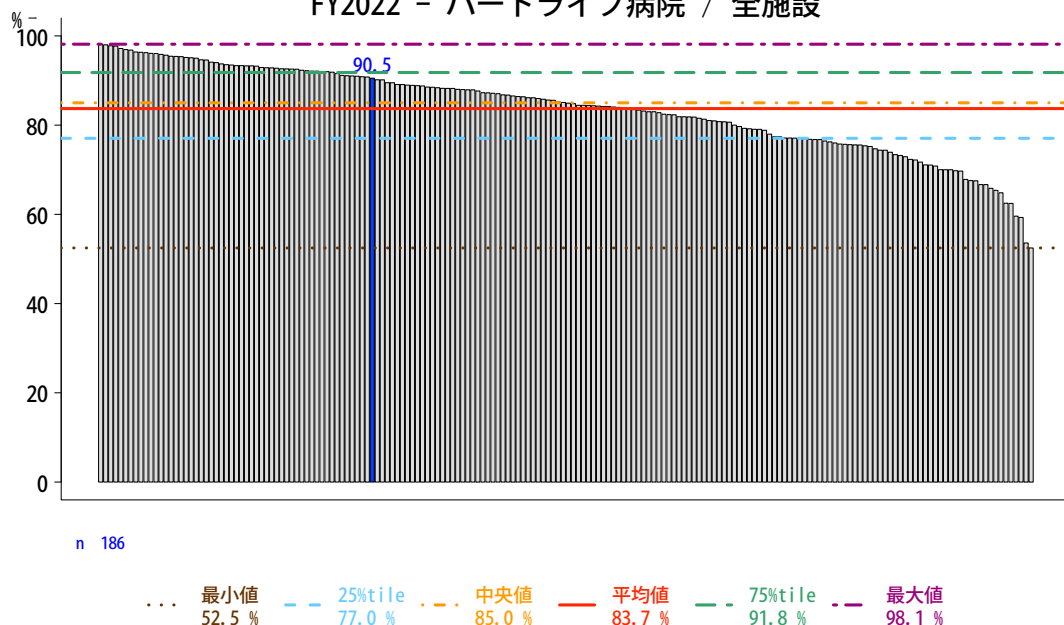
「CS セットに TENA クリームが含まれていることを後で知りました。写真（パンフレット）にも載っていないので、口頭での案内があれば必要な方も利用できるかと思いました。」といった療養環境に関する改善のご指摘も頂戴しました。

引き続き、皆様からいただいた貴重なご意見を病院内の全部署で共有し、より良い医療環境の提供・サービス向上に取り組んでまいります。今後ともご理解とご協力の程、どうぞよろしくお願い致します。

一般-1-b 患者満足度（外来患者） 満足またはやや満足

分子：「満足」または「やや満足」と回答した外来患者数
分母：外来患者への満足度調査項目「この病院について総合的にはどう思われますか？」の設問有効回答数

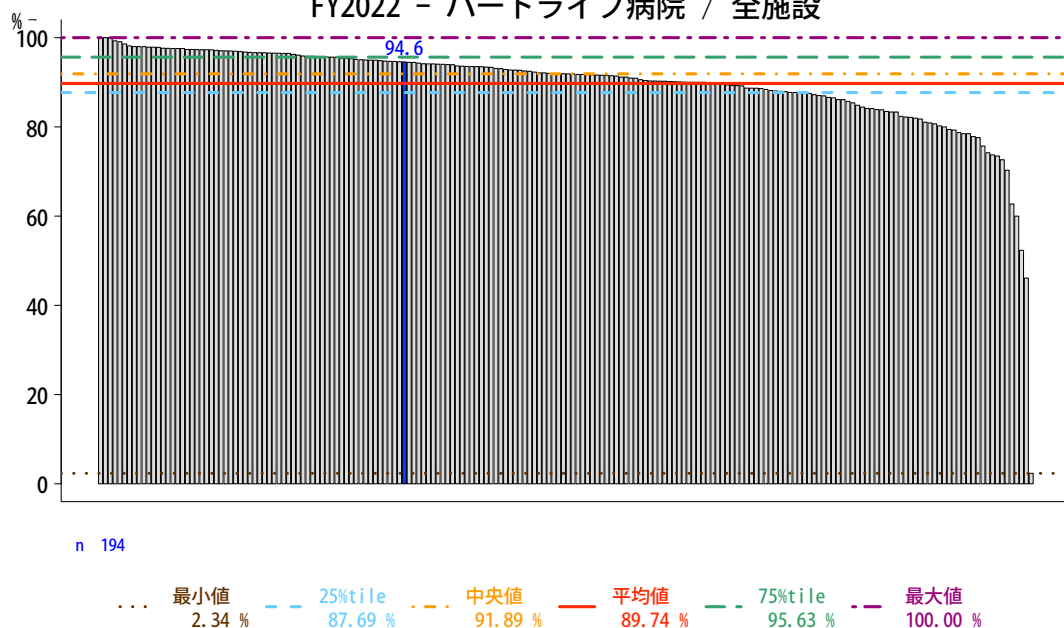
FY2022 - ハートライフ病院 / 全施設



一般-2-b 患者満足度（入院患者） 満足またはやや満足

分子：「満足」または「やや満足」と回答した入院患者数
分母：入院患者への満足度調査項目「この病院について総合的にはどう思われますか？」の設問有効回答数

FY2022 - ハートライフ病院 / 全施設



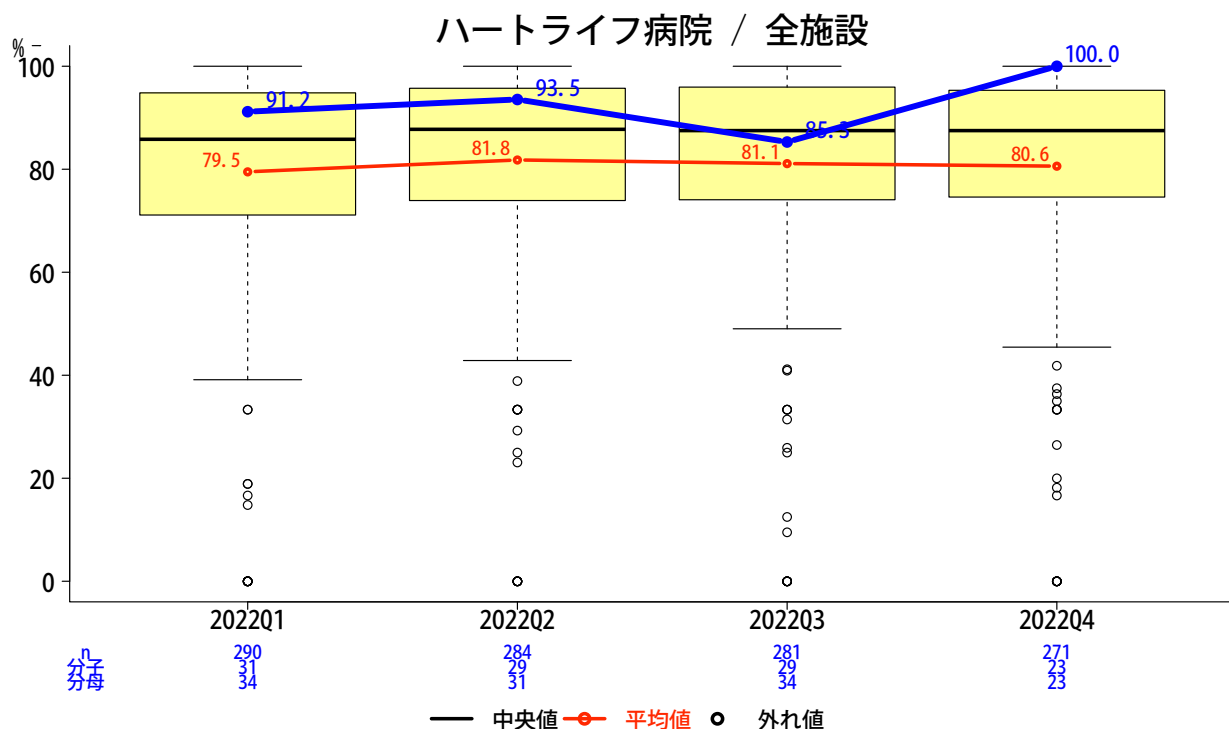
脳梗塞における入院後早期リハビリ実施患者の割合

近年、脳卒中患者における急性期リハビリテーションの有効性が明らかになっています。脳梗塞では、急性期治療を行いつつ、できるだけ早期にリハビリを開始することで、ADL（日常生活動作・活動）機能の早期回復や低下抑制につながることがわかっています。

当院の「脳梗塞における入院後早期リハビリ実施患者の割合」は、91.8%で、全国平均値より高い状態を維持しています。2022年10月に脳梗塞を含む脳血管疾患の診療体制に変更が生じたため、2022Q3（2022年10月～12月）において一時的に早期リハビリ実施割合が減少していましたが、その後は回復しています。

一般-21 脳梗塞における入院後早期リハビリ実施患者割合

分子：入院後早期（3日以内）に脳血管リハビリテーションが行われた患者数
分母：18歳以上の脳梗塞と診断された入院患者数



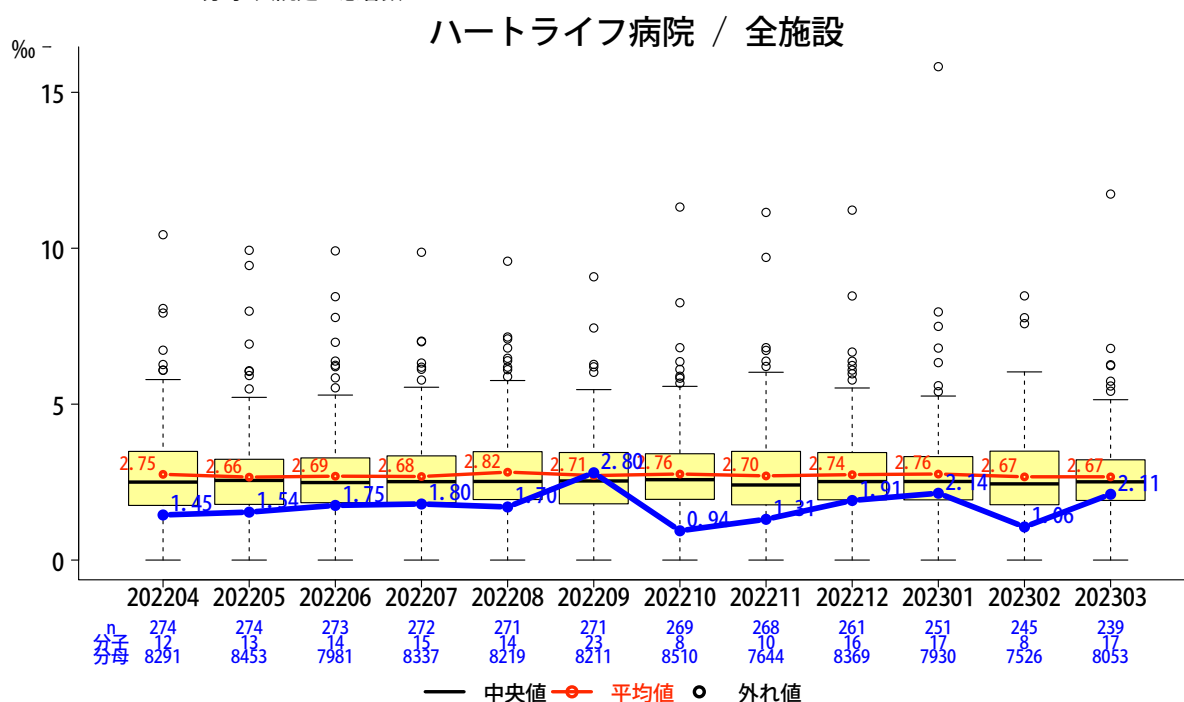
入院患者の転倒・転落発生率

患者さんが入院中に、何らかの原因で転倒・転落した割合です。

患者さんが転倒・転落に至る原因は、療養環境（建物・部屋の構造など）によるものや、患者さんご本人の疾病・治療・手術の影響によるものなど原因はさまざまです。下記のグラフはすべての入院患者さんのうち、転倒・転落に至ったインシデント・アクシデント報告件数の割合を原因の別なく示したものです。単位はパーミル（‰）で、「1,000 人あたり何人いたか」を示す見方をします。

一般-4-a 入院患者の転倒・転落発生率

分子:医療安全管理室ヘインシデント・アクシデントレポートが提出された転倒・転落件数
分母:入院延べ患者数

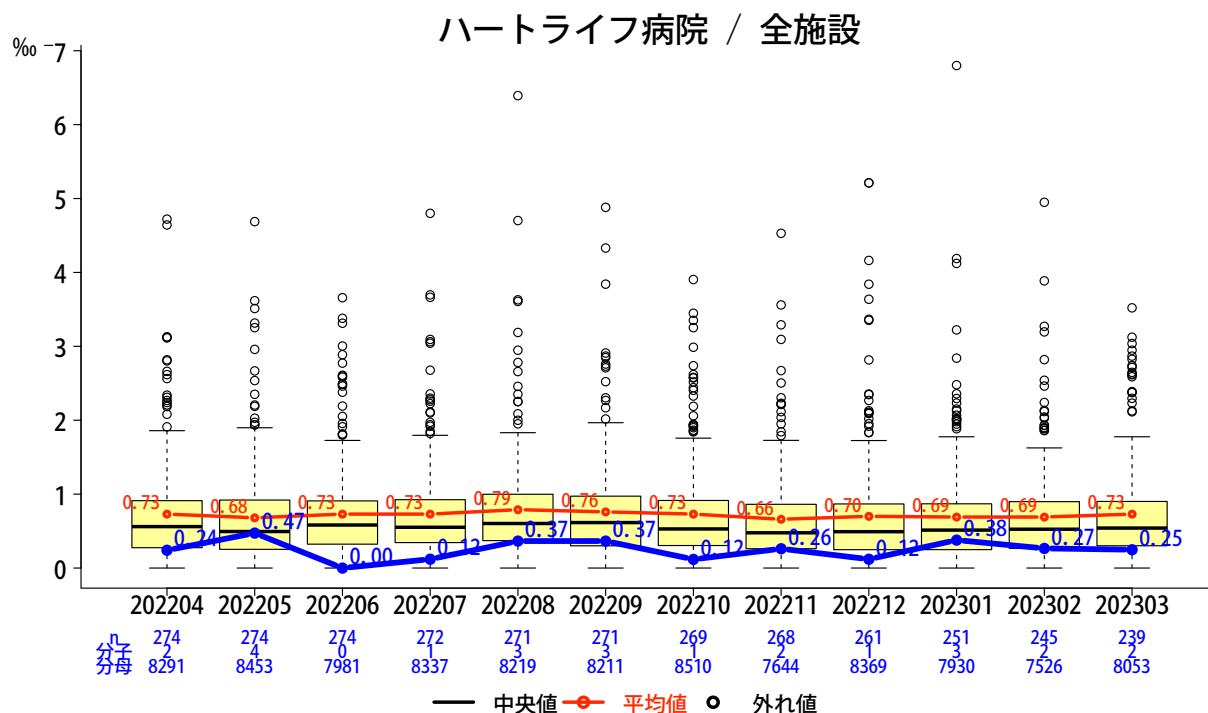


当院の「入院患者の転倒・転落発生率」は1.8‰（1,000 人あたり 1.8 人）と、全国平均値（2.7‰:1,000 人あたり 2.7 人）より低く、昨年度の 2.3‰より 0.5‰改善しました。

一方で、次のグラフは、転倒・転落した入院患者のうち、転倒・転落が原因で何らかの治療が必要となる「損傷レベル2 以上」として報告が上がった件数を、同じく 1,000 人あたり何人いたか、という割合で示したものです。

一般-4-b 入院患者の転倒・転落による損傷発生率（損傷レベル2以上）

分子：医療安全管理室ヘインシデント・アクシデントレポートが提出された転倒・転落件数のうち損傷レベル2以上の件数
分母：入院延べ患者数



当院の損傷レベル2以上の転倒・転落発生率は0.3‰（1,000人あたり1.5人）で、全国平均値（0.7‰：1,000人あたり0.7人）より低く、昨年度の1.5‰より1.2‰改善しました。

昨年度のQIプロジェクトの結果から、「全国のお他病院では転倒・転落が発生しても損傷レベル2以上に至らないようにフェイルセーフ（「問題が発生しても、それに伴うリスクを最小限に留める対策」のことを指します）面で安全策を実施している」、「当院では全国と比して、転倒転落が発生すると、治療を要する状態になりやすい」ことが示唆されていました。

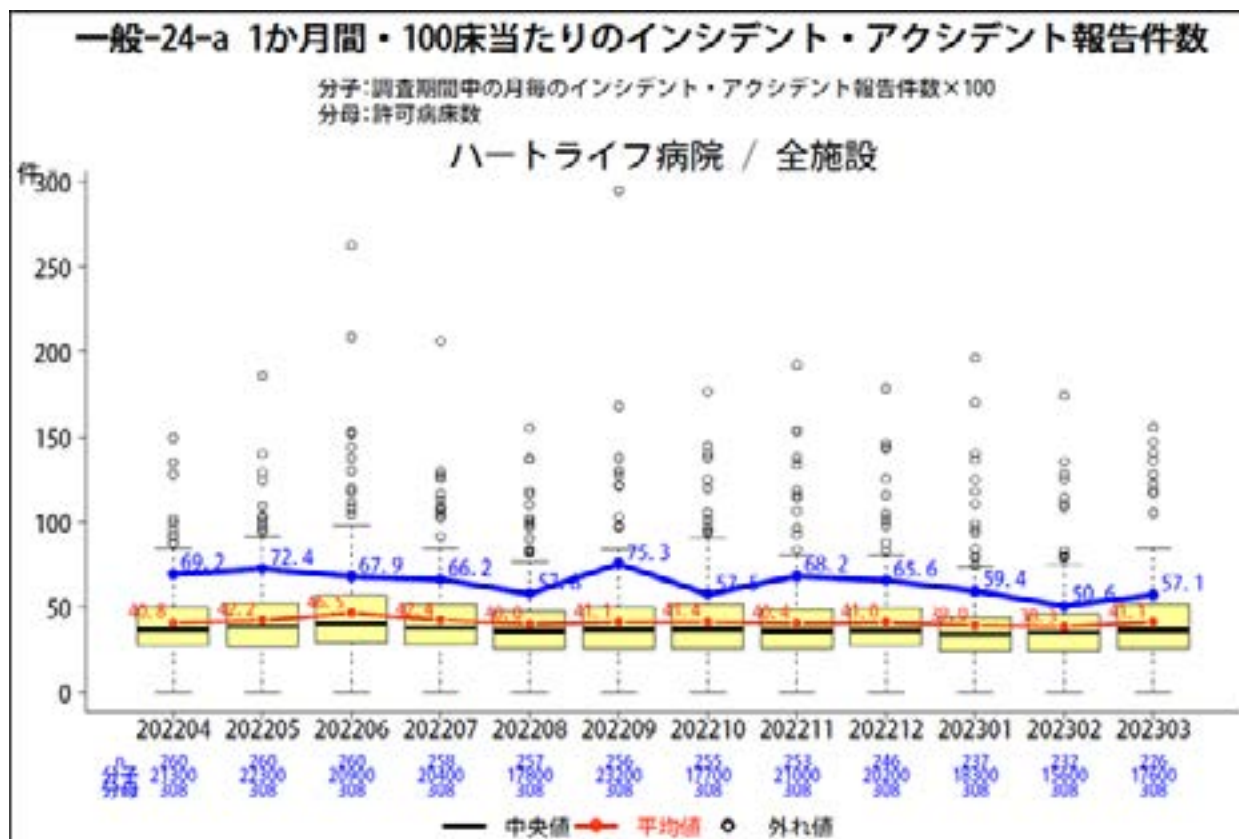
そのため、当院では医療安全管理室を中心に、各部門にリンクナースを配置するなどして、2022年度も下記の活動に継続的に取り組んでいます。

1. 自立患者、認知機能低下・せん妄など事象発生時の患者状態を安全管理室として分析しています。
その上で、部署の判断と照合し、要因と対策の適性を話し合っています。
2. 発生時間、排泄に関連しているかなど患者行動を分析しています。分析から、事前のトイレ誘導など転倒防止策について検討する場を部署と設けています。
3. 看護部を中心に転倒、転落事象低減を目標に環境管理強化に取り組んでいます。
4. 高齢化に伴い、履物選択指導を継続しています。高齢化に伴い事象レベルが高くなる傾向もあり、継続して転倒転落防止における教育を行なっています。

今回、転倒・転落発生率が昨年度より改善（とりわけ、損傷レベル2以上の転倒・転落発生率が大きく改善）したのは、こういった取り組みの成果だと考えており、今後も取り組みを継続します。

当院では、患者さんの転倒・転落を防止するために、転倒・転落を含め、インシデント・アクシデントが発生したらすぐに医療安全システム（インシデント・アクシデント報告システム）に報告入力し、原因を分析して改善する流れに力を入れています。

下記のグラフは、100 床あたりのインシデント・アクシデント報告件数を示したものです。全国平均の報告件数より多いことがわかりますが、これはインシデント・アクシデントが多いからではなく、程度の低いうちに報告することを全職員に推奨しているからです。程度が低いうちに報告する習慣をつけてもらい、医療安全管理責任者が早期に介入する機会を増やすことで、重大なインシデント・アクシデントが発生することを未然に防ぐ取り組みを続けています。



医療の質 Quality Indicator (QI) の画像出典：日本病院会 QI プロジェクト 2022 第 4 回フィードバック資料より

地域医療支援病院認定 関連統計情報

紹介率・逆紹介率

地域医療支援病院承認条件：紹介率 65% 以上かつ逆紹介率 40% 以上

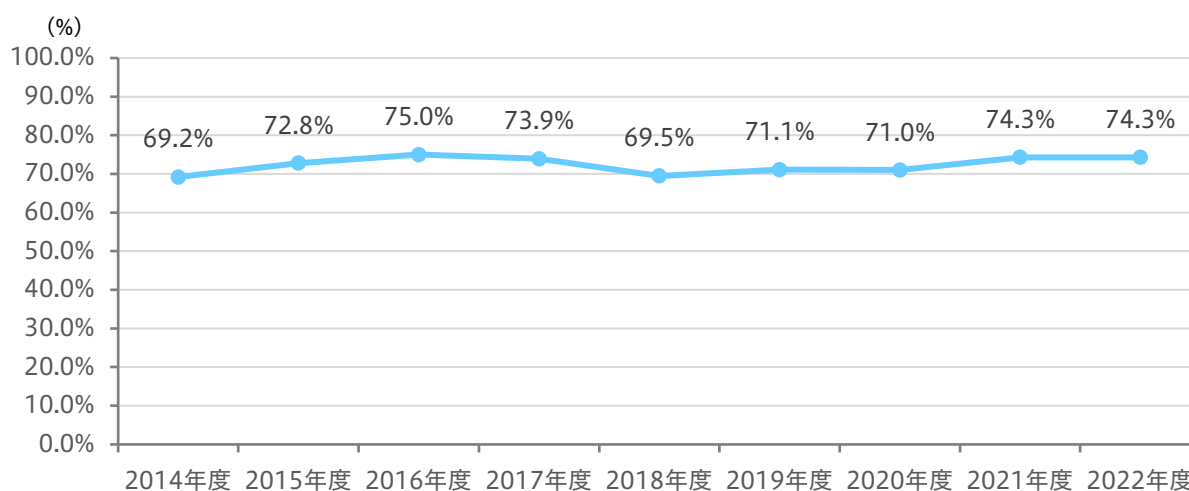
ハートライフ病院目標 紹介率 85.0% / 逆紹介率 86.0%

(データ作成 地域医療連携室 金城)

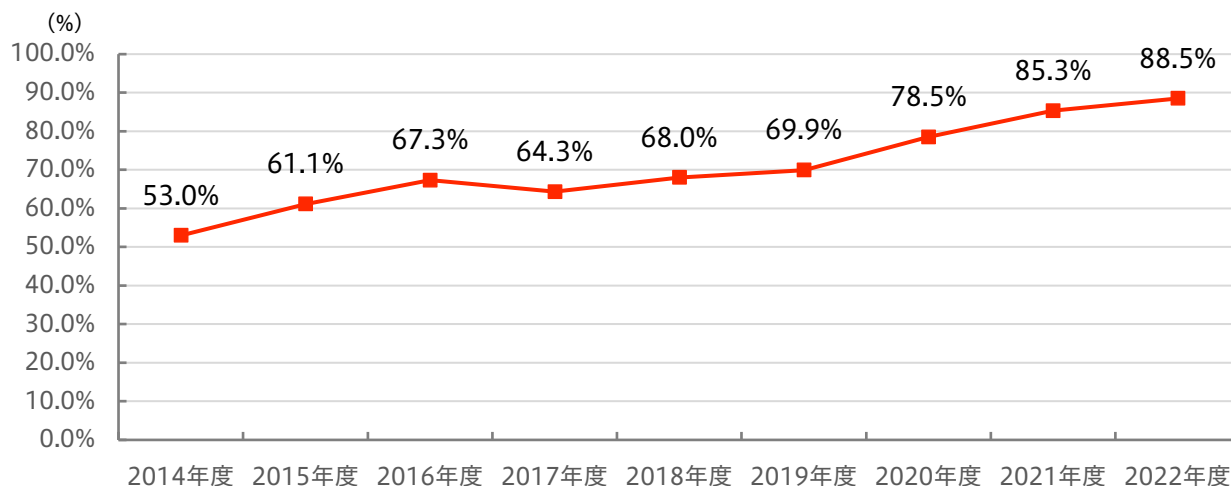
紹介患者状況

	2018 年度		2019 年度		2020 年度		2021 年度		2022 年度	
	患者数 (人)	月平均	患者数 (人)	月平均	患者数 (人)	月平均	患者数 (人)	月平均	患者数 (人)	月平均
紹介患者数	8,402	700	8,872	739	7,636	636	8,323	694	8,494	708
初診患者数	18,816	1,568	19,828	1,652	15,564	1,297	16,682	1,390	17,440	1,453
救急初診患者数	6,506	542	7,032	586	4,394	366	5,011	418	5,406	451
時間内初診救急搬送件数	658	55	772	64	749	62	807	67	1,034	86
逆紹介患者数	8,214	685	8,711	726	8,442	704	9,558	797	10,121	827
紹介率	69.5%	-	71.1%	-	71.0%	-	74.3%	-	74.3%	-
逆紹介率	68.0%	-	69.9%	-	78.5%	-	85.3%	-	88.5%	-

地域医療支援病院紹介率の実績（基準値 65% 目標値 85.0%）



地域医療支援病院逆紹介率の実績（基準値 40% 目標値 86.0%）



共同利用

(データ作成 地域医療連携室 金城)

年度別 登録医状況

	登録医数	登録医療機関
2009 年度 3 月	292	
2010 年度 3 月	303	
2011 年度 3 月	307	303
2012 年度 3 月	304	300
2013 年度 3 月	299	294
2014 年度 3 月	297	290
2015 年度 3 月	300	292

	登録医数	登録医療機関
2016 年度 3 月	322	313
2017 年度 3 月	323	314
2018 年度 3 月	324	315
2019 年度 3 月	322	313
2020 年度 3 月	313	304
2021 年度 3 月	310	301
2022 年度 3 月	307	301

2022 年度登録施設 診療圏内訳

医療圏	件数
北部医療圏	11
中部医療圏	102
南部医療圏	165
宮古医療圏	12

医療圏	件数
八重山医療圏	7
その他医療圏	1
合計	298

開放病床の共同利用状況 (開放病床 22 床)

	延べ利用患者数	年間平均利用率
2014 年度	8,950	115.1%
2015 年度	8,843	110.0%
2016 年度	10,521	131.2%
2017 年度	9,196	114.4%
2018 年度	9,352	117.4%

	延べ利用患者数	年間平均利用率
2019 年度	8,919	110.4%
2020 年度	7,551	94.2%
2021 年度	7,275	90.5%
2022 年度	7,091	88.3%

医療機器の共同利用状況

		MRI	CT	RI	超音波
2011 年度	総件数	3,452	11,775	333	14,533
	紹介件数	626	894	39	1,854
	利用率	18.1%	7.6%	11.7%	12.8%
2012 年度	総件数	3,551	11,322	341	12,942
	紹介件数	664	941	42	2,049
	利用率	18.6%	8.3%	12.5%	15.9%
2013 年度	総件数	3,964	11,547	307	13,094
	紹介件数	689	1,055	49	2,156
	利用率	17.4%	9.1%	16.0%	16.5%
2014 年度	総件数	3,823	12,256	317	13,263
	紹介件数	658	1,093	41	2,250
	利用率	17.2%	8.9%	12.9%	17.0%
2015 年度	総件数	3,758	12,147	286	12,884
	紹介件数	667	1,134	46	2,270
	利用率	17.9%	9.4%	15.8%	17.6%
2016 年度	総件数	3,780	12,230	202	11,677
	紹介件数	782	1,340	35	2,435
	利用率	20.7%	11.0%	17.3%	20.9%

		MRI	CT	RI	超音波
2017 年度	総件数	3,822	12,253	283	11,636
	紹介件数	733	1,306	73	2,595
	利用率	19.2%	10.7%	25.8%	22.3%
2018 年度	総件数	4,503	12,397	287	11,887
	紹介件数	939	1,247	42	2,793
	利用率	20.9%	10.1%	14.6%	23.5%
2019 年度	総件数	4,758	13,667	285	12,248
	紹介件数	965	1,513	49	2,881
	利用率	20.2%	11.1%	17.1%	23.5%
2020 年度	総件数	4,581	14,708	285	11,623
	紹介件数	849	1,505	45	2,953
	利用率	18.6%	10.2%	15.8%	25.4%
2021 年度	総件数	4,975	15,426	234	12,004
	紹介件数	1,117	1,594	47	2,753
	利用率	22.4%	10.4%	19.5%	23.0%
2022 年度	総件数	4,581	14,971	203	11,020
	紹介件数	1,109	1,736	24	2,744
	利用率	24.1%	11.6%	14.1%	24.9%

研修

(データ作成 地域医療連携室 金城)

内訳	回数	症例件数	参加人数			
			院内	院外	オンライン	合計
救急症例検討会	1	3	21	21	75	117
感染対策訓練	1	0	4	16	1	21
感染対策訓練	1	0	0	6	0	6
合 計	3	3	25	43	76	144

救急救命士実習実績

(データ作成 地域医療連携室 金城)

気管挿管病院実習

消防本部名	人数
東部消防組合消防本部	2
比謝川行政事務組合ニライ消防本部	1
金武地区消防衛生組合消防本部	2
宜野湾市消防本部	1
うるま市消防本部	1
合計	7

薬剤投与病院実習

消防本部名	人数
東部消防組合消防本部	3
合計	3

就業前病院実習

消防本部名	人数
東部消防組合消防本部	3
中城北中城消防本部	1
合計	4

気管挿管認定救急救命士の再教育に係る見学・指導実習

消防本部名	人数
うるま市消防本部	5
金武地区消防衛生組合	1
宜野湾市消防本部	4
沖縄市消防本部	4
東部消防組合消防本部	10
中城北中城消防本部	5
比謝川行政事務組合ニライ消防本部	4
合計	33

気管挿管及びビデオ硬性挿管用喉頭鏡認定救急救命士の再教育に係る見学・指導実習

消防本部名	人数
沖縄市消防本部	3
宜野湾市消防本部	1
うるま市消防本部	2
中城北中城消防本部	2
金武地区消防衛生組合	5
比謝川行政事務組合ニライ消防本部	3
合計	16

ハートライフ病院 DMAT

概要

DMAT は、大規模災害や多数傷病者事案など防ぎ得た災害死を減らすため、厚生労働省の認めた専門研修・訓練を受けた災害派遣医療チームです。

ハートライフ病院はこれまで、救急・災害医療面で多くの会議・協議会・実働訓練・学会、講習会等に参加、実績を残し、平成 26 年に DMAT 隊員養成研修を受講、正式にハートライフ病院が DMAT 指定医療機関となり、ハートライフ DMAT が設立されました。設立後も、各種訓練、講習会に参加しつつ、薬局・臨床工学科・管財課用度係・企画室・救急総合診療部・災害対策委員会と連携しながら、DMAT 派遣・災害医療の体制作りを進め、平成 28 年に起きた熊本地震では沖縄からの最先着隊として被災地に入り、令和 2 年の熊本豪雨災害にも出動し、本部活動を含め被災地の復興のために活動してきました。

これからも引き続き、院内の各種委員会との連携を進め、DMAT 活動体制を更に前進させます。

メンバー構成

氏名	所属・役職	職種
三戸 正人	救急総合診療部 救急部長	医師（内科系）
国吉 史雄	外科副部長	医師（外科系）
兼本 愛美	救急外来 主任（救急看護認定看護師）	看護師
山田 義長	救急外来 副主任	看護師
野原 剛	臨床工学科 技師長	ロジスティクス（事務・調整役）
安里 健二	事務部企画室電算係 副主任	ロジスティクス（事務・調整役）
森元 一晟	救急外来 ER-Aide（救急救命士）	ロジスティクス（事務・調整役）

活動報告

訓練	- 令和 4 年度 総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練（10 月・静岡県） 参加者（コントローラー）：三戸正人、森元一晟 （プレイヤー）：国吉史雄、兼本愛美、山田義長、野原剛、安里健二 - 令和 4 年度 沖縄県総合防災訓練（11 月・沖縄県那覇市） 参加者：三戸正人、兼本愛美、山田義長、森元一晟、大宜見宗史 - 美ら島レスキュー 2022 図上訓練（1 月・那覇市、沖縄市） 参加者（コントローラー）：三戸正人、森元一晟 （プレイヤー）：野原剛 - 令和 4 年度 九州・沖縄ブロック DMAT 実働訓練（1 月・熊本県） 参加者（コントローラー）：三戸正人、森元一晟 （プレイヤー）：国吉史雄、兼本愛美、山田義長、野原剛、安里健二
研修	【西第 2 回】災害派遣医療チーム（DMAT）研修（6 月・兵庫県） 参加者：三戸正人（インストラクター）、森元一晟（タスク） 【大阪第 2 回】災害派遣医療チーム（DMAT）研修（7 月・福岡県） 参加者：三戸正人（インストラクター）、森元一晟（タスク） - 第 1 回、第 2 回 九州・沖縄ブロック DMAT 技能維持研修（7 月・福岡県） 参加者：三戸正人（インストラクター）、森元一晟（タスク） 【西第 4 回】災害派遣医療チーム（DMAT）研修（8 月・兵庫県） 参加者：森元一晟（タスク） - 第 3 回 九州・沖縄ブロック DMAT 技能維持研修（10 月・福岡県） 参加者：三戸正人（インストラクター） 【西第 6 回】災害派遣医療チーム（DMAT）研修（10 月・兵庫県） 参加者：森元一晟（タスク） 【西第 7 回】災害派遣医療チーム（DMAT）研修（12 月・兵庫県） 参加者：三戸正人（インストラクター）、山田義長（タスク） 【東第 7 回】災害派遣医療チーム（DMAT）研修（12 月・東京都） 参加者：森元一晟（タスク） - DMAT ロジスティックチーム隊員養成研修（12 月・東京都） 参加者：森元一晟
会議	第 19 回九州・沖縄災害拠点病院実務者会議（熊本県） 第 11 回九州・沖縄ブロック DMAT 実務者会議（熊本県） 沖縄 DMAT・災害拠点病院等連絡会議

事務局活動

C19 災害対策本部会議
ハートライフ DMAT 委員会
(DMAT 隊員、企画室、臨床工学科、管財課)

2022/10/01 (静岡県)
大規模地震時医療活動訓練



2022/11/27 (沖縄県那覇市)
沖縄県総合防災訓練

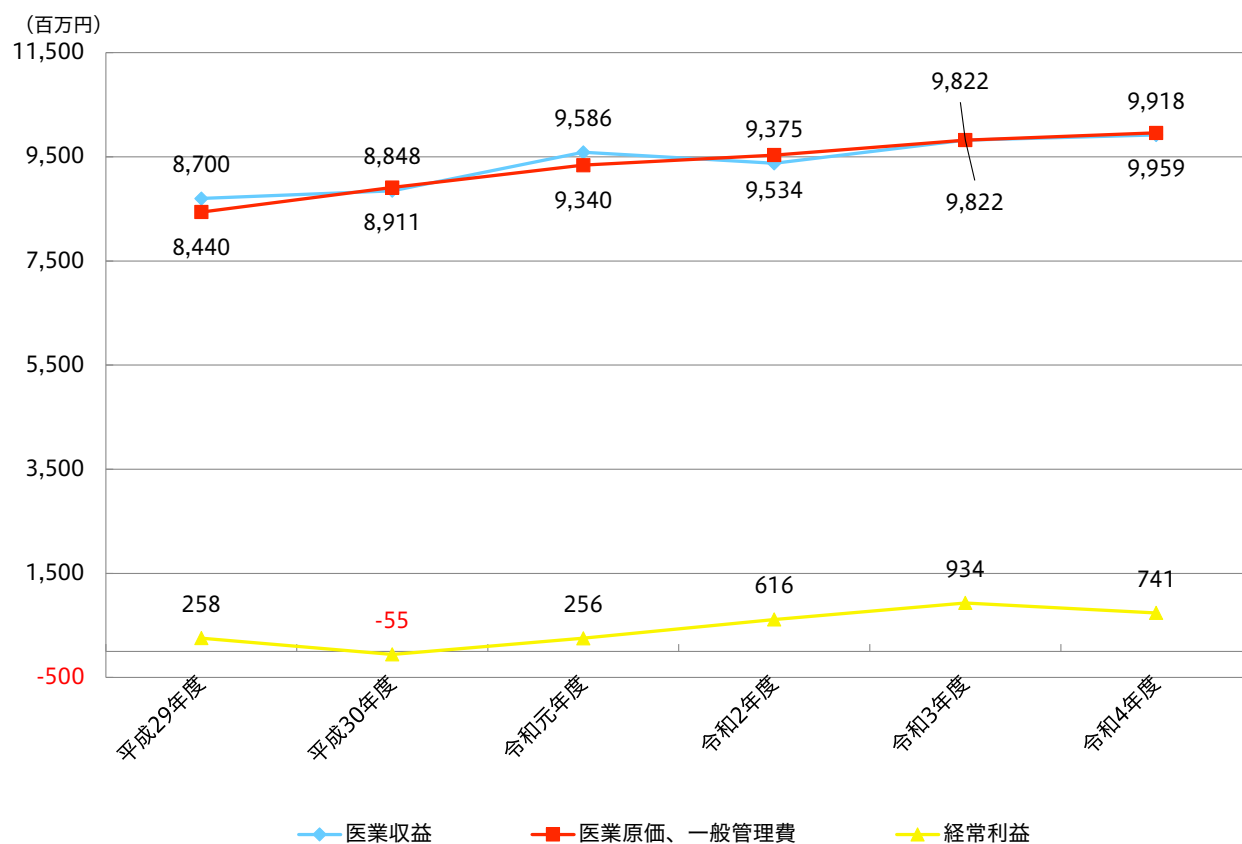


2023/01/28 (熊本県)
九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練



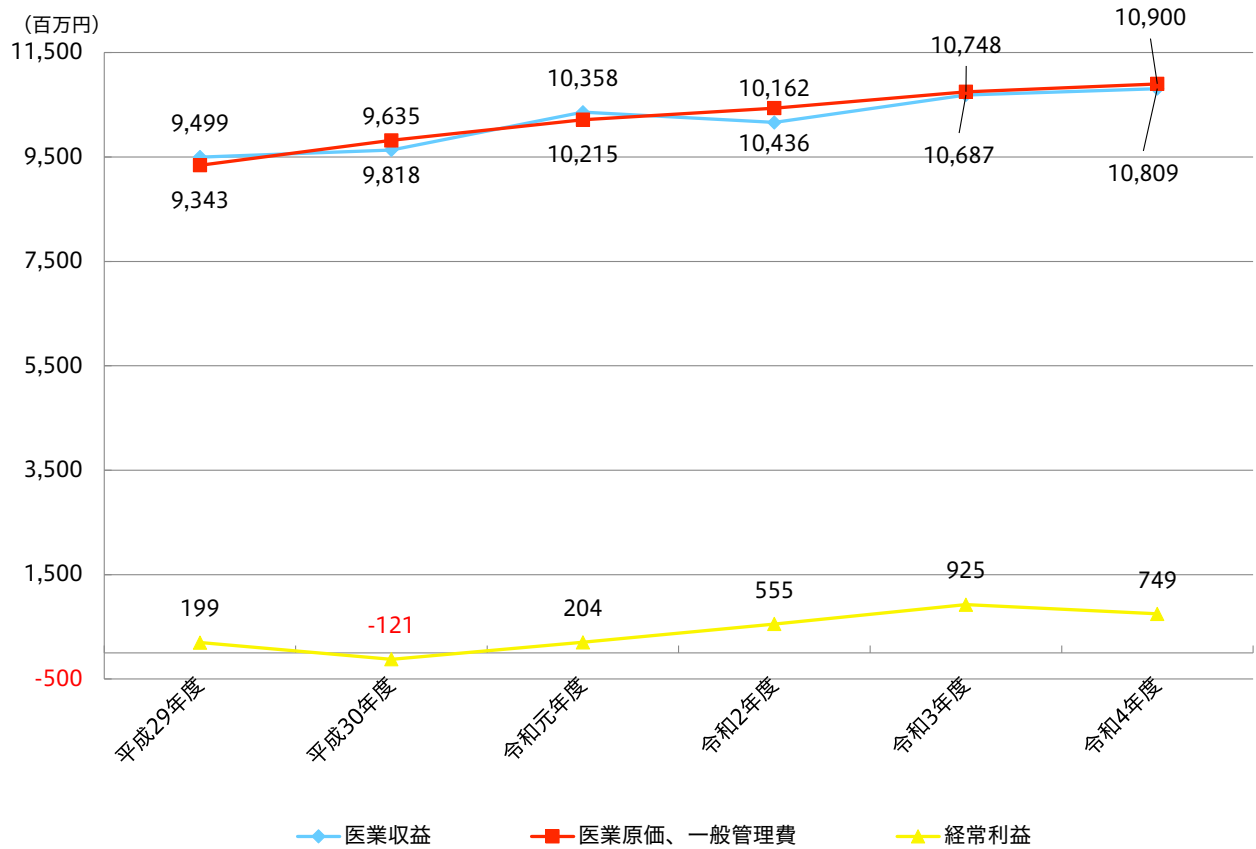
ハートライフ病院 財務状況推移

(データ作成 財務経理課 大山)



社会医療法人かりゆし会 財務状況推移

(データ作成 財務経理課 大山)



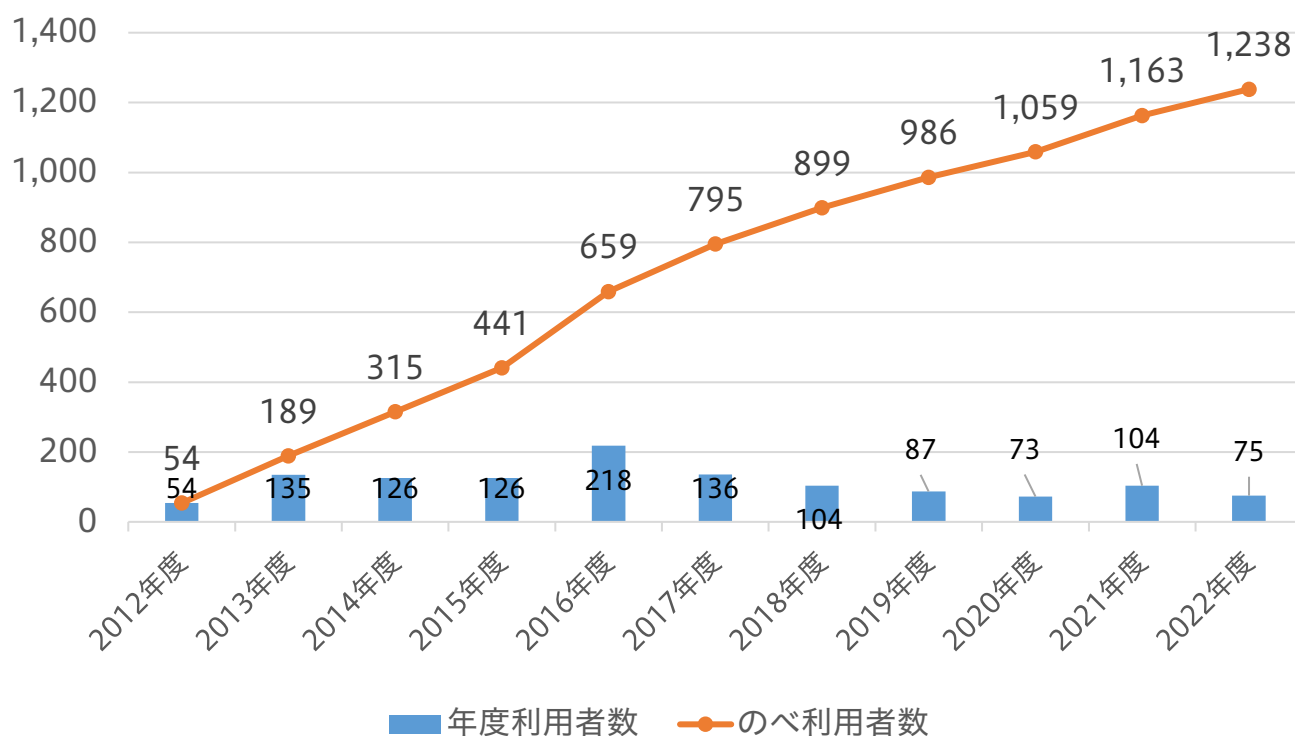
社会医療法人かりゆし会 2022 年度の活動実績

(データ作成 総務課 河上)

年月日	名称
2022 年 4 月 1 日	入職式・新入職員オリエンテーション
2022 年 4 月 1 日	春季職員健診
2022 年 4 月 28 日	職員対象 新型コロナワクチン接種 (12 歳以上)
2022 年 7 月 11 日	院内献血
2022 年 8 月 8 日	職員対象 新型コロナワクチン接種 (4 回目)
2022 年 8 月 15 日	職員対象 新型コロナワクチン接種 (4 回目)
2022 年 8 月 16 日	科別実績報告会 (オンデマンド配信)
2022 年 8 月 22 日	ハートライフ病院 開院 34 周年
2022 年 9 月 5 日	永年勤続表彰
2022 年 9 月 13 日	保健所立入検査
2022 年 9 月 14 日	職員 B 型肝炎予防接種 (集団①)
2022 年 10 月 3 日	秋季職員健診
2022 年 10 月 26 日	職員 B 型肝炎予防接種 (集団②)
2022 年 11 月 9 日	職員インフルエンザワクチン接種 (集団①)
2022 年 11 月 16 日	職員インフルエンザワクチン接種 (集団②)
2022 年 11 月 22 日	職員対象 新型コロナワクチン接種 (5 回目)
2022 年 11 月 25 日	職員対象 新型コロナワクチン接種 (5 回目)
2022 年 12 月 12 日	院内献血
2023 年 3 月 17 日	職員満足度調査
2023 年 3 月 22 日	職員 B 型肝炎予防接種 (集団③)
2023 年 3 月 24 日	初期臨床研修医研修修了式

かりゆし会病児保育室 利用実績推移

かりゆし会では職員の働きやすさ実現のために平成 24 年 8 月より、ハートライフクリニック内に職員向け病児保育室を設置しています。



2022 年度 患者満足度調査

(データ作成 患者満足度向上委員会 河上)

ハートライフ病院では、患者サービス向上を目的に「患者満足度調査」を実施しております。以下に 2022 年度に実施されました調査結果をご報告致します。アンケートにご協力頂いた皆様に心より感謝を申し上げます。今後は、皆様からいただいた貴重なご意見を病院内の全部署で共有し、より良い医療環境の提供・サービス向上に取り組んでまいります。今後ともご理解とご協力の程、どうぞよろしくお願い致します。

調査場所：2022 年 10 月 24 日（月）から 10 月 25 日（火）の 2 日間

（病棟のみ 10 月 24 日（月）～ 10 月 29 日（土）までの 6 日間）

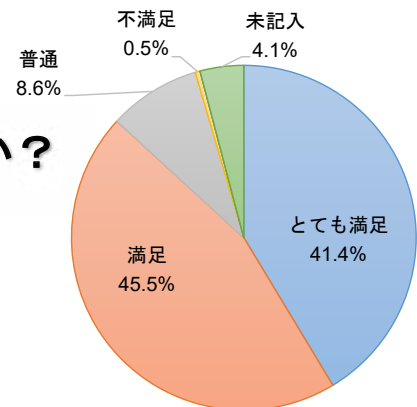
調査場所：ハートライフ病院 外来・各病棟・透析室・予防医学センター・内視鏡センター

外来

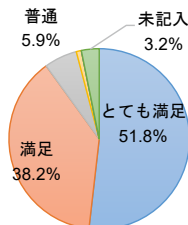
アンケート回答数
220件

【総合評価】 この病院での 診療に満足していますか？

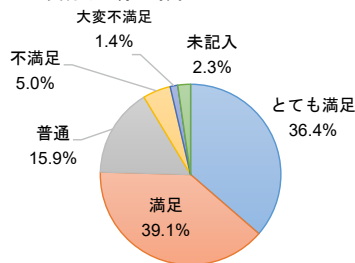
満足以上が86.9%と
概ね良い評価と
なっています。



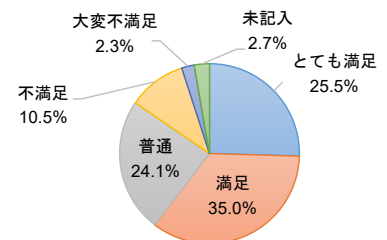
医師による診察内容は分かり易かったですか？



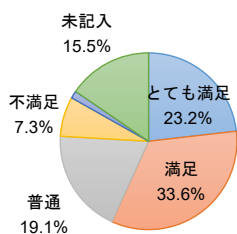
受付の待ち時間はいかがでしたか？



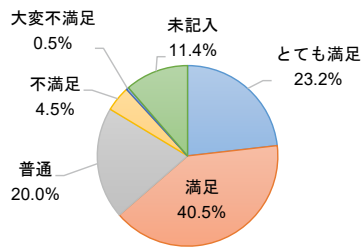
診察の待ち時間はいかがでしたか？



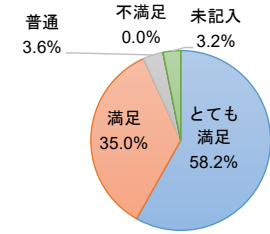
検査の待ち時間はいかがでしたか？



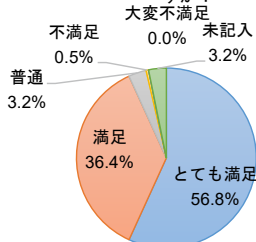
会計の待ち時間はいかがでしたか？



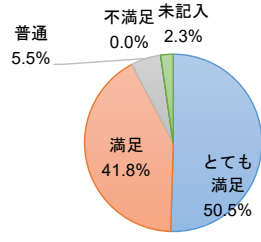
医師の言葉遣いや態度は良かったですか？



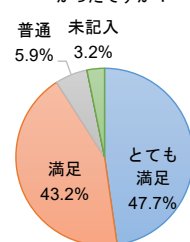
看護師の言葉遣いや態度は良かったですか？



受付事務の言葉遣いや態度は良かったですか？



その他職員の言葉遣いや態度は良かったですか？

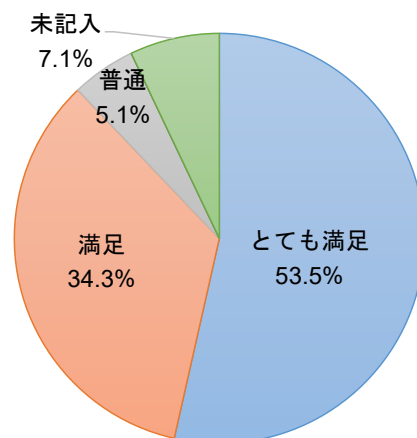


病棟

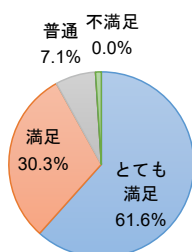
アンケート回答数
99件

【総合評価】 この病院での診療に 満足していますか

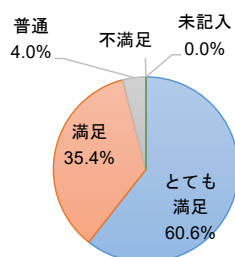
満足以上が87.8%と
概ね良い評価と
なっています。



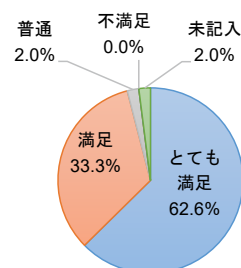
医師の病気や治療による説明はいかがですか



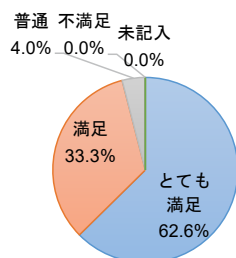
看護師の説明や対応はいかがですか



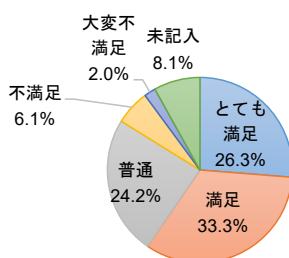
医師・看護師は話を聞いてくれますか



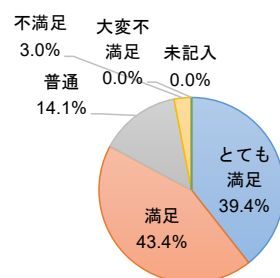
職員の言葉遣いや態度は良かったですか



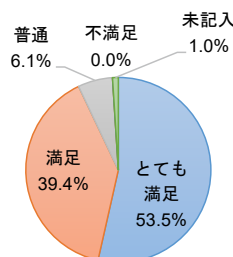
食事について(味・内容・量)はいかがですか



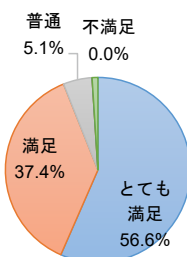
静けさは保たれていますか



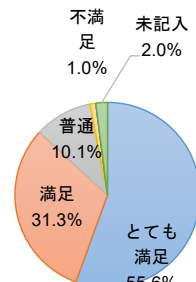
病棟・病室・トイレはきれいでしたか



病室・廊下の明るさはいかがですか



室内の温度調整はいかがですか

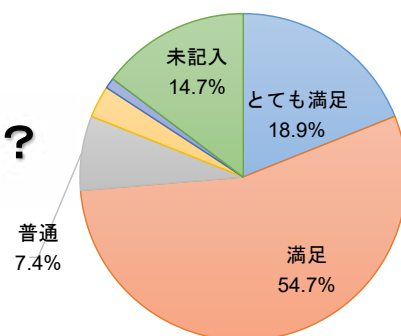


透析室

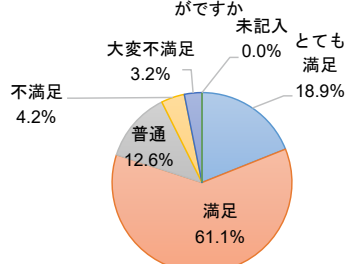
アンケート回答数
95件

【総合評価】 この病院での 診療に満足していますか？

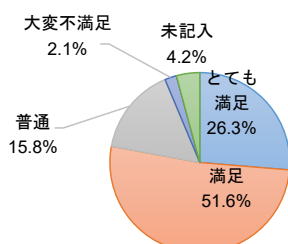
76.7%が満足以上の
評価となっています。



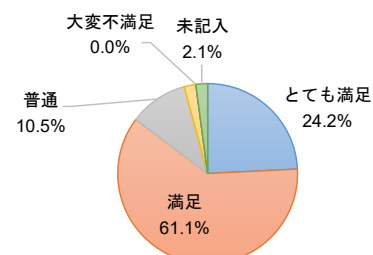
医師の病気や治療による説明はいかがですか



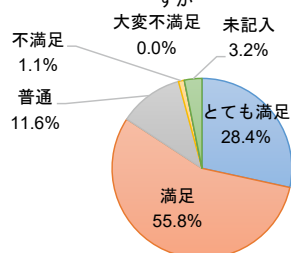
看護師の説明や対応はいかがですか



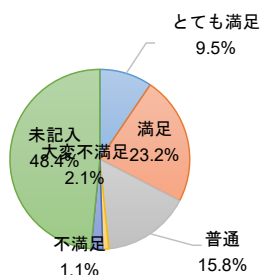
医師・看護師は話を聞いてくれますか



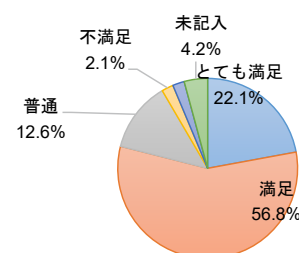
職員の言葉遣いや態度は良かったですか



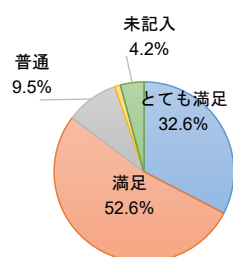
食事について(味・内容・量)はいかがですか



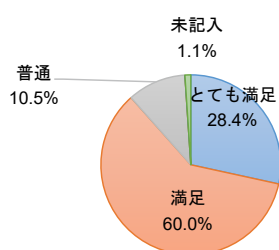
静けさは保たれていますか



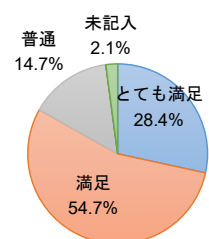
トイレはきれいでしたか



廊下の明るさはいかがですか



臭気はいかがですか

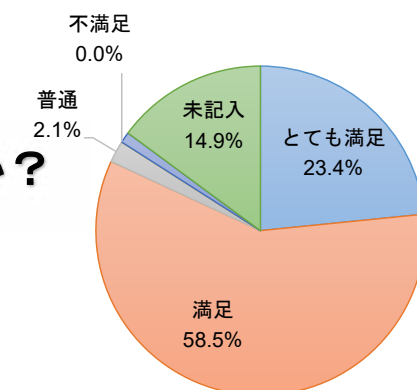


予防医学 センター

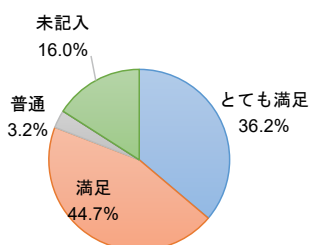
アンケート回答数
94件

【総合評価】 この病院での 診療に満足していますか？

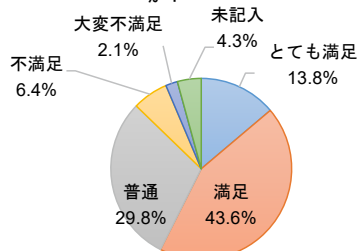
81.9%が満足以上の
評価となっています。



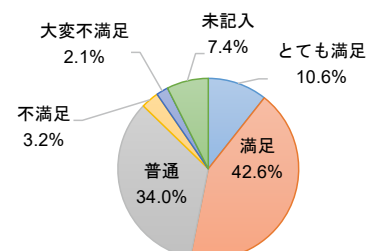
医師による診察内容は分かり易かったですか？



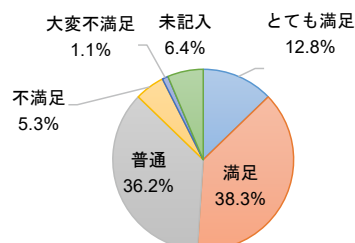
受付の待ち時間はいかがでしたか？



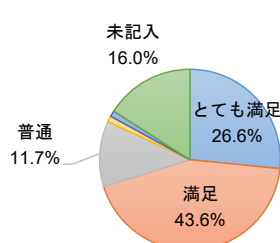
診察の待ち時間はいかがでしたか？



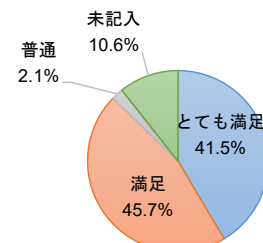
検査の待ち時間はいかがでしたか？



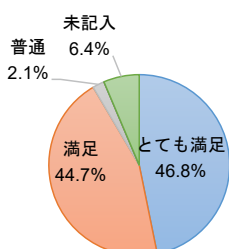
会計の待ち時間はいかがでしたか？



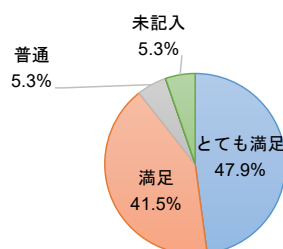
医師の言葉遣いや態度は良かったですか？



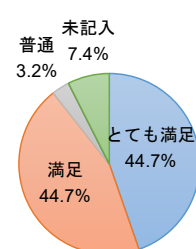
看護師の言葉遣いや態度は良かったですか？



受付事務の言葉遣いや態度は良かったですか？



その他職員の言葉遣いや態度は良かったですか？

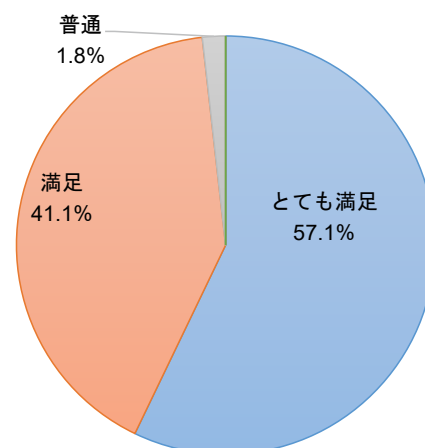


内視鏡 センター

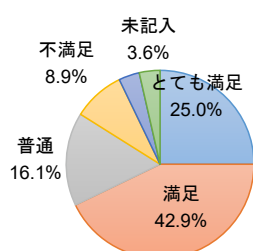
アンケート回答数
56件

【総合評価】 内視鏡での検査に 満足できましたか？

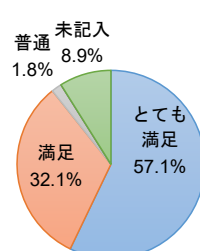
満足以上が98.2%と
概ね良い評価と
なっています。



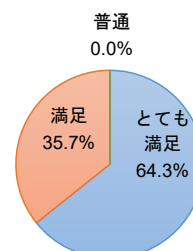
内視鏡での待ち時間



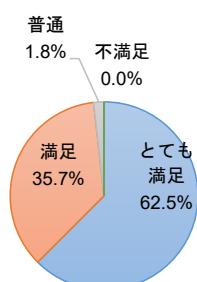
医師の言葉遣いや態度



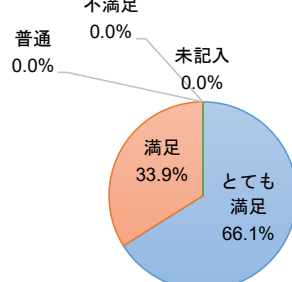
看護師の言葉遣いや態度



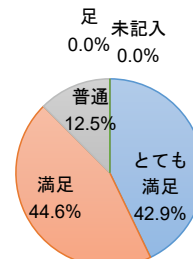
受付事務の言葉遣いや態度



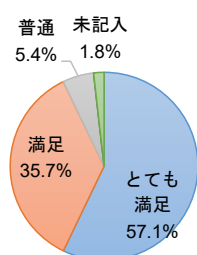
看護師の対応



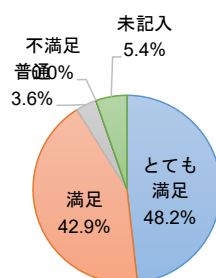
待合室の設備はいかがでしたか



検査室・麻酔部屋の雰囲気



検査後は十分に休めたか



2022 年度職員満足度調査

(データ作成 事務部 比嘉)

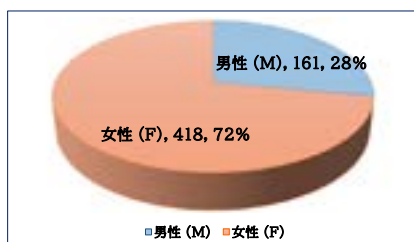
かりゆし会では、毎年職員満足度調査を行い、このアンケート結果を職場改善の材料とし、職員が働きやすく、働き甲斐のある組織運営の実現に向けて取り組んでおります。

調査概要：職員数 1,123 名 (2023.3.1 時点) 回答数 579 回答率 51.56%

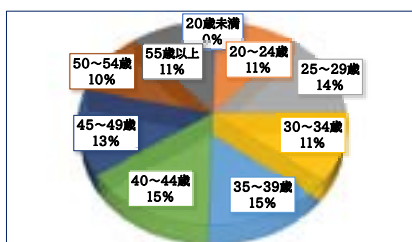
調査日時：2023 年 3 月 17 日 (金) ～ 2023 年 3 月 31 日 (木)

調査方法：グループセッション (グループウェア) を利用した調査票への入力

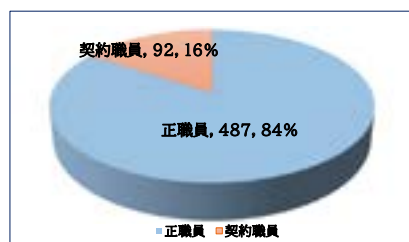
設問1 性別



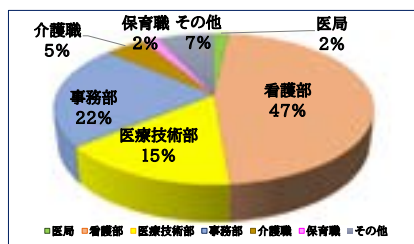
設問2 年齢



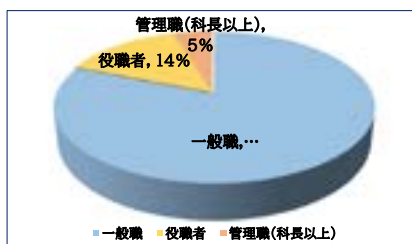
設問3 雇用形態



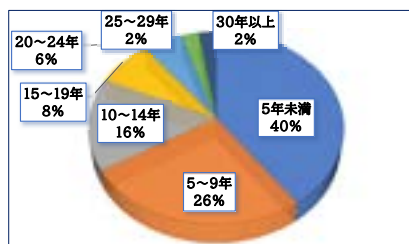
設問4 職種



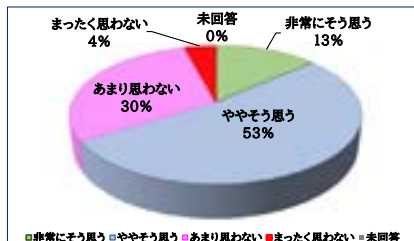
設問5 役職



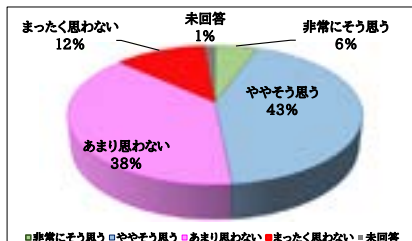
設問6 勤続年数



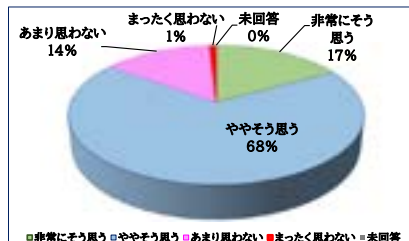
設問7 今の職場でこれからも働きたいと思いますか



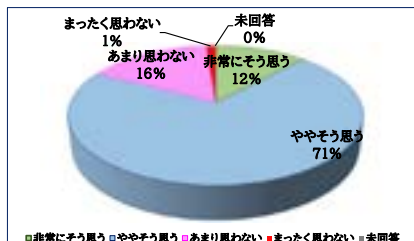
設問9 今の職場を職場として知人に勧めますか



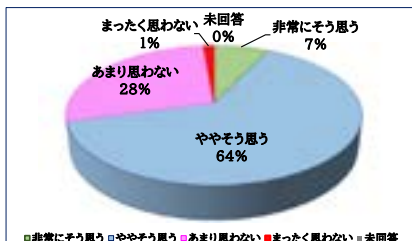
設問11 病院の理念・方針・目標などを理解していますか



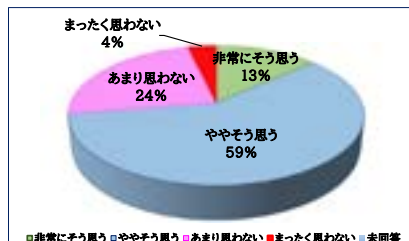
設問13 病院は理念や使命に沿った活動をしていると思いますか



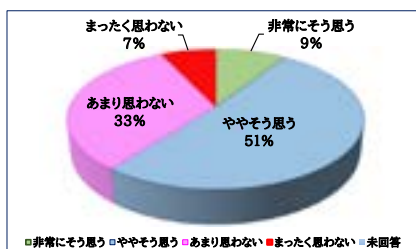
設問15 今の仕事が自分の能力にあっていていると思いますか



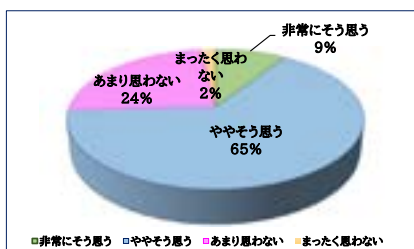
設問17 今の仕事にやりがいを感じていますか



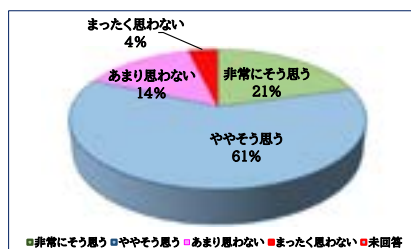
設問19 仕事の成果が正当に評価されていると思いますか



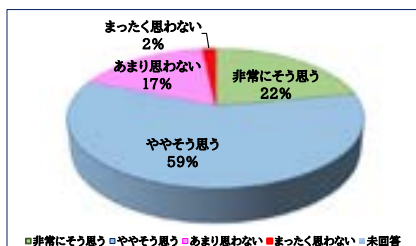
設問21 あなたは自己成長に繋がる努力をしていますか



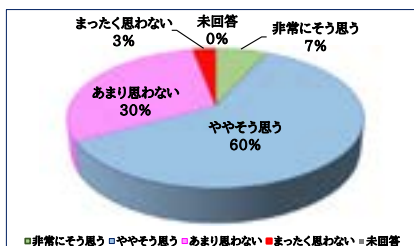
設問23 あなたの上司と仕事上の関係は良いと思いますか



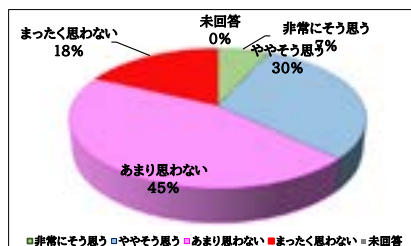
設問25 同じ職場同士で互いに協力出来ていますか



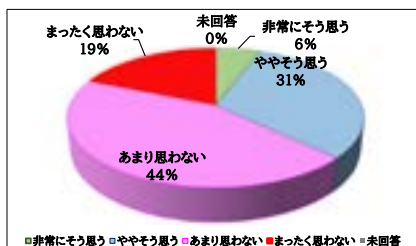
設問27 他部門との連携はスムーズですか



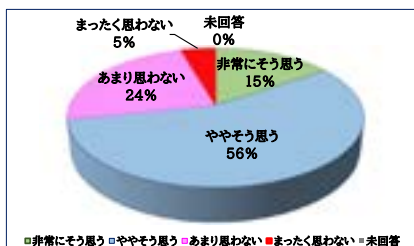
設問29 現在の福利厚生制度に満足ですか



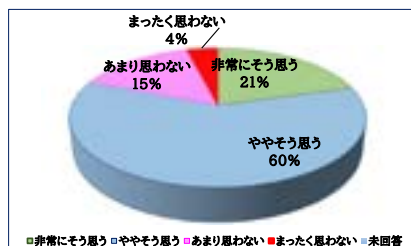
設問31 現在の報酬に満足ですか



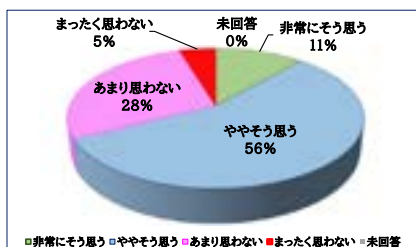
設問33 職場環境(空調・照明・作業空間)は適切ですか



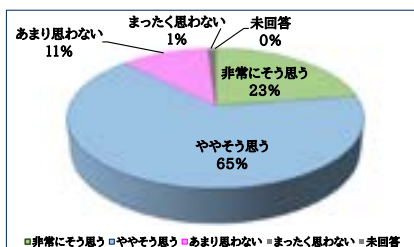
設問35 あなたの上司は仕事のスタートを良くしてくれますか



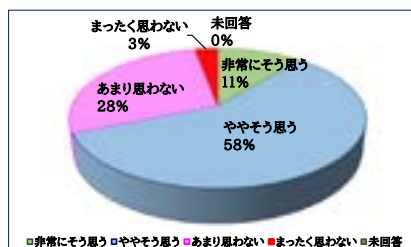
設問37 仕事のスケジュールは適切だと思いますか



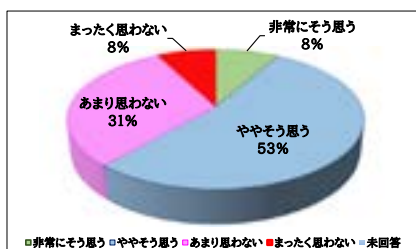
設問39 職場のメンバー同士で互いに協力出来ていますか



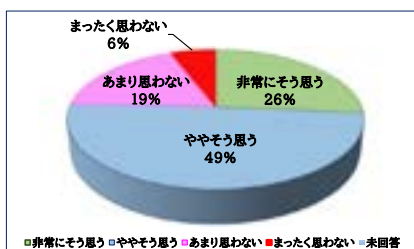
設問41 個々の向上に役立つ学習の機会が与えられていますか



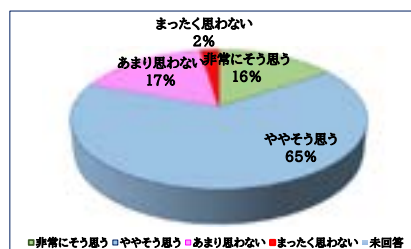
設問43 精神的な不安を感じることなく仕事が出ていますか



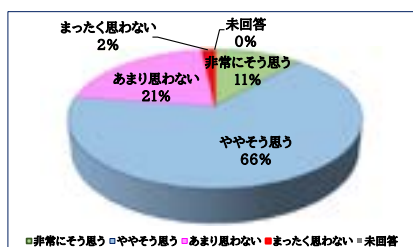
設問45 休暇を取得しやすい職場ですか



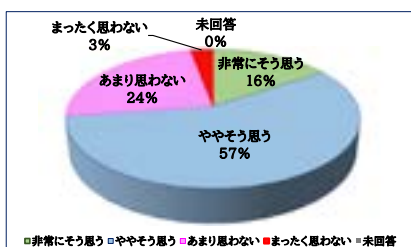
設問47 病院は、職員の安全に配慮していると思いますか。



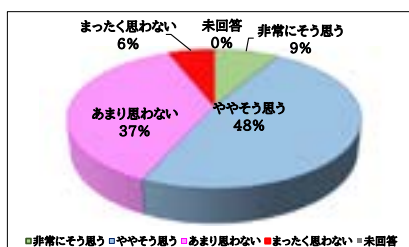
設問49 職務遂行に必要な権限を与えられていますか



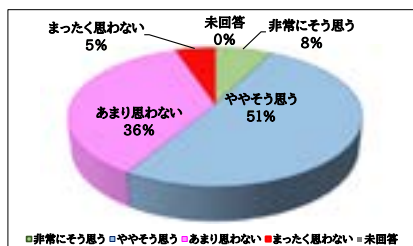
設問51 指示系統で困ることはないですか



設問53 患者として、当院を利用したいと思いますか



設問55 当院を患者さんや知人に勧めますか



部署別業務実績

医 局

部門紹介

2022 年度の医局は病院の中心部署として頑張ってきました。その構成は内科 28 名(内科初診担当 1 名、総合内科 1 名、呼吸器 3 名、循環器 5 名、消化器 11 名、血液 5 名、腎臓 2 名)、外科 9 名、麻酔科 6 名、整形外科 5 名、産婦人科 6 名、小児科 4 名、脳神経外科 2 名、泌尿器科 1 名、眼科 3 名、形成外科 1 名、耳鼻咽喉科 2 名、放射線科 3 名、救急科 2 名(1 名は兼任)、心療内科 1 名、人間ドック 4 名、病理診断 2 名、初期研修医 15 名の計 94 名となっていました。

また、初期研修医 15 名、専攻医 7 名の指導に加え、年間 50 名程のクリニカルクラークシップ(琉球大学医学部生)に対応しています。

医師数(常勤)

(2023 年 3 月 1 日現在)

	内科	外科	救急科	小児科	産婦人科	整形外科	脳神経外科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	眼科	放射線科	心療内科	麻酔科	予防医学	人工透析	形成外科	病理診断科	合計
全医師数 (研修医除く)	28	9	2	4	6	5	2	1	2	3	3	1	6	4	0	1	2	79
うち各種学会認定・専門医数	76	40	8	4	4	8	4	4	2	4	3	3	14	5	0	0	3	182
うち臨床研修指導医数	20	7	2	2	2	3	2	1	1	1	1	1	3	0	0	0	1	47
専攻医	2	1	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	7
初期研修医	1 年目: 8 名 2 年目: 7 名																	15

医局方針

1. 患者の安全・QOL を第一とし、インフォームドコンセントによる良好な信頼関係を確立する。
2. 自己の専門性確立のため学会活動などの自己研鑽に励み、専門性の提供によりチーム医療を行う。
3. 他科との緊密な連携により、患者にとって最高の医療提供を目指す。
4. 他部署との交流・院内各行事への参加を積極的に行う。
5. 地域の医療機関、保健・福祉施設との連携を積極的に行う。
6. 研修医をはじめとする若い医師および他部署への教育、指導を積極的に行い、自身の能力向上につなげる。
7. 健全な医療経営の意識を持ち、院内各会議に積極的に参加する。

活動実績

Journal Club（抄読会 / 毎週水曜日 8:15 ～ 8:30）

年	月日	担当者	演題名
2022 年	4 月 6 日	三戸 正人	改正 救急救命士法
	4 月 13 日	狩俣 かおり	造血幹細胞移植の際の重症感染症 ここ 2 年で経験した 4 症例
	4 月 20 日	釜野 武志	エアウェイスコープ再考
	4 月 27 日	国吉 史雄	十二指腸乳頭部癌について
	5 月 11 日	宮城 純	結腸憩室症
	5 月 18 日	山入端 敦	クローン性造血
	5 月 25 日	大西 勉	正常妊娠を妨げる環境 血圧に注意 !!
	6 月 8 日	川越 得弘	日常診療におけるうなぐちの有用性について
	6 月 15 日	嘉川 春生	精巣捻転
	6 月 29 日	赤澤 幸則	嗅覚障害について～嗅覚の基本から COVID19 の話まで～
	7 月 6 日	西原 実	医師の働き方改革について
	9 月 7 日	古波藏 都秋	HPV ワクチン
	9 月 14 日	阿波連 大悟	NSAIDs の使い分け
	9 月 21 日	石嶺 伝羽	虫垂炎
	9 月 28 日	エリクソン安香	胃薬の使い分け
	10 月 5 日	古謝 景輔	COVID-19 の病理学的所見について
	10 月 12 日	島袋 全志	変形性膝関節症と変形性足関節症
	10 月 19 日	山城 謙人	便秘症
	10 月 26 日	與那嶺 隆則	TAH 後の ischio-femoral impingement (IFI) に対して再置換術を行った一例
	11 月 2 日	宮平 工	大腸癌治療、最近の話題 + 当院の取り組み
	11 月 9 日	立津 朝成	MDRPU について
	11 月 16 日	青山 肇	免疫染色による原発巣の推定
	11 月 30 日	太田 沙也加	Post Operative Nausea and Vomiting 術後悪心・嘔吐
	12 月 7 日	比嘉 宇郎	二度の胆石イレウス（胆石性腸閉塞）がいずれも経肛門的自然排泄で軽快した 1 例
	12 月 21 日	安木 大地	Youtube で後輩指導
	12 月 28 日	阿嘉 裕之	3 大痔疾患
2023 年	1 月 18 日	比嘉 博香	産後うつと育休について
	1 月 25 日	仲本 学	GERD 治療 GERD 診療ガイドライン 2021(改訂第 3 版) の解説
	2 月 1 日	金城 優美	乳幼児喘息との鑑別に難渋した囊胞性線維症の 2 歳男児例
	2 月 15 日	間 妃向子	DKA/HHS における K 補正
	2 月 22 日	金城 太貴	慢性心不全の内科管理
	3 月 1 日	衛藤 勇斗	骨粗鬆症における食事・運動の介入
	3 月 8 日	小宮山 真代	静脈血栓塞栓症予防について
	3 月 15 日	里中 優太	下肢の骨折に対する創外固定
	3 月 22 日	関口 迪留	Refeeding 症候群について
	3 月 29 日	中石 祐木	徐脈性不整脈とペースメーカー

院内 CPC（臨床病理検討会）

症例	発表者	日付	参加者
慢性型 ATLL の長期間経過観察中に急性型へ移行した一例	城間 瑞萌	2022 年 6 月 21 日	城間瑞萌、宮城敬、青山肇、宮城純、古謝景輔、佐久川廣、狩俣かおり、比嘉章子、大城義人、仲吉博亮、阿波連大悟、又吉貴也、衛藤勇斗、関口迪留、医学生 3 名、MC3 名 計 20 名
びまん性肺陰影の経過観察中に進行性の腎機能障害、肺高血圧症を認めた一例	上原 知也	2022 年 8 月 29 日	上原知也、仲吉博亮、鶴田裕真、青山肇、宮城純、佐久川廣、宮城敬、普天間光彦、大城義人、山城謙人、阿波連大悟、中石祐木、大塚万理乃 計 13 名
肺高血圧による右心不全を繰り返し死亡に至った症例	中石 祐木	2022 年 9 月 28 日	中石祐木、普天間光彦、古謝景輔、青山肇、宮城純、佐久川廣、宮城敬、大城義人、仲吉博亮、阿波連大悟、銘苅康太郎、上原ゆうか、大塚万理乃 計 13 名
肝硬変で SBP や肝性脳症を繰り返し呼吸不全をきたした一例	里中 優太	2022 年 11 月 9 日	里中優太、エリクソン安香、佐久川廣、古謝景輔、青山肇、宮城純、普天間光彦、比嘉章子、宮城敬、秋元芳典、佐藤直行、新垣珠代、大城義人、山城謙人、間妃向子、小宮山真代、比嘉真凡、医学生 1 名 計 18 名
成人 T 細胞白血病 (ATLL) の症例	長野 真佑子	2022 年 12 月 7 日	長野真佑子、宮城敬、中江正和、青山肇、宮城純、佐久川廣、比嘉章子、秋元芳典、大城義人、仲本学、仲吉博亮、古謝景輔、上原知也、城間瑞萌、間妃向子、小宮山真代、医学生 1 名 計 17 名
呼吸不全を呈した成人 T 細胞白血病 (ATLL) の症例	衛藤 勇斗	2023 年 2 月 8 日	衛藤勇斗、大瀧昌代、古謝景輔、青山肇、宮城純、佐久川廣、普天間光彦、秋元芳典、宮城敬、狩俣かおり、友寄未希、阿波連大悟、関口迪留、村上嘉哉 計 14 名
原因不明の肝硬変に併発した進行胃癌が消化管穿孔を起こした一例	新垣 香乃	2023 年 3 月 29 日	新垣香乃、佐久川廣、青山肇、古謝景輔、宮城純、中石祐木、普天間光彦 計 7 名

研修医向け教育

研修医向けに、毎週下表のスケジュールで各種ミニレクチャーを開催しています。また、外部講師を招聘した講習会も行っています。

	月	火	水	木	金	土
8:00 ~ 8:15	ミニ救急症例検討会					
8:15 ~ 8:45	総合内科カンファ		抄読会	総合内科カンファ		総合内科カンファ

外部講師による教育回診

教育回診・講演会名	内容 (主訴)	主催	実施日	参加者
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春先生 による教育回診	症例検討 (72 歳男性 呼吸困難)	群星沖縄プロジェクト	2022 年 4 月 21 日	長野真佑子、上原ゆうか、本坊美喜子、銘苅康太郎、衛藤勇斗、小宮山真代、里中優太、新垣香乃、関口迪留、中石祐木、比嘉真凡、阿波連大悟、琉大学生 4 名
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春先生 による教育回診	症例検討 (73 歳女性 発熱、呼吸困難感)	群星沖縄プロジェクト	2022 年 5 月 19 日	銘苅康太郎、赤嶺希、上原ゆうか、城間瑞萌、本坊美喜子、銘苅康太郎、間妃向子、衛藤勇斗、小宮山真代、里中優太、関口迪留、新垣香乃、中石祐木、比嘉真凡、今田早香、阿波連大悟、琉大学生 6 名
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春先生 による教育回診	症例検討 (81 歳男性 体動困難、発熱、 食欲低下、意識障害)	群星沖縄プロジェクト	2022 年 5 月 25 日	城間瑞萌、赤嶺希、上原ゆうか、本坊美喜子、衛藤勇斗、小宮山真代、里中優太、新垣香乃、中石祐木、比嘉真凡、今田早香、阿波連大悟、琉大学生 7 名

教育回診・講演会名	内容（主訴）	主催	実施日	参加者
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春先生 による教育回診	症例検討（87 歳女性 発熱、酸素化低下）	群星沖縄プロジェクト	2022 年 6 月 2 日	新垣香乃、赤嶺希、城間瑞萌、間 妃向子、衛藤勇斗、小宮山真代、 里中優太、関口迪留、中石祐木、 比嘉真凡、久保史弥、平良克哉、 又吉貴也、琉大学生 6 名
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春先生 による教育回診	症例検討（61 歳男性 呼吸困難）	群星沖縄プロジェクト	2022 年 6 月 16 日	比嘉真凡、上原知也、城間瑞萌、 間妃向子、衛藤勇斗、小宮山真代、 里中優太、新垣香乃、関口迪留、 中石祐木、久保史弥、平良克哉、 又吉貴也、琉大学生 6 名、昭和大 学生 1 名、熊本大学生 1 名、阿波 連大悟
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春先生 による教育回診	症例検討（47 歳女性 頭痛、右頸部痛、 嘔吐、発熱）	群星沖縄プロジェクト	2022 年 7 月 7 日	関口迪留、間妃向子、衛藤勇斗、 里中優太、新垣香乃、大塚万理乃、 松島慎、松田真、琉大生 6 名
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春先生 による教育回診	症例検討（22 歳男性 頭痛）	群星沖縄プロジェクト	2022 年 8 月 18 日	中石祐木、赤嶺希、上原知也、間 妃向子、衛藤勇斗、里中優太、関 口迪留、新垣香乃、中石祐木、比 嘉真凡、小宮山真代、又吉広菜、 大塚万理乃
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春先生 による教育回診	症例検討（64 歳男性 倦怠感、食思不振、 悪心・嘔吐）	群星沖縄プロジェクト	2022 年 9 月 1 日	大塚万理乃、城間瑞萌、間妃向子、 小宮山真代、里中優太、関口迪留、 比嘉真凡、日本大学生 2 名
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春先生 による教育回診	症例検討（70 代女性 発熱、意識障害）	群星沖縄プロジェクト	2022 年 10 月 6 日	間妃向子、関口迪留、里中優太、 新垣香乃、中石祐木、比嘉真凡、 赤嶺希、城間瑞萌、銘珂康太郎
湘南鎌倉総合病院内科 スーパーバイザー Dr.Joel Branch による教育回診	症例検討（49 歳女性 意識障害）	群星沖縄プロジェクト	2022 年 10 月 20 日	小宮山真代、赤嶺希、城間瑞萌、 間妃向子、衛藤勇斗、里中優太、 関口迪留、中石祐木、比嘉真凡、 大塚万理乃、琉大生 1 名
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春先生 による教育回診	症例検討（40 代女性 右下腹部痛）	群星沖縄プロジェクト	2022 年 11 月 2 日	里中優太、間妃向子、小宮山真代、 中石祐木、長野真佑子、本坊美喜 子、琉大生 3 名
ミシガン大学アソシエイト プロフェッサー Dr.Jeffrey Rohde による教育回診	症例検討（62 歳男性 呼吸困難）	群星沖縄プロジェクト	2022 年 11 月 17 日	比嘉真凡、間妃向子、衛藤勇斗、 小宮山真代、里中優太、関口迪留、 中石祐木、長野真佑子、本坊美喜 子、山崎修平、琉大生 4 名、看護 師 1 名
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春先生 による教育回診	症例検討（28 歳女性 発熱）	群星沖縄プロジェクト	2022 年 12 月 1 日	衛藤勇斗、間妃向子、小宮山真代、 関口迪留、里中優太、比嘉真凡、 赤嶺希、上原知也、長野真佑子
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春先生 による教育回診	症例検討（86 歳女性 意識障害）	群星沖縄プロジェクト	2022 年 12 月 15 日	小宮山真代、赤嶺希、城間瑞萌、 長野真佑子、間妃向子、衛藤勇斗、 小宮山真代、里中優太、関口迪留、 中石祐木、比嘉真凡、琉大生 1 名、 北京大生 1 名
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春先生 による教育回診	症例検討（21 歳男性 めまい、呼吸苦）	群星沖縄プロジェクト	2023 年 1 月 5 日	衛藤勇斗、上原ゆうか、城間瑞萌、 本坊美喜子、間妃向子、関口迪、 新垣香乃、中石祐木
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春先生 による教育回診	症例検討（86 歳女性 呼吸苦）	群星沖縄プロジェクト	2023 年 1 月 19 日	関口迪、城間瑞萌、長野真佑子、 本坊美喜子、間妃向子、衛藤勇斗、 中石祐木、比嘉真凡、琉大生 3 名、 北京大生 1 名

教育回診・講演会名	内容（主訴）	主催	実施日	参加者
一般社団法人群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春先生 による教育回診	症例検討（63 歳女性 吐血、気分不良）	群星沖縄プロジェクト	2023 年 2 月 9 日	新垣香乃、赤嶺希、上原知也、上原ゆうか、本坊美喜子、多田佳弘、間妃向子、衛藤勇斗、小宮山真代、関口迪、中石祐木、比嘉真凡、琉大生 1 名
ミシガン大学アソシエイト プロフェッサー Dr.Virginia Sheffield による教育回診	症例検討（73 歳女性 右上腹部痛、倦怠感）	群星沖縄プロジェクト	2023 年 2 月 22 日	中石祐木、間妃向子、衛藤勇斗、小宮山真代、里中優太、関口迪留、比嘉真凡、上原知也、上原ゆうか、長野真佑子、本坊美喜子、村上嘉哉、琉大生 1 名、看護師 1 名

研修医学会発表

学会名（開催場所）	タイトル	日時	発表者と研究者
医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2022 (WEB 発表)	感染症を慎重に鑑別した腰椎椎間節偽通風の一例	2022 年 4 月 16 日	銘苅康太郎、池村真輝、佐藤直行
第 25 回日本臨床救急医学会総会・学術集会（大阪）	COVID19 陽性患者が、甲状腺クリーゼをきたし診断、治療に苦慮した一例	2022 年 5 月 26 日～27 日	長野真佑子、三戸正人
第 337 回内科学会九州地方会(WEB 発表)	Mycobacterium fortuitum による胸膜炎の 1 例	2022 年 5 月 28 日	上原ゆうか、新垣珠代、仲吉博亮、普天間光彦
第 132 回沖縄県医師会医学会総会（研修医部門推薦）	腹腔内出血をきたした小型胃 GIST 破裂の一例	2022 年 6 月 12 日	本坊美喜子、宮平工、玉城頼人、松本紗矢香、国吉史雄、阿嘉裕之、比嘉宇郎、花城直次、西原実、高原裕夫、奥島憲彦
第 339 回内科学会九州地方会(大分)	保存的治療にて軽快した腸管囊腫性気腫症の 1 例	2022 年 11 月 27 日	赤嶺希、折田均、エリクソン安香、山城謙人、仲舛拓、圓若修一、仲本学、宮城純、佐久川廣
第 133 回循環器学会九州地方会（福岡）	ST 上昇を伴う胸痛を主訴に救急搬送、有意狭窄へ PCI 後にたこぼ型心筋症の再発と診断しえた一例	2022 年 12 月 3 日	衛藤勇斗、三戸正人
第 133 回沖縄県医師会医学会総会（研修医部門推薦）	びまん性肺疾患の経過観察中に進行性の肺高血圧症、腎機能障害、溶血性貧血を認めた症例	2022 年 12 月 11 日	上原知也、仲吉博亮、普天間光彦、新垣珠代、青山肇、鶴田裕真、古謝景輔
第 340 回内科学会九州地方会(福岡)	救急外来でのアナフィラキシーの適切な診断とアドレナリン投与に関する検討	2023 年 1 月 21 日	城間瑞萌、三戸正人

※各科より初期研修医のみ再掲。専攻医の実績については、各診療科ページをご覧ください。

医師卒後臨床研修 第18期生（2021年4月1日～）

（後左より）

長野 真佑子（杏林大学卒）

上原 ゆうか（琉球大学卒）

城間 瑞萌（琉球大学卒）

本坊 美喜子（琉球大学卒）

赤嶺 希（琉球大学卒）

上原 知也（琉球大学卒）

銘苅 康太郎（琉球大学卒）



医師卒後臨床研修 第19期生（2022年4月1日～）

（後左より）

比嘉 真凡（琉球大学卒）

間 妃向子（琉球大学卒）

新垣 香乃（琉球大学卒）

里中 優太（鹿児島大学卒）

衛藤 勇斗（琉球大学卒）

中石 祐木（琉球大学卒）

関口 迪留（埼玉医科大学卒）

小宮山 真代（琉球大学卒）



各科概要・実績

総合内科

総合内科は平成 31 年 1 月に開設され、外来および入院診療を行っています。スタッフ医師 1 人体制ではありますが、感染症全般、呼吸器疾患、循環器疾患、電解質異常、腎疾患、脳梗塞、リウマチ膠原病、消化器疾患など幅広い領域で診療し、必要に応じて専門診療科へ紹介させていただいております。精査や全身管理の依頼など、院内各科からのコンサルトにも対応しています。ICU 管理の内科系相談役も拝命し、診療支援と看護師教育にも関わっています。5 つの委員会に所属しており、ICT、AST、Polypharmacy 対策委員会（委員長）、研修管理委員会（副委員長）、臨床倫理委員会で活動しています。

医師プロフィール

（2023 年 3 月現在）

役職	氏名	専門分野	学会認定
副部長	佐藤 直行	総合内科、Hospital medicine、感染症、リウマチ膠原病、医学教育	日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会認定内科医 ICD 制度協議会認定インフェクションコントロールドクター POCUS (Point Of Care Ultrasound) コースインストラクター 米国内科学会会員 医学博士 日本病院総合診療医学会認定医 ハワイ - 沖縄医学教育フェローシップ certified

検査・治療件数

入院症例数：44 例（当科への転入 3 例）平均年齢：69.8 歳（施設入所者 14%）

平均在院日数：15.2 日（検査入院なし）

外来コンサルト：11 件（内科系 91%、外科系 9%）

病棟コンサルト：30 件（内科系 47%、外科系 53%）

研究業績

学会発表

タイトル	学会名	開催地	日時	発表者と研究者
感染症を慎重に鑑別した腰椎椎間関節偽痛風の一例	医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2022	オンライン	2022 年 4 月 16 日	銘苅康太郎、池村真輝、佐藤直行
誤嚥性肺炎患者における肺炎重症度ごとの食事再開までの時間と入院日数との関連	第 1 回群星沖縄アカデミア発表会	那覇市	2022 年 12 月 12 日	間妃向子（指導）

論文著書

論題名	雑誌名	掲載年・巻号・頁	著者名
Inpatient antibiotic prescribing patterns using the World Health Organization (WHO) Access Watch and Reserve (AWaRe) classification in Okinawa, Japan: A point-prevalence survey.	Antimicrobial Stewardship & Healthcare Epidemiology	2022;2(1):E155. doi:10.1017/ash.2022.263	Patel P*, Satoh N*, Narita M, et al. *Authors of equal contribution.

その他業績

<学生・研修医対象の病院説明会・院外セミナー>

- ・ 病院説明会：2022年7月2日（21名参加）、2023年1月7日（20名参加）・3月4日（17名参加）
- ・ 群星沖縄 新年度オリエンテーション：カルテの書き方 2022年4月4日
- ・ 21世紀適々斎塾（全国規模の勉強会）：「総合診療セミナー」群星沖縄ケースカンファ講師 2023年2月25日

<院外講師招請>

- ・ 地方独立行政法人 総合病院 国保旭中央病院 救急救命科医長 坂本壮先生
「ER診療の原則」（学生・研修医対象セミナー） 2023年1月6日
- ・ まどかファミリークリニック 本村和久先生（元・沖縄県立中部病院）
倫理講演会「最期のときをどう考えるか～プロセスを重視する意思決定支援と倫理～」 2023年3月17日

<院内勉強会>

- ・ 研修医向けの朝の内科カンファレンス：年間97回開催
- ・ 院内職員向け講演会：ポリファーマシーについて 2022年12月22日

<執筆関連>

【雑誌】

- ・ 「総合診療」2022年8月号ゲストエディター：特集企画＋執筆（Editorial, コラム, 原稿1編ずつ）
- ・ 「月刊薬事」2023年2月臨時増刊号 原稿1編
- ・ 「medicina」2023年2月号 原稿1編
- ・ 「総合診療」連載 オール沖縄カンファレンス 2023年3月号分（比嘉真凡先生を指導） 原稿1編

【書籍の共著】

- ・ 外来・病棟・地域をつなぐ ケア移行実践ガイド, 医学書院 2022年6月
- ・ とことん極める！腎盂腎炎, 南山堂 2022年11月
- ・ ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能(1)：解剖生理学 第5版, メディカ出版 2023年1月

<ほか資格>

- ・ 令和4年度プログラム責任者養成講習会（臨床研修協議会／厚労省）修了 2022年12月11日
- ・ 日本病院総合診療医学会 認定施設 責任者：2022年4月1日～

年度総括

平成 31 年 1 月の開設から 4 年以上が経過しました。今年度も教育面に重きを置いた体制を継続しました。朝の内科教育カンファレンスは、COVID-19 の影響で 2 ヶ月間の中断をしましたが、年間 97 回を開催することができ、研修医の先生たちの成長の一助として継続できています。引き続き、学生実習のない土曜日にも有志の学生が参加しています。当科主体で行っている学生向け説明会では、教育体制のアピールも行っています。医局の先生方のご協力もあり、臨床研修マッチングの中間公表時点で当院の 1 位希望者が 2 年連続 7 人（定員 7 人）となったことは喜ばしいことです。今年も最終的な結果はフルマッチとなりました。

引き続き今年度も初期研修医の先生方の多くが当科をローテーションしました。専攻医については、今年も琉球大学腎臓内科の医局所属の 4 年目専攻医が 4 ヶ月間ローテーションしました。今年は専攻医のローテーション期間が短かったため、症例数は減りましたが収益は横ばいとなりました（6 千万円強）。来年度は当院の内科専攻プログラムとしては初めて、当院基幹のプログラムで 3 年間（うち 1 年間は院外）の専攻研修を行う医師が入職予定で、当科を中心にローテーションすることになっています。今後も内科専攻医の獲得を積極的に進めたいと考えています。

院外講師招聘による講演会も 2 つ行うことができました。今後もこういった機会を増やし、研修医や院内職員の学習の機会を作りたいと思います。また、多くの商業誌に執筆を行いました。中でも雑誌「総合診療」のゲストエディター（特集企画）を務められたのは全国的な宣伝にも繋がりました。全国規模の勉強会にも講師として参加するなど、院外に向けての広報にもなるよう努めています。

学術活動としては、共同筆頭著者として国際誌に論文を発表することができました。この発表はミシガン大学と共同で行った昨年の国際学会発表を論文化したものです。これに加え、今年度は研修医の先生の学会発表と、群星沖縄で初めて開催された学術発表を指導させていただく機会にも恵まれました。今後も、当院の若手医師の確保に繋がるよう、学術的な仕事も頑張っていきたいと思います。

今年度も幅広く活動させていただきました。院内で貢献できる仕事も徐々に特色が出せるようになってきました。基盤はできてきたため、所属する人材が増えれば今後さらに貢献していける仕事が増えると考えています。引き続きのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

総合内科副部長 佐藤 直行

呼吸器内科

呼吸器内科は現在、医師 3 名体制で毎日の外来診療と入院診療を行っています。対象となる疾患は肺炎、気管支炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、気管支拡張症、慢性呼吸不全、間質性肺炎、気胸、肺癌、縦隔腫瘍等と多岐に渡っており、他疾患を合併した患者さんも多く診療しています。当科のスケジュールとしては、金曜日の午後 2 時より 7 階病棟で呼吸器内科回診を行っており、医師に加え、研修医・病棟師長・病棟リーダー・薬剤師・リハビリ・MSW・MC と一緒に部屋を回診しています。各部署と回診する事により共通した患者認識を持ち、より良いグループ診療が出来るように目指しています。また、画像カンファレンスとして月曜日の 13 時から胸写カンファレンスを行い、火曜日の午後は気管支鏡検査を施行し、呼吸器疾患の診断率向上に努めています。水曜日の午後は医師・看護師・リハビリ・臨床工学士等の各職種と連携した RST ラウンドを行っています。

医師プロフィール

(2022 年 6 月時点)

役職	氏名	専門分野	学会認定
副院長・呼吸器内科部長・7 階病棟医長 ＜専門外来＞睡眠時無呼吸症候群 (SAS) 外来	普天間 光彦	肺炎、気管支喘息、肺気腫、肺癌、肺結核	日本呼吸器学会インфекションコントロールドクター
呼吸器内科副部長	新垣 珠代	呼吸器内科一般	
呼吸器内科医長	仲吉 博亮	呼吸器内科一般	日本内科学会認定内科医

検査・治療件数

検査・治療	件数
気管支鏡検査	38

検査・治療	件数
睡眠時無呼吸外来のべ患者数	1,055 名

年度総括

2022 年度は年間 513 名の入院患者の診療を行い、38 名の気管支鏡検査を実施しました。学会活動としては呼吸器学会に参加して見聞を広めました。また、呼吸器同好会や胸部レントゲン勉強会等の県内の研究会へ参加し他医療機関との連携や診療の向上に努めています。教育活動として初期研修医の指導、学生への指導も積極的に行っており、ほとんどの初期研修医は当科での研修を修了しています。来年度は学会参加や県内の研究会等の院外活動をさらに活発にしていこう予定です。

呼吸器内科部長 普天間 光彦

循環器内科

循環器内科は現在 5 名の医師が循環器全般の診療を行っております。急性心筋梗塞、狭心症に対するカテーテル治療だけでなく、末梢動脈疾患へのカテーテル治療、不整脈に対するカテーテルアブレーション、ペースメーカー移植術の治療、心不全の入院加療、外来 follow を行うと同時に、それらの疾患に対する予防についても力を入れて診療を行っております。

また、致死的な救急患者さんに対する、緊急カテーテル治療に加え、V-A ECMO などの機器も十分に揃えており、スタッフのトレーニングも行っているため、短時間で導入可能となっております。

ここ数年、末梢動脈疾患（以前は閉塞性動脈硬化症）が原因で下肢の難治性潰瘍や壊疽の患者さんへ救済のために血管内治療に力を入れています。今後も患者さんの予後や ADL の維持を目指し、より良い医療を提供していきたいと考えております。

医師プロフィール

(2022 年度 6 月現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定など
副院長・内科部長	秋元 芳典	一般循環器内科、動脈硬化症	日本循環器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本医師会認定産業医 日本内科学会指導医
救急総合診療部救急部長・循環器内科医長	三戸 正人	循環器救急、地域医療、スポーツ医学	日本救急医学会救急科専門医 日本循環器学会専門医 日本内科学会指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本スポーツ協会公認スポーツドクター 日本 DMAT インストラクター 統括 DMAT 登録者 JMECC インストラクター ICLS インストラクター MCLS インストラクター MCLS CBRNE インストラクター 日本心臓核医学会評議員 心臓リハビリテーション指導士 病院前救急統括体制認定機構認定民間メディカルコントロール医師
循環器内科部長	仲村 義一	循環器一般、末梢血管	日本循環器学会専門医 日本心血管インターベンション治療学会認定医 日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会指導医 日本内科学会認定内科医 JMECC インストラクター ICLS インストラクター POCUS(Point Of Care Ultrasound) コースインストラクター
循環器内科副部長	金城 太貴	不整脈、循環器一般、総合内科、集中治療	日本内科学会認定内科医
	比嘉 建介		
【専門外来】不整脈外来	石垣 清子(非常勤)		

研究業績

学会発表

学会発表	演題名	開催地	発表年月日	発表者
第 26 回日本透析アクセス医学 会学術集会・総会	当院で薬剤溶出性バルーンを用いて VAIVT を施行した 25 症例の検討	愛知	2022 年 10 月 1 日	仲村義一

検査・治療・手術件数

検査件数一覧

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
冠動脈 CT	450	371	420	433	392	434
トレッドミル	48	52	58	38	42	15
ホルター心電図	225	206	200	188	258	245
心筋シンチ	59	74	84	86	86	67
経胸壁心エコー	2,508	2,800	2,847	3,073	3,437	3,564
経食道心エコー	48	54	38	32	41	33

治療件数一覧

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
経皮的冠血行再建術 (PCI)	133	125	125	161	165	123
ペースメーカー植込み術	26	20	14	23	16	24
電池交換	2	7	7	9	5	12

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
一時的ペースメーカー	9	15	12	8	10	19
IABP	9	11	8	9	14	15
PCPS	4	8	7	15	11	6
下大静脈フィルター	2	1	0	1	0	0
末梢血管拡張術 (PPI)	116	110	120	60	93	136
カテーテルアブレーション	-	10	24	9	10	17

年度総括

2022 年度は前年同様、秋元 芳典、三戸 正人、仲村 義一、金城 太貴、比嘉 建介の 5 名の医師で診療を行っています。2022 年度も経皮的冠動脈形成術 (PCI) を受ける患者さんは減少しましたが、虚血の評価などしっかり行ったうえでの治療であり、患者数が減少したわけではありません。以前から行われている救急隊からの心電図伝送が定着してきており病院前から診断が早期に行われ早期に治療に結びつき患者さんの予後改善につながっています。そのため救急部と連携をさらに深めたいと思います。

2022 年度の特徴として末梢動脈疾患に対する経皮的下肢動脈形成術 (EVT) が増加しています。2021 年度は県内一の症例数となっております。下肢の潰瘍が悪化し、壊死に陥り下肢切断になる患者さんを救肢するため、EVT を行う症例が増加しています。総腸骨動脈、外腸骨動脈、浅大腿動脈はもちろん、膝窩動脈、前脛骨動脈、後脛骨動脈、腓骨動脈、即肺動脈、足底動脈への EVT も施行しています。現在 3 ヶ月に 1 度、東京ベイ浦安・市川医療センターから仲間先生が指導に来ていただき治療を行っています。下肢切断は患者さんの予後だけでなく家族の介護負担にも関わる問題であり、今後も積極的に EVT を行う予定です。EVT だけでなく、PCI の患者さんは発見した段階で病変は複雑化し治療困難な症例も多い現状です。進行する前に早期発見や予防にも介入する必要があると考えています。そのためには開業医の先生方と勉強会を開催し連携を深め、また地域住民には市民公開講座等を行う必要があると考えています。

更に不整脈に対するカテーテルアブレーションも施行しています。心臓血管研究所から大塚先生が応援・指導に来ていただき治療を行っています。2021 年度はコロナの影響で中々沖縄に来て指導していただく機会が少なかったのですが 2022 年度はコロナの状況が落ち着き増加しております。今後可能であれば増やしていきたいと考えております。

沖縄でも高齢化が進む中、高齢者の心不全は増加しています。入院患者さんの年齢も上がり、心不全を合併している患者さんも多くいます。心リハ指導士の退職により外来心臓リハビリが中止。しかし心疾患の既往の患者さんの増加による心不全入院や、高齢者の心不全再発入院が増える傾向にあります。今後はリハビリと連携し外来を含めて心臓リハビリテーションも交えながら、高齢者の心不全予防対策に取り組んでいきたいと考えております。

循環器内科部長 仲村 義一

消化器内科

消化器内科が扱う臓器は幅広く、腹部の臓器のほとんど（腎臓、副腎など一部臓器を除く）が守備範囲となります。そのため対象となる患者は多く多岐にわたります。また、人間は精神的ストレスが掛ると身体的には消化管に影響が出る事が多く、心身医療とも密接な関わりがあります。さらにはメタボリックシンドロームと関連する消化器疾患もあり、おそらく病院を受診する患者さんのかなりの部分を消化器系の疾患が占めているものと思われます。

医師プロフィール

（2022 年 6 月時点）

役職	氏名	専門分野	学会認定
消化器内科部長 5 階病棟医長	宮城 純	上部・下部消化管疾患の診断・治療	日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器がん検診学会認定医 日本内科学会認定内科医 日本内科学会指導医
内視鏡センター長 <専門外来> 胸やけ外来	折田 均	胸やけ外来（機能的消化管疾患）、胃癌・大腸癌の内視鏡的治療	日本消化器内視鏡学会指導医 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会指導医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本内科学会指導医
消化器内視鏡部長・内視鏡センター副センター長	仲本 学	消化管内視鏡診断・治療（ESD）、GERD 診療等消化管一般	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本消化器がん検診学会認定医 日本がん治療認定医機構認定医 日本内科学会指導医
肝臓内科副部長	圓若 修一	肝癌の治療、肝・胆道系疾患の治療	日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本肝臓学会専門医
消化器内科医長	仲舛 拓	消化器内科全般	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医
	小橋川 ちはる	消化管疾患の診断・治療	日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本消化器がん検診学会認定医
	エリクソン 安香	消化器内科全般	
	山城 謙人	消化器内科全般	

研究業績

学会発表

学会名	演題名	開催地	発表年月日	発表者
第 120 回日本消化器病学会	特異な肝炎ウィルスマーカーを呈した denovoB 型肝炎の 1 例	熊本	2022 年 12 月 2 日	エリクソン安香、山城健人、仲舛拓、圓若修一、仲本学、折田均、宮城純、佐久川廣
第 119 回日本消化器病学会九州支部例会	座長	佐賀	2022 年 6 月 24 日	仲本学
日本消化器病学会九州支部第 28 回教育講演会	当番世話人	福岡	2023 年 2 月 19 日	佐久川廣

検査・治療・手術件数

1. 検査内視鏡実績

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
胃内視鏡	10,932	11,583	8,872	9,754	9,642
大腸内視鏡	2,938	3,170	2,581	2,844	2,874
ERCP	145	168	147	236	203

※外科症例を含みます。

2. 治療内視鏡実績

上部消化管 (内訳)	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
EMR	6	12	10	11	6
ESD	13	18	25	18	27
EVL	23	21	49	37	51
EIS	6	13	0	0	0
止血術	22	29	24	18	24
焼灼術	13	7	21	0	9
異物摘出術	13	11	6	13	15
下部消化管 (内訳)	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
EMR	319	397	295	357	384
ESD	5	4	8	11	5
止血術	27	18	22	12	9

年度総括

上部消化管内視鏡検査件数は徐々に増加してきており、2017 年度にはじめて 1 万件を突破しました。2018 年度には内視鏡室の拡張を行いました。これまで上部消化管内視鏡検査は 5 診体制でしたが、2019 年 6 月から 6 診体制を開始しました。これにより 2019 年度の上部消化管内視鏡検査件数は、11,583 件となりました。増加が見込まれていましたが、2020 年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延による緊急事態宣言などがあり、検査を制限したため検査件数は 8,872 件と大幅に減少してしまいました。下部消化管内視鏡検査も 2019 年度は 3,170 件で過去最高でしたが、2020 年度は 2,581 件と減少してしまいました。

患者さんや先生方にご不便をかけていましたが、2021 年度は十分な感染対策を行いつつ、可能な限り通常通りの検査体制をとりました。その結果、上部消化管内視鏡検査件数は 9,754 件、下部消化管内視鏡検査は 2,844 件となりコロナ前の件数に戻りつつありました。しかし、2022 年度は上部消化管内視鏡検査は 9,642 件、下部内視鏡検査は 2,874 件でまだコロナ前の件数には届いていません。今後は改善が見込まれます。

2023 年度目標

1. 消化器疾患の診断能・治療技術の更なる向上を目指します。
2. 消化器病内科関連専門医、内視鏡専門医の確保を目指します。
3. 消化器内科志望の後期研修医の確保を目指します。
4. 近隣の病院、医院等からの紹介患者の積極的な受け入れ。
5. 外科とも緊密に連携し診断・治療を行います。
6. 外科とも連携し、コロナのため中断していた近隣の病院、医院等との症例検討会の再開を検討します。
7. 消化器病関連の学会や研究会に更に活発に参加及び発表します。
8. 長期の目標として、胃検診の全件を内視鏡で行える体制を目指します。

消化器内科部長 宮城 純

肝臓内科

肝臓内科は肝臓の病気、さらに当院では胆道、膵臓疾患の検査治療を担当しています。具体的にはC型肝炎、B型肝炎などのウイルス性肝炎、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎などの自己免疫に関与した肝炎、さらに近年増加傾向にあるメタボリックシンドロームの肝臓への表現型である非アルコール性脂肪肝炎（NASH）、またアルコール性肝障害といった生活習慣に起因した肝障害を診療しています。また肝臓がんの治療である経皮的ラジオ波焼灼術、肝硬変の様々な合併症（肝性腹水、食道胃静脈瘤、特発性細菌性腹膜炎等）の治療を行っています。胆道、膵臓疾患としては総胆管結石、胆道・膵臓腫瘍による閉塞性黄疸に対する内視鏡的診断・治療を行っています。

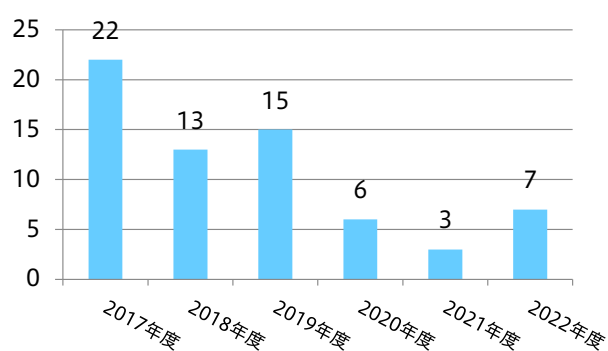
医師プロフィール

（2022年6月時点）

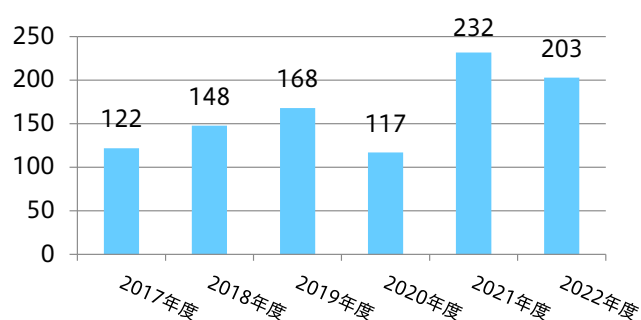
役職	氏名	専門分野	学会認定
院長	佐久川 廣	肝炎、肝硬変、肝臓がん、B型およびC型慢性肝炎の治療	日本肝臓学会指導医 日本感染症学会指導医 ICD制度協議会認定インフェクションコントロールドクター 日本感染症学会専門医 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会指導医 日本肝臓学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本内科学会指導医
肝臓内科副部長	圓若 修一	消化器内科、肝臓内科	日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本肝臓学会専門医

検査・治療件数

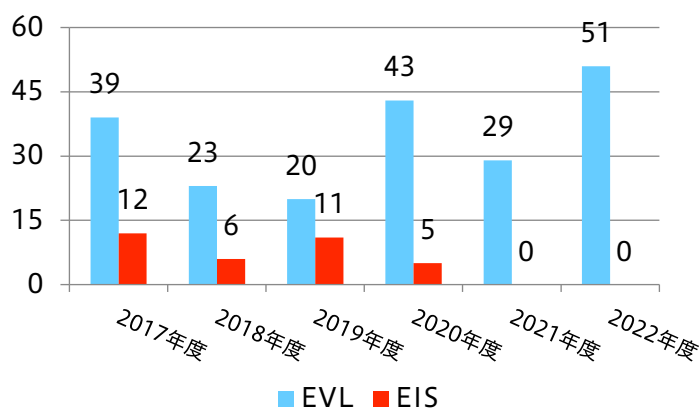
経皮的ラジオ波術症例数の推移



内視鏡的胆管膵管造影（ERCP）の推移



食道静脈瘤に対する予防的内視鏡的結紮術 (EVL)、硬化療法 (EIS)



年度総括

肝細胞がんに対する経皮的ラジオ波焼灼術は少ない傾向にあります。これはC型肝炎に起因した肝細胞がんが減少傾向にあるためと思われます。一方で今後 NASH 肝硬変、アルコール性肝硬変に起因した肝細胞がんは相対的に増加することが予想されます。今後も早期発見・早期治療を目指し診療していきたいと思います。

胆道膵臓疾患に関する内視鏡的検査・治療は増加傾向にあります。侵襲を伴う処置ですが、重篤な合併症は少なく安全に施行できていました。また琉球大学第一内科の宮里公也先生が、水曜日に胆膵領域の超音波内視鏡を施行しています。慢性膵炎、IPMN(膵管内乳頭粘液性腫瘍)、胆のうポリープ、膵がんなどの診断に重要な検査で、今後も継続していきたいと思います。

肝臓内科副部長 圓若 修一

血液内科

血液内科は造血器腫瘍や貧血性疾患、血友病を除く出血・血栓性疾患などほとんどの血液疾患の診療を行っています。本年度のスタッフは宮城 敬、山入端 敦、狩俣 かおり、大瀨 昌代、友寄 未希の5人です。同種造血幹細胞移植は主に宮城、山入端、狩俣が行い、ドナーの診療は狩俣、大瀨が担当しています。当院の特徴としては、完全無菌室を10床有し、血縁者間・非血縁者間の造血幹細胞移植（骨髄移植、臍帯血移植、末梢血幹細胞移植）を行っています。沖縄県内の血液内科で造血幹細胞移植を行っているのは琉球大学附属病院と当院のみで、沖縄県の造血器移植医療、血液診療を支えているという自負があります。週1回、琉球大学保健学科の福島卓也先生も参加してグループカンファレンスを行い、最善の診断・治療ができるよう心がけています。

医師プロフィール

(2022年6月時点)

役職	氏名	専門分野	学会認定
血液内科部長 6階病棟医長	宮城 敬	一般血液内科	日本血液学会指導医 日本血液学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会指導医 造血細胞移植認定医
無菌治療センター部長	山入端 敦	一般血液内科	日本血液学会専門医 日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会指導医
血液内科副部長	狩俣 かおり	一般血液内科	日本血液学会専門医 日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医
血液内科医長	大瀨 昌代	一般血液内科	日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医
	友寄 未希		日本専門医機構認定内科専門医

研究業績

学会発表

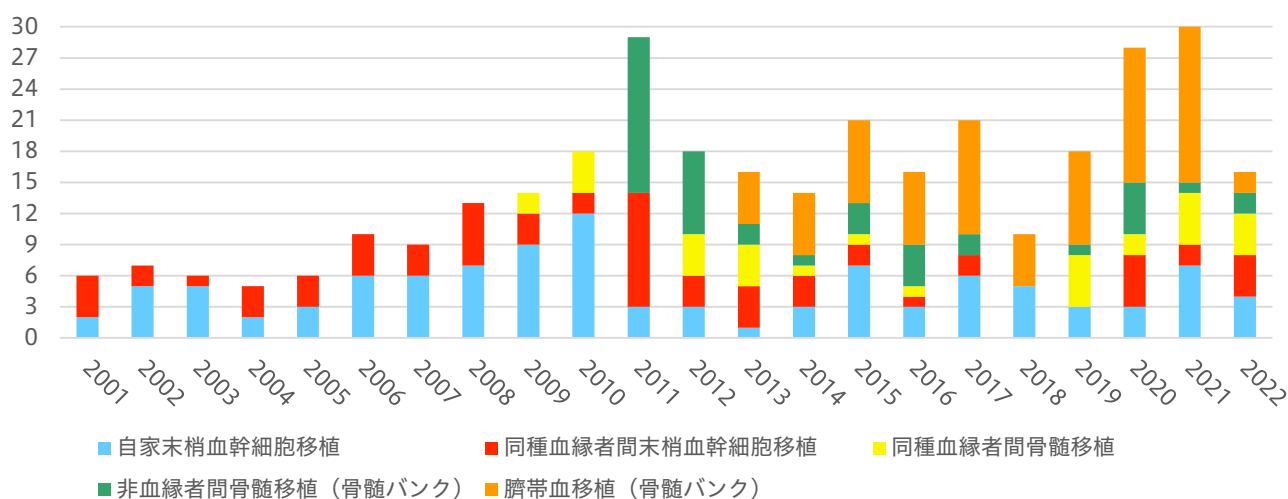
学会名	演題名	開催地	発表年月日	発表者
第44回日本造血・免疫細胞移植学会	PTLDと持続するCMV抗原血症を合併した混合キメラに行った臍帯血移植	神奈川	2022年5月12日	狩俣かおり、友寄未希、大瀨昌代、山入端敦、宮城敬
第44回日本造血・免疫細胞療法学会総会	再生不良性貧血に対して臍帯血移植を行った3例	神奈川	2022年5月12日	山入端敦、友寄未希、大瀨昌代、狩俣かおり、宮城敬
第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会	PD-1阻害薬使用後に移植後シクロフォスファミドを用いてHLA半合致移植を行った難治性ホジキンリンパ腫	名古屋	2023年2月10日	山入端敦、友寄未希、大瀨昌代、狩俣かおり、宮城敬
第12回日本血液学会九州地方会	当院で経験したTAFRO症候群	オンライン	2023年3月5日	宮城敬、友寄未希、大瀨昌代、山入端敦、狩俣かおり、
第12回日本血液学会九州地方会	寛解導入療法中、分化症候群に伴う甲状腺炎を認めた再発急性前骨髄球性白血病	オンライン	2023年3月5日	銘苅康太郎、友寄未希、大瀨昌代、山入端敦、狩俣かおり、宮城敬、

検査・治療・手術件数

骨髄移植術実施一覧

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
自家末梢血幹細胞移植	3	6	5	3	3	7	4
同種血縁者間末梢血幹細胞移植	1	2	0	0	5	2	4
同種血縁者間骨髄移植	1	0	0	5	2	5	4
非血縁者間骨髄移植（骨髄バンク）	4	2	0	1	5	1	2
臍帯血移植（臍帯血バンク）	7	11	5	9	13	15	2
計	16	21	10	18	28	30	16

ハートライフ病院の造血幹細胞移植数（年次推移）



年度総括

当科は主に成人対象の造血幹細胞移植を行っており、骨髄バンク・さい帯血バンクの認定施設です。疾患特性から平均入院患者数、延べ入院患者数が多く、在院日数が長い傾向は変わらず、医師の負担が懸念されるところです。継続できる医療、安全で質の高い医療を提供できるような人、システムの環境づくりに努力する所存です。今後ともご協力、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

血液内科部長 宮城 敬

小児科

ハートライフ病院の小児科では地域医療支援病院として紹介患者を中心に診療を行い、外来部門であるハートライフクリニックからの入院を含め、病院小児科常勤医として4名の医師が感染症などの一般的な疾患、予防接種、小児の手術の術前診察、術後管理を行っています。また、当院で出生する新生児の管理や1か月健診を行っています。

中城村や西原町、与那原町などの近隣市町村の乳幼児健診や中城小学校および西原小学校の学校医、近隣保育園の園医の活動を通して地域の小児の健康管理への貢献も目標としています。

平成28年度からは小児アレルギー外来を開設しており、アレルギー専門医、看護師、栄養士、薬剤師と連携しながら食物アレルギーに対する食物経口負荷試験や食事療法指導、アトピー性皮膚炎に対するスキンケア指導などを行っています。また、近隣市町村の保育園や小学校から依頼を受け、エピペン指導などの講演も行っています。

医師プロフィール

役職	氏名	専門分野	学会認定など
小児科部長	崎原 徹裕	一般小児科、小児アレルギー	日本小児科学会専門医 日本小児科学会指導医 日本アレルギー学会専門医
小児科医員	古波蔵 都秋	一般小児科、膠原病	日本小児科学会専門医 日本小児科学会指導医
小児科医員	安木 大地	一般小児科	日本小児科学会専門医
小児科医員	金城 優美	一般小児科	日本小児科学会専門医

研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
抗原早期摂取による介入と母乳栄養	第21回小児アレルギーエデュケータースキルアップセミナー	Web（愛知）	2022年6月19日	崎原徹裕
分娩様式と陣痛持続時間は乳児期の食物感作に関連する	第71回日本アレルギー学会	Web（東京）	2022年10月8日	崎原徹裕、他
シンポジウム24 牛乳アレルギー発症予防の可能性	第71回日本アレルギー学会	Web（東京）	2022年10月9日	崎原徹裕
20分ゆで卵白 OFC で安全摂取可能量を決定した症例における2分炒り全卵摂取の検討	第59回日本小児アレルギー学会	沖縄	2022年11月12日	金城優美、他
シンポジウム13 人工乳の早期摂取は牛乳アレルギーの発症を予防するか	第59回日本小児アレルギー学会	沖縄	2022年11月13日	崎原徹裕
教育セミナー6 乳児期早期の調製粉末大豆乳摂取は大豆感作のリスクとなるか	第59回日本小児アレルギー学会	沖縄	2022年11月13日	崎原徹裕
当院救急室を受診したアナフィラキシー症例のまとめ	第3回沖縄小児アレルギー研究会	沖縄	2022年12月2日	崎原徹裕
ピーナッツ、鶏卵、牛乳アレルギー発症予防の可能性	第3回沖縄腸管細菌叢セミナー	沖縄	2023年1月19日	崎原徹裕

論文著書

題名	雑誌名	掲載年・号・頁	発表者と研究者
日本小児アレルギー学会推薦総説 抗原タンパク早期導入による食物アレルギー発症予防	日本小児科学会雑誌	2022; 126: 627-637.	崎原徹裕
Effects of delivery mode and labor duration on the development of food sensitization in infancy	Ann Allergy Asthma Immunol.	2022; 129: 212-219.	Tetsuhiro Sakihara, et al.
Effects of regular soy formula intake between 1 and 2 months of age on food sensitization in infancy	Pediatr Allergy Immunol.	2022; 33: e13898.	Tetsuhiro Sakihara, et al.

年度総括

令和 4 年度の新生児を除いた小児科の総入院患者数は 354 名でした(前年度 285 名)。コロナ禍以前(約 500 ～ 600 名)に比べるとまだまだ厳しい状況が続いています。入院患者の多くは 3 歳未満の乳幼児であり感染性疾患が大半を占めますが、食物アレルギーの経口負荷試験の入院数は 210 名(前年度 182 名)で入院全体の大半を占めています。

今年度の当院出生新生児は 549 名でした(前年度 546 名)。小児科医は全出生児の出生時診察と退院時診察を行っており、産科医からの要請に応じてハイリスク分娩の立会いや 24 時間オンコール体制で新生児蘇生を行っております。

外来業務では病院とクリニック小児科との役割分担を明確にし、病院小児科は慢性患者の定期フォローや紹介患者の受け入れを、クリニック小児科は発熱などの急性期患者の対応を行っております。今年度は病院小児科の外来患者数は 6,473 名(前年度 5,349 名)、このうちアレルギー外来 1,538 名(前年度 1,617 名)でした。クリニック小児科の外来患者数は 8,694 名(前年度 6,258 名)、このうち予防接種は 1,399 名(前年度 1,068 名)でした。本院やクリニック小児科の外来受診者数が前年度に比べ増加しています。

コロナ禍で入院・外来診療ともに厳しい状況が続いていますが、日常診療と並行して臨床研究にも注力しています。2021 年に当科の主導で行った沖縄県内の乳児を対象とした多施設共同研究である「SPADE 試験」の研究成果を報告し、米国アレルギー学会の監修する学会誌に掲載され国内外で高く評価されました。本研究の知見は、2021 年 11 月に改訂された本邦の「食物アレルギー診療ガイドライン 2021」にも大きく掲載され、海外の離乳食ガイドラインにも影響を与えています。さらに、今年度は SPADE 試験をベースにした追加の研究成果も海外雑誌に掲載され、大きなインパクトを与えています。今後も、地域医療支援病院ならではの観点から、臨床の現場へ情報を発信していくことを目標としています。

小児科部長 崎原 徹裕

心療内科

当科は医師 1 名体制で、専属スタッフの配置はありません。そのため、待ち時間が長くなることもありご迷惑をおかけすることもしばしばです。また外来診療のほか、身体疾患のため入院中の方のメンタルヘルストラブルの対応や相談なども行っています。なお、当科での入院治療はやっておりません。

よく言われる心療内科と精神科の違いですが、精神科は精神疾患の治療をする科で、心療内科は自律神経の治療を専門とする科ということになります。

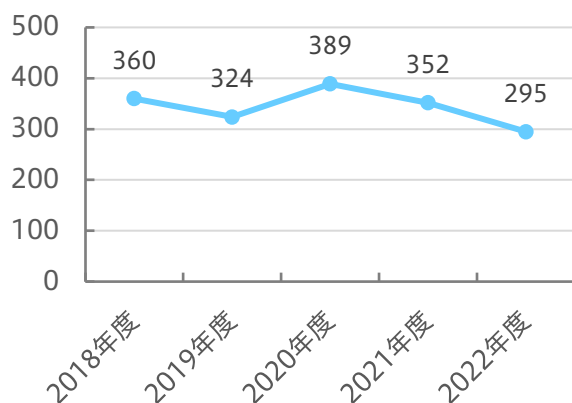
自律神経の機能がうまく調整できなくなる理由は、老化や体質、ホルモン機能のほか、ストレスや過労、熱中症などさまざまです。近年は新型コロナウイルス感染症の後遺症としての自律神経失調症も増えている印象です。うつ病などの精神疾患や認知症が原因のこともあります。そのため、厳密にわけることが難しい分野でもあります。検査しても病気じゃないといわれたけど体調が悪いという場合は、自律神経の治療を受けることで楽になることがあるかもしれません。

医師プロフィール

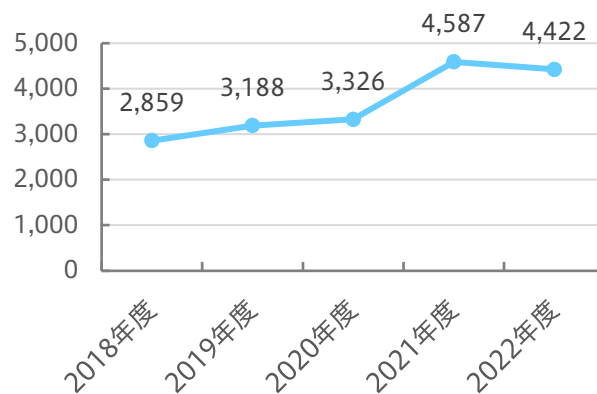
(2022 年 6 月時点)

役職	氏名	専門分野	学会認定など
心療内科副部長	菅野 善一郎	リエゾン精神医学・心身医療	精神保健指定医 日本精神神経学会専門医 日本精神神経学会指導医

心療内科への院内コンサルト件数



外来患者数推移



年度総括

心療内科を立ち上げて 13 年が経ちました。これまで、外来診療および他科と連携した診療を続けていましたが、院内・院外ともに紹介をいただくことが増え、それなりに役立っているようで嬉しく思います。

認知症やせん妄への対応も増えており、高齢化社会での精神科医療のニーズを実感しております。

心療内科 菅野 善一郎

外科

医師プロフィール

(2022 年 6 月時点)

役職	氏名	専門分野	学会認定
名誉院長	奥島 憲彦	消化器外科、食道外科、食道癌の内視鏡的治療、食道アカシアの POEM 治療、食道癌の胸腔鏡下手術	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会指導医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本スポーツ協会公認スポーツドクター 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器外科学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器外科学会専門医
副院長 外科系統括部長 外来診療部長 地域医療連携部長 患者総合支援センター長	西原 実	一般消化器外科、肝臓外科、内視鏡外科、抗がん剤治療、ヘルニア	日本外科学会指導医 日本外科学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本肝胆膵外科学会評議員 日本コンピュータ外科学会評議員 日本外科病理学会評議員 日本ヘルニア学会評議員 日本臨床外科学会評議員 日本消化器外科学会専門医 日本消化器外科学会指導医
外科部長	宮平 工	胃癌・大腸癌に対する手術治療、薬物療法（殺細胞性抗がん薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬）、各種消化器疾患に対する腹腔鏡手術	日本外科学会専門医 日本外科学会指導医 日本消化器外科学会専門医 日本消化器外科学会指導医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本内視鏡外科学会評議員 日本消化器病学会専門医 日本消化器病学会指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
消化器外科部長 4 階病棟医長	花城 直次	一般外科、腹腔鏡下大腸切除術	日本外科学会認定医 日本外科学会専門医
ヘルニアセンター長	嵩原 裕夫	小児・成人の鼠径ヘルニア、腹壁ヘルニア（癒痕ヘルニア・臍ヘルニア）	日本内視鏡外科学会技術認定医 日本小児外科学会指導医 日本外科学会指導医 日本外科学会専門医 日本小児外科学会名誉会員 日本臨床外科学会特別会員 日本内視鏡外科学会特別会員 日本ヘルニア学会特別会員
消化管外科部長	比嘉 宇郎	一般外科、胆膵外科	日本外科学会指導医 日本外科学会専門医 日本消化器外科学会指導医 日本消化器外科学会専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
大腸・肛門外科部長 医局長	阿嘉 裕之	肛門科・消化器外科、各種肛門疾患（痔核・痔瘻・裂肛・直腸脱・尖圭コンジロームなど）、便通異常などに対して注射療法	日本大腸肛門病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医
外科副部長	国吉 史雄	一般外科、消化器外科	日本外科学会専門医
	石嶺 伝羽		
	仲栄真 盛保 (非常勤)	血管外科	
	前田達也		
	久田 正昭 (非常勤)	一般・小児外科	
	梁 英樹 (非常勤)	膵・胆道外科、消化器外科全般	

役職	氏名	専門分野	学会認定
	野村 寛徳 (非常勤)	乳癌、甲状腺外科	日本外科学会専門医 日本乳癌学会認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 検診乳腺エコー読影認定医

検査・治療・手術実績

術式別一覧

手技	件数
食 道	25
食道悪性腫瘍手術	3
POEM 手術	10
食道癌 ESD	6
APC 焼灼術	6
乳 腺	59
乳腺悪性腫瘍切除術	52
乳腺腫瘍摘出術	7
胃	19
腹腔鏡下胃切除術（悪性）	8
胃悪性腫瘍手術（開腹）	7
胃悪性全摘術（開腹）	4
胆嚢・胆管	127
胆嚢悪性腫瘍手術	2
腹腔鏡下胆嚢摘出術	115
開腹胆嚢摘出術	8
胆管空腸吻合術	1
腹腔鏡下胆管切開結石摘出術	1
肝 臓	6
肝切除術	3
腹腔鏡下肝嚢胞開窓術	3
脾 臓	4
脾頭部十二指腸腫瘍切除術	4
小 腸	14
小腸切除術（悪性）	2
小腸切除術（悪性以外）	3
腸閉塞症手術	9
虫 垂	48
腹腔鏡下虫垂切除術	47
虫垂切除術	1
結 腸	58
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	39
開腹結腸悪性腫瘍切除術	10
腹腔鏡下結腸良性腫瘍切除術	5
開腹結腸切除術（良性）	4
直 腸	34
腹腔鏡下直腸悪性腫瘍切除術	6
開腹直腸悪性腫瘍切除術	5
直腸癌根治術	1
直腸脱手術	6
直腸腫瘍摘出術	1
人工肛門造設術・人工肛門閉鎖術	15

手技	件数
肛 門	79
痔核硬化療法	50
痔核根治手術	12
痔瘻根治手術	11
肛門形成手術	1
膿皮症	2
裂肛根治術	1
肛門潰瘍根治術	2
ヘルニア	171
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（成人）	112
鼠径ヘルニア手術（成人）	1
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（小児）	33
臍ヘルニア手術（成人）	6
臍ヘルニア手術（小児）	2
腹壁瘢痕ヘルニア手術	13
停留精巣固定術	2
閉鎖孔ヘルニア術	1
腹腔鏡下ヌック管水腫摘出術	1
胃 瘻	49
胃瘻造設術	49
その他部位	110
毛巣洞手術	2
大網、腸間膜、後腹膜手術	3
大網、腸間膜、後腹膜手術（腹腔鏡）	1
リンパ節生検	23
リンパ節郭清術	1
体表の手術	10
CV ポート	37
腸吻合術	1
精巣摘出術	1
急性汎発性腹膜炎手術	7
腹腔鏡下十二指腸潰瘍穿孔縫合術	1
胃腸吻合術	2
脾摘出術	1
その他	20
計	803

（外来小手術は除く）

外来小手術 101 件

研究業績

学会発表

学会名	演題名	開催地	発表年月日	発表者
第 20 回日本ヘルニア学会学術集会	Reduced port surgery としての成人鼠径ヘルニアに対する LPEC 法	神奈川	2022 年 6 月 2 日	西原実、嵩原裕夫、国吉史雄、阿嘉裕之、宮平工、花城直次、比嘉宇郎、石嶺伝羽、奥島憲彦
	成人外鼠径ヘルニアに鼠径床を剥離せず、メッシュを使用しない LPEC と Advanced LPEC			嵩原裕夫、西原実、国吉史雄、阿嘉裕之、宮平工、花城直次、比嘉宇郎、石嶺伝羽、奥島憲彦
第 21 回日本 LPEC 研究会	Advanced LPEC 法は鼠径ヘルニア術後慢性疼痛 (CRIP) の危険術式か?	神奈川	2022 年 6 月 5 日	嵩原裕夫
第 132 回沖縄県医師会医学会総会	腹腔内出血をきたした小型胃 GIST 破裂の一例	沖縄県	2022 年 6 月 12 日	本坊美喜子、宮平工、玉城頼人、松本紗矢香、国吉史雄、阿嘉裕之、比嘉宇郎、花城直次、西原実、嵩原裕夫、奥島憲彦
第 47 回日本外科系連合学会学術集会	LPEC 法と小児鼠径ヘルニア学	岩手	2022 年 6 月 15 日	嵩原裕夫
	LPEC 法 v s Potts 法			嵩原裕夫
第 77 回日本消化器外科学会総会	臍頭十二指腸切除術後出血により臍腸吻合部を離断したが、自然治癒 (瘻孔形成) した 1 例	神奈川	2022 年 7 月 20 日	西原実、国吉史雄、阿嘉裕之、宮平工、花城直次、比嘉宇郎、石嶺伝羽、奥島憲彦
第 84 回沖縄県外科会	結腸癌再発に複数回の手術を施行した一例	沖縄県	2022 年 9 月 18 日	阿嘉裕之、石嶺伝羽、比嘉宇郎、宮平工、花城直次、西原実、奥島憲彦
第 84 回日本臨床外科学会総会	直腸後窩ヘルニア嵌頓の 1 例	福岡	2022 年 11 月 24 日	石嶺伝羽、宮平工、国吉史雄、阿嘉裕之、比嘉宇郎、花城直次、西原実、奥島憲彦
	no mesh, no peel off の Advanced LPEC (Adv.LPEC) 法とその治療成績			嵩原裕夫、西原実、国吉史雄、阿嘉裕之、宮平工、花城直次、比嘉宇郎、石嶺伝羽、奥島憲彦

世話人・座長

学会名	演題名	開催地	発表年月日	発表者
第 59 回日本小児外科学会学術集会	名誉会員として	東京	2022 年 5 月 19 日	嵩原裕夫
第 84 回日本臨床外科学会総会	座長	福岡	2022 年 11 月 24 日	西原実
第 35 回日本内視鏡外科学会	座長	愛知	2022 年 12 月 8 日	西原実
日本消化器病学会九州支部 第 28 回教育講演会	座長	福岡	2023 年 2 月 19 日	奥島憲彦

年度総括

2022 年度は名誉院長の奥島憲彦（食道）、ヘルニアセンター長の嵩原裕夫（ヘルニア）、副院長兼外科系統括部長の西原実（ヘルニア・肝）、外科部長の宮平工（胃・大腸）、消化器外科部長の花城直次（胃・大腸）、消化管外科部長の比嘉宇郎（胃・大腸）、大腸肛門科部長の阿嘉裕之（大腸・肛門）、外科副部長の国吉史雄（胆膵）、Ryucos 外科プログラムから派遣された石嶺伝羽（外科専修医）の 9 名の常勤医と、非常勤の野村寛徳（乳腺外科）、仲栄真盛保（血管）、前田達也（心臓、大血管）、久田正昭（一般、小児外科）、梁英樹（肝胆膵）各先生方のご尽力を頂き、外科診療を運営してまいりました。（カッコ内は専門領域）

手術件数は 803 件（外来小手術を除く）と前年度と比較して約 70 件増加していました。一昨年度は COVID-19 感染の影響で減少していましたが、2022 年度は増加に転じています。手術術式別の症例数は多い順に腹腔鏡下胆嚢摘出術 115 例、成人に対する腹腔鏡下ヘルニア手術 112 例、乳腺悪性腫瘍切除術 52 例、痔核硬化療法 50 例、腹腔鏡下虫垂切除術 47 例、腹腔鏡下結腸悪性腫瘍手術 39 例、小児鼠径ヘルニア手術 33 例と続きました。良性疾患のほとんどが腹腔鏡を用いた MIS (Minimal Invasive Surgery) で施行されていました。大腸癌など悪性疾患でも、MIS の割合が増加しつつあります。

日本専門医機構の外科専門研修システムで外科専修医を 1 名受け入れており、若手外科医の指導をしつつ上記のような体制で診療にあたっています。

外科は手術だけでなく、消化器癌、乳癌の化学療法や終末期の緩和医療も担当しています。初期研修医の指導はもちろん、琉球大学医学部学生の臨床実習も受け入れており、外科の魅力を伝えることで、外科医減少の歯止めに微力ながらも貢献できればと考えています。臨床や教育の合間には県内外での学会発表や論文投稿も積極的に行っています。さらに指導医クラスの医師は緩和ケアチーム、感染対策チーム、NST（栄養サポートチーム）、クリニカルパス委員会を始め、COVID-19 感染対策として発足した C-19 災害対策本部の中心メンバーとして病院全体の診療を影から支えています。さらには、沖縄県で増加傾向にある大腸癌をターゲットに「大腸がん早期発見プロジェクト」を導入し、着実に成果をあげています。

今後も、より安全で質の高い医療を目指すだけでなく、最新の医療も提供すべく邁進してまいります。皆様方のますますのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

外科部長 宮平 工

整形外科

スタッフは、渡慶次学・新垣勝男・川越得弘・琉球大学からのローテーター島袋全志・與那嶺隆則の 5 人です。琉球大学整形外科講座より、金曜日は関節外科非常勤医師の応援を得ています。また、水曜日はじのん整形外科 副院長の新垣薫先生・木曜日は KAZU クリニック新垣和伸先生に関節専門外来および手術指導などご協力いただいております。

新垣勝男は脊椎外科を担当し、椎弓拡大・椎体固定等の手術を行っています。渡慶次学と川越得弘は手の外科を担当し、上肢外傷・末梢神経絞扼障害等の手術を行っています。島袋全志は膝関節・足関節を担当し、変形性膝関節症に対する骨切り術・人工膝関節置換術および関節鏡を用いた靱帯再建・半月板縫合術等の手術を行っています。與那嶺隆則は一般外傷を担当し、整形外科医としての研鑽を積んでいます。

医師プロフィール

(2022 年 6 月時点)

役職	氏名	専門分野	学会認定
整形外科部長	渡慶次 学	手外科	日本整形外科学会専門医 日本手外科学会認定手外科専門医 日本整形外科学会リウマチ認定医 日本整形外科学会運動器リハビリテーション認定医
脊椎外科部長	新垣 勝男	脊髄脊椎外科	日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
手外科部長	川越 得弘	手外科	日本整形外科学会専門医
	島袋 全志		日本整形外科学会専門医
	與那嶺 隆則		
【専門外来】 股関節外来	新垣 薫	関節外科(股関節)	日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会運動器リハビリテーション認定医 日本スポーツ協会公認スポーツドクター
【専門外来】 スポーツ関節鏡センター	新垣 和伸	関節外科(膝関節)	日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会運動器リハビリテーション認定医 日本スポーツ協会公認スポーツドクター
【専門外来】 スポーツ関節鏡センター	上原 史成	関節外科(膝関節)	日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会運動器リハビリテーション認定医 日本整形外科学会認定スポーツ医 琉球ゴールデンキングスチームドクター 沖縄県サッカー協会医学委員 日本スポーツ協会公認スポーツドクター IOC diploma Sports Physician
【専門外来】 脊椎外来	金城 英雄	脊髄脊椎外科	日本整形外科学会専門医
【専門外来】 リウマチ科	東 千夏	整形外科・関節リウマチ	日本整形外科学会指導医 日本整形外科学会専門医 日本リウマチ学会指導医 日本リウマチ学会専門医

研究業績

学会発表

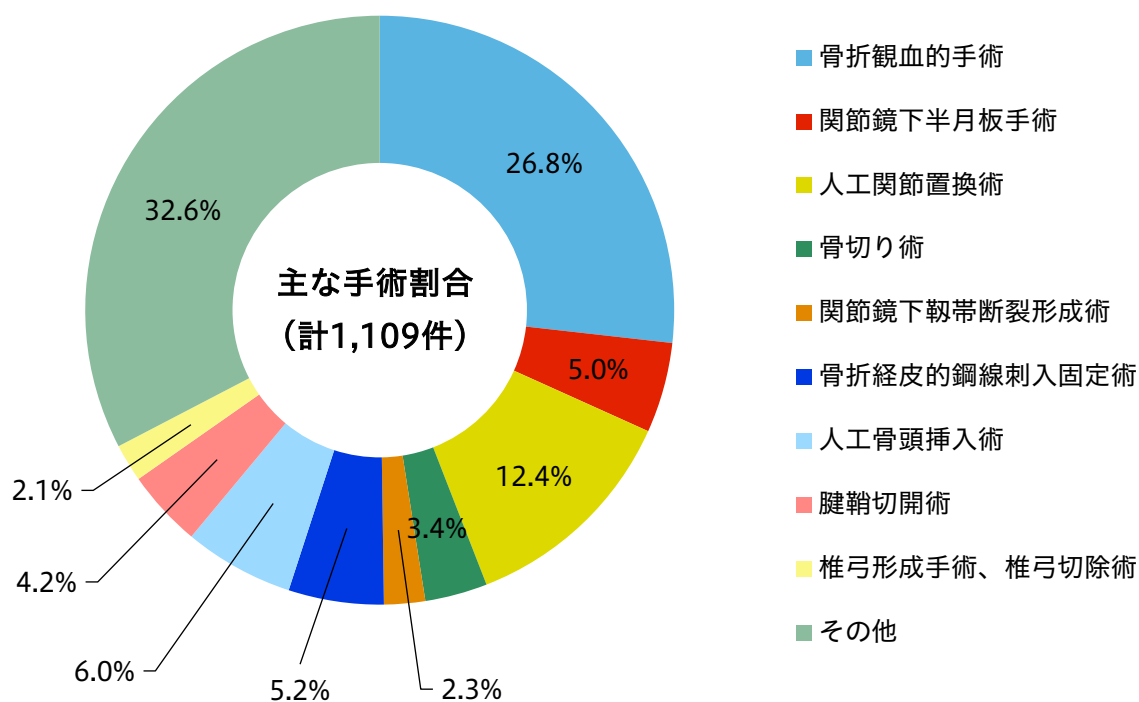
学会名	演題名	開催地	発表年月日	発表者
JOSKAS-JOSSM 2022	慢性足関節外側不安定症に対する knotless anchor を用いた鏡視下外側靱帯修復術の臨床成績	北海道	2022 年 6 月 16 日	島袋全志
第 133 回沖縄県医師会 医学会総会	月状骨骨棘で中・環・小指総指伸筋腱(EDC3・4・5)皮下断裂を発症した一例	沖縄県	2022 年 12 月 11 日	渡慶次学

検査・治療・手術件数

主な手術一覧

部位・行為	件数
骨折観血の手術	297
関節鏡下半月板手術	55
人工関節置換術	137
骨切り術	38
関節鏡下靱帯断裂形成術	25
骨折経皮的鋼線刺入固定術	58

部位・行為	件数
人工骨頭挿入術	67
腱鞘切開術	47
椎弓形成手術、椎弓切除術	23
その他	362
総計	1,109



年度総括

2022 年度は新型コロナウイルス流行の影響で自宅生活が長引き、ロコモティブシンドロームによる高齢者の骨折が増え新規入院患者数・手術件数ともに増加しました。

2023 年 5 月から新型コロナウイルスは 5 類感染症へ移行しますが、より安全に配慮しスポーツ外傷手術（膝前十字靱帯再建術・半月板縫合術）・変形性膝関節症手術（骨切り術・人工膝関節置換術）・脊椎外科・手外科疾患手術を継続していく予定です。

整形外科部長 渡慶次 学

形成外科

当科は今年で開設 9 年目を迎えました。当科の特徴は、形成外科専門施設として、難治性皮膚潰瘍、皮膚軟部組織腫瘍摘出術、巻き爪などの爪のトラブル、眼瞼下垂症やわきがなどの美容的手術のみならず、悪性腫瘍切除後の再建手術や四肢のリンパ浮腫、重度顔面外傷、重症熱傷などオールラウンドに形成外科的疾患に対応できるよう心がけていることです。特に近年急増する下肢難治性皮膚潰瘍に対する予防を含めた総合的な治療に力を入れております。今後も、ニーズに応じてますます発展させて形成外科治療で県民に広く貢献して参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

施設認定など

- ・ 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実地基準による実地施設 認定証（登録番号 H00789）

医師プロフィール

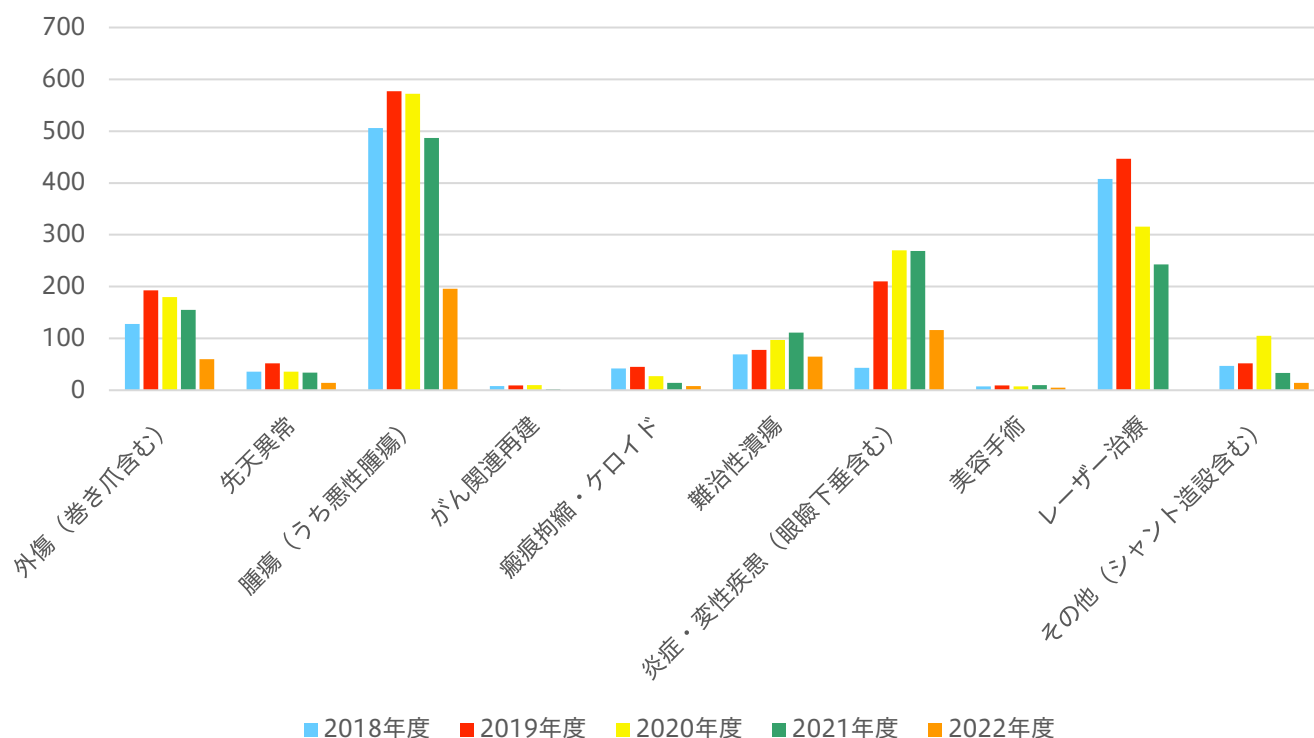
（2022 年 6 月現在）

役職	氏名	専門分野	学会認定
医長	立津 朝成	形成外科一般	
非常勤	東盛 貴光	下肢難治性潰瘍、足の外科、広範囲重症熱傷、マイクロサージャリー、頭頸部癌・乳がんに対する再建術、レーザー治療、下肢静脈瘤、美容外科	日本形成外科学会専門医 日本形成外科学会領域指導医 日本形成外科学会熱傷分野指導医 日本形成外科学会創傷外科分野指導医 日本熱傷学会専門医 日本レーザー医学会指導医 日本レーザー医学会専門医 日本創傷外科学会専門医 日本乳房オンコプラスチックサージャリー 学会認定エキスパンダー・インプラント責任 医師 身体障害者福祉法指定医（肢体不自由） 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施認 定医 日本フットケア・足病医学会 九州・沖縄地 方世話人 日本褥瘡学会 九州・沖縄地方世話人

検査・治療・手術件数

検査・治療実績

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
外傷（巻き爪含む）	128	193	180	155	60
先天異常	36	52	36	34	14
腫瘍（うち悪性腫瘍）	506(18)	577(24)	572(19)	487(24)	196
がん関連再建	8	9	10	2	0
瘢痕拘縮・ケロイド	42	45	27	14	8
難治性潰瘍	69	78	97	111	65
炎症・変性疾患 （眼瞼下垂含む）	43	210	270	269	116
美容手術	7	9	7	10	5
レーザー治療	408	447	316	243	0
その他(シャント造設含む)	553	629	105	33	14
合計	1,294	1,672	1,620	1,358	478



年度総括

2022 年度より医長に就任いたしました立津と申します。当方のみ常勤医師となり 1 年が経過しました。新型コロナウイルスが猛威をふるい続け、当科としても病院としても苦しい状況が続き、当方も残念ながら罹患しましたが、他科や当院形成外科 OB の先生方のお力により無事 8 年目を終了することができました。

2021 年度に比べ、2022 年度は手術件数が 3 分の 1 程度に落ち込みました。しかしながら単独での手術件数は他科に劣っていないと自負しております。

足の難治性潰瘍は循環器内科との連携により大切断の件数が減り、患者さんの健康寿命を伸ばすことができいております。今後も密な連携で大切断に至らせないような診療に尽力していきます。

初期研修医は院内から 2 名の先生が研修され、当科の基礎的な手術を多く執刀経験いたしました。創部に関する対応など今後も当科から指導致します。

2023 年度も常勤医 1 人という状況です。他科へのご迷惑は今後もお掛けすることになりますが、どうかご理解頂けると幸いです。

形成外科医長 立津 朝成

脳神経外科

主に脳卒中、外傷を中心に診療しております。発症早期の脳梗塞に対しては t-PA、血管内血栓除去術を行い患者さんの日常生活が保てるように努めております。脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血に対しては低侵襲な血管内治療を first choice としております。また、脳内出血に対しても神経内視鏡手術を導入して侵襲の少ない手術が可能となりました。今後も安全、安心の医療を提供できるようにスタッフと協力していく所存です。

医師プロフィール

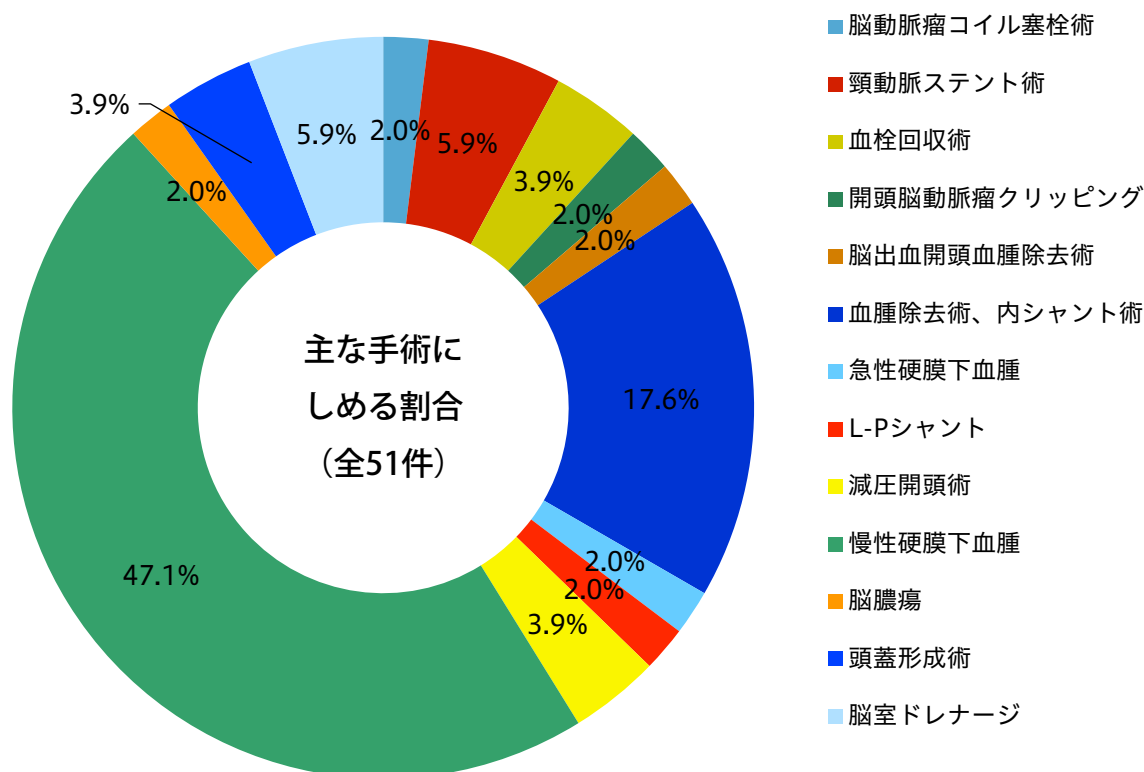
(2022 年 6 月時点)

役職	氏名	専門分野	学会認定など
脳神経外科部長	末吉 健次	脳卒中・脳外科一般	日本脳神経外科学会専門医
脳血管治療部長	上笹 航	脳血管障害	日本脳神経外科学会専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医 日本神経内視鏡学会技術認定医

検査・治療・手術件数

名称	件数
脳血管手術 ・脳動脈瘤コイル塞栓術 ・頸動脈ステント術 ・血栓回収術	6
開頭脳動脈瘤クリッピング	1
脳出血開頭血腫除去術	1
神経内視鏡手術 ・血腫除去術、内シャント術	9
急性硬膜下血腫	1

名称	件数
L-P シャント	1
減圧開頭術	2
慢性硬膜下血腫	24
脳膿瘍	1
頭蓋形成術	2
脳室ドレナージ	3
合計	51



年度総括

当院脳外科は主に脳卒中、外傷を対象に治療を行っております。

現在、脳外科医は1人体制になっていることで救急が制限されている状況です。当院で対応できる疾患、時間帯では救急を受け入れておりますが、それ以外の疾患に対しては速やかに近隣の医療機関へ紹介、搬送できる体制づくりをしております。何卒ご理解をよろしくお願いいたします。

脳神経外科部長 末吉 健次

眼 科

当科の特徴は、前眼部（角膜・結膜）疾患に力を入れて診療を行っていることで、外来では一般的な眼科診療はもとより、アトピー性角結膜炎や春季カタルといった重症アレルギー性疾患や、細菌・真菌性角膜炎などの前眼部感染症の症例経験も豊富です。また円錐角膜や角膜移植後に用いる特殊なハードコンタクトレンズ処方も行っています（注：通常のコンタクトレンズは取り扱っておりません）。

その他、糖尿病性網膜症などの網膜疾患や、緑内障に対する治療も行っています。緑内障や網膜疾患に関しては、必要に応じて琉球大学病院の専門外来と連携しており、患者さんにとって最適な医療を提供できるよう工夫しています。

手術は、白内障手術や翼状片手術をはじめ、年間約 30 件の角膜移植手術を行っており、表層角膜移植や角膜内皮移植といった角膜部分移植（パーツ移植）は、県内では当科のみが行っています。当科での手術は白内障や翼状片手術も含め、基本的に入院手術となりますが、患者さんの状況に合わせてご希望があれば、白内障の日帰り手術も行うことが可能です。近隣の眼科クリニックからも多数の患者さんをご紹介いただいております、皆様に安心して手術を受けていただけるものと思っています。

医師プロフィール

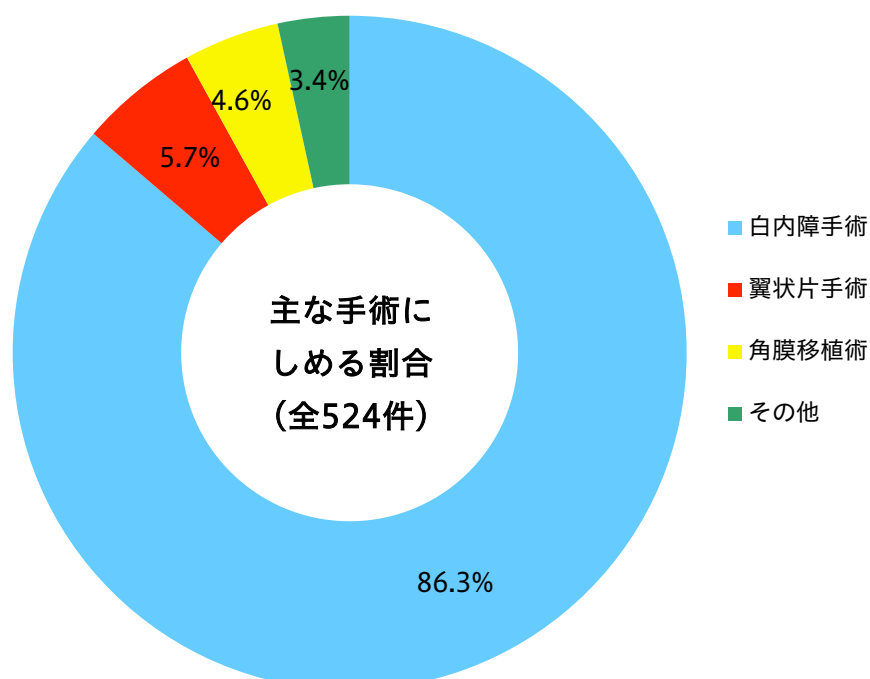
（2022 年 6 月現在）

役職	氏名	専門分野	学会認定など	備考
眼科部長	親川 格	一般眼科・角膜（移植、特に角膜内皮移植）	日本眼科学会専門医 AMO Advanced Femtosecond Laser iEK certification	
	親富祖 さやか		日本眼科学会専門医	

検査・治療・手術件数

手術件数一覧

名称	件数
白内障手術	452
翼状片手術	30
角膜移植術	24
その他	18
合計	524



年度総括

2023 年 4 月より部長を拝命しました照屋です。当院では白内障や緑内障、糖尿病網膜症などの眼科一般診療をはじめ、前眼部疾患を中心とした専門分野を柱とした診療を常勤医 2 名に大学からの外来応援医師を併せた体制で行っております。特に角膜移植領域に関しては先進的な医療提供を心掛けて実践しております。

近隣の眼科クリニックを中心に、本島北部地域や離島の眼科クリニック、県内各総合病院や琉球大学病院から患者さんを紹介いただき診療・治療をさせていただいており、今年度は年間手術総数 497 件、角膜移植 24 件の治療に携わらせていただきました。今年度も昨年と同様に新型コロナウイルスによる影響を受け、病院全体として対応に苦慮し、外来・入院の受け入れ制限等がありましたが、新型コロナウイルスへの経験をふまえた万全の対策を講じることで、スムーズな外来診療、入院加療を行うことができるようになっております。

これまで懸案であった外来診療における待ち時間の解消は依然として大きな課題ではありますが、もう一つの課題である患者さんの手術待機時間は 1・2 ヶ月以内におおむね短縮できております。

現在さらなる眼科診療のクオリティ向上を目標に掲げ、今後も患者さん一人ひとりに最も適した質の高い医療を提供できるよう、スタッフ一同協力して当たらせていただきたいと考えています。

眼科部長 照屋 明子

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科は耳、鼻、咽頭、喉頭、頭頸部と幅広く、聴覚・嗅覚・味覚といった感覚器に加え、摂食嚥下、発声、呼吸といった重要な機能を取り扱っている診療科です。

医師プロフィール

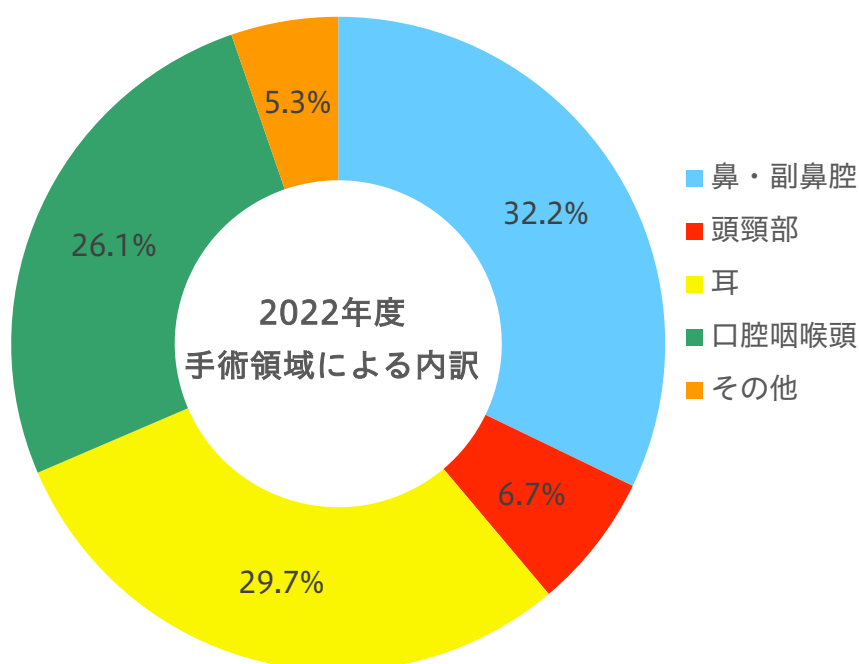
(2022 年 6 月現在)

役職	氏名	専門分野	学会認定
耳鼻咽喉科副部長	赤澤 幸則	中耳炎、難聴、顔面神経、めまい	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定専門医、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門研修指導医、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会補聴器相談医、補聴器適合判定医、医学博士
	新城 正太	耳鼻咽喉科一般	

診療実績

	名称	件数
耳科手術	鼓室形成術（耳小骨温存術）	23
	鼓室形成術（耳小骨再建術）	3
	乳突削開術	3
	鼓膜形成術	8
	鼓膜穿孔閉鎖術（リティンパ®）	12
	内耳窓閉鎖術	1
	鼓膜切開術	12
	鼓膜チューブ挿入術	14
	先天性耳瘻管摘出術	4
	耳介血種開窓術	1
	耳介腫瘍摘出術	1
	外耳道異物除去術	2
鼻科手術	内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型	8
	内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅳ型	15
	内視鏡下鼻腔手術 1 型（下鼻甲介手術）	32
	内視鏡下鼻中隔手術 1 型（鼻中隔矯正）	21
	後鼻神経切断術	12
	鼻副鼻腔腫瘍摘出術	2
	鼻腔粘膜焼灼術（鼻出血止血）	5

	名称	件数
口腔咽喉頭手術	鼻内異物摘出術	2
	口蓋扁桃摘出術	64
	扁桃摘出術後出血止血術	2
	軟口蓋形成手術	1
	喉頭微細手術	2
	咽頭異物摘出術	3
	舌下腺腫瘍摘出術	2
頭頸部手術	耳下腺腫瘍摘出術（浅葉）	3
	耳下腺悪性腫瘍手術	2
	顎下腺摘出術	3
	舌悪性腫瘍手術（切除）	3
	副咽頭間隙腫瘍摘出術	1
	頸部郭清術	7
その他	リンパ節摘出術	5
	気管切開術	7
	皮下腫瘍摘出術	1
	扁桃周囲膿瘍切開術	1
	顎関節脱臼非観血的整復術	1



年度総括

耳鼻咽喉科副部長の赤澤幸則と申します。現在1人体制ですが、令和4年度は令和4年10月～令和5年3月にかけては新城正太先生と2人体制で、コロナ禍による影響もありましたが、可能な限り地域の先生方からのご紹介に対応させて頂けたかと存じます。

私は耳科領域を専門としており、大学病院等より頭頸部腫瘍、鼻科、音声、嚥下の各専門医師による外来及び手術を可能としているため、耳鼻咽喉科のほぼ全領域を高いレベルで対応可能となっております。

平成30年度より、嚥下チーム（医師・言語聴覚士・看護師・栄養士・歯科衛生士）を立ち上げ、嚥下障害患者の回診などチームでの活動を開始いたしております。他科よりコンサルトされた入院患者を中心に、正確な嚥下機能評価及びそれに基づく適切な対応策や介入方法の提案を心がけました。

今後も地域医療支援病院として、他院ならびに他科の先生方からも患者さんをご紹介いただけるよう病診連携の維持に努めてまいります。できるだけわかりやすい説明を心がけ、それぞれの患者さんに合った医療を提供できることをモットーにし、本年度も入院患者数・手術症例数の増加を目指し、引き続き努力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

耳鼻咽喉科副部長 赤澤 幸則

泌尿器科

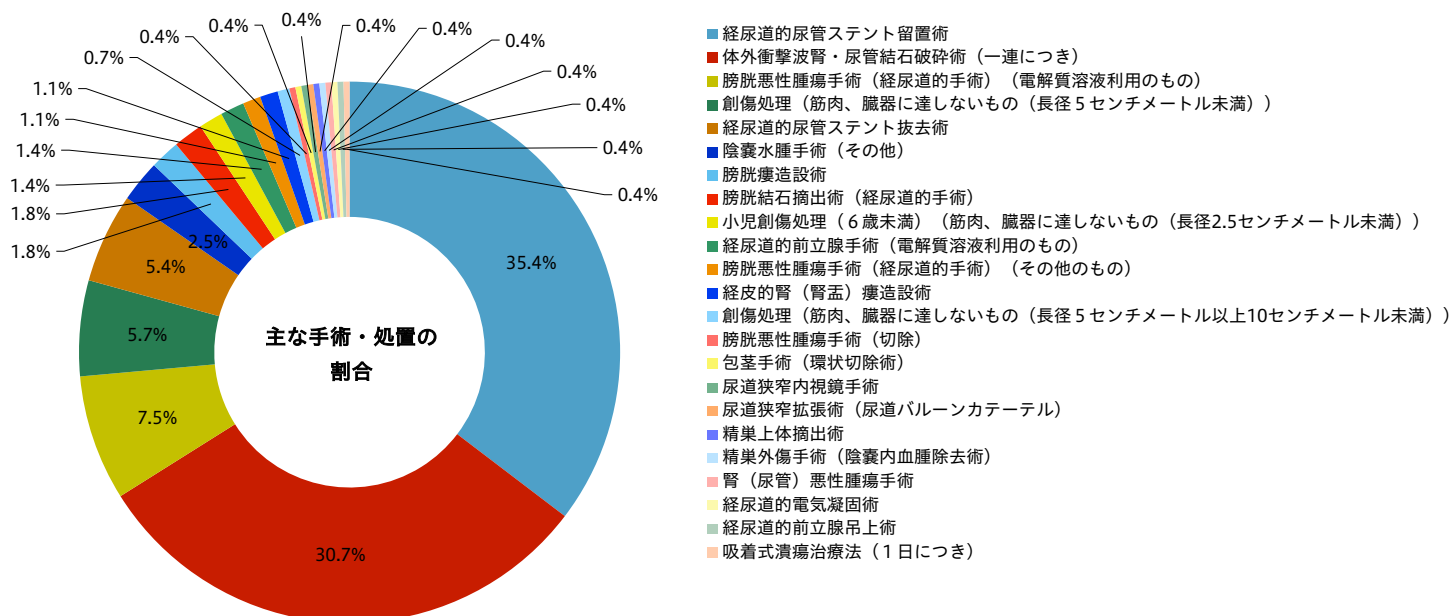
2022 年度は、常勤医として嘉川春生、古謝将之医師、琉球大学泌尿器科から 3 人の外来非常勤医師で診療にあたりました。外来患者数は毎月 800 人前後で推移しています。主な検査としては、膀胱ファイバーが年間 197 件。経直腸前立腺針生検が 74 例（内前立腺がんは 50 例）手術は、経尿道的膀胱腫瘍切除術、経尿道的の前立腺切除術と尿管ステント留置術、体外衝撃波腎尿管結石破碎術を中心に行っています。腎がん、前立腺癌の手術に関しては、琉球大学病院、中部徳洲会病院に紹介しています。前立腺癌に対する放射線治療は南部徳洲会病院、南部医療センター、琉球大学病院へ紹介しており各病院と連携を取らせていただきながら治療にあたっています。

医師プロフィール

(2022 年 6 月時点)

役職	氏名	専門分野	学会認定
泌尿器科部長 血液浄化部長	嘉川 春生	一般泌尿器	日本透析医学会専門医 日本泌尿器科学会指導医 日本透析医学会認定医 日本泌尿器科学会専門医
泌尿器科医長	古謝 将之	一般泌尿器	日本泌尿器科学会専門医
	宮里 実 (非常勤)		
	木村 隆 (非常勤)		
	松尾 智誠 (非常勤)		

検査・治療・手術件数



年度総括

人口の高齢化が進む中、泌尿器科を受診される患者さんは年々増加の一途をたどっています。病診連携により患者さんの円滑な受け入れ、また逆紹介に取り組んで参ります。

泌尿器科部長 嘉川 春生

産婦人科

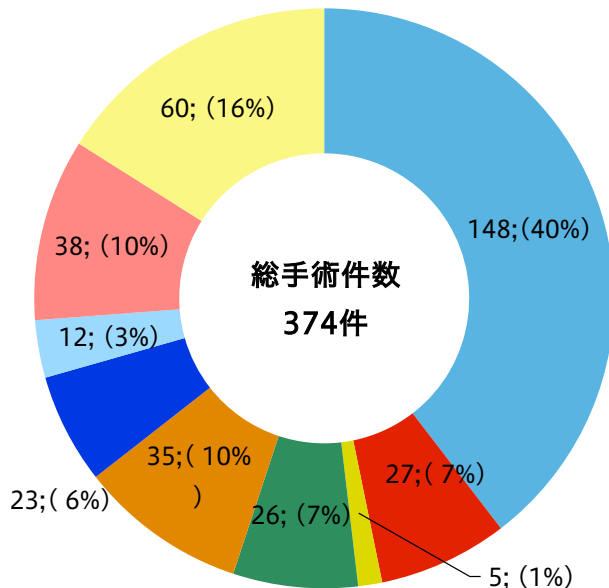
常勤医師 5 名、助産師 23 名、看護師 13 名、看護助手 5 名、クラーク 2 名の体制でした。産科領域では 36 週以降の分娩、婦人科領域では良性、悪性腫瘍の開腹、経腔、腹腔鏡手術 / 化学療法や緩和医療、不妊内分泌ホルモン療法、更年期の薬物療法等を行い、放射線及び体外受精以外の治療を幅広く行なっています。

医師プロフィール

(2022 年 6 月時点)

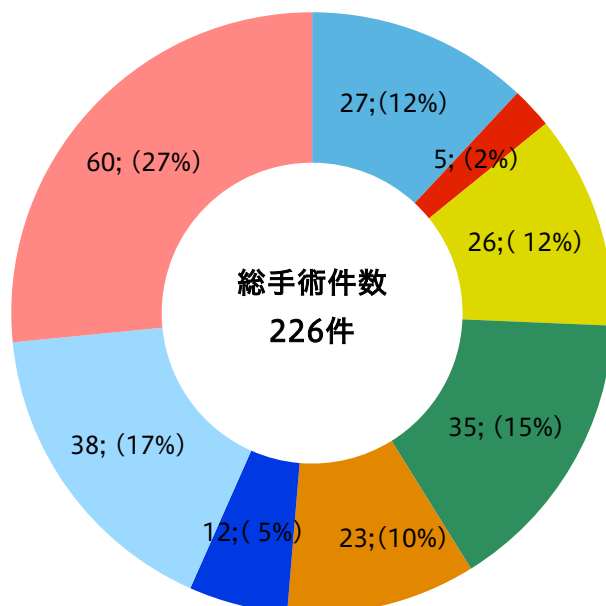
役職	氏名	専門分野	学会認定
産婦人科センター長 婦人科部長	武田 理	産婦人科全般、婦人科腫瘍、腹腔鏡下手術	日本産科婦人科学会専門医 日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 / 指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本産科婦人科学会指導医 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医 / 指導医
産科部長	大西 勉	産婦人科全般	母体保護法指定医
産婦人科部長 東館 4・5 階病棟医長	堀本 直幹	一般産婦人科	
	比嘉博香	一般産婦人科	日本産科婦人科学会専門医
	宮崎 優樹	一般産婦人科	日本産科婦人科学会専門医
	西村 拓也	一般産婦人科	
	當眞 真希子 (非常勤)		日本産科婦人科学会専門医 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医

産科統計



- 帝王切開
- 開腹付属器手術
- 腹腔鏡下手術
- 経腔子宮手術
- 静麻麻酔下手術
- 開腹子宮手術
- 子宮鏡
- 腰麻下経腔
- 子宮付属器悪性腫瘍

婦人科部門



- 開腹子宮手術
- 開腹付属器手術
- 子宮付属器悪性腫瘍
- 腹腔鏡下手術
- 経腔子宮手術
- 腰麻下経腔
- 静麻麻酔下手術

総分娩件数 557 件

研究業績

学会発表

学会名	演題名	開催地	発表年月日	発表者
第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	術前に診断された漿液性子宮内膜上皮内癌の 1 例	福岡	2022 年 7 月 14 日	武田理、宮崎優樹、比嘉博香、堀本直幹、大西勉、青山肇（病理医）
第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会	後腹膜に発生した粘液性平滑筋腫の 1 例	福岡	2022 年 8 月 7 日	武田理、宮崎優樹、比嘉博香、堀本直幹、大西勉
第 54 回沖縄産科婦人科学会学術集会	大量腹水を来した卵巢癌肉腫の 1 例	沖縄県	2022 年 9 月 11 日	武田理、宮崎優樹、比嘉博香、堀本直幹、大西勉、西村 拓也、青山肇

論文・著書

論題名	雑誌名	掲載年・巻号・頁	著者名
大量腹水を来した卵巢癌肉腫の 1 例	沖縄産科婦人科学会雑誌	p65-70 2023.	武田理、宮崎優樹、比嘉博香、堀本直幹、大西勉、西村 拓也、青山肇

年度総括

産科では、分娩数と帝王切開数は昨年度とほぼ同数の件数となりました。産婦人科の医師、コメディカルの減少とコロナ対策でマンパワー不足の中、分娩数を維持できたのはひとえにスタッフ個々の精力的な働きによるものです。今後は来年から施行される働き方改革の指針に沿って医師数、コメディカル数確保に努め、分娩数増加を図る予定です。

婦人科手術件数も前年度とほぼ同様で、コロナ対策で度重なる手術制限の中、積極的な入院加療を心がけた事により、手術数の維持に繋がったものと考えられます。今年度はスタッフ確保による手術数の増加を図ります。

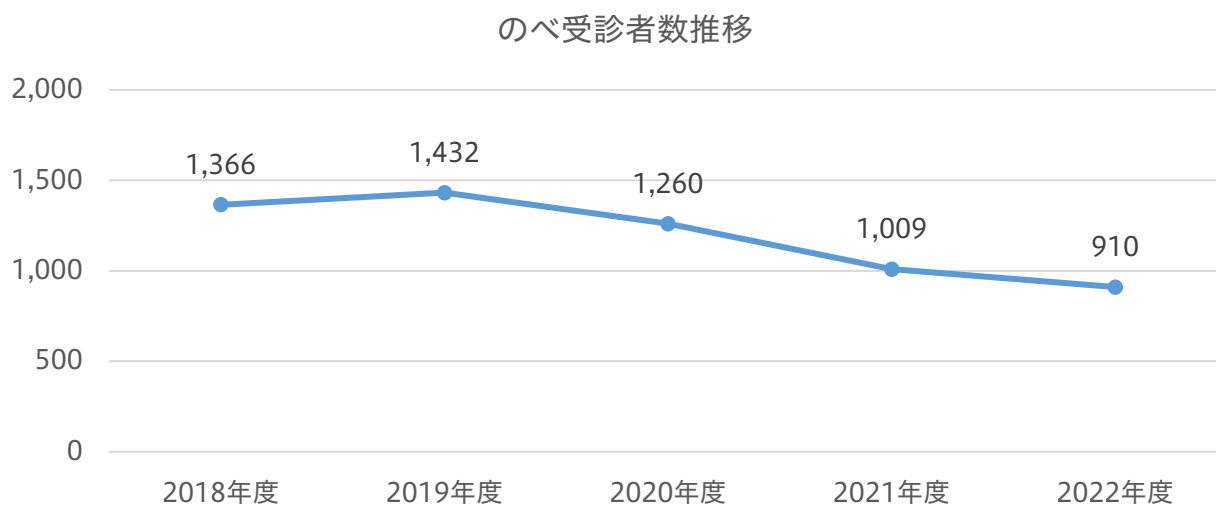
産婦人科センター長 兼 婦人科部長 武田 理

皮膚科

皮膚科は、毎週火曜日と木曜日の午後の外来診療を行っています。

診療は琉球大学病院の皮膚科医師が非常勤で対応しております。

診療実績



放射線科

放射線科の診療は CT、MRI、RI（ラジオアイソトープ）、マンモグラフィー等の検査内容の指示、診断、検査報告書作成など画像のみを扱う分野と、画像支援で治療を行う IVR（血管内治療）が主な業務内容になっております。IVR には肝動脈化学塞栓療法などの待機的治療から、出血に対する血管塞栓術など緊急を要する治療も他科と連携しながら行っています。

医師プロフィール

役職	氏名	専門分野	学会認定など
放射線科部長	高良 誠	放射線診断学	日本医学放射線学会診断専門医 日本医学放射線学会専門医 検診マンモグラフィ読影認定医
	東江 ゆりか	放射線診断学	日本医学放射線学会診断専門医 日本核医学会核医学専門医 日本核医学会 PET 核医学認定医 検診マンモグラフィ読影認定医
	小林 史文	放射線診断学	日本放射線学会専門医

各種検査・治療件数と推移一覧

医療技術部 放射線科のページに業務実績を掲載しております。

年度総括

2022 年度の CT、MRI の件数はわずかに減少が見られました。コロナ禍の手術制限とコロナ肺炎の減少などが影響していると考えられます。

RI は減少傾向ですが、他に代用の利かない検査もありますので、引き続き放射線科として、広報に努めていきたいと思えます。

マンモグラフィー、IVR は増加しています。マンモグラフィーは乳がん罹患患者増加により、認知度が上昇している結果と考えます。IVR は TACE が増加したことと、止血術などが増加したことが理由です。

2022 年度は常勤 3 名体制でダブルチェック体制を強化し、至急の読影や IVR に対応してきました。これからも放射線科医と放射線科スタッフが連携し、各診療科の要望に応えられるよう、より良い診断と治療に努めてまいります。

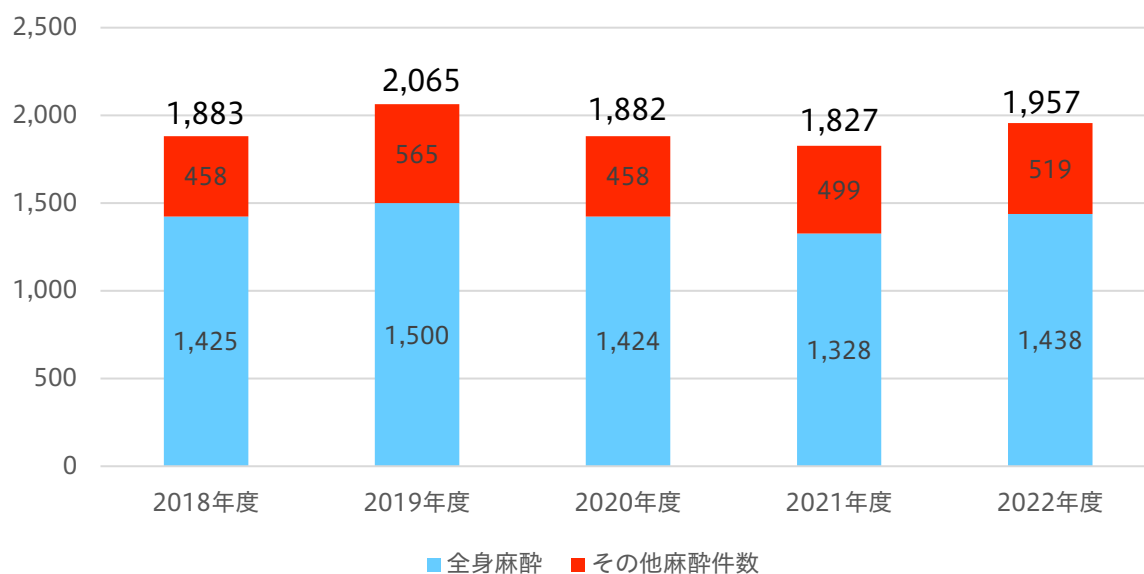
放射線科部長 高良 誠

麻酔科

医師プロフィール

役職	氏名	専門分野	学会認定など
麻酔科部長 手術室部長	島袋 泰	一般麻酔	日本麻酔科学会指導医
麻酔科副部長 手術室副部長	金野 武志	一般麻酔	日本麻酔科学会指導医
麻酔科医長	嘉手苺 由梨	一般麻酔	日本麻酔科学会専門医
医師	太田 沙也加	一般麻酔	日本専門医機構麻酔科専門医 日本麻酔科学会認定医
医師	平良 志子	一般麻酔	日本麻酔科学会認定医
麻酔科相談役	久場 良也	集中治療・麻酔	日本専門医機構麻酔科専門医 日本麻酔科学会指導医 日本集中治療学会専門医 日本ペインクリニック学会認定医

麻酔件数推移



年度総括

2022 年度はアフターコロナで日常生活が戻りつつある 1 年でした。

2021 年度までと異なり手術制限期間がなく、手術室はほぼ正常通りに稼働しておりました。しかしながら covid-19 感染を伴い、full PPE 及び専用手術室で手術を行う患者はいなくなっています。また今後 covid-19 の感染症分類が変更された場合、潜在感染患者がより増えて、スタッフへの感染につながり手術室の運用に支障が出る可能性もあります。いまだに予断は許さない状況でしょう。

2020 年度の麻酔管理件数は 1,957 件（前年 7.1% 増）、全身麻酔管理件数 1,438 件（同 8.3% 増）でした。全身麻酔患者数の増加の理由として、不要不急の判断で延期していた患者の手術が行えるようになってきたため、件数が covid-19 以前近くまで回復していると考えます。ゆりかごから墓場までではありませんが、生後数ヶ月から 100 歳超の患者まで麻酔を行っている状況は続いています。患者個々の病状や状態に合わせたいわゆる「オーダーメイド」麻酔を心がけ患者の安全を保つように努力しています。手術室外でも今まで同様、covid-19 患者の挿管や ICU での血液浄化等も散発的に受けている状況です。

昨年度までと同様、全員が可能な限り麻酔科関連学会に参加・発表を行い、レベルの高い周術期管理を実践できるよう日々研鑽しております。学会参加はハイブリッド開催の増加で現地に赴く必要はなくなりましたが、技術向上・維持のため、現地ハンスオンセミナーには定期的に参加する必要があります。その際、手術制限で各科の先生方にはご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。今後とも安全で効率的な手術室管理へのご理解・ご協力の程よろしくお願い致します。

麻酔科副部長 釜野 武志

血液浄化部

2022年の人員体制は、医師3名、看護師22名、看護助手4名、医事課1名で臨みました。透析室のコンソールは57台（内個室2台）。外来維持透析の患者さんは146名でした。

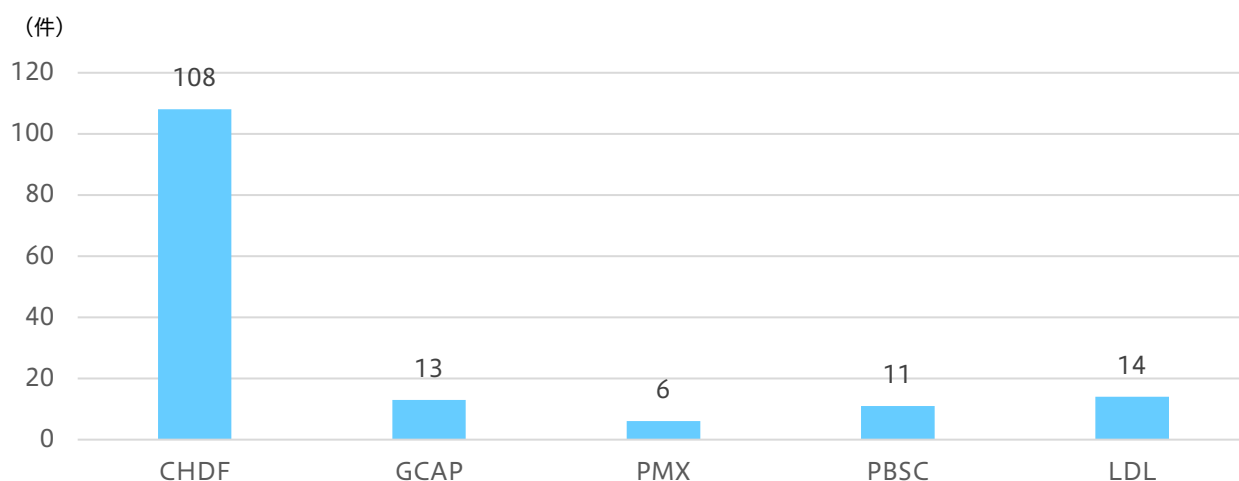
月水金は、午前55名、午後（14時から18時）9名、夜間（17時から21時）27名の3クール。火木土は午前55名の1クールですが、午後はコロナの陽性または濃厚接触の患者さんの隔離透析にあてました。感染対策を万全に行い透析室内でのクラスターの発生はありませんでした。ICU、HCU等での血液浄化療法としてCHDF、白血球除去療法（GCAP、LCAP）、LDL吸着、エンドトキシン吸着（PMX）、腹水ろ過濃縮療法（CART）、自家抹消血幹細胞移植（PBSC）等293件実施しました。

医師プロフィール

（2022年6月時点）

役職	氏名	専門分野	学会認定
理事長	安里 哲好	循環器疾患、生活習慣病・禁煙外来	日本循環器学会専門医 日本透析医学会専門医 日本内科学会認定内科医 日本医師会認定産業医
血液浄化部長 泌尿器科部長	嘉川 春生	一般泌尿器	日本透析医学会専門医 日本泌尿器科学会指導医 日本透析医学会認定医 日本泌尿器科学会専門医
	普久原 智里		日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会専門医 日本内科学会認定内科医 日本腹膜透析医学会認定医

業務実績



年度総括

2022 年は、私嘉川と琉球大学第三内科からの普久原智里医師の常勤 2 名。加えて木曜日の安里理事長の回診の 3 名体制で業務を行いました。昨年同様、毎月第三土曜日にハートライフクリニック糖尿病内科の小原正也医師による透析室糖尿病外来も継続しました。普久原医師による腎代替療法外来は、35 名の透析導入前の患者さんへ腎代替療法の説明を行いました。これにより円滑の腹膜透析、血液透析への導入ができました。

新型コロナ対策としては、透析室内でのクラスター発生を未然に防ぐために、マスク、フェイスガード着用、透析室入口検温、室内換気、ビニールカーテンによるパーテーション、HEPA フィルターの活用等を行いました。そして何よりも、患者さんご家族への健康管理依頼、発熱時の来院前連絡、同居家族や職場での濃厚接触情報に関しても前もって連絡していただくようにしています。これらの対策によりコロナ患者の発生を散発的に抑えることができました。

血液浄化部部長 嘉川 春生

口腔ケア科

概要・実績

2017年（平成29年）4月より診療科を立ち上げ6年目を迎えました。2022年度からは、金曜日も外来を追加し月曜～金曜日まで非常勤医師・歯科衛生士により、周術期患者や化学療法患者を対象としたケア中心の診療を行ってまいりました。

職員数

歯科医師	5名	歯科衛生士	1名
看護クラーク	1名		

医師

氏名	専門分野	学会認定
後藤 尊広	口腔外科一般、口唇口蓋裂	日本口腔外科学会専門医・指導医 日本障害者歯科学会認定医・指導医
河野 俊広	口腔外科一般、顎変形症	日本口腔外科学会専門医・指導医
丸山 修幸	口腔外科一般	日本口腔外科学会専門医 日本口腔科学会認定医
村橋 信	口腔外科一般、顎関節症、摂食嚥下	日本口腔外科学会専門医 日本顎関節学会認定医 リハビリテーション学会認定医
白川 純平	口腔外科一般	日本口腔外科学会専門医

歯科衛生士

氏名	認定
知花 望美	歯科衛生士

診療実績

診療科別患者数

年度	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
延患者数	1,151	1,873	1,508	1,111	1,216	1,944
月平均患者数	96	156	126	93	101	162
1日平均患者数	12	20	16	15	13	16
日当点（円）月平均	5,656	6,029	8,435	10,036	11,494	11,027
パノラマ件数月平均	-	14	13	34	35	55

全身麻酔手術（周術期加算該当）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全対象患者数	53	42	55	42	35	74	68	53	74	61	52	58
介入患者数	33	26	44	29	22	51	52	34	51	44	37	50

5 年間の推移

年度	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
周術期 I 280	48	66	35	44	46	76
周術期 I 190	4	21	11	7	2	7
周術期 II 500	48	145	230	204	330	562
周術期 II 300	63	189	190	41	28	38
周術期 III 200	210	323	323	211	226	157
パノラマ X 線撮影	-	129	153	405	424	857
歯科衛生実施指導料1	318	830	959	791	1,000	1,175

年度総括

口腔内のケアを中心としている当科では、新型コロナウイルス感染症の対策を講じて診療とケアの介入を継続することができました。まだ先の見えない状況が続く中、実行すべき対策（標準予防策）の徹底とエアロゾルの分散を防ぐための口腔外吸引装置を設置しながら患者へ提供する診療とケアの質を落とさない様、努力を行ってきました。

感染蔓延による手術制限が行われると、診療に大きな影響を受けざるを得ない科で、日当点へも影響が出ていました。入院前に診察が行えない場合は、手術前と入院中のケアを行い合併症予防に努めています。手術後の安静や病状により口腔ケア科へ来ることができない場合は、歯科医師と歯科衛生士で病室への往診を行うなど個々に合わせたケアを実施しています。

今年度はパノラマ X 線撮影を月平均 50 件目標としました。口腔内全体の状態をみて感染源となりうる歯周病や齲歯治療についてアセスメントするため、パノラマ X 線撮影は重要になります。歯科衛生士は術前に歯垢・歯石除去、ブラッシングの指導を行い口腔内環境を良好な状態に保ち、術後合併症予防に努めています。また、当科が介入することで、挿管時の歯の欠損や動揺歯の欠落などのトラブルが減少することにもつながっています。

9 月から 2 名の歯科衛生士が加わりました。次年度からは、歯科衛生士より口腔内ケアについて看護師教育も行っていきたいと思います。「多職種で患者を見る」環境をつくるため連携していきたいと思います。

救急総合診療部

「ちゃんと助ける救急」を実践するために、2017 年より近隣 4 消防と協定を締結し、はじめた「もっと助けるドクターカー」も導入し 6 年が経過しました。2022 年度は平日日勤帯のみの運用ながら 334 件の出動があり、うち 141 件の現場要請にも対応し活動することができました。

救急車型ドクターカーの高次医療機関への転院搬送や、下り搬送、診療所や病院へのお迎え業務中の現場出動要請へ応えるために 2019 年に導入したラピッドカー型ドクターカーも併用、2020 年度からは病院救命士を 3 名体制とすることで、安定した病院前診療の提供を行うことができています。

また、2020 年度からはじまったコロナの感染蔓延、重症化を抑えるため、2021 年 5 月からの病院主導での集団ワクチン接種（中城村 西原町、与那原町）へ病院救急車、病院救命士、ER 看護師を派遣する「攻めのワクチン」活動を行いました。

この 3 年間、県外出張などを制限し院内での診療を中心に活動してきましたが、コロナ禍で当院がどのような活動をしてきたのかということを知ってもらうため、医師・看護師・病院救命士をあわせて 11 演題を発表することができました。

また 2022 年度は、コロナ禍で疲弊、自粛、自主規制などで萎縮してしまった医療従事者を元気づけることと、職業体験、職場見学などもできなくなってしまった子供たちへ「救急医療の世界は胸をはって自慢できる世界だよ」ということを伝えるため、感染対策をしながらも県内初の「沖縄子どもメディカルラリー」を 2 月 23 日に開催、一人の感染者を出すことなく盛況に終えることができました。

2023 年度も沖縄子どもメディカルラリーの開催などを通して、地域貢献、未来への投資を続けていければと考えています。

医師プロフィール

(2022 年 6 月時点)

役職	氏名	専門分野	学会認定など
救急総合診療部救急部長	三戸 正人	循環器救急、地域医療、スポーツ医学	日本救急医学会救急科専門医、日本循環器学会専門医、日本内科学会指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本スポーツ協会公認スポーツドクター、日本 DMAT インストラクター、統括 DMAT 登録者、JMECC インストラクター、ICLS インストラクター、MCLS インストラクター、MCLS CBRNE インストラクター、日本心臓核医学会評議員、心臓リハビリテーション指導士、病院前救急統括体制認定機構認定民間メディカルコントロール医師
	銘苅 正		日本医師会認定産業医

研究業績

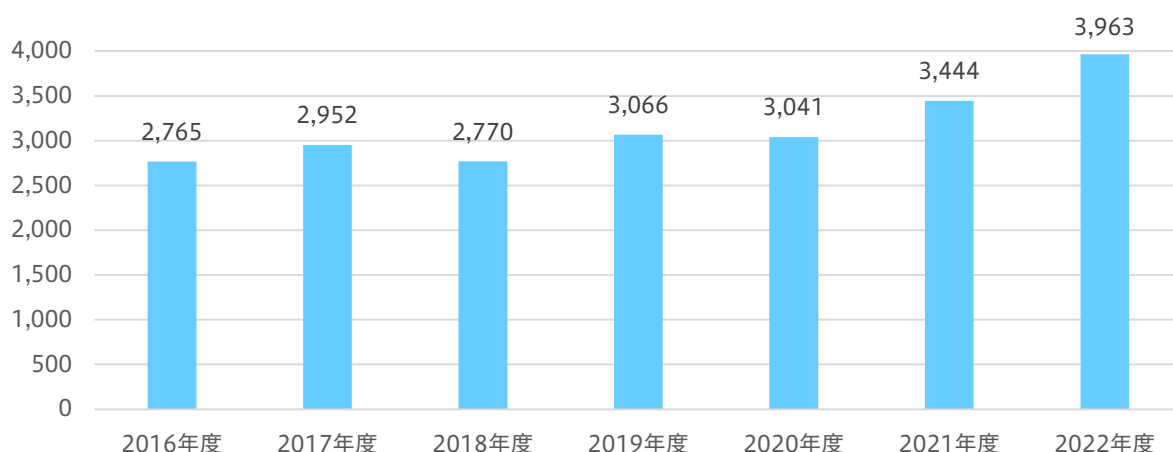
学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
離職率をあげずに COVID-19 対応を行った二次救急病院、救急部門の取り組み	第 25 回日本臨床救急医学学会総会	大阪	2022 年 5 月 25 ～ 5 月 28 日	三戸 正人
COVID19 陽性患者が、甲状腺クリーゼをきたし診断、治療に苦慮した一例				長野 真佑子、三戸 正人

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
病院救命士が DMAT ロジとして行った県 コロナ対策本部活動	第 25 回日本臨床救急医 学会総会	大阪	2022 年 5 月 25 ～ 5 月 28 日	森元一晟、三戸 正人
ドクターカー業務、院内業務、病院救命士 としての役割				森元一晟、三戸 正人
病院救命士として協力した地域での「攻め のワクチン」				森元一晟、三戸 正人
レスキュースライダー 大型車両からの救出	第 31 回 全国救急隊員シ ンポジウム	広島、オ ンライン	2023 年 1 月 26 ～ 27 日	松田 幸一郎、三戸 正人
ST 上昇を伴う胸痛を主訴に救急搬送、有 意狭窄へ PCI 後にたこつば型心筋症の再 発と診断し えた一例	第 133 回 日本循環器学 会九州地方会	福岡県	2022 年 12 月 3 日	衛藤 勇斗、三戸 正人
救急外来におけるアナフィラキシーの適切 な診断とアドレナリン投与に関する検討	第 340 回 内科学会九州 地方会	九州大学 病院	2023 年 1 月 21 日	城間瑞萌、三戸 正人
「局地災害対応の全体像、全時相を俯瞰的 にみることができる机上訓練を実施して	第 28 回 日本災害医学会 総会	岩手県	2023 年 3 月 9 ～ 3 月 11 日	三戸 正人
病院救命士のコロナ禍でのリエゾン活動				森元一晟、三戸 正人
看護師への災害研修を通じた人材育成に ついて				山田義長、三戸 正人

実績

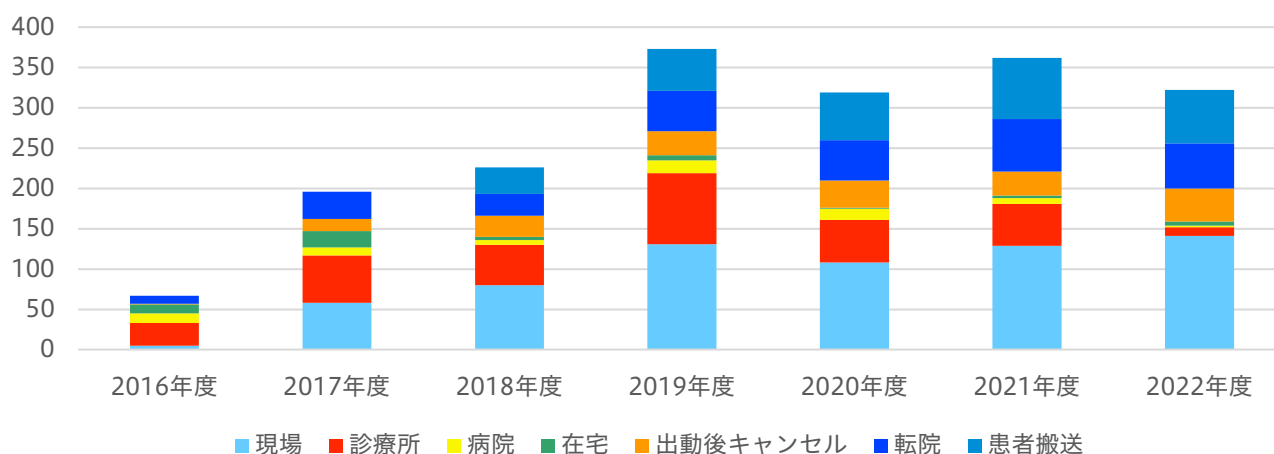
救急搬送件数



コロナ禍にもかかわらず、2021 年度は前年度比 13% 増の、3,444 件の救急搬送を引き受けましたが、2022 年度は近隣医療機関 が救急搬送制限を行う中で、病院スタッフの協力と頑張りのお陰で救急搬送制限をほとんど行わず、さらに 15% 増で過去最高の 3,963 件の救急搬送を応需することができました。これは、当直を担当していただいた各科の先生方や、緊急入院を快く引き受けていただいた病棟看護師のみなさまが、「救急搬送を断らない」という病院の使命を理解し、協力していただいたおかげだと思っております。ありがとうございます。

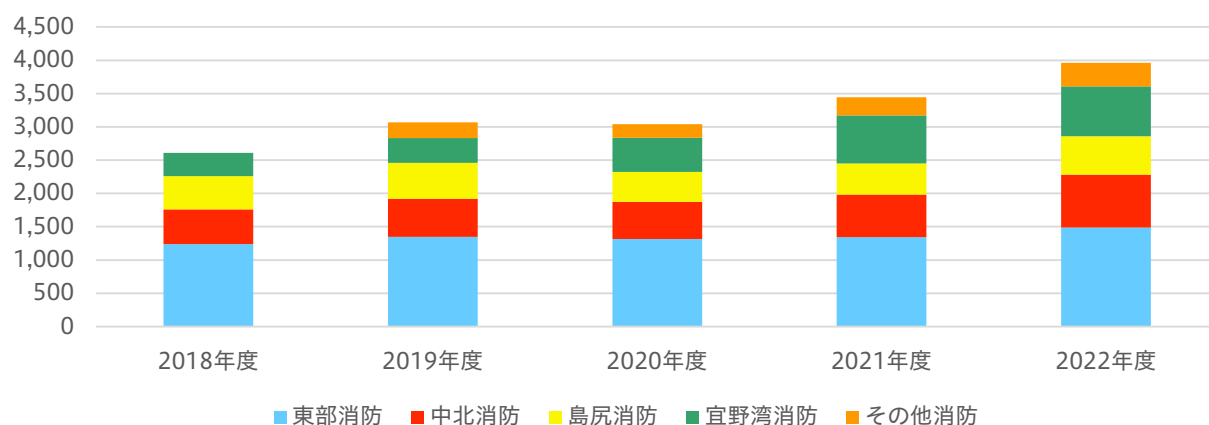
当院が救急搬送を断れば、より遠方に搬送されるため患者さんが重症化する恐れがあることや、地域から傷病者を乗せた救急車と救急隊が不在になり、その地域の助けられるはずの救急患者、重症患者を失うことにつながるということを共通認識としてご理解いただいているからと考えております。今後もご協力をよろしくお願いいたします。

ドクターカー出動件数



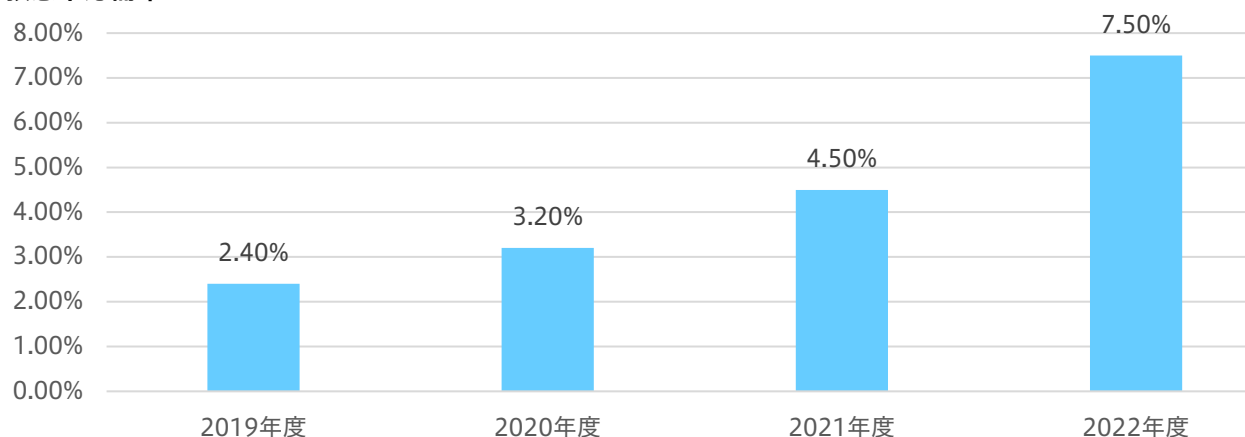
2022年度は平日日勤帯のみの運用ながら 334 件の出動要請に対応、うち現場出動は 141 件と過去最高の要請にも対応し活動することができました。

消防別搬送件数



当院は東部消防・中北消防・宜野湾市消防・島尻消防の 4 消防から 91% の救急搬送を引き受けています。昨年度 200 件以上の急激な搬送件数の増加があった宜野湾市消防からは、本年度も昨年度を越える搬送件数となり、東部消防、中北消防、島尻消防からもそれぞれ 145、152、111 件と増加しました。

救急不応需率



コロナ禍で確保病床以上のコロナ疑い、陽性患者を診療することができなかったこと、救急搬送件数が増えたものの当直や救急担当医が増えないこと、2022 年 10 月より週末の脳神経外科救急のオンコール体制が維持できなくなったことなどから、不応需率は急激に悪化、過去最悪の 7.5% となりました。2023 年度には週末だけでなく平日夜間の脳外科救急もオンコール体制が維持できなくなることから、さらなる不応需件数、不応需率の悪化が予想されます。早急な脳外科体制の再構築、人員補充が必要と考えています。

長年、時間外の L&G が宣言される多発外傷・重症外傷にオンコール対応していただいた銘苅医師の年齢的、体力的問題と、院内に外科当直医が待機する体制が維持できなくなってしまったことから、外科系疾患についての体制の確保も喫緊の課題だと考えています。

当院で施行した CT や MRI 画像を南部医療センターの脳神経外科、神経内科に沖縄津梁ネットワークを通して伝送、相談できるシステムを構築し、2023 年 4 月より運用を開始しました。

また Join という DICOM 画像閲覧、情報共有システムも導入を予定しており、DX（デジタル・トランスフォーメーション）を活用した勤務医、当直医の負担軽減ができるシステム構築もすすめています。

その他の実績

名称	日時
ハートライフ病院 院内災害対策訓練「机上訓練」	2022 年 12 月 16 日
ハートライフ病院 院内災害対策訓練「実働訓練」	2022 年 12 月 23 日
多数傷病者事案・ドクターカー連携訓練	2022 年 6 月 30 日、7 月 1 日
東部消防主催 CBRNE 対応多数傷病者対応訓練	2022 年 6 月 29 日
島尻消防主催 ドクターカー連携訓練	2022 年 10 月 31 日
第 45 回 救急症例検討会 特別講演「行かない理由はない！戦傷医療、国際派遣の実際 ～ロシア侵攻後に最初にウクライナ入りした日本人医師が語る～」講師 門馬秀介先生 参加者合計 117 名（現地参加者：消防 21 名、院内職員 21 名、ZOOM 参加：消防 70 名、院内職員 5 名）	2022 年 7 月 27 日
第 46 回 救急症例検討会 参加者合計 145 名（現地参加者：消防 39 名 院内職員 30 名 学生 1 名、Zoom 参加者：消防 72 名 院内職員 3 名）	2022 年 11 月 18 日
第 47 回 救急症例検討会 参加者合計 152 名（現地参加者：計 69 名、Zoom 参加者：計 83 名）	2023 年 3 月 3 日
第 1 回 沖縄子どもメディカルラリー ラリー参加小学生：33 名 運営スタッフ（院内 39 名、院外 37 名）：76 名 合計 109 名 + 保護者、見学者	2023 年 2 月 23 日

院内メディカルコントロール（MC）体制の確立

2021 年 10 月、救急救命士法の法改正があり、「病院若しくは診療所への搬送のため重度傷病者を救急用自動車等に乗せるまでの間、又は重度傷病者が病院若しくは診療所に到着し当該病院若しくは診療所に入院するまでの間」と救急救命処置が行える場所が拡大しました。しかし病院救命士が上記条件で活動するためには、院内メディカルコントロール体制の立ち上げと、「指示・指導・助言」が行える必要性があり、院内 MC 委員会を立ち上げ、院内二次検証体制を確立し、運営を始めています。

来年度の目標

- ・ 救急症例検討会の定期開催と充実
- ・ 院内ドクターカーシミュレーションの定期開催
- ・ 消防と連携したドクターカー連携訓練の開催、拡大
- ・ 救急医学会、臨床救急医学会、救急看護学会などへの演題提出、学会発表
- ・ 院外コース（ICLS、AHA BLS、AHA・ACLS、JPTEC、JNTEC、MCLS、MCLS-CBRNE、DMAT）などへのインストラクター・タスク派遣

ドクターカーを含めた病院前診療の質の向上、多数傷病者事案、災害発生時の病院体制、ER 体制を確立するための活動を本格的にしていく必要があると考えています。

また、当院だけでは地域災害、局地災害を乗り切ることが困難であり、地域や、県全体の災害対応のレベルを上げる活動もしていかなければいけません。

目の前の「助けて」を助けるため、「断らない救急」「ちゃんと助ける救急」を実践できるように「もっと助けるドクターカー」を活用しながら、院内職員、スタッフと一緒に勉強しながら活動を続けていきたいと考えています。

年度総括

今年度も COVID-19 に翻弄された一年ではありますが、だからこそ感染症診療と、感染対策の質を高める活動ができるようになったという自信も ER にはついてきました。

コロナ禍でも救急搬送を断らない、ドクターカーの運行休止をせず、救急搬送制限をかけない2年間を乗り越え、過去最高の救急搬送件数を引き受けられたのは、職員、スタッフのみなさんのがんばりのおかげだと感謝しています。

これからも地域に信頼してもらえる救急医療機関として、また災害拠点病院としての役割を果たしていけるように頑張っていきたいと思います。

救急総合診療部救急部長 三戸 正人

病理診断科

当科では、手術や検査などで採取された組織・細胞について、肉眼および顕微鏡を用いて評価を行い、良悪性の判断と詳細な疾患名、病期や病変の広がりなどを診断しています。また不幸にしてお亡くなりになられた患者様の病理解剖も担当しています。2020 年度より現在の常勤専門医 1 名 + 専攻医 1 名の体制となり、臨床検査科の細胞検査士・臨床検査技師とともに精度の高い病理組織診・細胞診を行うよう心がけています。

医師プロフィール

役職	氏名	専門分野	学会認定など
病理診断科部長	青山 肇	外科病理学一般	日本病理学会専門医 日本病理学会専門医指導医 日本臨床細胞学会専門医 死体解剖資格 日本消化器病学会専門医 日本内科学会認定内科医 医学博士
	古謝景輔	外科病理学一般	死体解剖資格

検査件数

臨床検査科のページに業務実績を掲載しております。

研究業績

論文著書

題名	雑誌名	掲載年・号・頁	著者等
Substantial improvement of histopathological diagnosis by whole slide image-based remote consultation.	Virchows Arch.	2022;481(2):295-305	Shinohara S, Fukuoka J, et al. 30 名中 13 番目

年度総括

2022 年度は組織診件数はまだコロナ禍前の水準には戻りませんでしたが、入院および外来での細胞診件数は漸増傾向にあります。今後も件数の増加に柔軟に対応できる標本作製・診断体制を築いていきます。また検体を受付けてから最終報告までに要する日数は、組織診で 3.4 日、細胞診で 2.0 日でした。

人材育成については、これまで沖縄県病理専門研修プログラム連携施設として専攻医をローテーションとして受け入れてきました。これら県内の若手病理医の育成によって、2023 年度は当院で病理診断管理加算 2 の施設基準を満たせるようになります。細胞診については現状ではスクリーニングを行う細胞検査士一人あたりの負担が重く、若手技師が細胞検査士資格を早期に取得できるよう、教育環境を整えていきます。これら人材育成を通じて、スピーディーかつ見落としのない正確な病理診断を心がけていきます。

病理解剖は死因の究明だけでなく、臨床病理カンファレンス (CPC) を通じて当院の医療の質担保や研修医教育にも欠かすことができません。当院ではコロナ禍以降は年平均 6 例の病理解剖を行っていますが、2022 年度は環境整備を進めることができ、今後はより柔軟な対応が可能になってきます。

当院の診療、特にがん診療の基盤として、早く・正確な病理診断を行えるよう、今後もスタッフ一同努めてまいります。

病理診断科部長 青山 肇

医局年度総括

救急医療から専門的な医療まで、様々なミッションにあたる医師たちの拠点ハビタット（「マーダーボット・ダイアリー」マーサ・ウェルズ著）が快適となるよう、弊機[※]も医局フィールドを情報収集していますが、もとより科の垣根を超えた合同医局なので、風通しの良い部署です。春に新しい先生方も加わり活気も感じています。医局行事の歓迎会、忘年会、送別会、研修修了パーティーなどは軒並みコロナ禍で中止していたので、もう動き出したアフターコロナの風潮に急発進しないよう整えていきます。

弊機としては副医局長、医局秘書、病院の助けを借りながら橋渡しができればと考えています。

最後に、昨今の働き方改革で会議など残業が減っています。まだ会議の数は増える自然法則（社会組織法則）がありますが、いつでもそれを整理する世の中になって欲しいものです。

大腸・肛門外科部長 兼 医局長 阿嘉 裕之

※マーダーボット・ダイアリーの主人公の1人称

看護部

部門紹介

職員数（2022年4月1日現在）

総数 540名

保健師 6名

助産師 25名

正看護師 410名

准看護師 10名

看護補助者 59名

保育士 1名

クラーク 27名

歯科衛生士 2名

認定看護師・認定看護管理者

分野	氏名
集中ケア	内間 幸人
感染管理	大城 美那
感染管理（専従）	城間 克也
皮膚・排泄ケア認定看護師（専従）	宮平 良太
乳がん看護	砂川 克子
緩和ケア	高宮 理沙
手術看護	富田 賢一
糖尿病看護	又吉 直美
救急看護	兼本 愛美
特定行為研修修了者	
特定行為研修修了者	富里 康太
糖尿病看護認定教育課程修了 特定行為研修修了者	比嘉 由布香
医療安全管理者	安村 公均
医療安全管理者養成研修修了者	外間 真紀子
	安谷屋 佳子
	屋宜 鮎美
	米須 智子

分野	氏名
医療安全管理者養成研修修了者	比嘉 暢
	勝連 しのぶ
認定看護管理者ファーストレベル履修	安谷屋 佳子
	東恩納 小百合
	宮城 つかさ
	崎山 久美
	屋宜 鮎美
	米須 智子
	島袋 すが子
	勝連 しのぶ
	田下 茜
	仲宗根 香織
	山内 美咲
認定看護管理者セカンドレベル履修	外間 真紀子
	安谷 屋佳子

看護部理念

わたくしたちは、患者さんの信頼に応え、感性豊かな心ふれあう看護を提供いたします。

看護部運営方針

1. 患者さんに満足していただける環境ときめ細やかな看護サービスを提供する
2. 専門職として看護の基本を大切に質の高い看護を実践する
3. 温かい心のふれあう看護ができる豊かな感性を培う
4. 地域住民のニーズに応える医療・保健・福祉を総合的にとらえ、地域医療に貢献する
5. 医療チーム内の情報交換を密にし、よいチームワークを図り、業務を円滑にする

看護体制

【看護体制】

入院基本料 7 対 1

勤務体制 二交代制

看護方式 固定チーム + デイパートナー方式

看護単位

- 一般病棟
 - 7 階病棟（呼吸器内科・循環器内科・糖尿病）
 - 6 階病棟（血液内科：クリーンルーム 10 床）
 - 5 階病棟（消化器内科・小児科）
 - 4 階病棟（外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科）
 - 3 階病棟（整形外科・脳神経外科・形成外科・眼科）
 - 東 4・5 病棟（産婦人科・乳腺外科・外来併設）

■ ICU 8 床

■ HCU 12 床

- 外来
 - 一般外来
 - 救急外来
 - 透析室

■ 手術室、中央材料室

■ 内視鏡センター

■ 予防医学センター

■ 入院支援室

症例・研究発表・活動実績

学会発表

学会名	演題名	開催地	発表年月日	発表者
第 24 回日本救急看護学会 学術集会	A 病院における脳卒中患者に対する治療開始までの時間短縮の取り組み	東京都	2022 年 10 月 14 日～15 日	新垣仕言、大宜見宗史、兼本愛美

研修実績

研修名	主催	開催日	参加者
看護補助者の活用促進のための看護管理者研修 改訂版 2022	沖縄県看護協会	2022 年 4 月 30 日	外間真紀子
2022 年度 ポリナビワークショップ in 沖縄	沖縄県看護連盟	2022 年 5 月 7 日	安谷屋佳子、比嘉暢
看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	沖縄県看護協会	2022 年 6 月 11 日	喜屋武香織
看護師のクリニカルラダーの導入と活用推進④ -1	沖縄県看護協会	2022 年 6 月 28 日	安谷屋佳子、島袋すが子、高宮江利子
認定看護管理者教育課程（ファーストレベル）	沖縄県看護協会	2022 年 6 月 28 日～8 月 2 日	喜屋武香織、山城敏裕
第 30 回日本乳癌学会学術総会	日本乳癌学会	2022 年 6 月 30 日～7 月 2 日	砂川克子
看護実践能力を育てる	沖縄県看護協会	2022 年 7 月 1 日	安谷屋佳子
2022 年度医療安全管理者養成研修（インターネット配信研修）	日本看護協会	2022 年 7 月 1 ～2023 年 1 月 10 日	比嘉暢

研修名	主催	開催日	参加者
看護師のクリニカルラダーの導入と活用推進④ -2	沖縄県看護協会	2022 年 8 月 9 日	安谷屋佳子、島袋すが子、高宮江利子
特定行為研修指導者講習会	Web (セコム医療システム株式会社)	2022 年 8 月 28 日	安谷屋佳子
看護職の働き方改革セミナーⅠ	沖縄県看護協会	2022 年 9 月 9 日	比嘉暢
第 27 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	Web(日本糖尿病教育・看護学会)	2022 年 9 月 17 日～9 月 18 日	又吉直美
看護師のクリニカルラダーの導入と活用推進④ -3	沖縄県看護協会	2022 年 10 月 7 日	安谷屋佳子、島袋すが子、高宮江利子
看護職の働き方改革セミナーⅡ	沖縄県看護協会	2022 年 10 月 14 日	比嘉暢
特定行為研修修了者からの活動報告	沖縄県看護協会	2022 年 11 月 19 日	安谷屋佳子
2022 年度医療安全管理者養成研修 集合研修	日本看護協会	2022 年 12 月 2 日	比嘉暢
看護師のクリニカルラダーの導入と活用推進④ -4	沖縄県看護協会	2022 年 1 月 12 日	安谷屋佳子、島袋すが子、高宮江利子
看護職のための教育学	沖縄県看護協会	2022 年 11 月 5 日	安谷屋佳子
看護基礎教育の変かんと継続教育	沖縄県看護協会	2022 年 12 月 26 日	安谷屋佳子

その他

研修名	主催	開催日	参加者
2 年目症例報告会	看護部 教育委員会	2022 年 12 月 12 日	2 年目看護師
中堅研修業務改善報告会	看護部 教育委員会	2022 年 12 月 19 日	砂川敦子、安里直美、伴悦子
1 年目看護体験発表	看護部 教育委員会	2023 年 1 月 30 日	1 年目看護師

各部署概要・実績

外来

外来師長 米須 智子

職員数

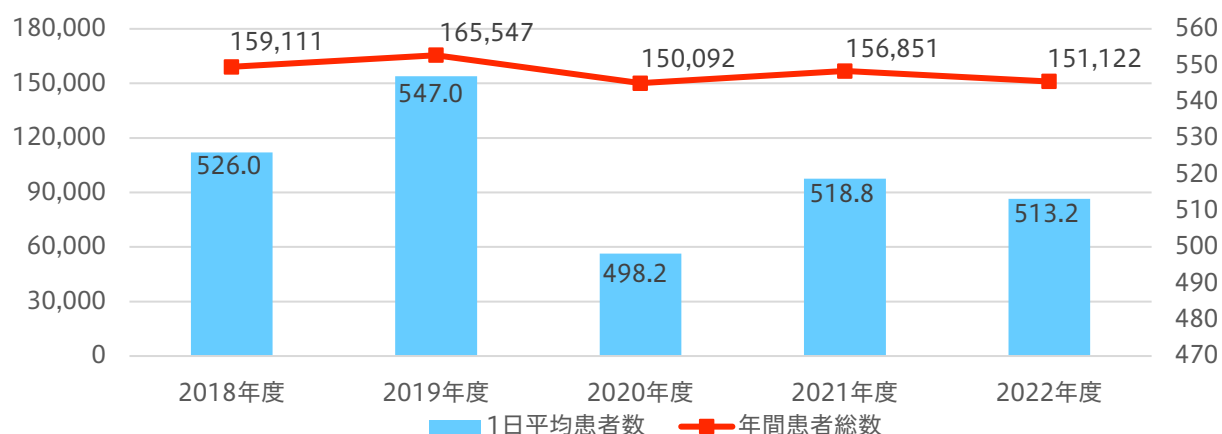
総数	42 名		
看護師	26 名	クラーク	11 名
看護補助者	4 名	歯科衛生士	1 名

資格・認定など

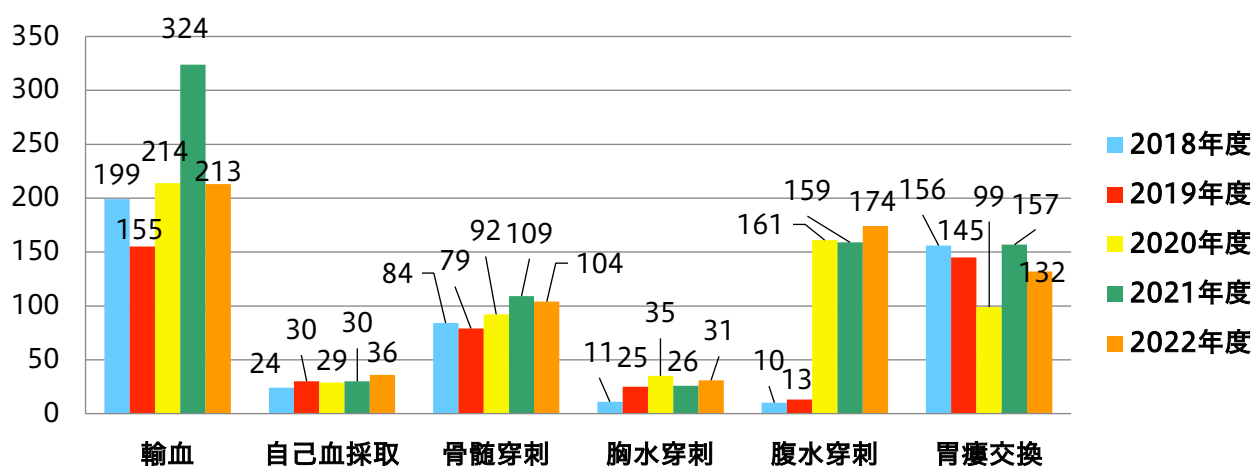
氏名	名称
米須 智子	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了 医療安全管理者養成研修修了 認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修修了 看護補助者活動推進のための看護管理者研修修了 18 重症度、医療・看護必要度評価者院内指導研修修了 実習指導者研修修了
玉城 秀美	実習指導者研修修了 医療安全管理者養成研修修了
石原 桂子	緩和ケア研修会 PEACE
新垣 薫	排尿機能検査士 リンパ浮腫複合的治療技術者 認定排尿ケア専門員コンチネンスリーダー 排尿時率指導専任ナース 快適 CIC 指導士
志喜屋 幸子	肝炎コーディネーター資格
大滝 正美	肝炎コーディネーター資格
砂川 敦子	肝炎コーディネーター資格
金城 こずえ	肝炎コーディネーター資格
山川 七七女	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了
島田 春奈	介護支援専門員 認知症キャラバンメイト

業務実績

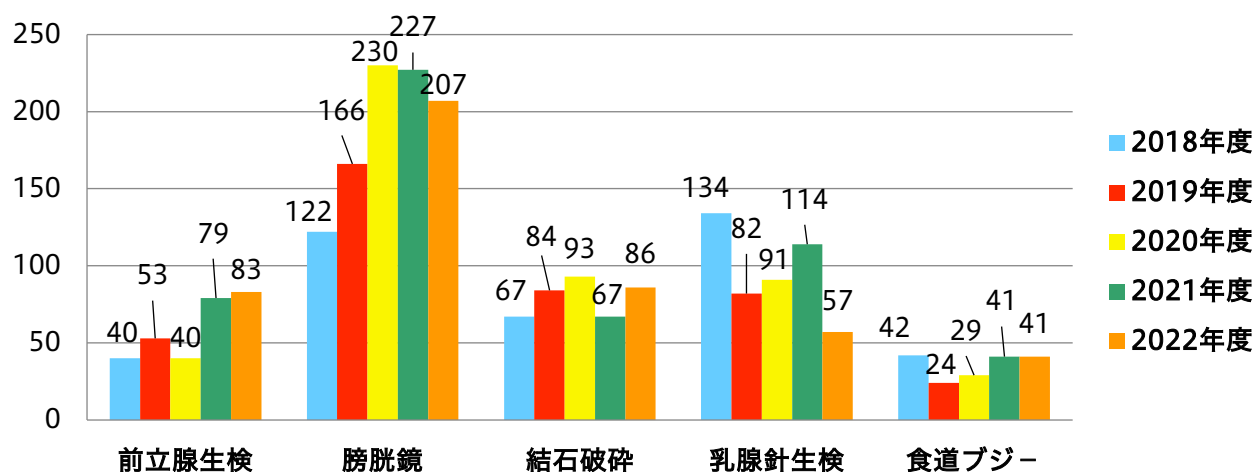
年間外来患者数と 1 日平均患者数（人）



外来で行われる主な処置件数の推移（件）



外来で行われる検査・治療件数の推移（件）



活動実績

院内・院外研修実績

研修名	主催	開催地	開催年月日	参加者
看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	沖縄県看護協会	南風原町	2022年8月27日	仲宗根香織
領域別研修（緩和ケア）	ハートライフ病院	当院	2022年9月3日～ 2022年10月3日	佐久真明日香
領域別研修（安全管理）	ハートライフ病院	当院	2022年9月24日 ～2022年10月22日	砂川敦子 富加見香余理
領域別研修（救急看護）	ハートライフ病院	当院	2022年10月8日	島田春奈 豊田夕子
外来看護と地域連携	沖縄県看護協会	南風原町	2022年10月15日	大滝正美 島田春奈
リーダー研修 プロフェッショナルマネージャーを目指す	沖縄県看護協会	南風原町	2022年11月12日	大滝正美
領域別研修（慢性心不全）	ハートライフ病院	院内	2022年11月19日	島田春奈 豊田夕子
領域別研修（乳がん看護）	ハートライフ病院	院内	2022年12月17日	島袋彩加

年度総括

新型コロナウイルス感染症の対応も 3 年目となり、当外来スタッフの感染対策に対する意識も定着し、受診された患者さんの安全を考慮した対応が行えるようになりました。スタッフの中では家族間感染による感染者も出ましたが、部署内での感染クラスターを一度も起こさなかったことは、職員の感染対策の意識が高まった結果だと考えます。

当院は 32 の診療科に加え、各種専門外来が行われています。外来では診療の介助や、処置室内での採血以外に多くの処置が行われています。限られた時間の中で安全に医療処置が行われる事が求められ、看護師の高い技術が必要とされています。技術だけでは解決ができない事として、処置室ベッド数の問題がありました。今年度は、処置室ベッド利用方法について診療部門との協議により定期点滴の患者を訪問看護へ継げ、ベッド確保が行えました。

今年度は、1、安全、安心、確実な看護実践 2、継続看護を行う病棟との連携作りを目標に様々な取り組みを行いました。取り組みの中で力を入れたことは病棟との連携作りで、外科病棟と外科外来の看護カンファレンスです。入院前から退院後の管理を行う外来と、入院病棟との連携がうまく行えていないことが長年の課題となっていました。継続看護を行うことが患者にとって、安心して在宅での生活が行える重要なカギであり、入退院を繰り返さない事にもつながります。カルテ内での情報共有では不足している部分などが看護カンファレンスで情報共有ができ、早期退院へ繋がった事例や終末期にある患者を緩和病床を有する病院へ早期に継げることができた事例などから、カンファレンス実施に力を入れた成果だと感じています。

2023 年度は病棟・外来看護カンファレンスを各科へ拡大し、病院内での連携強化を目標に掲げよりよい医療を提供できるように取り組んでいきたいと思います。

救急外来

救急外来師長 兼本 愛美

職員数

総数	25 名
看護師	23 名
救急救命士	3 名

認定・資格など

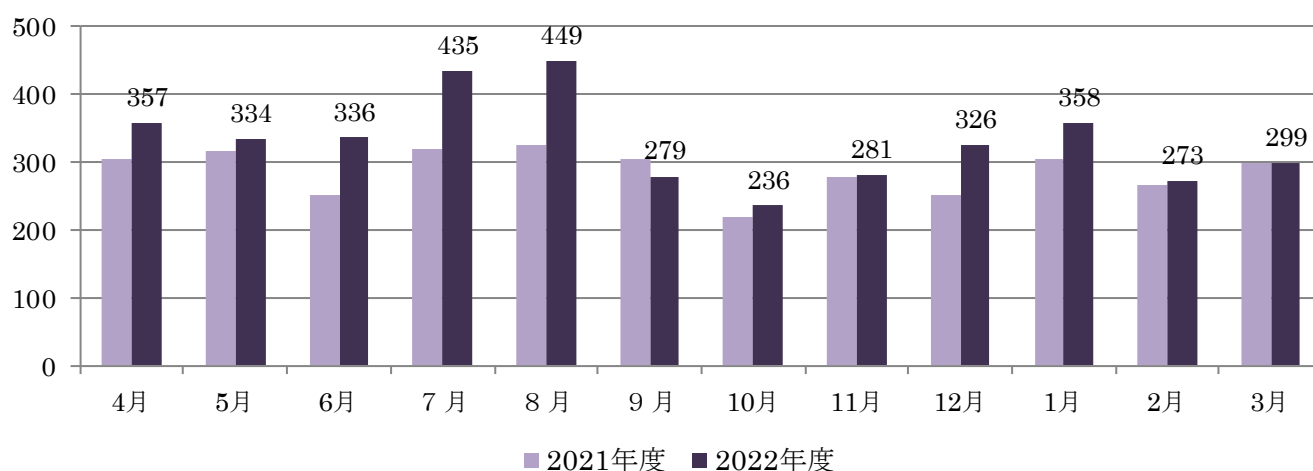
氏名	認定・資格・終了
兼本 愛美	救急看護認定看護師 特定行為研修修了 DMAT 隊員 AHA BLS インストラクター JPTEC インストラクター ICLS インストラクター
玉木 紀光	新人職員研修実施指導者研修修了
大宜見 千佳	新人職員研修実施指導者研修修了 AHA BLS インストラクター
新垣 仕言	ICLS インストラクター
大宜見 宗史	JPTEC インストラクター 災害支援ナース
森元 一晟	DMAT 隊員
萩原 良幸	AHA BLS インストラクター JPTEC インストラクター

業務実績

救急車受け入れ件数

2021 年度 3,444 件

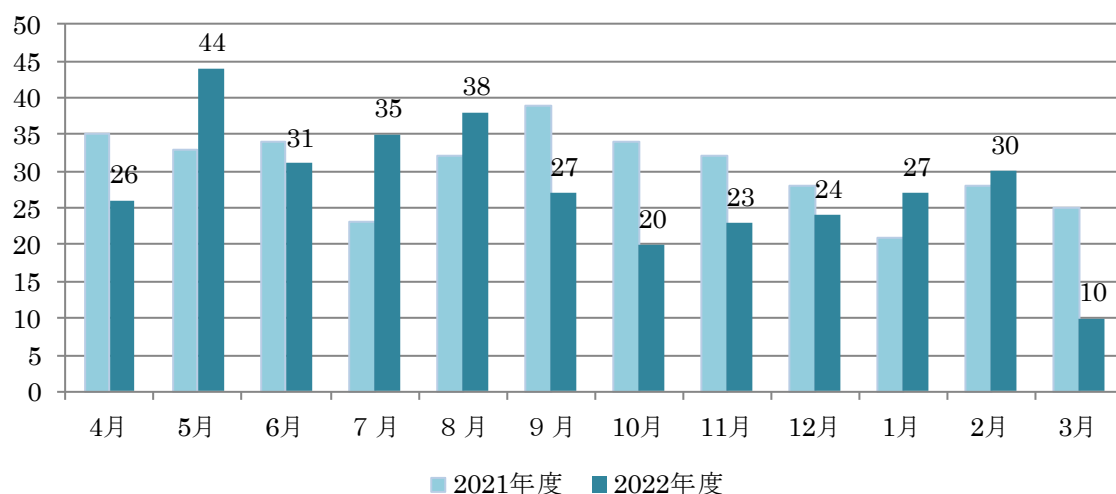
2022 年度 3,963 件



ドクターカー出動件数

2021 年度 364 件

2022 年度 335 件



活動実績

学会発表

演題名	学会名	開催地	年月日	発表者と研究者
A 病院における脳卒中患者に対する治療開始までの時間短縮の取り組み	第 24 回日本救急看護学会学術集会	東京都	2022 年 10 月 14 日～15 日	発表者：新垣仕言 共同演者：大宜見宗史、兼本愛美

その他活動

演題名	種別	開催地	開催日	発表者と共同演者
熱中症について	無料健康講座	西原呉屋自治会館	2022 年 9 月 22 日	宮里伸也、萩原良幸
災害看護論		名桜大学	2022 年 12 月 21 日	兼本愛美
喀痰吸引について	喀痰吸引指導者講習会	看護協会	2023 年 2 月 9 日	兼本愛美

研修実績

氏名	認定・資格・終了
友寄 聡子	PEARS プロバイダーコース JPTEC プロバイダーコース
大宜見 宗史	災害支援ナース研修
櫻井 宏美	JPTEC プロバイダーコース
我那覇 命	AHA BLS プロバイダーコース AHA ACLS プロバイダーコース
照屋 杏奈	新生児蘇生法講習会
桑江 美穂	PEARS プロバイダーコース JPTEC プロバイダーコース
平良 隼斗	JPTEC プロバイダーコース
萩原 良幸	AHA インストラクターコース

年度総括

2022 年度は、救急車受け入れ件数が 3,963 件と過去最多を更新しました。「地域の医療を守る」ということを掲げ、病院の全面的なバックアップと、救急外来に関わるスタッフ全員で限界に挑み続けた結果だと思います。

部署の目標である安全な医療の提供について、インシデント発生件数が 136 件と前年度より増加しています。対応する患者の増加、処置の増加などの背景が考えられます。3b 以上のインシデントは発生していません。また、レベル 0 の件数は増加しており、今後もヒヤリハットのレベル 0 の報告を増やし、未然に防ぐような関わり、再発防止に努め、スタッフの安全に対する意識の醸成につなげます。

感染対策について、コロナの罹患者が増加する中でも、スタッフ同士、患者～スタッフ間の感染者、濃厚接触者を発生させないような対策を日頃から行ってきました。コロナ患者の対応をしていることで、今まで以上に感染対策意識が高まったと感じています。

専門性の高い看護の提供については、コロナ禍でも機会を伺いながら、学習を続けてきました。日々の業務の中の振り返りや、各種講習会の受講、講師としての派遣で看護の質の向上につとめています。また、各資格の認定者からの OJT など専門性の高い看護の提供につとめています。今後も高齢化が進行する社会のニーズに応えるため、各分野の高い専門知識や技術とともに、看護師として広い視野をもって対応できるように心がけていきます。

人工透析室

師長 田下 茜

職員数

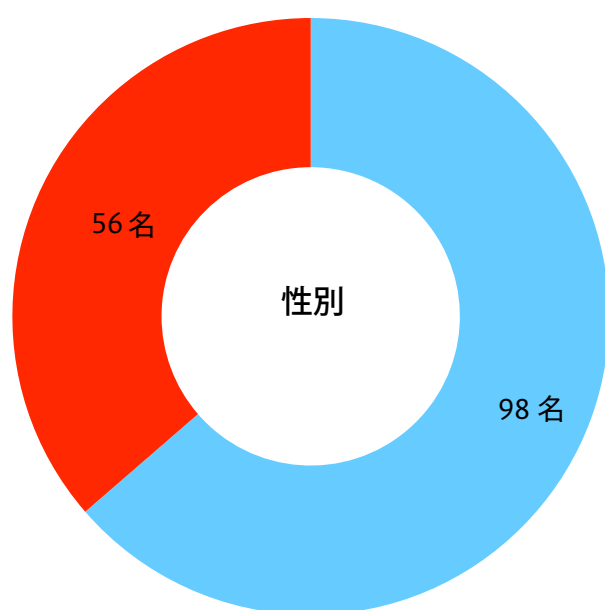
総数	28 名		
正看護師	24 名	看護補助者	4 名

認定・資格取得状況

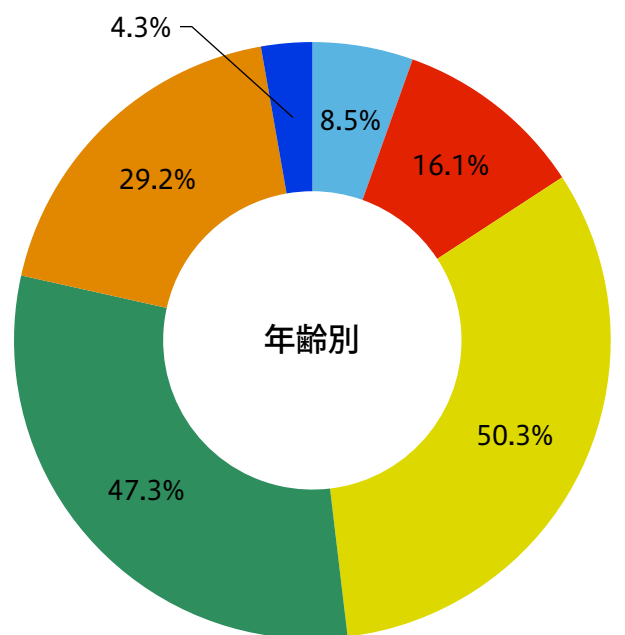
氏 名	名 称
田下 茜	慢性腎臓病療養指導士 CAPD 認定指導看護師 透析技術認定士 認定看護管理者教育課程ファーストレベル修了
上原 千晶	新人看護職員研修教育担当者研修修了 フットケア指導士
瀬底 真由美	透析技術認定士 フットケア指導士
赤嶺 美智江	透析技術認定士
伊保 和加子	透析技術認定士
呉屋 久子	透析技術認定士
堀江 恭子	糖尿病療養指導士

業務実績

- ・ 延べ透析患者数 154 名（血液透析患者数 151 名 腹膜透析患者数 3 名）
- ・ 新規導入患者数 17 名
- ・ 男性 :98 名 女性 :56 名 平均年齢 :70.0 歳

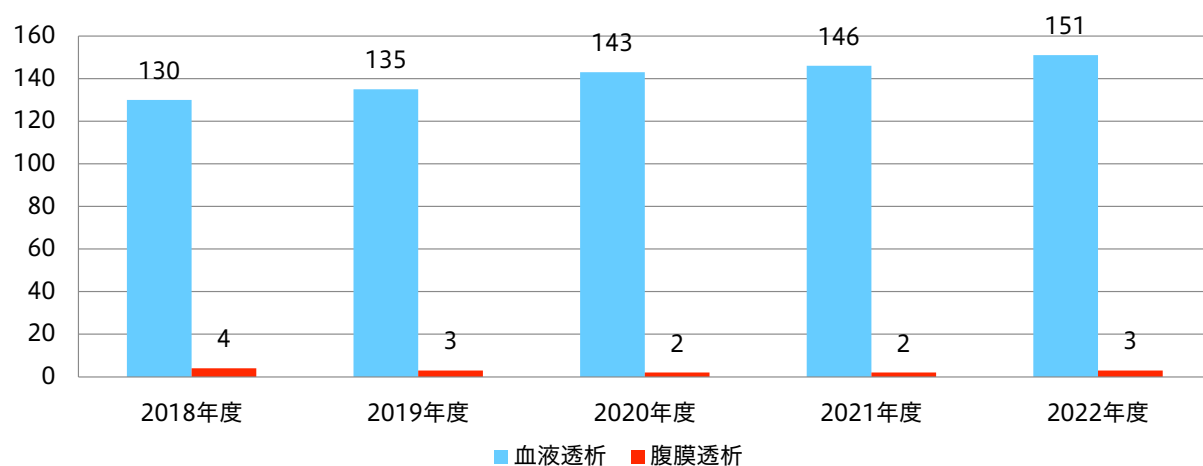


■ 男性 ■ 女性

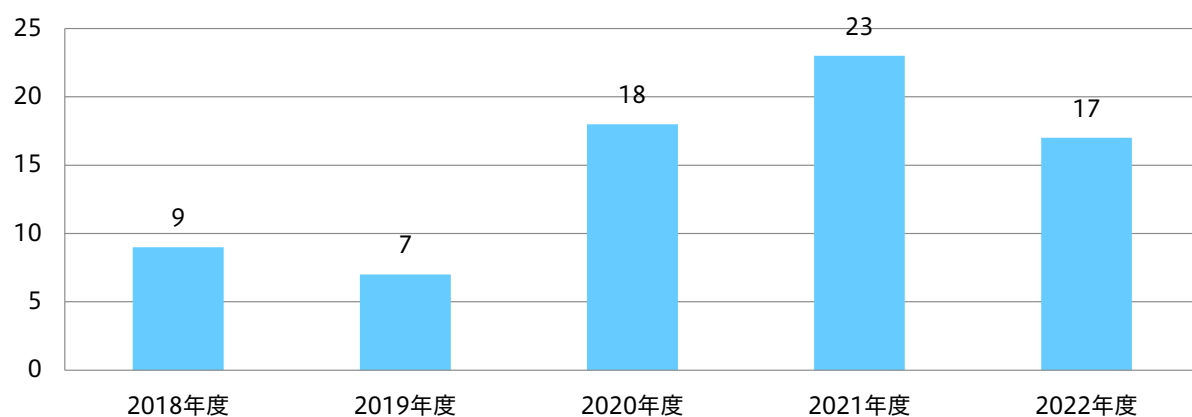


■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代 ■ 80代 ■ 90代

延べ透析患者数（人）



新規導入患者総数（人）



活動実績

院外研修参加実績

研修名	主催	開催地	開催年月日	参加者
2022 年度ポリナビワークショップ in 沖縄	看護協会	沖縄	2022 年 5 月 7 日	新垣美久
フレッシュマン研修	看護協会	沖縄	2022 年 5 月 10 日	榮門蒼
腎臓病 SDM セミナー 2022 ベーシックコース実践編	腎臓病 SDM 推進協会	沖縄	2022 年 5 月 15 日	田下茜、佐次田桃子、渡真利久美子、新垣美久
看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	看護協会	沖縄	2022 年 6 月 11 日	田下茜
新人看護研修Ⅱ～身につけよう社会人基礎力～	看護協会	沖縄	2022 年 6 月 21 日	榮門蒼
第 67 回日本透析医学会学術集会・総会	日本透析医学会	横浜（オンライン）	2022 年 7 月 1 日～7 月 3 日	田下茜、伊保和加子、瀬底真由美、新里恭子、呉屋久子
看護職と倫理（入門編）	看護協会	沖縄	2022 年 7 月 5 日	伊保和加子
看護連盟通常総会	看護協会	沖縄	2022 年 7 月 9 日	平良美幸
医療安全と感染管理	看護協会	沖縄	2022 年 7 月 14 日	榮門蒼
臨床判断能力を育てる	看護協会	沖縄	2022 年 7 月 22 日	新里恭子
腎臓リハビリテーションガイドライン講習会	腎臓リハビリテーション学会	オンライン	2022 年 7 月 31 日	上原千晶、平良美幸、新里恭子

研修名	主催	開催地	開催年月日	参加者
令和4年度透析療法従事職員研修	日本腎臓財団	オンライン	2022 年 8 月 1 日～ 8 月 31 日	上原千晶、富田暁美、堀江恭子、 川上美和子、渡真利久美子、高 江洲百合、新垣美久
第4回日本フットケア・足病医学会 九州・沖縄地方会学術集会	日本フットケア・ 足病医学会	オンライン	2022 年 10 月 8 日 ～ 9 日	上原千晶
病院と地域を”看護”がつなぐ ～地域包括ケアを支える看護連携へ～	看護協会	沖縄	2022 年 10 月 11 日	田下茜
第25回日本腎不全看護学会学術集会	日本腎不全 看護学会	オンライン	2022 年 10 月 15 日 ～ 16 日	田下茜
コンピテンシーモデルを活用した看護管理 ～人材育成のヒントを学ぼう～	看護協会	沖縄	2022 年 10 月 21 日	田下茜
2022 年度ポリナビワークショップ in 沖縄	看護協会	沖縄	2022 年 11 月 26 日	上原千晶
第28回日本腹膜透析医学会学術集会	日本腹膜透析 医学会	オンライン	2022 年 11 月 26 日 ～ 27 日	田下茜
第54回九州人工透析研究会総会	九州人工透析 研究会総会	沖縄	2022 年 12 月 11 日	田下茜、上原千晶、伊保和加 子
アサーションコミュニケーションスキル	看護協会	沖縄	2022 年 12 月 24 日	榮門蒼
第1回腎代替療法セミナー	友愛医療セン ター	沖縄	2023 年 1 月 31 日	田下茜
第40回沖縄県人工透析研究会	沖縄県人工透 析研究会	沖縄	2023 年 3 月 5 日	上原千晶、瀬底真由美、大工 夏希、平良美幸、伊保和加子、 赤嶺美智江、榮門蒼、儀間裕子、

年度総括

2022 年度は、腎臓内科医および専任看護師を中心に腎代替療法選択外来において、患者さん、ご家族と一緒に時間をかけて患者さんの価値観や希望にあったものを選択できるよう意志決定支援を実施しました。腎代替療法選択の支援を通して、新規導入患者 17 名のうち、血液透析 14 名、腹膜透析 3 名、生体腎移植への紹介 1 名、献腎移植登録への紹介 1 件へつなげることができました。また、3 名の患者さんが献腎移植登録を継続されています。月に 1 回の透析糖尿病外来では、糖尿病医の小原先生や糖尿病療養指導看護師を中心に糖尿病患者さんの血糖管理やセルフケア指導など、生活の質（QOL）向上につながるよう糖尿病看護を行なっています。今後も、患者さんの個別性を大切に、患者さんのニーズに合った看護やケアが提供できるよう、専門的ケア、サービスの充実を継続していききたいと思います。

今年度は、災害対策に取り組み、災害対応マニュアルの改訂、緊急時の連絡方法などについて患者さんおよびご家族へ周知しながら、スタッフへの教育、緊急時の離脱方法などの訓練を実施しました。次年度も、引き続き患者さんやご家族の不安が軽減し、災害に備えができるよう一緒に災害対策に取り組んでいききたいと思います。

透析患者さんの高齢化や社会的支援が必要な患者さんが増加しています。透析患者さんが住み慣れた地域で生活しながら、安心して透析治療が継続できるよう、次年度も引き続き、地域や多職種と連携し生活支援につなげていけるよう力を入れていききたいと思います。また、患者さんの「自分らしく生きる」を支援していけるよう、患者さんやご家族と一緒に ACP（アドバンス・ケア・プランニング）にも取り組んでいききたいと思います。

今年度も、コロナ対策に迫られた 1 年でしたが、患者さんやご家族の感染予防対策へのご協力に感謝しております。

手術室・中央材料室

手術室・中央材料室師長 東恩納 小百合

職員数

総数 29 名

正看護師 21 名

看護補助者 5 名

クーク 1 名

臨床工学技士 2 名

認定・資格取得状況

氏名	名称
東恩納 小百合	認定看護管理者教育課程ファースト研修終了 重症度・医療・看護必要度評価者 院内指導者研修
富田 賢一	周術期管理チーム認定看護師 手術看護認定看護師資格
呉屋 真由美	特定化学物質四アルキル鉛等作業主任者
久手堅 緑	特定化学物質四アルキル鉛等作業主任者 普通第一種圧力容器取扱作業主任者
久志 周子	周術期管理チーム認定看護師
崎山 梨奈	周術期管理チーム認定看護師
山田 彩花	新人職員研修実施指導者研修修了

業務実績

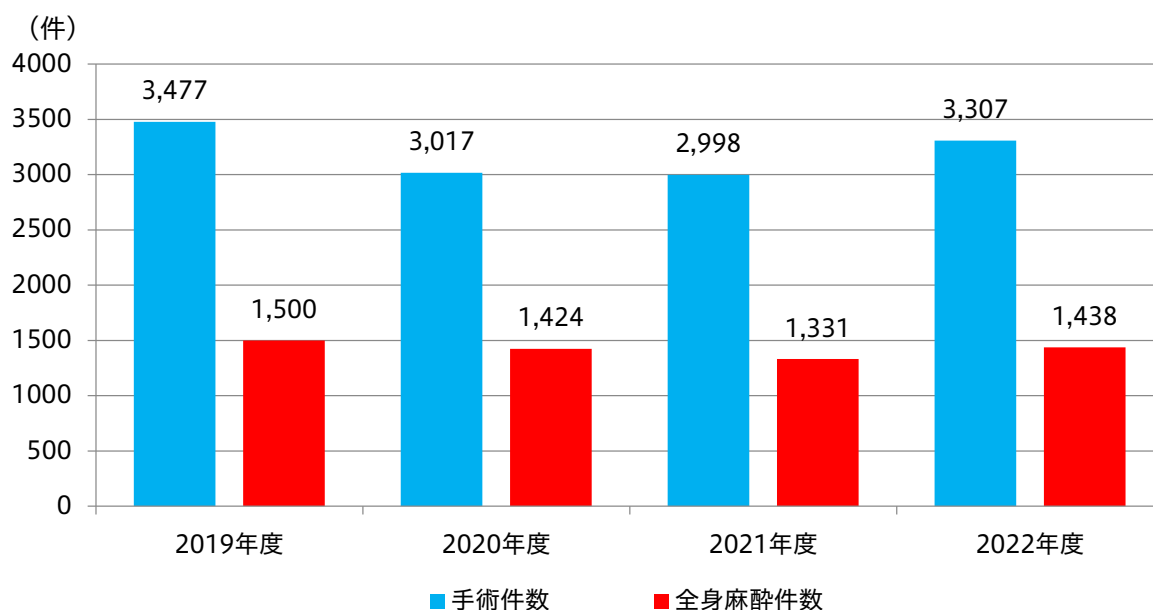
手術実績

月平均手術件数 276 件

1 日最大手術件数 27 件

1 日平均手術件数 14 件

手術件数推移



活動実績

院内・院外研修実績

研修名	主催	開催地	開催年月日	参加者
ポリナビワークショップ in 沖縄 特定行為・認定看護師の現状と課題	沖縄看護連盟		2022 年 5 月 7 日	高宮城 琴美
フレッシュマン研修Ⅰ	沖縄看護協会	南風原	2022 年 5 月 10・12 日	棚原舞、弥永玲多、西結実花
術後疼痛管理研修受講	(公社) 日本麻酔科学会		2022 年 5 月 31 日	富田 賢一、宜保 真理
新人看護職員研修Ⅱ～身につけよう社会人基礎力～	沖縄看護協会	南風原	2022 年 6 月 21・22 日	棚原舞、西結実花、弥永玲多
特定行為研修受講	友愛医療センター		2022 年 6 月 24 日	富田 賢一
沖縄県看護連盟通常総会	沖縄看護協会		2022 年 7 月 9 日	山田 彩花
新人看護職員研修Ⅲ 医療安全と感染管理	沖縄看護協会	南風原	2022 年 7 月 14 日	棚原舞、弥永玲多
アサーションコミュニケーションスキル (新人看護師研修Ⅳ)	沖縄看護協会		2022 年 8 月 6 日	棚原舞、西結実花、弥永玲多
看護師特定行為研修(術中管理領域特定行為研修)	友愛医療センター		2022 年 10 月 1 日～	富田 賢一
新人看護職員研修実地指導者研修	沖縄看護協会	南風原	2022 年 11 月 8 日	山田彩花
沖縄県分会 総会 研修会	沖縄手術室県分会	WEB	2022 年 11 月 19 日	東恩納小百合、呉屋真由美、神里歩、久手堅緑、古内正輝、内間亜綾、久志周子、宜保真理、安里樹乃、仲嶺千絵、崎山梨奈、濱門梨子、山田彩花、菅原はるか、上原早貴
看護組織におけるサーバントリーダーシップ	沖縄看護協会	南風原	2022 年 11 月 24 日	東恩納小百合
新人看護職員研修Ⅳ アサーションコミュニケーションスキル	沖縄看護協会	南風原	2022 年 12 月 24 日	棚原舞、弥永玲多
ポリナビワークショップ沖縄 見聞色の看護～急変させない～	ロワジールホテル那覇	那覇	2022 年 11 月 26 日	棚原舞
沖縄県分会 看護研修発表研修会	沖縄手術室県分会	WEB	2022 年 3 月 11 日	東恩納小百合、呉屋真由美、許田敏行、久手堅緑、内間亜綾、久志周子、宜保真理、仲嶺千絵、濱門梨子、山田彩花、富田賢一、弥永玲多、西表和美、與那嶺琴美、棚原舞

年度総括

前年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、78 日間の手術制限期間があり、目標手術件数 3,500 件に対して 3,307 件と目標達成には至りませんでした。しかし、前年度手術件数を 309 件上回る件数をこなし、11 月は過去最高件数 346 件 / 月と多忙な月となりましたが診療科側は勿論のこと、スタッフ、麻酔科医師と協力し安全な手術を提供できるよう努めることができました。

また、今年度はかりゆし会研究発表会にて 1 位という名誉な賞を頂きました。スタッフの頑張りが認められ大変喜ばしい出来事でした。さらに、院内に留まらず沖縄県手術室県分会にも参加し、県内の手術室看護師へ当院の研究を知ってもらう機会も頂きました。スタッフのモチベーション向上に繋がったと実感しています。

スタッフの知識向上面では、コロナ禍で感染対策を図りながら、手術室認定看護師を中心に、特殊体位の勉強会を開催し患者さんの安全、安楽な体位について勉強会を行う事ができました。学んだ知識を即実践へと活かせるいい勉強会となっています。

しかし、連携不足による安全面でのインシデントが発生したことを部署では重く受け止め、部署会にて

スタッフ全員でクイックセーファーを行い、事例の振り返りと安全行動について話し合いを持ちました。手術室にとって連携不足は患者さんへ直結していることが多く、確認行動「曖昧を確実に」をモットーに次年度も引き続き全員で取り組んでいきます。

また、院内全体で取り組んでいる災害対策を手術室版へと落とし込み、手術室独自のアクションカードが作成されました。作成に留まらず、継続的に訓練を行いバージョンアップを目指していきたいと思っています。

前残業低減として、10月から早出勤務を導入し手術の準備時間を前残業ではなく勤務時間内とする取り組みをトライアルで開始したところです。次年度残業低減の詳細を報告できると思います。

前年度より専従用度課員が配置となり、診療材料の定数見直しや安価な物への変更をするなど、コスト削減に取り組んだところ 約 400 万 / 年 のコスト削減を行うことが出来ました。

昨今の物価高騰など難題も多い中、専従用度課員の努力と診療科側の協力あつての結果だと思っています。

次年度も前年度同様、手術件数増加を目標に他職種体制の構築、安全な医療の提供を目指します。

ICU

ICU 師長 内間 幸人

職員数

総数 22 名

正看護師 20 名

看護補助者 2 名

認定・資格取得状況

認定資格者	
呼吸療法士認定	内間幸人、阿部誠、富里康太、石戸谷也寸志、山城奈保子、森下佳美、太田尾祐太
臨床工学技士	阿部誠
集中ケア認定看護師	内間幸人
特定行為研修修了者	富里康太
AHA BLS インストラクター	内間幸人
沖縄県保健師・助産師・看護師実習指導者講習会 修了	山城奈保子

業務実績

月平均入院患者状況

新規入院患者数 29.2 名

病床利用数 3.4 床

在院日数 4.4 日

その他の ICU の業務実績は患者統計のページをご覧ください。

活動実績

院内・院外研修実績

研修名	主催	月日	参加者
2022 年度 ポリナビワークショップ in 沖縄	沖縄県看護連盟	2022 年 5 月 7 日	沖田 歩武
2022 年度 ポリナビワークショップ in 沖縄	沖縄県看護連盟	2022 年 5 月 7 日	古謝 結
フィジカルアセスメント・臨床推論の進め方	沖縄県看護協会	2022 年 5 月 14 日	大嶺 菜里
フィジカルアセスメント・臨床推論の進め方	沖縄県看護協会	2022 年 5 月 14 日	内間 幸人
新人看護職（フレッシュマン）研修Ⅰ	沖縄県看護協会	2022 年 5 月 17 日	古謝 結
新人看護職（フレッシュマン）研修Ⅰ	沖縄県看護協会	2022 年 5 月 19 日	沖田 歩武
新人看護職研修Ⅱ ～身につけよう社会人基礎力～	沖縄県看護協会	2022 年 6 月 21 日	沖田 歩武
2022 年度 沖縄県看護連盟通常総会	沖縄県看護連盟	2022 年 7 月 9 日	内間 幸人
新人看護職研修Ⅲ 医療安全と感染管理	沖縄県看護協会	2022 年 7 月 14 日	古謝 結
災害看護（実践編）～被災者のニーズに応えられる実践力を育む～	沖縄県看護協会	2022 年 9 月 13 日・14 日	玉城玲奈

2021 年度目標

1. 安全な医療の提供

- ①レベルⅡ以上の発生件数を前年度比 10%減
- ②患者誤認ゼロ
- ③褥瘡の新規発生 50%減
- ④静脈炎重症例発生ゼロ
- ⑤レベル 3b 以上の発生ゼロ

2. 専門性の高い看護ケアの実践

- ①アセスメント力向上・OJT の推進
- ②個人目標管理の実践

3. チーム医療の推進

- ①他職種間の連携強化
- ② ER、ICU、HCU の連携・強化
- ③早期リハビリテーションの促進
- ④医師を交えたカンファレンスの実施

年度総括

今年度目標とした安全な医療の提供では、年間のインシデント発生件数は 146 件で前年度に比べ 17 件の増加でした。その中で発生件数が最も多かった事象は、特定の薬剤による静脈炎発生で 35 件発生していました。静脈炎予防のための取り組みを開始したので、引き続き調査を継続します。全体のインシデント発生では、3b 以上の発生が 2 件ありました。それぞれの発生後に看護師を中心にデブリーフィングを行い、今後の対応に繋げていけるよう努めています。患者誤認発生は無く目標達成が出来ました。

専門性の高い看護ケアの提供では、新卒看護師の配属を 2 名受け入れました。プリセプターを中心に主任、スタッフが協力して指導・教育を行い、1 年目の目標を概ね到達する事が出来ました。また、特定行為研修修了者の活用では、特定行為の実施件数を重ねており、実践を通しての指導などを部署内で継続していきたいと思います。

チーム医療の推進では、部署間研修として救急外来から 1 名のスタッフを受け入れました。部署間研修を通してお互い学び合う機会があり効果的に行われています。次年度は ICU のスタッフを救急外来に研修派遣したいと考えています。医師を交えたカンファレンスの実施については、様々な課題を抱える患者の問題解決に向けて不定期で少ない件数ではありますが実践出来ました。今後は件数の増加や定着に向けての取り組みを検討していきたいです。

HCU

HCU 師長 山城 敏裕

職員数

総数 19 名

正看護師 17 名

看護補助者 2 名

認定・資格など

氏名	認定・資格
山城 敏裕	呼吸療法認定 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修修了
又吉 愛美	重症度、医療・看護必要度』評価者及び院内指導者研修修了
與那嶺 史子	呼吸療法認定 重症度、医療・看護必要度』評価者及び院内指導者研修修了
仲眞 菜都美	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了
吉川 麻香	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了
伊佐 香朱美	重症度、医療・看護必要度』評価者及び院内指導者研修修了
渡口 純	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了
仲村 和士	呼吸療法認定

業務実績

月平均入院患者状況

新規入院患者数 39.0 人（前年度 36.4 人）【目標 33.0 以上】

平均在室日数 5.7 日（前年度 3.3 日 / 月）【目標 8.3 日以下】

平均病床利用数 3.3 床（前年度 4.6 床 / 月）【目標 7.0 床以上】

重症度、医療・

看護必要度 月平均 88.3%（前年度 92%）【目標 80%以上】

活動実績

研修実績

研修名	月日	参加者
フレッシュマン研修	2022 年 4 月 27 日、5 月 12 日、5 月 17 日、5 月 19 日	安慶名 成美
2022 年度ポリナビワークショップ in 沖縄	2022 年 5 月 7 日	山城 敏裕
認知症対応力向上研修	2022 年 6 月 2 日～4 日	山城 敏裕
認知症高齢者の看護実践に必要な知識 (DVD)	2022 年 6 月 18 日、7 月 27 日、28 日	吉川 麻香
認定看護管理者教育課程 (ファーストレベル)	2022 年 6 月 28 日～8 月 2 日	山城 敏裕
認知症高齢者看護実践に必要な知識	2022 年 7 月 27 ～7 月 28 日	吉川 麻香
『重症度、医療・看護必要度』評価者及び院内指導者研修	10 月 15 日、7 月 1 日～9 月 30 日	伊佐 香朱美、又吉 愛美

年度総括

2022 年度は人員不足で苦渋する一年でした。さらに、コロナの影響によるスタッフの就業制限などで人員の確保が困難な状況でありました。そのなかで、新規入院患者数や看護必要度の維持ができたのはスタッフの頑張りがあったからだと思っています。さらに、ICU や透析、内視鏡、外来、他部署からの応援がありこの困難を乗り切ることができたと考えます。しかし、残念ながら病床数は目標到達できませんでしたが、病院運営を考慮した柔軟なベッドコントロールは行っていたと考えます。

顧客の視点として、今年度は患者サービスに努めていきました。それは、重篤な病態である中、患者の整容に力をいれ、長期在室している患者も楽しみながらリハビリをできる環境作りをスタッフと共に行ってきました。そのことから、今年度のクレームはなしであったと考えます。しかし、退職者は5人と例年に比べても多く、その理由は次のステージへ進む為の退職ではありましたが、今後はスタッフの環境調整など行っていきながら人員確保と定着に努めていきます。

業務の視点として、安全な療養環境作りに努めていきました。そのため、前年度に多かったインシデントに対しての介入を行っていきました。その介入を行った結果、インシデント件数自体は減少し、インシデント件数89件/年となりました。しかし、介入が必要な事象が60件と増加、介入が必要ない症例が減少、29件となっているため、今後は介入が必要ない症例件数の増加、前年度から進めている原因分析についてもさらに強化していきます。

学習の視点として、OJT 強化に努めていきました。しかし、人員不足の中では十分な指導や経験など困難な状況でした。さらに、研修参加などもコロナの影響で減少していたため、web セミナーや文献などで、部署で学習できる環境作りを積極的に行っていきました。今後は人員がいなくても教育できるような体制作りや業務整理を行っていききたいと思います。

東館 4・5 階病棟（産科・婦人科・女性混合）、産婦人科外来

東館 4・5 階病棟師長 我那覇 美帆

職員数

総数 41 名

助産師 19 名

正看護師 16 名

看護補助者 4 名

クラーク 2 名

認定・資格など

氏名	名称
我那覇 美帆	臨床実習指導者研修修了 新人看護職員臨地指導者講習修了 新生児蘇生「専門」コース修了 JPTEC 研修修了 看護必要度研修受講証明取得
崎山 久美	アドバンス助産師 管理者研修ファーストレベル修了 新生児蘇生「専門」コース修了認定
具志堅 理沙	新生児蘇生「専門」コース修了認定 臨床実習指導者研修受講修了
江島 純子	マタニティヨガインストラクター 新生児蘇生「専門」コース修了認定
榮 奈々子	アドバンス助産師 臨床実習指導者研修修了 新生児蘇生「専門」コース修了認定
金城 嘉奈子	アドバンス助産師 新生児蘇生「専門」コース修了認定
本村 いずみ	新生児蘇生「専門」コース修了認定
下地 タ希	新生児蘇生「専門」コース修了認定
多和田 ちひろ	アドバンス助産師 新生児蘇生「専門」コース修了認定 マタニティヨガ
中根 汐香	新生児蘇生「専門」コース修了認定
原 順子	アドバンス助産師 新生児蘇生「専門」コース修了認定
利岡万里子	アドバンス助産師 新生児蘇生「専門」コース修了認定

業務実績

新規入院患者数	128 人 / 月 前年度 113.8 人 / 月
病床利用数	24.0 床 前年度 21.8 床
平均在院日数	5.2 日 前年度同様
実外来患者数	790 人 / 月 （前年度より年間 300 人近く増加）
分娩件数	550 件 （前年度より +5 件）
助産師外来	50 件 / 月 （コロナ禍にて中止していたが、2022 年 7 月より再開）
産後健診	80 件 / 月 前年度 46.4 件 / 月

活動実績

院外研修実績

研修名	主催	年月日	参加者
看護補助者の活用促進のための看護管理者研修 改訂版 2022	沖縄県看護協会	2022 年 4 月 30 日	我那覇美帆
2022 年度ポリナビワークショップ in 沖縄	沖縄県看護連盟	2022 年 5 月 7 日	東江秋乃
フィジカルアセスメント・臨床推論の進め方	沖縄県看護協会	2022 年 5 月 14 日	宮崎優奈、砂川智菜津
新人看護職（フレッシュマン）研修Ⅰ	沖縄県看護協会	2022 年 5 月 17 日	安村知紗
新人看護職（フレッシュマン）研修Ⅰ	沖縄県看護協会	2022 年 5 月 17 日	仲原悠花
新人看護職（フレッシュマン）研修Ⅰ（オンライン）	沖縄県看護協会	2022 年 5 月 19 日	東由莉
新人看護職研修Ⅱ 身につけよう社会人基礎力	沖縄県看護協会	2022 年 6 月 22 日	安村知紗
新人看護職研修Ⅱ 身につけよう社会人基礎力	沖縄県看護協会	2022 年 6 月 22 日	仲原悠花
新人看護職研修Ⅱ 身につけよう社会人基礎力	沖縄県看護協会	2022 年 6 月 22 日	東由莉
沖縄県助産師出向支援事業研修参加施設説明会	沖縄県看護協会	2022 年 7 月 11 日	我那覇美帆
産科看護管理者交流会	沖縄県看護協会	2022 年 7 月 30 日	我那覇美帆
産科看護管理者交流会	沖縄県看護協会	2022 年 7 月 30 日	金城嘉奈子

院内研修実績

研修名	年月日	参加者
糖尿病領域研修 1	2022 年 7 月 19 日	多和田ちひろ
安全領域研修 1	2022 年 9 月 24 日	江島純子
救急看護領域研修	2022 年 10 月 8 日	平良唯香
糖尿病領域研修 2	2022 年 10 月 18 日	多和田ちひろ
安全領域研修 2	2022 年 10 月 22 日	江島純子
手術看護領域研修	2022 年 11 月 5 日	金城真衣
慢性心不全領域研修	2022 年 11 月 19 日	宮里鈴奈
乳癌看護領域研修	2022 年 12 月 17 日	金城真衣
感染領域研修	2023 年 1 月 21 日	上原美佳
糖尿病領域研修 3	2023 年 2 月 21 日	多和田ちひろ

年度総括

2022 年度は、2021 年度同様の下記の課題に対して目標を持ち取り組みを行いました。

1. 部署内に産科病棟、婦人科乳腺外科、産婦人科外来と異なる診療科の存在、フロアも分かれている
2. 助産師・看護師という 2 職種が共に働いており、領域により習熟度が異なる

2022 年度目標

1. 専門職として質の高い看護を提供する
 - 1) 固定チームナースングを継続し、各個人がチーム内の役割を認識し主体的に取り組む
 - 2) キャリアパスに沿った個人目標を設定し、目標達成できるように取り組む
2. 安全・感染行動をルール通りに実践できる
 - 1) レベル 2 以上のクイックセーフターの徹底
 - 2) コロナ陽性妊産婦へ対応し、院内感染を起こさない
 - 3) 安全・感染に関する事象から得た学びをマニュアルに取込み、部署内で周知できる
3. 部署間・部署内で丁寧な連携を実践する
 - 1) 外来⇒入院の連携を強化し、継続看護を実践する
 - 2) 他部署との連携を強化し、コロナ陽性妊産婦へ安心感を与えられる環境を整える
 - 3) 院外からの研修（助産外来出向研修）受け入れを行い、他施設との連携を深め、知識・技術向上を目指す

チームナーシングの継続ができ、スタッフ一人ひとりのチーム員としての意識が芽生え、チーム活動を進めることが出来ました。質の向上につながり、昨年度より病床利用と新規入院患者数、分娩件数と外来患者数ともに増加し、さらにお褒めの投書が 21 件と前年 15 件を大きく上回りました。在院日数が短く、分娩、手術目的の患者さんが多く入院されており、日々の業務は多忙になっています。その中で、日々看護の質向上に向けて業務改善を行いながら、スタッフ一人ひとりが疲弊せず目標に向かって努力できるような職場環境にしたいと考えています。

また、産後鬱の増加から、国の事業でも産後ケア事業の拡大が検討されており、既存の産後健診をより細かく導入する市町村も多くなっております。近隣の市町村も同様の取り組みを行っており、当院助産師が産後 1 か月健診までに行うべき産後鬱に関する取り組み内容は拡大しています。対応できる助産師を育成し、質を維持しながら事業拡大できるよう人員配置の再検討も行っていく予定です。

2024 年度から開始する、医師の働き方改革に向けても病棟全体で取り組んでおります。産科領域では、チーム担当医制を導入し、看護師・助産師と連携しながら、チーム全体で患者さんの情報を共有することを心がけています。

次年度も、上記 2 点の課題に対して取り組みを重ね、質の高い医療・看護が提供できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

3 階病棟（整形外科・脳神経外科・眼科・形成外科）

師長代行 奥間 有太郎

職員数

総数 42 名

正看護師 33.5 名

看護補助者 7.5 名

認定・資格など

氏名	名称
奥間有太郎	実習指導者研修受講修了 新人職員研修実施指導者研修受講修了証習得 重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修修了 認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修終了 認知症ケア加算Ⅱ対象
大見謝奈々	病院看護師のための認知症対応力向上研修会修了 認知症ケア加算Ⅱ対象 実習指導者研修受講修了 新人看護職員研修実施指導者研修受講修了証習得 重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修修了
福末直史	呼吸療法士認定
比嘉由布香	日本糖尿病療養指導士認定 日本看護協会研修学校認定看護師教育課程修了
永村麻衣子	実習指導者研修受講修了 認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修終了 認知症ケア加算Ⅱ対象

業務実績

新規入院患者数 1,027 人

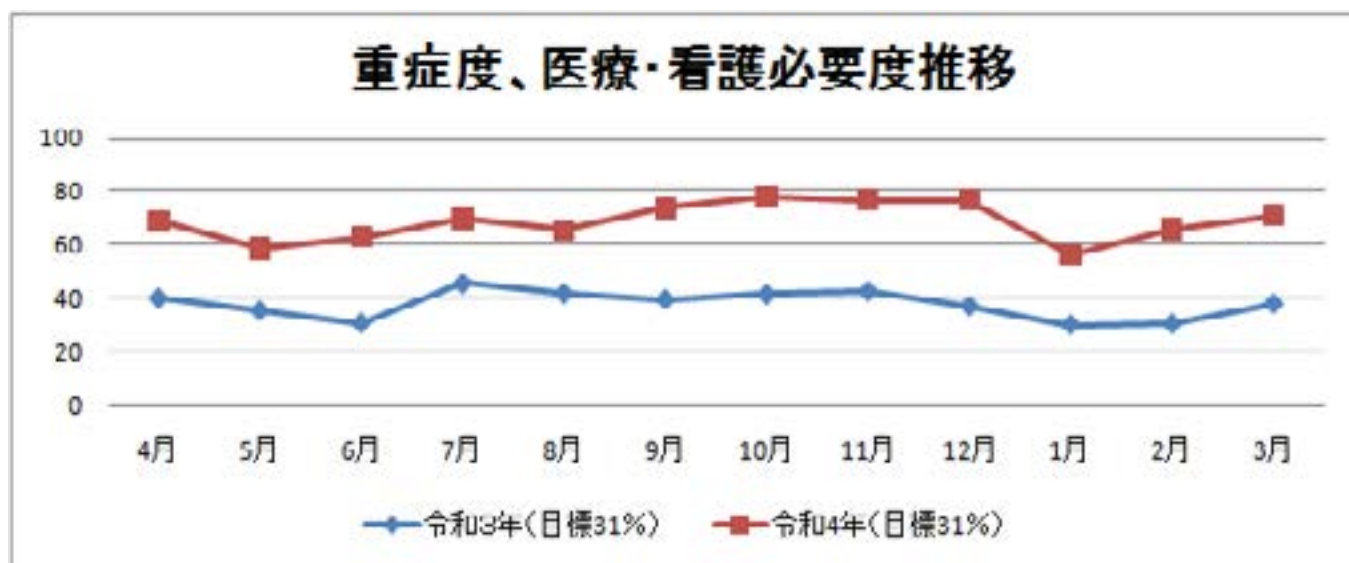
1 日平均患者数 52.9 人

病床利用率 95.2%

平均在院日数 17.9 日

重症度・医療・

看護必要度（目標 31%） 37.9%



活動実績

院外研修実績

研修名	主催	月日	参加者
日本看護協会研修学校認定看護師教育課程	看護協会	2022 年 4 月 6 日～	比嘉由布香
認定看護師教育課程の出校日	公益社団法人日本看護協会看護研修学校	2022 年 5 月 11 日～ 5 月 13 日	比嘉由布香
フレッシュマン研修	看護協会	2022 年 5 月 12 日	比屋根寧海、川村麻由香
フレッシュマン研修	看護協会	2022 年 5 月 19 日	徳平優希、宮城千夏
看護補助者の活用推進のための管理者研修	看護協会	2022 年 6 月上旬	奥間有太郎
新人看護職員研修Ⅱ	看護協会	2022 年 6 月 22 日	徳平優希、比屋根寧海
新人看護職員研修Ⅳ	看護協会	2022 年 8 月 6 日	宮城千夏
新人看護職員研修Ⅳ	看護協会	2022 年 8 月 6 日	川村麻由香
保健師助産師看護師実習指導者講習会	看護協会	2022 年 12 月 13 日 ～ 2 月 3 日	永村麻衣子

部署間研修実績

名称	年月日	参加者
HCU 研修	2021 年 11 月 1 日～ 2022 年 11 月 30 日	山城 利恵子

年度総括

上半期は、予期せぬスタッフ家族間での濃厚接触からの C-19 陽性者が発生し対応に追われました。自宅待機になったスタッフも多い中、残ったスタッフで感染対策を行ないながら乗り切りました。患者発生もありましたが、クラスターになる事なく収束できました。しかし入院受け入れの制限から重症度、医療・看護必要度の低下が見受けられました。

安全に関しては、アセスメント不足・確認不足、コミュニケーション不足によるインシデントの発生が多かったです。報・連・相が行ないやすい風土づくりや、管理職者からの積極的な言葉かけや関わりを増やしていきたいと考えています。また、ヒヤリハットやインシデント発生時のその場だけの振り返りでなく、積極的なクイックセーファの活用と病棟会などを利用し事例検討の機会をふやし、各スタッフが自分事と捉えられるような働きかけをおこなっていききたいと思います。

人員については産休や育休そして退職者、コロナ感染も重なり常にマンパワー不足の状態が続いていました。スタッフ全体で協力しながら何とか日々の業務を遂行している現状があり、今後の人員の定着が課題としてあげられます。中堅看護師も日々の患者状態の変化についていくのがやっとの状態であったのと同じ時に後輩の業務フォローが多く OJT による十分な指導が行き届かない現状もありました。また、PNS が機能せず長時間の残業が目立つようになり部署内では常に緊張状態となっていました。年度末より No 残業に力を入れ意識が高まったことにより残業時間の低減に繋がっています。人員不足のなかでもパワーバランスを考慮した勤務調整を実践し心にゆとりをもち安全、安心な職場環境を作っていきたいと考えます。入退院支援に関しても後に続く人材育成までいきついておらず、リンクナースへの過度な負担となっていました。回復期病院への転院調整が難渋していたことに加え、自宅退院に向けての関わりや方針の決定に時間を要してしまい、在院日数の長期化や DPC III 超えの患者が増加傾向にありました。他職種との情報交換や共有を率先して行い、得られた情報を部署スタッフ全体で共有するために、カンファレンス参加への呼びかけや発案を増やしていきたいと思っています。それからプライマリーの強化へつなげ退院支援に向けた関わりを看護師 1 人 1 人が計画の段階で意識して実践できるように取り組んでいきます。

教育に関しては、コロナ禍の中、新人対象勉強会をプリセプター・主任で定期的に行うことができました。

令和4年度は新人4名が入職しました。プリセプター・メンターを1名置き、プリセプター・プリセプティーの状況把握や指導・伝達等も行ない主任と情報の共有を行ないながら密な関わりができました。残念ながら新人1名が退職となりましたが他3名はコロナ禍でありながらも無事に2年目を迎えることができた事は大きな成果だと考えます。

日々の業務に追われルーチンワークをこなす事に精一杯になり、気づきの視点や考えて行動するに至らない現状も多々ありますが、OJTを意識し、1つ1つの行為の根拠を考え、気づきができる感性豊かな看護師の育成を目指していきたいと思っております。

4 階病棟（外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科）

4 階病棟師長 宮城 幸江

職員数

総数 45 名

正看護師 38 名

看護補助者 6 名

クラーク 1 名

認定・資格取得など

氏 名	名 称
宮城 幸江	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了 医療安全管理者養成研修修了 認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修修了 看護補助者活動推進のための看護管理者研修修了 18 重症度、医療・看護必要度評価者院内指導研修修了 実習指導者研修修了
高宮 里沙	緩和ケア認定看護師取得
宮城 辰吏	実習指導者研修修了 日本ストマリハビリテーション学会周手術期ストーマ研修修了
與那覇 亜紀子	新人看護職員研修教育担当者研修修了 実習指導者研修修了 認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了 重症度、医療・看護必要度評価者院内指導研修修了
与那嶺 美咲	下部尿路機能障害の治療とケア研修修了
平良 勇	日本ストマリハビリテーション学会周手術期ストーマ研修修了 実習指導者研修修了
喜友名 佳子	新人看護職員研修教育担当者研修修了
足立 有海	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了
川崎聖信	重症度、医療・看護必要度評価者院内指導研修修了

業務実績

月平均入院患者状況

新規入院患者数 136 名

在院日数

10.0 日

病床利用数 45.5 床

活動実績

院内・院外研修実績

研修名	主催	開催地	開催年月日	参加者
2022 年度ポリナビワークショップ in 沖縄	沖縄県看護連盟		2022 年 5 月 7 日	宮城 幸江、前川 ゆり、米須 ゆうな、大城 李夏
フレッシュマン研修Ⅰ	沖縄県看護協会	南風原町	2022 年 5 月 10 日	上間紗弥
フレッシュマン研修Ⅰ	沖縄県看護協会	南風原町	2022 年 5 月 14 日	外間あいら、大城杏佳、山城れいら、大嶺紀南、玉寄喜士

研修名	主催	開催地	開催年月日	参加者
認知症高齢者の看護実践に必要な知識	沖縄県看護協会	南風原町	2022年6月2日、3日	砂川ももこ
身につけよう社会人基礎力	沖縄県看護協会	南風原町	2022年6月21日	外間あいら
身につけよう社会人基礎力	沖縄県看護協会	南風原町	2022年6月22日	上間紗弥、山城れいら
第27回日本緩和医療学会	日本緩和学会		2022年6月30日～7月2日	高宮里沙
重症度、医療・看護必要度評価者及び院内指導者研修	沖縄県看護協会	オンライン	2022年7月1日	宮城幸江、玉城直美
医療安全と感染管理	沖縄県看護協会	南風原町	2022年7月14日	大城杏佳
認知症高齢者の看護実践に必要な知識	沖縄県看護協会	南風原町	2022年7月21、22日	米須智子
NST 専門療法士研修		宜野湾市	2022年7月16日～2023年3月	平良ナナ
認知症高齢者の看護実践に必要な知識	沖縄県看護協会	南風原町	2022年7月27日	宮城幸江、砂川ももこ

年度総括

4 階病棟は外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科の3診療科の混合病棟です。日々、多くの手術患者の対応をしており術前・術後を含めた周術期患者様の管理を行っています。

前年度から引き続き、術前から術後合併症のリスク低減、早期の社会復帰を目指した取り組みをチーム全体で意識し看護を実践してきました。その結果、高齢者患者を中心に ADL（日常生活動作）低下を最小限に抑え退院へ繋ぐことができました。取り組みの一つとして、入院前の状況、患者背景などの情報収集を元に入退院支援看護師と多職種で連携し退院支援を強化した成果だと考えています。

皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程修了した看護師が退院支援カンファレンスに加わり、人工肛門を造設した患者が不安なく退院出来るように指導への取り組みも継続しています。スタッフの知識習得も念頭に人工肛門造設患者の指導・看護へも取り組み、関心を高めることができましたと思います。

当科では、多くの術前化学療法や術後補助化学療法が行われています。化学療法による副作用として骨髄抑制や免疫力低下が起こることがあります。新型コロナウイルスに感染すると重症化する恐れがあるため、スタッフ全員が日々の健康チェック、患者個々の症状観察など感染管理に取り組みました。

また、癌のターミナル期の患者とかわかるのも当科の特徴です。コロナ禍で面会制限がなされ家族と過ごす時間も限られた中、患者、家族の希望を叶えられない事も多くありました。少しでも患者の思いに応えられるよう、早期から主治医、本人と家族と話し合いながら訪問看護、訪問診療を調整して自宅退院へ繋げることができました。当科には、緩和ケア認定看護師も在籍しており、『病気を抱えながらもその人らしく最期を迎えられる看護』を目標に病棟全体で看護実践に取り組んでいます。

次年度も「この病院で入院・手術・治療して良かった」と思ってもらえる質の高い看護が提供できるように努力していききたいと思います。

5 階病棟（消化器内科・小児科）

5 階病棟師長 勝連 しのぶ

職員数

総数 42 名

正看護師 36 名

准看護師 2 名

看護補助者 5 名

保育士 1 名

認定・資格取得など

氏名	認定・資格
勝連しのぶ	認定看護管理者教育課程ファーストレベル修了
大城 祥子	実習指導者研修修了 新人職員研修実施指導者研修修了 認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了
嘉陽 陽子	実習指導者研修修了
知念 晶子	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了
富里 理恵	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了
新垣 涼香	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了
森下 夏江	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了
知念 晶子	重症度・医療、看護必要度指導者研修修了 認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了
我謝要子	重症度・医療、看護必要度指導者研修修了 認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了
港川 誉志也	重症度・医療、看護必要度指導者研修修了
久保 綾華	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了

業務実績

月平均入院患者状況	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
新規入院患者数	172.3	136.3	129.5	132.9
病床利用	47.6	40.7	33.2	28.5
平均在院日数	8.2	8.9	7.5	6.7

年度総括

2020 年度よりコロナ陽性患者の受け入れを開始しました、2020 年は未知な状況での対応、2021 年は他部署から応援を受けながらの病棟運用を行ってきました。

2022 年度は、コロナ感染状況が落ち着き始め、一般患者を受け入れながらの混在した状況での病棟運用を実践しました。コロナ患者を受け入れたことでスタッフの感染対策意識が高まり、2020 年度よりアルコール使用量が増加傾向にあります。今後も感染伝播やクラスター発生が無いよう、病棟別アルコール使用量達成率 100% を継続し感染対策の徹底に努めます。

安全面ではインシデント報告 3 以上の減少を目標にしました、17 件から 9 件と達成することが出来ました。今後は一般患者受け入れ増加に向けて病棟全体で安全意識を高め、他職種連携を強化し職員要因のインシデント減少に努めます。

患者サービス質の向上を目指し、入退院支援看護師と連携強化を行い退院支援に加え DPC II を意識した支援を行ってきました。その結果 DPC II 期間内での退院件数も増え、良い成果を上げることが出来

した。スタッフ一人一人が患者の退院を見据えた看護が出来るように、入退院支援研修の参加を積極的に推奨し質の高い看護へ繋げていきます。

人材育成では、個々のスキルアップ向上を目的に目標管理し、各々が興味のある専門領域の研修参加が出来るよう教育体制を作りました。院内 BLS 指導者 2 名受講修了、認知症ケア加算対象研修 1 名受講修了、重症度・医療、看護必要度指導者研修 2 名修了、小児アレルギー負荷試験対応看護師 9 名、ラジオ波対応看護師 1 名、リーダー看護師 4 名、腎生検対応看護師 2 名の育成を行いました。看護師経験 5 年以内が病棟の半数を占めている現状を踏まえ、次年度は PNS 強化・部署間研修や ICT 活用した学習機会を与えるなど個々のスキルアップに繋がります。離職率も低くチームワークの良い病棟です、患者・家族・職員から選ばれる病棟を目指し、多職種連携・質の高い看護サービス提供に取り組んでいきます。

6 階病棟（血液内科・総合内科）

6 階病棟師長 金城 隆也

職員数

総数 36 名

正看護師 30 名

看護補助者 5 名

准看護師 1 名

認定・資格取得など

氏名	名称
金城隆也	学会認定アフェーシスナース 重症度・医療・看護必要度指導者研修修了 認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修修了 看護補助者管理研修終了 認知症対応力向上研修 同種移植後長期フォローアップのための看護師研修会
呉屋友美	新人職員研修実施指導者研修修了 重症度・医療看護必要度指導者研修修了 呼吸療法認定士 沖縄県緩和ケア研修修了
山城由衣	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修 修了 感染管理認定看護師教育課程 修了
知念真名美	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修 修了 呼吸療法士認定士取得
平良ゆかり	実習指導者研修 修了 同種移植後長期フォローアップのための看護師研修会
上原拓也	認知症高齢者の看護実践に必要な知識研修 修了
平良ゆかり	実習指導者研修 修了
宮里瀬菜	呼吸療法認定士取得 2020 年更新済み
比嘉哲也	2019 年沖縄県緩和ケア研修修了
仲村渠恵理子	2020 年沖縄県緩和ケア研修修了
神谷実希	沖縄県緩和ケア研修修了 2022 年

業務実績

月平均入院患者状況

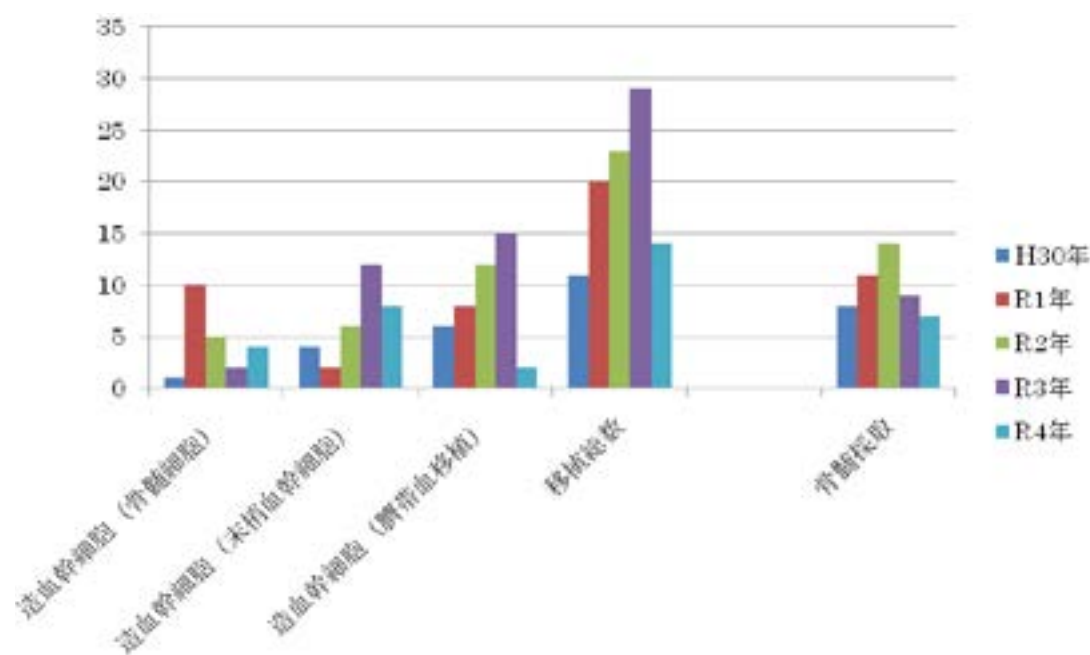
新規入院患者数 81.4 名

在院日数 16 日

病床利用数 38.8 床

移植数

	2018	2019	2020	2021	2022
造血幹細胞（骨髄細胞）	1	10	5	2	4
造血幹細胞（末梢血管細胞）	4	2	6	12	8
（臍帯血移植）造血幹細胞	6	8	12	15	2
総移植数	11	20	23	29	14



活動実績

院内・院外研修実績

研修名	開催年月日	参加者
2022 年度ポリナビワークショップ in 沖縄	2022 年 5 月 7 日	神谷実希
新人看護職（フレッシュマン）研修Ⅰ	2022 年 5 月 10 日	古謝由紀乃
新人看護職（フレッシュマン）研修Ⅰ	2022 年 5 月 10 日	宮城有希
新人看護職（フレッシュマン）研修Ⅰ	2022 年 5 月 12 日	田中亜結
新人看護職（フレッシュマン）研修Ⅰ	2022 年 5 月 12 日	上江洲花帆
感染管理の基礎	2022 年 5 月 26 日	山城由衣
感染管理認定看護師教育課程	2022 年 6 月 1 日～12 月 23 日	山城由衣
新人看護職研修Ⅱ 身につけよう社会人基礎力	2022 年 6 月 21 日	古謝由紀乃
新人看護職研修Ⅱ 身につけよう社会人基礎力	2022 年 6 月 22 日	田中亜結
2022 年度 HCTC（造血細胞移植コーディネーター）認定講習Ⅰ	2022 年 7 月 9 日	松井美保
2022 年度 沖縄県看護連盟通常総会	2022 年 7 月 9 日	金城隆也
新人看護職研修Ⅲ 医療安全と感染管理	2022 年 7 月 14 日	宮城有希
看護補助者の活用促進のための看護管理者研修	2022 年 10 月 13 日	木村有希
新人看護職員教育担当者研修	2023 年 1 月 24 日	木村有希

年度総括

今年度はコロナ禍の影響もあってか前年度に比べ移植件数が減少していますが、ハプロ移植など新しい移植方法を行ってきました。患者・家族にとって治療の選択肢が増えた事は良い事である一方、副作用や合併症により状態が悪化する場合も考慮しながら、より看護・医療の質が求められることとなります。コロナによる影響は今年度も大きく、職員の就業制限や退職者が例年より増加しスタッフの負担感・疲弊感がより顕著に感じられました。その為有休消化や勤務調整に難渋することが多くありました。

密になる勉強会や研修などは減少し、知識・技術の向上の機会も減少しました。その中でも感染管理認定看護師の教育課程に 1 名参加し教育課程を修了することができたことは、スタッフの学習意欲を高めるきっかけとなり、後輩育成に貢献していける人材育成ができました。今後の部署の感染管理の意識向上につなげるために教育課程修了者が活躍できる場を提供し体制を整えていきます。

限られた人員ではありましたがスタッフ一人ひとりの協力体制があり、看護補助者も少ない中で連携し、業務改善しながらチームワークや結束力で乗り切る事ができたと感じます。

働き方改革の一環として男性職員の育休推進を図り、3 カ月育休取得を実施することができました。ワークライフバランスを意識した働きやすい職場環境を目指し、安定した職員の定着に繋がるよう努めていきたいです。

インシデント報告件数は 3b 以上の大きな事象はありませんでしたが、早期に危険回避する対策を考える必要があり、今後部署として 0、1 レベルの報告を増やしていくことや、他部署のインシデント内容を踏まえ自部署でのインシデントの対策に活用していきます。またクイックセーフターの浸透が充分でない為、要因分析に力を入れリンクナースを中心に部署内で要因分析を強化していきたいです。

自部署ではできるだけ PNS（デイパートナー）体制を維持できるように勤務調整し、新人や若手教育の充実を図り、質の向上に努めました。その結果、相談・報告しやすい体制で患者の安全と職員の安心につながったのではないかと考えます。PNS 体制の継続とウォーキング申し送りでの引き継ぎを強化し、切れ目のない看護を展開していくことを今後も意識し実践していきます。また、貴重品の管理や安全面を意識した療養環境の調整も行っていく必要があります。2022 年度から取り組み始めた事や見えてきた課題に対して、スタッフ一人一人が意識して取り組みより良い看護を提供していけるよう努めていきます。

7 階病棟（呼吸器内科・循環器内科）

7 階病棟師長 仲里 寛

職員数

総数	41 名		
正看護師	34 名	看護補助者	6 名
准看護師	1 名		

認定・資格等

氏名	名称
仲里寛	認定看護管理者教育課程ファーストレベル修了 沖縄県保健師助産師看護師実習指導者講習会修了 認知症対応力向上研修修了証書取得 看護補助者活用のための看護管理者研修
花城優子	新人看護職員研修教育担当者研修修了 看護補助者活用のための看護管理者研修
當眞さゆり	栄養サポートチーム専門療法士認定証取得 沖縄県保健師助産師看護師実習指導者講習会修了 認知症対応力向上研修修了証書取得
東江幸恵	沖縄県緩和ケア研修会修了
宮城秀成	リハビリ緩和加算研修修了 沖縄県緩和ケア研修会修了 ACLS プロバイダーコース修了
宮城梨乃	認知症ケア加算Ⅱ対応研修修了 新人看護職員研修教育担当者研修修了
末吉彩夏	ACLS プロバイダーコース修了
宮城幸菜	沖縄県緩和ケア研修修了
城間ゆずき	第 63 回新おきなわ ICLS コース受講修了証取得 認知症ケア加算Ⅱ対応研修修了
松田沙衣可	コンチネンスセミナー初級コース課程修了
上原慎	沖縄県保健師助産師看護師実習指導者講習会修了

業務実績

月平均入院患者状況

新規入院患者数	86.8 人
病床利用数	46.4 床
平均在院日数	14.5 日

活動実績

院内・院外研修実績

研修名	主催	開催地	開催年月日	参加者
看護補助者の活用促進のための看護管理者研修 改訂版 2022	沖縄県看護協会		2022 年 4 月 30 日	仲里寛
2022 年度ポリナビワークショップ in 沖縄	沖縄県看護連盟		2022 年 5 月 7 日	宮城秀成
新人看護職（フレッシュマン）研修Ⅰ	沖縄県看護協会		2022 年 5 月 12 日	伊禮美海、仲村彩音
新人看護職（フレッシュマン）研修Ⅰ	沖縄県看護協会	オンライン	2022 年 5 月 19 日	平良優香、伊禮美海
2022 年度 沖縄県看護連盟通常総会	沖縄県看護連盟		2022 年 7 月 9 日	仲里寛

研修名	主催	開催地	開催年月日	参加者
看護補助者活用のための看護管理者研修	沖縄県看護協会	沖縄県看護協会	2022 年 8 月 27 日	花城優子
沖縄県保健師助産師看護師実習指導者講習会終了	沖縄県看護協会	オンライン	2022 年 12 月 13 日～2 月 3 日	上原慎
新人看護職員研修 アサーティブコミュニケーションスキル	沖縄県看護協会	南風原町	2022 年 12 月 24 日	仲村彩音、仲松萌々香

2022 年度病棟目標

2022 年度病棟目標

1. 安全

- ①転倒・転落防止
- ②スキンテア防止

2. 患者サービスの向上

- ①入退院支援の充実
- ②患者に必要とされる看護の提供

3. 人材育成

- ①年間を通した計画的な新人育成
- ②ラダーに準じたリーダー育成

2022 年度総括

2022 年度は三つの視点から目標に掲げました。安全については、前年度に多くみられた転倒・転落とスキンテア予防を中心に安全管理に取り組んできました。病棟で起きた事例を振り返り、スタッフの K Y T 意識を高める関わりを続けていくことで、前年度と比較して転倒・転落は約 2 割減の 27 件、スキンテアは約 4 割減の 22 件となり、転倒・転落においては、前年度事象レベル 3 以上 5 件でしたが、今年度は 0 件と成果が見られました。病棟の特徴として高齢の患者が多いこともあり、今後も安全な療養環境の提供を目指し、危機管理意識を高め予防に努めていきます。

患者サービスについては、入退院看護師を中心に日々のカンファレンスなどを通じて関連スタッフとの連携を図り、情報共有を密に行うことで早期介入、スムーズな退院調整につなげられるよう取り組みました。今後も関連スタッフとのさらなる連携強化を図り、多様な患者のニーズに応じた退院支援のサービス提供を目指していきます

人材育成については、新人看護師への関わりとしてプリセプター、メンターを中心に成長段階に応じて関われるよう年間を通して計画を立てて実行しましたが、個人差に対しての関わり方に難渋致しました。今後も、成長過程における課題に向けて病棟全体でのサポートを継続していきます。今年度同様に次年度もプリセプター、メンターを中心にそれぞれの役割を遂行し、病棟スタッフ全員で関わる新人育成を目指していきます。

次年度も安全、患者サービスの向上、人材育成の観点からひとつひとつ課題をクリアし、患者さんによりよい医療、看護を提供できるよう、スタッフ一丸となって取り組んでいきます。

内視鏡センター

内視鏡センター 師長 比嘉 憲貴

職員数

総数	21 名		
看護師	15 名	クラーク	2 名
臨床工学師	1 名	看護補助者	3 名

認定・資格など

氏 名	名 称
渡久山 すえの	認定看護管理者教育課程ファーストレベル修了 日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡技師Ⅰ
大城 敦	日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡技師Ⅰ
上江洲 さやか	日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡技師Ⅱ
照屋 あづさ	日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡技師Ⅱ
宮城 愛子	日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡技師Ⅰ
西改 泰子	日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡技師Ⅰ
普天間 愛里	日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡技師Ⅰ
松本 唯	日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡技師Ⅰ

業務実績

上部内視鏡検査	ERCP
9,641 件	203 件

下部内視鏡検査

2,875 件

詳細な検査・治療実績は「内視鏡センター」をご覧ください。

活動実績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者
緊急内視鏡の迅速な準備・処置を行うために～使いやすい内視鏡緊急カート～	中堅発表	当院	2022 年 12 月 19 日	西改 泰子、佐々木美鈴
内視鏡センターにおける臨床工学技士の業務内容を検討して	院内発表	当院	2023 年 1 月 23 日	大城 敦

院内・院外研修実績

名称	主催	開催地	開催日	参加者
フレッシュマン研修	沖縄看護協会	看護協会	2022 年 5 月 17 日	玉城
身につけよう社会人基礎力	沖縄看護協会	看護協会	2022 年 6 月 21 日	玉城
第 81 回九州消化器内視鏡技師学会	九州消化器内視鏡技師会	オンライン	2022 年 7 月 17 日	渡久山
アサーションコミュニケーションスキル	沖縄看護協会	看護協会	2022 年 8 月 5 日	玉城

名称	主催	開催地	開催日	参加者
スケルトンスコープを利用してスコープの取り扱い	オリンパス	院内	2022 年 10 月	東江、玉城、 屋嘉比、川満、 山入端、真境 名
ポリナビワークショップ in 沖縄 見聞色の看護 ～急変させない～	看護連盟	ロワジュールホ テル	2022 年 11 月 26 日	屋嘉比
第 89 回日本内視鏡消化器技師学会	日本消化器内視鏡技師会	オンライン	2022 年 10 月 28 日	照屋、大城
第 82 回九州消化器内視鏡技師学会	九州消化器内視鏡技師会	オンライン	2022 年 12 月 19 日	照屋
感染対策の初動に繋がる基礎・根拠	領域研修感染	院内	2023 年 1 月 21 日	西改
看護連盟リーダー研修 届けよう看護の声を・ 職能活動	看護連盟	ハーバー ビューホテル	2023 年 2 月 4 日	渡久山
POEM 初心者勉強会	4 階病棟	院内	2023 年 2 月 27 日	山入端、屋嘉 比、山城
サルプレップ配合内溶液	富士製薬	院内	2023 年 2 月 22 日	西改、屋嘉比、 島袋彩、小嶺、 佐々木
セルフケアとラインケア～観る・聴く・繋ぐ～メン タルヘルスケア		院内	2023 年 3 月 4 日	渡久山
統計処理基礎講座	日本消化器内視鏡技師会	オンライン	2023 年 3 月 10 日	渡久山

年度総括

2022 年度の目標件数、上部 10,000 件、下部 3,000 件に対して上部 9,641 件、下部 2,875 件でした。上部・下部と目標値には達成しませんでした。今後も内視検査及び治療内視鏡を必要としている患者さんに、「ハートライフで内視鏡検査を受けたい、受けて良かった」と思ってもらえるように、スタッフ一丸となって努めて行きます。

1. 安全管理

2022 年度インシデント報告は計 38 件で、0～1 レベル報告件数は 18 件でした。重大な事故につながらないよう、他のスタッフが同じインシデントを起こさないよう、今後も 0～1 レベルの報告件数増加を目標に掲げていきます。危険予知能力、インシデント発生時の分析・対策・評価に対して弱い面があり、本年度は安全対策委員会を中心に安全風土の構築に向けて取り組んでいきます。

2. 感染管理

スコープがきれいに洗浄されているかを確認する為に、スコープ検体培養検査・消毒液濃度管理を、年 2 回外注で検査しています。検査結果、基準値をクリアしており感染管理に問題はありませんでした。

感染委員にて、キーボード・マウス・テレビリモコン等を ATP(周辺環境や医療機器が適性に洗浄できているかを評価)測定にて、基準値より高い数値が検出され、汚染されている状態であることが判明しました。次年度は感染および 5S 委員会を中心に環境整備の見直しを行っていく必要があります。

前年度に引き続き、コロナ感染対策を遂行しました。問診時に、検査前の検温及び健康チェックの徹底、上部カメラ時の咳嗽による暴露防止対策を行っていましたが、緊急上部内視鏡治療時に、介助についた看護師 1 名がコロナに感染しました。2023 年 5 月 8 日より、5 類に引き下げられますが、今以上に感染対策を徹底し、患者さん・職員が感染しないよう努めていきます。

3. 教育

2022 年 9 月に以前より熱望していた CE (臨床工学技士) 1 名が採用されました。手探りの状態ではありますが教育をスタートしているところです。本年度は検査・処置、機器管理と教育システムをしっかりと

と構築していく計画です。

これまで新人看護師がオンコールを持つまでに約1年かかっていましたが、オンコール2名体制となり9ヶ月目で持つことができました。2人で相談・協力することで患者さんの安全に繋がっています。新人や途中入職・異動した看護師が、オンコールを持つことによって他のスタッフの労務軽減につながっています。

日本消化器内視鏡学会認定、消化器内視鏡技師が3名合格し、部署では合計8名（現在1名産休中含む）となりました。日本・九州内視鏡学会、看護協会主催の研修へ積極的に参加し、処置技術と看護技術のバランスが取れた実践力を発揮できる人材育成を目標とし、安全・安心な検査・治療が提供できるよう継続していきます。

4. 業務

2022年度の有休消化率は100%でした。有休残が多いスタッフが数名いましたが、リーダーが中心となり検査が早めに終了した時は、時間有休で帰宅させ、全スタッフの協力体制の成果だと評価しています。しかし、年度末にリフレッシュ休暇を取得できていないスタッフが4名発覚し対応に難渋しました。結果的に、1名のスタッフが1.5日分を消化できませんでした。原因は消化したと思っていた、用事がある時に使おうと残していたためでした。休暇は重要です。次年度は、リフレッシュ休暇一覧表を作成し捨てることのないように対応していきます。

2022年11月クラークが採用されました。業務委員を中心に看護師の業務をクラークへタスクシフトできるよう業務の整理を行っていきます。

次年度は仕事と休暇のバランスがよく、NO残業dayを活用し働きやすい職場環境作りに努めていきます。

5. 機器管理

2022年8月に上部スコープVPP（Value Per Procedure 症例単価払い）と光源装置の更新を行いました。2023年8月には下部スコープ、小腸スコープ、超音波内視鏡画像装置を行います。2022年度の機器修理件数は7件（前年より11件減）でした。そのうち4件がスコープのピンホールでした。コロナ禍でスタッフが入れ替わり、内視鏡未経験のスタッフが増え、コロナの影響で開催されていなかった、オリンパス主催の「スコープの取り扱い講習会」を計画し、機器取り扱いや点検方法を習得し修理件数を減少させ財務に貢献できるよう努めていきます。

文：渡久山 すえの

看護部 年度総括

【2022 年度の目標】

1. 安全・感染行動の意識付けと実践

【ビジョン】①事象を分析しルールを守れる組織

②情報が共有できる組織（周知徹底）

③安全な医療が提供できる組織

2. 細やかな看護サービスの提供

【ビジョン】①誇りと自覚を持ち、専門職として質の高い看護が提供できる組織

②外来から入退院支援、地域へ繋げる一貫した看護を提供できる組織

③看護職と看護補助者が連携し患者さんの求める看護を提供できる組織

3. 豊かな感性を持ち、質の高い看護実践の出来る人材の育成

【ビジョン】①現場に直結した教育ができる組織（中堅看護師の育成）

②個人のキャリアアップに繋がる目標管理が実践できる組織

③働き続けたいと思える組織

4. 病院経営への参画

【ビジョン】①看護部職員一人ひとりが組織体制の仕組みを理解し報告・連絡・相談が出来る組織

②看護部職員一人ひとりが病院 3 指標を意識できる組織

看護部では各目標に対しビジョンを掲げ、それぞれのビジョンに課題を示して組織運営を行ってまいりました。

安全に関しては、事象から学び予防につなげるという基本姿勢を示し、分析と情報の共有、ルールの遵守に力をいれました。毎朝自部署で起こったインシデントを情報共有し予防につなげる事や、管理者を対象とした要因分析研修を実施し、安全行動の実施を促しました。しかしスタッフ要因による内服管理ミスやアセスメント不足による転倒など、事象からの学びが活かされていない現状があり、次年度の継続課題となりました。

感染管理に関しては、コロナ対策により標準予防策は全体的に徹底されてきましたが、久しぶりに実施された感染ラウンドでは、環境整備の弱さが浮き彫りになりました。それに対する取り組みとして、5 S 委員会と感染対策委員会が共同で対策を講じ実施している段階です。その評価と更なる改善は次年度での継続課題になります。

質の高い看護の提供では、コロナ禍で足踏みしていた委員会活動や師長を中心としたプロジェクトチームの活動強化を図ってまいりました。しかし、看護職の配置が厳しい時期もあり、委員会によっては計画通りの開催や実施ができない状況も見られました。患者や家族を中心とした質の高い看護の提供は、どのような状況下でも看護の専門性を発揮できる環境の構築が重要だと痛感し、業務の標準化とタスクシフト・タスクシェアに向けて、次年度は具体策を打ち出していきたいと考えています。

入退院支援から地域へつなげる看護の提供として、各病棟の退院支援看護師と入退院支援看護師、他職種との連携強化を継続しています。カンファレンスや前年度見落としがちだったコロナ患者に対する支援の実施など、積極的な取り組みをしています。しかし病棟によっては、職員の休みによる影響で退院支援看護師が配置されないことも見受けられ、その改善策として、次年度は担当看護師の所属変更と標準化した

業務基準作りに取り組んでいこうと考えます。

人材の育成では、各部署で師長面談による目標管理を実施しました。個々人の目標に向かいキャリア支援ができる組織を目指しています。目標管理が行いやすいように、看護協会の研修と指導を受けた師長を中心に、クリニカルラダーを当院にあった形に変え、下半期には導入いたしました。それを使用した目標管理の定着を今後につなげていきたいと思います。中堅育成の一つに、部署運営への関わりを趣旨としたワールドカフェを開催しました。組織運営から部署運営へのつながりを理解してもらい、中堅としての役割意識を感じてもらいました。参加者からは役立つ研修だと研修評価が高かったので、次年度も継続していこうと思います。また、スペシャリストを活用した研修会も開催し、気軽に学べる場の提供につながったと思います。新人教育に関しては、OJTを用いた新人教育を実施しながら、そこに関わるプリセプターへの教育も同時に行い、年度の修了式には両者の成長が伺えました。

病院経営の参画として、3指標を意識した病棟運営や入院総合体制加算、その他の加算維持に努めました。そしてコロナ禍の中、柔軟なベットコントロールを意識した各師長の関りは、経営へ大きく貢献してくれたと評価しています。特にコロナ患者の対応や入院調整に関して管理当番師長、主任の貢献度は大きかったと思います。

2022年度は、コロナの感染拡大の影響や離職等で人員不足が続き、看護部門のどの部署も通常業務の遂行に難渋した年でした。人員を確保する為にアルバイト制度を導入し有休や週休を利用して勤務してもらったり、他部署へ応援に行ってもらったり、看護部職員が一丸となって協力したお陰で何とか乗り越えられた1年でした。改めて看護部門のチーム力を実感したとともに、師長を始め看護部職員一人一人に感謝の気持ちで一杯です。2023年度も看護部職員が、いきいきとやりがいをもって働いていける組織運営を目指して頑張っていきます。

看護部長 古波倉 美登利

医療技術部

部門紹介

医療技術部門は放射線科、臨床検査科、臨床工学科、栄養科、薬局、リハビリテーション科の6部署で構成され、チーム医療の一員として各診療科と連携し、それぞれ専門の有資格者が検査・治療及び機器管理の様々な面から診療をサポートしています。

各部署概要・実績

放射線科

放射線科技師長 石原 悟

2022年度も日本全国でコロナ感染拡大があり大きな第7波から第8波へと、これまでにない感染者数が報告され当科でも影響を受けました。ただし症状に関してはデルタ株からオミクロン株へと代わり肺炎症状もこれまでに比べ減少した様に思われます。その為、肺炎疑いなどのCT検査数が前年度に比べ減少しコロナに関する検査数は落ち着きつつあります。その他の検査数に関しては全体的に減少傾向でありましたが、今年度は予防医学センターのコロナによるドック受入れ制限を行わなかった為、UGIとMMG・骨密度検査が前年比プラスとなりました。また口腔ケア科でのパノラマ撮影検査が前年比に比べ倍増近く増えており、これも入院・手術前に口腔内ケアすることで肺炎など合併症予防に繋がっています。

人員に関しては濃厚接触、病休、育休などで人員不足の時期もありましたがこれまでも、お世話になっている非常勤技師の応援と全スタッフの協力により休日の変更もすることなく対応でき、さらに全スタッフの有休取得率もこれまで以上にアップさせることが出来ました。また2022年度は1人の新人技師も採用され、1年間で一般、CT、透視、当直業務をこなせるように成長し、4月からは当直スタッフの一員として頑張っています。

設備に関しては3月に病棟・救急用として1台で運用していたX線ポータブル装置を新規に1台追加導入致しました。これまで病棟と救急室でのポータブル撮影が重なることもあり、特に発熱・コロナ対応での撮影では感染対策にも時間を要するため、かなりの待ち時間が発生しましたが一台新規追加導入され2台体制になったことで改善されました。しかし以前より使用しているX線ポータブル装置は十数年と耐用年数も超えていることから次年度には更新を予定しています。また1月には既存の骨密度装置のバージョンアップと海綿骨構造指標（TBS）ソフト導入が決定し、3月からの運用開始となりました。これまで骨粗鬆症の評価はBMD値のみで評価されていましたが、骨粗鬆症骨折の50%以上が正常または骨量減少領域のBMD値であったとの報告もあります。今後はBMD値で骨の量、TBS値で骨の質を測定し、その結果を元に患者の骨折リスクの診断と治療法の決定、または治療効果の評価につながると考えます。また、12月には西館アンギオ装置の更新も決まり2023年度の秋頃に導入予定です。

2022年度はこれまで同様にWebでの各研究会・勉強会参加と、徐々にですが感染対策を行いながら対面での県内研究会への参加も行いました。また前年度まで延期で受講・受験出来なかったマンモ認定技師試験と胃がんB認定技師試験も開催され、今回、取得することが出来ました。今後も更に対面での各学会・研究会など開催されると思われますのでスタッフ一同スキルアップと他施設間との交流を行っていき

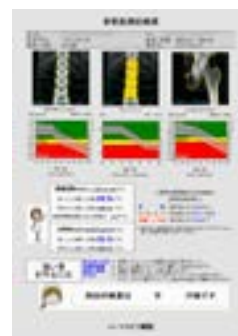
ます。



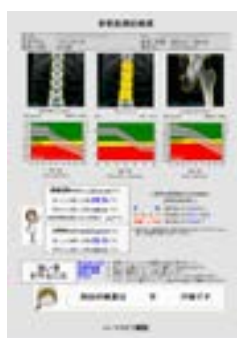
70 番ポータブル正面



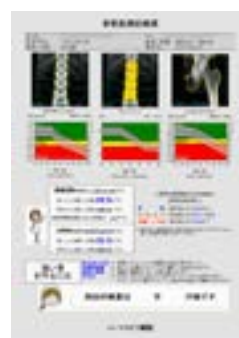
70 番ポータブル側面



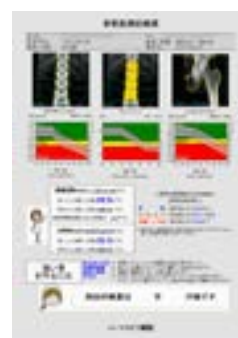
BMD・TBS 評価



腰椎 BMD 評価



腰椎 TBS 評価



大腿骨 BMD 評価

職員数

総数

22 名

職種別

診療放射線技師 21 名

受付事務 1 名

認定・資格

氏名	名称
仲座 義富	アドバンス診療放射線技師
	第一種衛生管理者
	衛生工学衛生管理者
	エックス線作業主任者
	ガンマ線透過写真撮影作業主任者
石原 悟	胃がん X 線検診技術部門 B 資格
	医療安全管理者
	胃がん X 線検診技術部門 B 資格
	胃がん X 線検診読影部門 B 資格
大城 盛寛	アドバンス診療放射線技師
	医用画像情報管理士
	核医学検査技能検定 3 級
	X 線 CT 撮影認定技師
松田 優二	第一種衛生管理者
	エックス線作業主任者
	ガンマ線透過写真撮影作業主任者
	AI 認定技師
	大腸 CT 認定技師

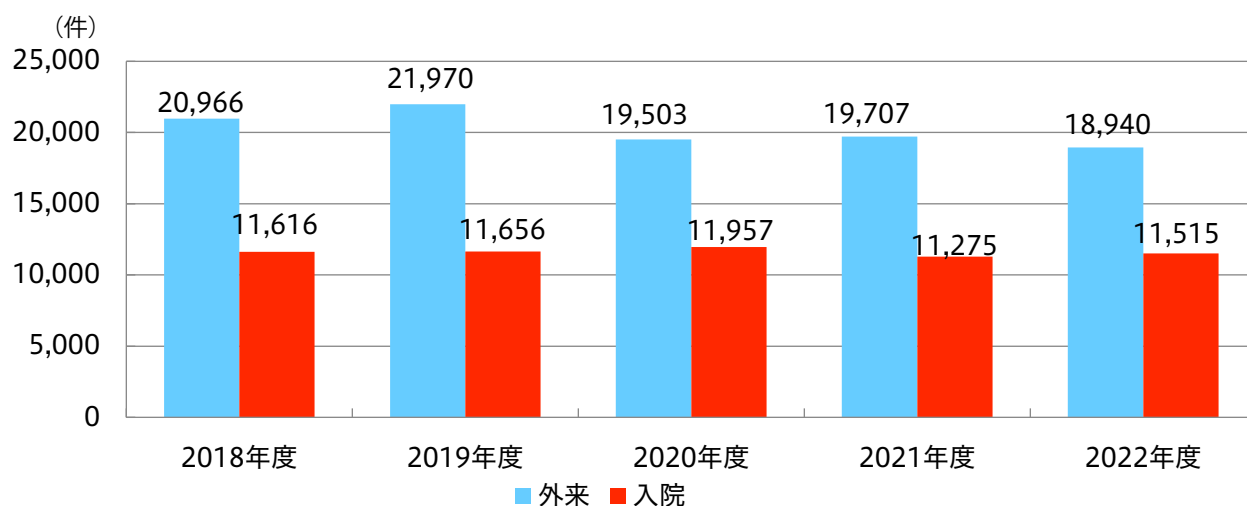
氏名	名称
	画像等手術支援認定技師
新垣 弘扇	検診マンモグラフィ認定技師
津波 麻利子	アドバンス診療放射線技師
	検診マンモグラフィ認定技師
新垣 千登勢	検診マンモグラフィ認定技師
宮城 直哉	第一種衛生管理者
	エックス線作業主任者
	ガンマ線透過写真撮影作業主任者
程岡 美貴	検診マンモグラフィ認定技師
出津 利恵	検診マンモグラフィ認定技師
	X 線 CT 撮影認定技師
	AI 認定技師
	大腸 CT 認定技師
	画像等手術支援認定技師
宇江城 彩香	検診マンモグラフィ認定技師
太田 忍	肺がん CT 検診認定技師
仲田 真央	検診マンモグラフィ認定技師

運営方針

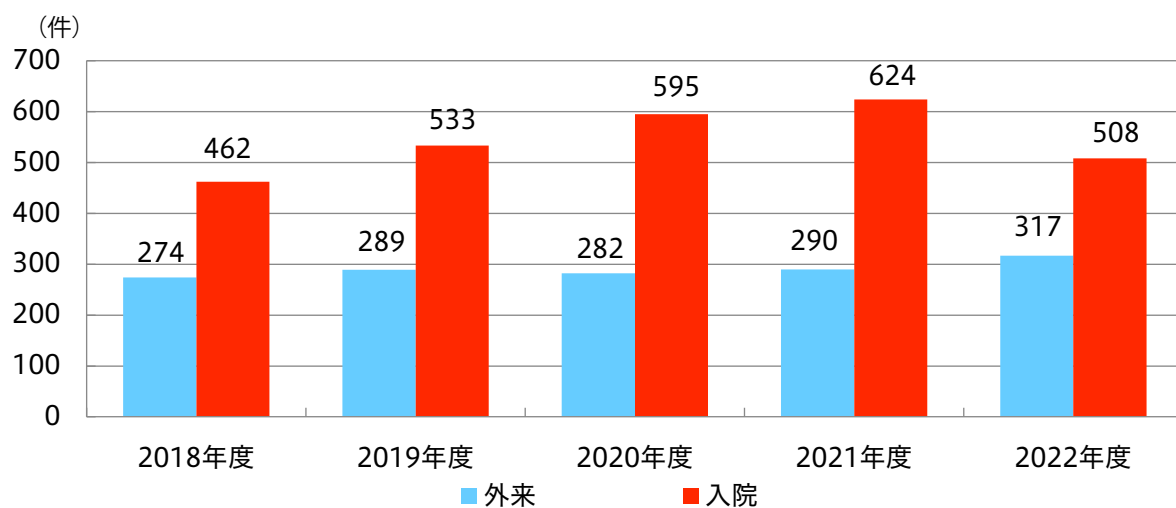
1. 患者さんの医療被ばく低減
2. 患者さんが安心して検査を受けられるためのインフォームドコンセント
3. 技師の技術向上
4. 安全な検査のための機器保守点検

検査・治療実績

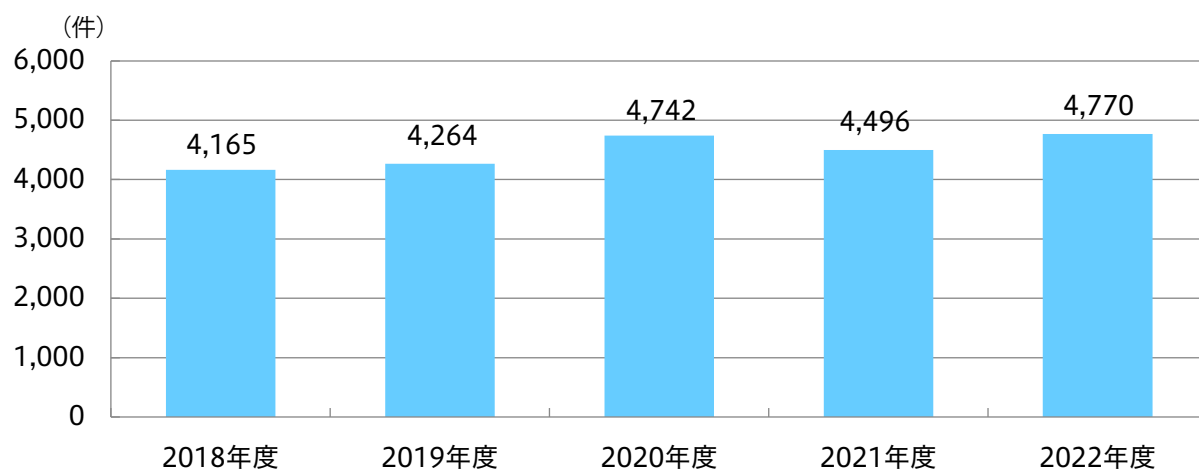
一般撮影



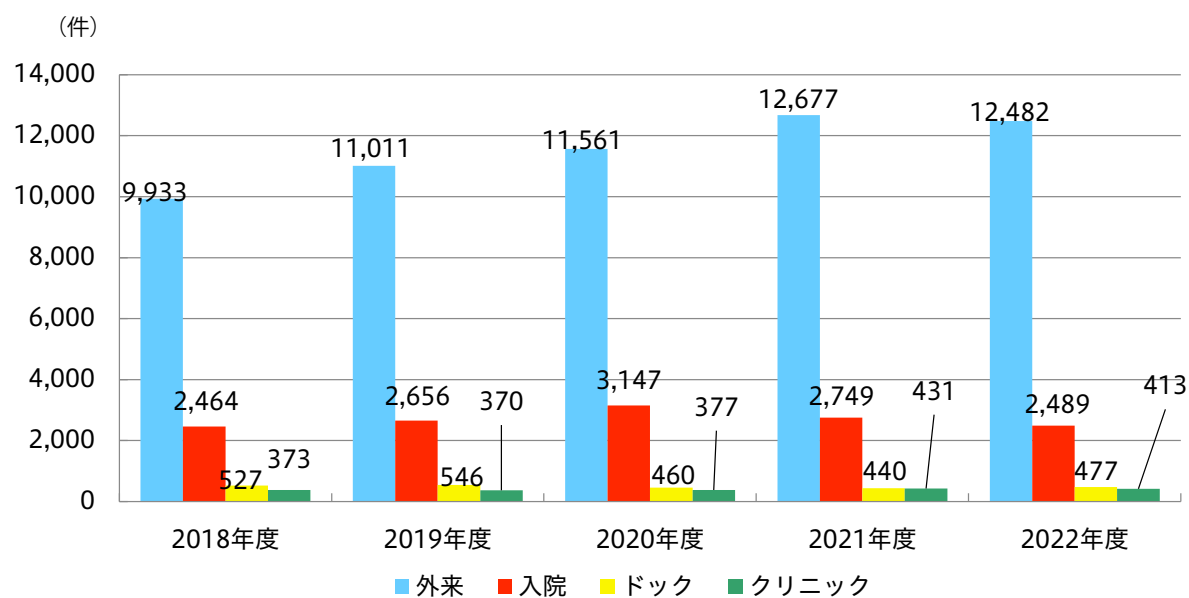
透視検査



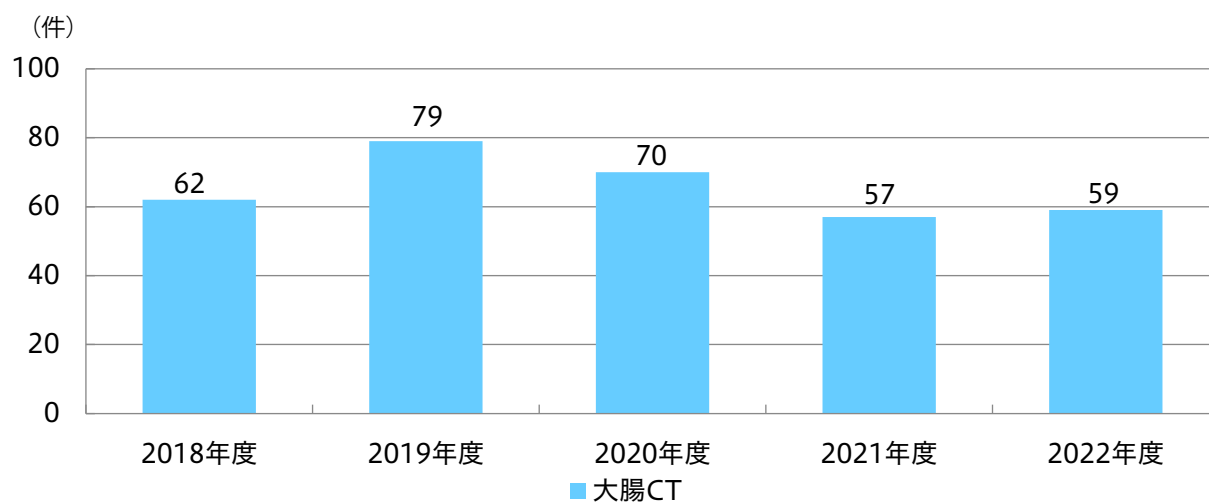
透視検査（人間ドック）



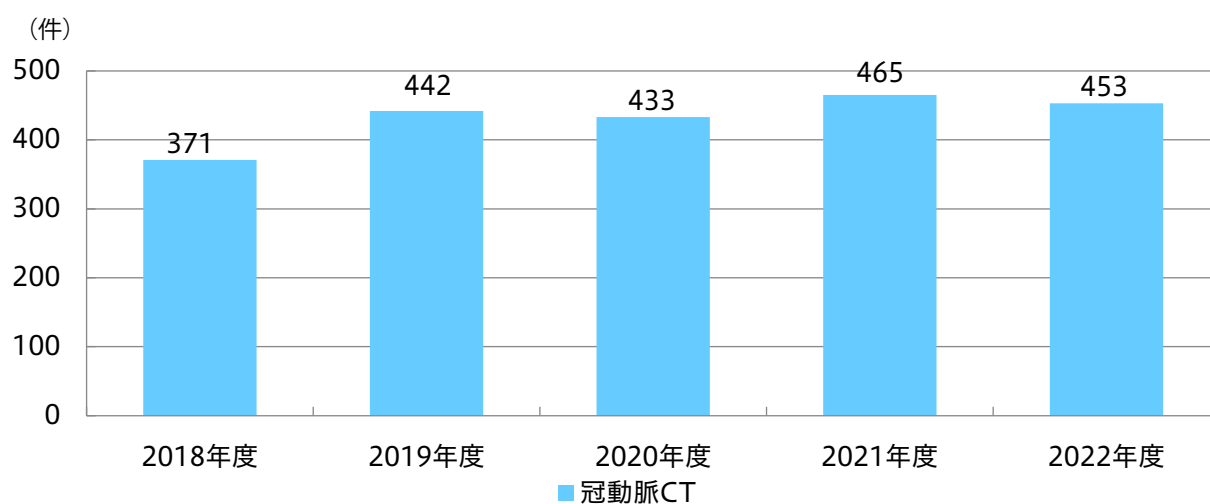
CT検査



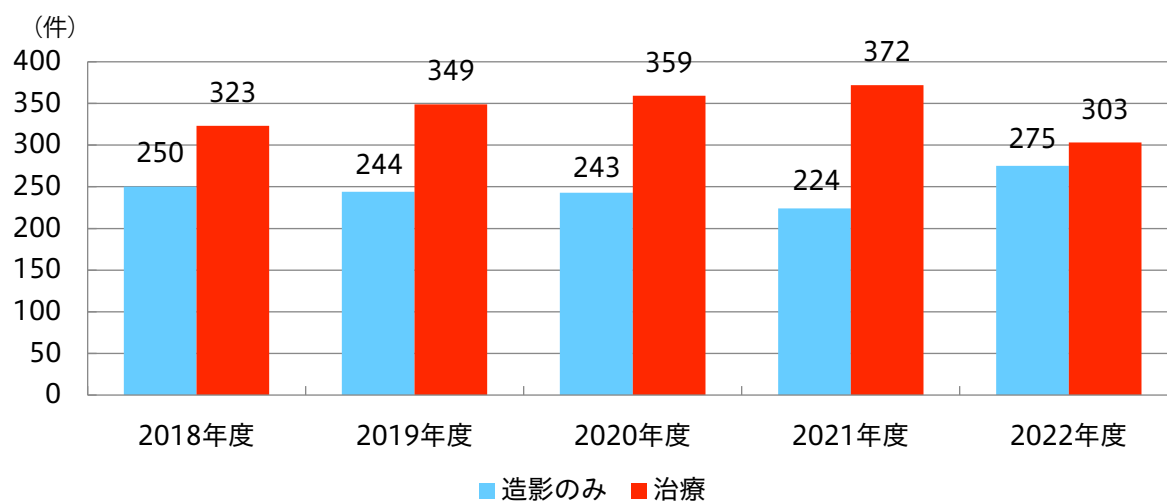
大腸CT



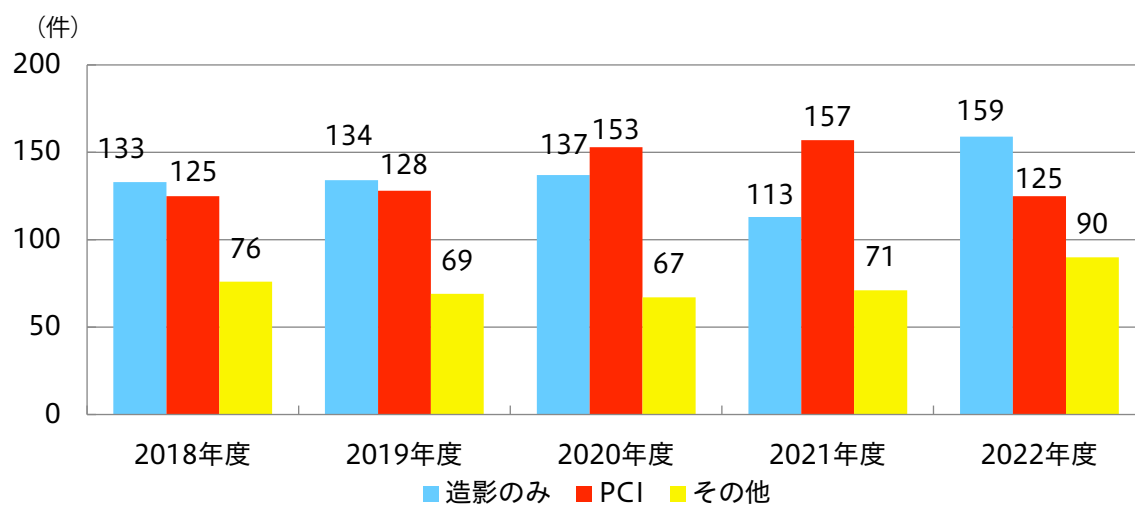
冠動脈 CT



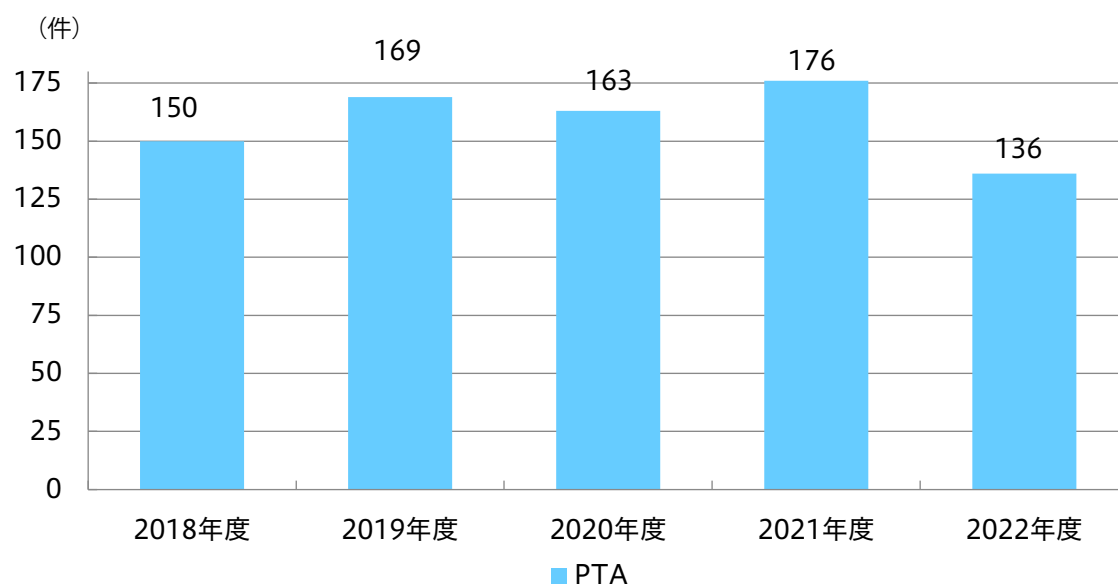
angio 総計



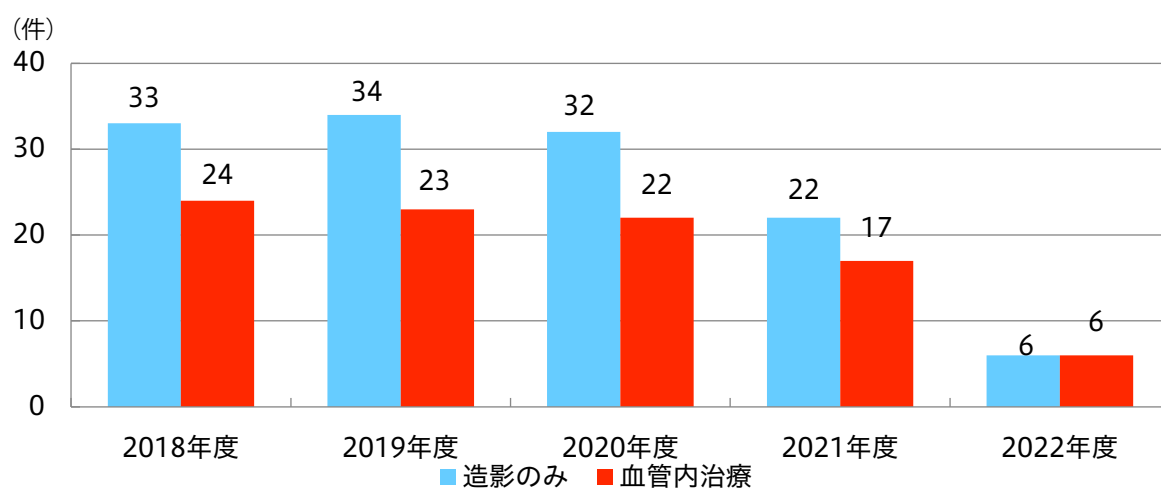
心臓カテーテル



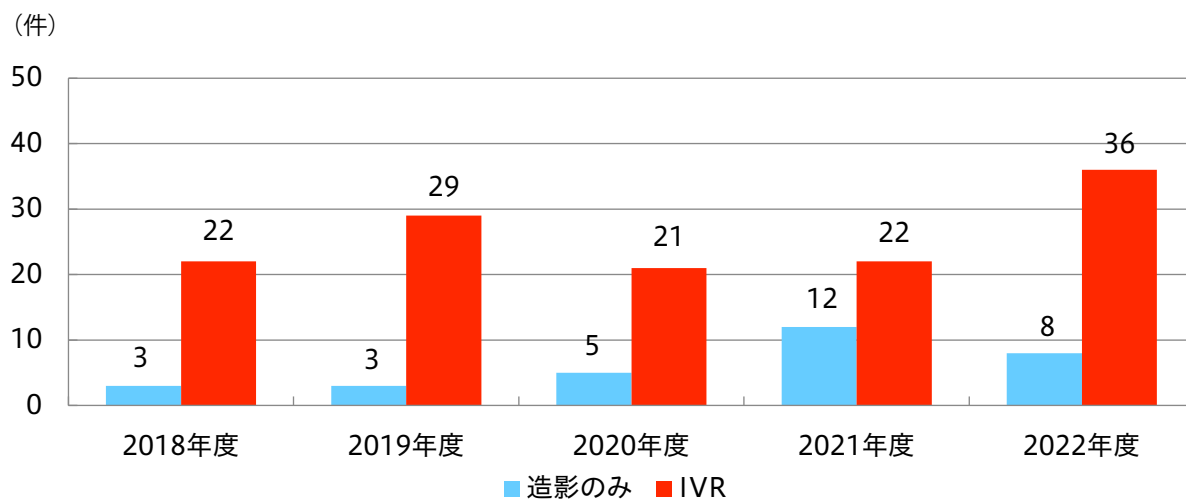
四肢 PTA



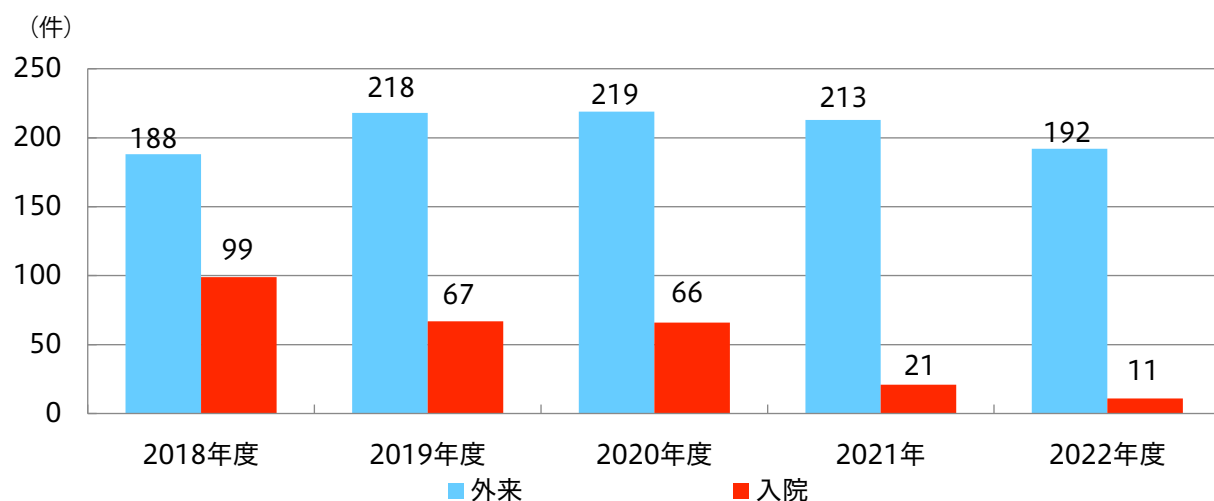
脳アンギオ



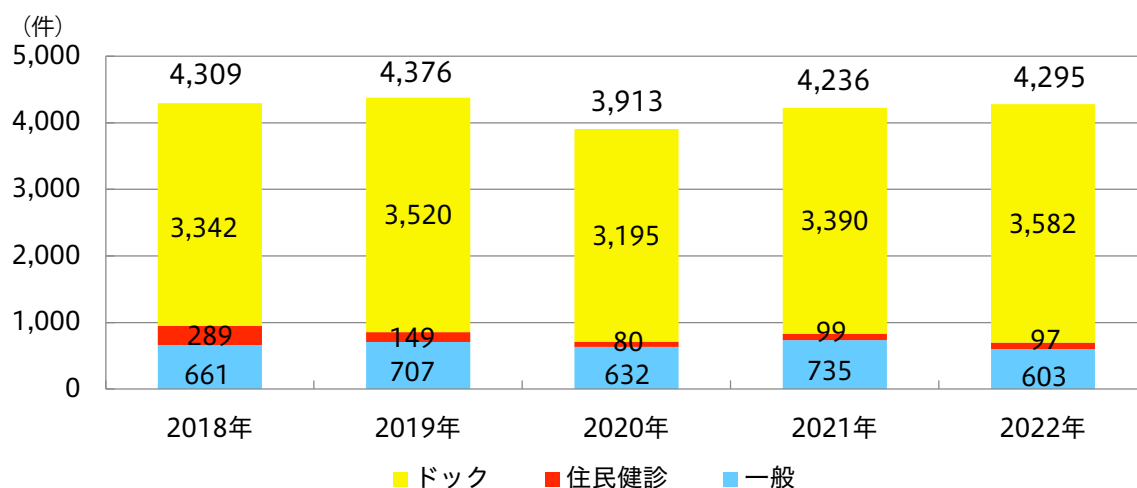
腹部アンギオ



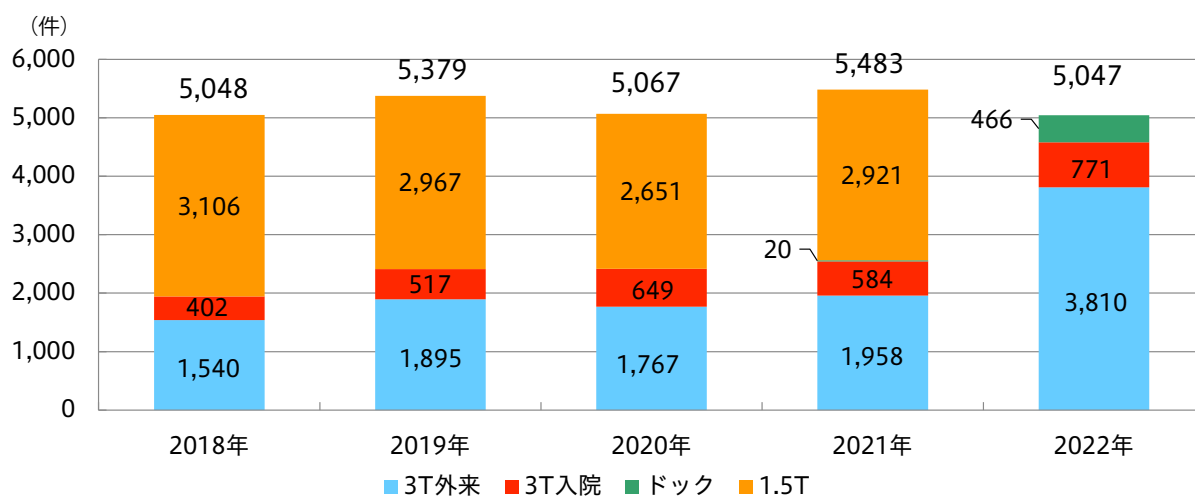
RI 検査



マンモグラフィ検査



3T-MRI

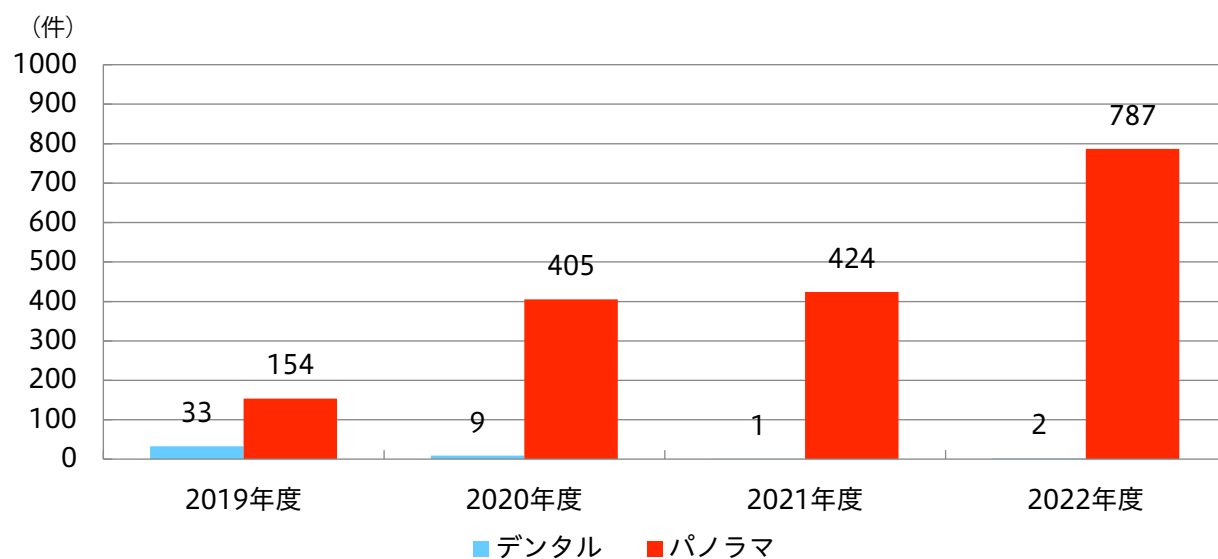


※ 2021 年度より人間ドックの 3T-MRI も担当したため合算表示しました（それ以前は検査科対応）。

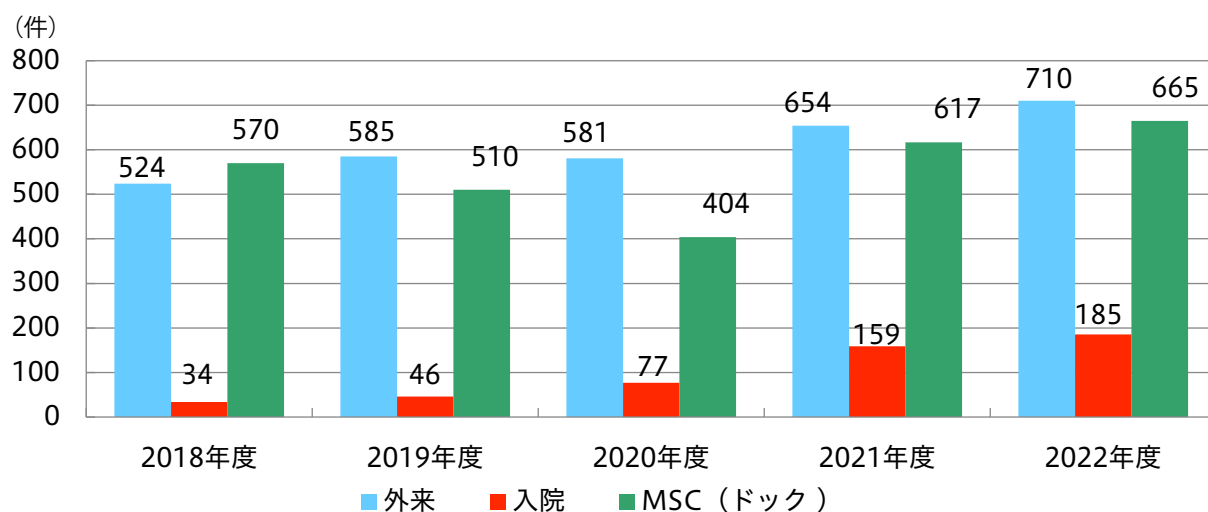
※ 2022 年度より 1.5TMRI も放射線科で行う事となり、1.5T と 3T-MRI 件数を合算表示しています。

（2018 年度～ 2021 年度の 1.5T は外来・入院・ドックの合算表示）

口腔一般撮影



骨密度検査



研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者研究者
FAD に対してマンモトーム生検を施行し DCIS の診断に至った 1 症例 (ポスター発表)	日本乳癌学会学術総会	東京都	2022 年 6 月 30 日	程岡美貴
3D Nerve View を使った胸管描出の 1 例	全日本病院学会	静岡県	2022 年 10 月 2 日	上里将司
大腸 CT での側面変形評価と深達度の比較検討	沖縄県放射線技師会学術研究発表会	オンライン	2022 年 10 月 23 日	出津利恵
マンモトームにおけるシミュレーションの有用性	沖縄県放射線技師会学術研究発表会	オンライン	2022 年 10 月 23 日	山城まどか
FAD に対してマンモトーム生検を施行し DCIS の診断に至った 1 症例	沖縄県放射線技師会学術研究発表会	オンライン	2022 年 10 月 23 日	程岡美貴
精密検査時と検診時の胃 X 線画像の見直し	沖縄県放射線技師会学術研究発表会	オンライン	2022 年 10 月 23 日	新垣千登勢

活動実績

院外勉強会発表

名称	勉強会名	開催地	日時	発表者
術前大腸 CT について	沖縄 CT 研究会	オンライン	2022 年 9 月 7 日	松田優二
各施設による DWI 撮像	沖縄県 MRI 研究会	オンライン	2022 年 12 月 1 日	太田忍
MR-Cisternography を用いた脳血管撮像	沖縄県 MRI 研究会	オンライン	2022 年 12 月 1 日	東金嶺裕太郎

院内研究発表

名称	セッション名	開催地	日時	講師
医療法施行規則の改正と放射線科での取り組み	医療技術部予選	院内	2023 年 1 月 25 日	仲田真央
医療法施行規則の改正と放射線科での取り組み	本選	院内	2023 年 2 月 10 日	仲田真央

院外勉強会

名称	セッション名	開催地	日時	講師
胸部レントゲンの見方	慢性心不全領域別研修	院内	2022 年 11 月 19 日	仲座義富

講習会受講

名称	勉強会名	開催地	日時	発表者
放射線技師会フレッシューズセミナー	放射線技師の新人教育	オンライン開催	2022 年 5 月 8 日	渡嘉敷竜斗
令和 3 年厚生労働省告示研修	第 273 号研修	沖縄県(宜野湾市)	2022 年 4 月 1 日	大城盛寛 宮城直哉
			2022 年 6 月 1 日	石原悟 程岡美貴 出津利恵
			2022 年 9 月 1 日	津波麻利子 新垣千登勢
2022 年度胃がん X 線検診技術部門 B 資格検定	受検資格講習	オンライン	2022 年 9 月 1 日	仲座義富、石原悟
医療安全管理者継続講習会	認定更新	オンライン	2022 年 12 月 1 日	石原悟
医療安全管理者養成講習会アドバンスコース	認定更新	大阪府	2023 年 2 月 1 日	石原悟

講習会講師

名称	内容	開催地	日時	講師名
告示研修	ファシリテーター	沖縄県(宜野湾市)	2022 年 4 月 24 日	松田優二
放射線技師会フレッシューズセミナー	被ばくについて	オンライン開催	2022 年 5 月 8 日	松田優二
告示研修	ファシリテーター	沖縄県(宜野湾市)	2022 年 6 月 26 日	松田優二
告示研修	ファシリテーター	沖縄県(宜野湾市)	2022 年 9 月 25 日	松田優二
告示研修	ファシリテーター	沖縄県(宜野湾市)	2022 年 11 月 6 日	松田優二
告示研修	ファシリテーター	沖縄県(宜野湾市)	2023 年 2 月 12 日	松田優二
SOLA 学園(臨床工学科)	放射線工学講義(RI)	沖縄 SOLA 学園	2023 年 12 月(3 回)	大城盛寛

臨床検査科

臨床検査科技師長 斎藤 辰好

今年度は、①5年後を見据えた人材育成、②医療機器の段階的な更新・導入、③病院規模に合わせた臨床検査業務の構築、④ハートライフクリニックの業務連携の充実、⑤予防医学センターとの業務連携への取り組み、⑥チーム医療の構築の6項を基本方針としました。

人材育成に関しては、各技師が複数分野の業務を出来るように計画を立て構築している最中です。本院業務のみならずクリニックでの採血・分析・生理検査業務を熟知し突発休や繁忙時でも対応出来るように体制を整えています。また予防医学センターとの業務連携も順調で、技師の相互入れ替えや業務の融合共有化を進めています。また、若手技師も当直業務へ従事し、救急外来検査等に対応できる体制を構築しています。

心臓カテーテル検査、上肢下肢血管治療検査、アブレーション検査、ラジオ波焼灼検査、細胞診穿刺検査、NST、食道内圧・PH検査、胆嚢穿刺検査、CPC等のチーム医療にも積極的に参加しています。

病理部門においては全自動免疫染色装置を導入し、検査時間を短縮し診断能力の向上を図りました。日本医師会、日本臨床検査技師会、沖縄県医師会技師会の精度管理事業にも参加し良好な結果が得られました。

また教育研修システムを充実させる為、細胞検査士、超音波検査士、血液検査技師、糖尿病療養指導士、緊急検査士等の各資格取得支援やスキルアップ為の支援等も行っています。

県内県外大学から長期実習学生を受け入れており、教育システムを構築しています。新型コロナウイルス検査について抗原検査は勿論、夜間でも緊急PCR検査を行う体制を構築しています。

運営方針

臨床検査は疾病の①診断、②治療方針決定、③予後の判定を左右する重要な情報である。迅速・正確なデータの提供を心がける。

職員数

総数

46 名

職種別

臨床検査技師 40 名（病院 34 名、予防医学センター 3 名、クリニック 3 名）

視能訓練士 3 名

検査科事務 3 名

認定・資格

氏名	名称
斎藤辰好	超音波検査士（4 領域）
島袋泰彦	超音波検査士（4 領域） 沖縄県地域糖尿病療養指導士 日本糖尿病療養指導士 衛生管理者 衛生工学衛生管理者

氏名	名称
仲松勝彦	超音波検査士（1 領域） 衛生管理者
安里奈美	超音波検査士（2 領域）
宮城 健	二級臨床検査士（微生物）
新垣春香	二級臨床検査士（微生物）

氏名	名称
津波古 菜々恵	二級臨床検査士(微生物) 緊急検査士
比嘉勇也	細胞検査士 有機溶剤作業主任者
諸見里真実	細胞検査士
金城奈津子	JABTS-C 認定技師
宮平優子	二級臨床検査士(免疫血清)

氏名	名称
上地利恵子	JABTS-C 認定技師
蔵下かおり	緊急検査士 二級臨床検査士(免疫血清) JABTS-A 認定技師
金城明日香	緊急検査士

沖縄県 臨床検査技師会 役員

	役職
我如古 靖	沖縄県臨床検査技師会 理事

研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者
当院で経験した骨髄壊死の1症例	沖縄県医学検査学会	オンライン	2022年11月21日	今畑 友理子
超音波検査で診断できた虫垂憩室の1例	沖縄県医学検査学会	オンライン	2022年11月21日	山川 萌

業務実績

科内勉強会

名称	日時	担当者
症例検討会(心臓・乳腺症例)	2022年4月22日	真栄田 奈々子
症例検討会(乳腺症例)	2022年5月27日	山川 萌
心臓カテーテル検査について	2022年6月24日	寺内 悠人
2022年度 肺機能・精度管理の検討	2022年7月29日	島袋 凧瑳
予防医学センター乳腺カテゴリー判定について	2022年8月26日	蔵下 かおり
予防医学センター腹部エコー精度管理について	2022年9月30日	上地 利恵子
弁膜症(大動脈弁)	2022年10月28日	我如古 靖
心不全の評価について	2022年2月24日	島袋 泰彦
2022年度 精度管理の解説	2022年3月31日	仲松 勝彦
GLS(心臓エコー)について	2022年3月31日	宮平 優子

検査・治療実績

生理検査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
心電図	553	463	549	387	376	496	527	509	543	565	491	598	6,057
CVR-R+ECG	0	0	1	1	0	2	0	1	0	2	0	0	7
マスター心電図	8	5	3	3	3	1	4	9	5	2	6	2	51
トレッドミル負荷	1	5	3	0	1	0	4	0	0	0	0	1	15
ホルター心電図	22	25	21	11	22	15	18	22	21	24	19	28	248
ABPM	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3
簡易肺機能(2項目)	92	61	108	62	67	92	105	100	88	126	94	99	1,094
肺機能(4項目)	17	11	16	11	6	16	22	14	7	14	18	12	164
ABI 測定	33	35	44	29	33	24	41	86	74	31	34	30	494
サーモグラフィー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼気中尿素試験	39	42	57	35	43	28	31	39	29	44	46	35	468
脳波	2	2	5	3	2	6	4	2	3	2	3	8	42
睡眠・薬物賦活脳波	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経伝達速度(MCV)	2	3	9	6	6	2	5	6	7	5	3	5	59
聴性脳幹反応(ABR)	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3
終夜睡眠ポリグラフ	4	1	0	1	2	1	1	1	2	1	1	6	21

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
心肺運動負荷試験	4	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	6
レートポテンシャル	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
呼気中一酸化窒素	22	15	18	18	22	24	28	19	23	19	16	19	243
食道内圧測定	0	4	0	0	0	4	2	3	7	4	1	5	30
食道 PH モニター	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	4
経皮的酸素ガス分圧	0	2	1	0	0	2	1	0	0	0	0	1	7
皮膚灌流圧測定検査	0	2	1	0	0	2	0	0	0	0	0	2	7
心エコー	315	338	347	240	242	292	294	317	310	315	298	353	3,661
腹部エコー	241	250	306	217	221	279	291	284	272	202	204	248	3,015
泌尿器エコー	109	107	126	94	84	105	136	115	132	86	95	131	1,320
表在エコー	128	112	161	85	113	157	140	134	122	132	128	156	1,568
血管エコー	130	124	160	145	75	99	126	120	121	111	107	111	1,429
胎児エコー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経直腸エコー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経食道心エコー	1	3	2	1	2	3	2	2	2	2	3	4	27
ENOG	2	3	4	2	4	1	3	2	3	2	3	2	31
簡易聴力検査	7	5	8	3	3	5	8	15	18	17	15	16	120
標準聴力検査	51	46	62	42	34	71	57	62	64	51	68	59	667
ティンパノメトリー	25	19	31	12	15	35	14	24	26	27	29	20	277
アブミ骨筋反射検査	14	14	16	8	11	18	8	16	18	24	24	19	190

病理・細胞検査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
組織診	372	349	340	232	225	356	373	391	352	328	347	357	4,022
細胞診	299	237	304	236	271	302	280	322	307	238	253	291	3,340
剖検	1	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	5
迅速組織診	7	4	7	6	6	8	3	3	3	6	7	3	63

血液検査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液像目視	540	387	444	326	392	423	596	407	435	380	381	433	5,144
骨髓像	11	16	15	9	14	25	28	18	13	21	19	19	208
PBSC 製剤作製（患者数）	1	0	0	0	1	2	0	1	0	2	2	0	9
PBSC 製剤作製（作製数）	1	0	0	0	1	3	0	1	0	2	3	0	11
骨髓血漿除去作業	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
赤血球除去後骨髓凍結作業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

細菌検査実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
塗抹	373	392	479	504	512	387	404	446	465	471	369	465	5,267
培養	943	998	1,184	1,279	1,336	1,093	1,060	1,059	1,110	1,136	876	1,109	13,183
呼吸器系	123	107	128	137	147	112	108	125	130	151	121	147	1,536
消化器系	21	34	37	35	24	27	33	39	34	32	26	46	388
泌尿生殖器系	228	247	267	283	300	255	233	244	256	243	185	242	2,983
血液	497	523	631	712	734	615	602	559	592	613	473	603	7,154
穿刺液	31	19	31	36	51	24	28	28	28	30	36	24	366
その他	43	68	90	76	80	60	56	64	70	67	35	47	756
嫌気培養	506	528	632	712	743	614	596	549	591	623	477	620	7,191
感受性													
1 菌種	188	222	272	277	282	241	218	239	231	224	209	222	2,825
2 菌種	57	81	97	87	86	66	62	63	65	63	34	51	812
3 菌種以上	29	39	28	47	44	43	39	41	38	38	16	23	425
薬剤耐性菌検出	1	0	1	2	1	47	37	47	47	18	32	35	268

検体検査（科別）

ハートライフ病院

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	3,491	3,899	3,936	3,718	3,481	3,179	3,143	3,188	3,343	3,335	2,948	3,276	40,937
外科	842	806	756	725	869	960	936	809	883	884	790	937	10,197
整形外科	444	457	493	506	446	482	493	428	567	542	393	475	5,726
眼科	72	70	53	64	28	55	75	77	66	71	51	9	691
透析科	328	229	203	238	254	213	328	175	205	214	218	216	2,821
小児科	304	341	355	374	360	378	322	299	327	328	286	240	3,914
脳神経外科	86	89	107	112	124	75	64	96	78	95	84	72	1,082
産婦人科	530	570	587	589	625	588	568	643	613	624	588	588	7,113
耳鼻咽喉科	55	51	90	41	50	68	84	102	67	73	100	102	883
心療内科	2	1	4	2	1	2	5	5	4	3	2	7	38
泌尿器科	442	412	437	363	354	423	451	443	486	365	332	430	4,938
皮膚科	1	1	3	2	1	1	2	1	2	0	0	4	18
麻酔科	13	3	9	8	8	8	7	10	4	15	6	11	102
形成外科	109	32	68	48	52	77	70	76	52	89	56	87	816
乳腺外科	108	90	136	119	98	131	128	116	107	153	126	126	1,438
救急科	892	987	885	1,100	1,053	777	711	754	924	1,115	802	847	10,847
本院合計	7,719	8,038	8,122	8,009	7,804	7,417	7,387	7,222	7,728	7,906	6,782	7,427	91,561
口腔ケア科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
本院合計	4,733	4,270	4,292	4,813	4,655	4,517	4,483	4,525	4,524	4,506	3,988	5,047	54,353

検診科

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	1,047	1,184	1,585	1,420	1,497	1,511	1,590	1,543	1,699	1,396	1,404	1,702	17,578

ハートライフクリニック

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
糖尿病内科	1,241	1,172	1,337	1,190	1,304	1,239	1,249	1,224	1,325	1,229	1,202	1,366	15,078
内科	494	456	474	495	452	476	474	464	483	456	468	508	5,700
小児科	19	38	38	45	53	46	61	61	43	178	228	77	887
検診	2	8	16	13	6	11	68	13	20	14	23	30	224
合計	1,756	1,674	1,865	1,743	1,815	1,772	1,852	1,762	1,871	1,877	1,921	1,981	21,889

本院 + 検診 + クリニック

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	10,522	10,896	11,572	11,172	11,116	10,700	10,829	10,527	11,298	11,179	10,107	11,110	131,028

検体検査（病棟）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ICU	173	193	150	182	144	152	163	201	209	233	162	195	2,157
HCU	180	180	184	179	159	149	126	170	189	185	171	197	2,069
東館 4・5 階病棟	327	338	283	385	405	438	280	343	340	379	329	268	4,115
3 階病棟	342	358	384	328	456	363	356	358	409	389	254	304	4,301
4 階病棟	479	531	573	581	517	502	449	382	445	458	381	454	5,752
5 階病棟	328	352	325	342	353	288	418	454	452	418	382	421	4,533
6 階病棟	522	479	588	609	578	594	599	501	548	561	459	526	6,564
7 階病棟	513	526	536	524	567	480	470	472	438	420	441	575	5,962
合計	2,864	2,957	3,023	3,130	3,179	2,966	2,861	2,881	3,030	3,043	2,579	2,940	35,453

臨床工学科

臨床工学科技士長 野原 剛

2022 年度も新型コロナウイルスの収束、第 2 類から第 5 類感染症への審議、検討はなされるも移行はありませんでした。当科では昨年に引き続き新型コロナウイルスに罹患した当院の血液透析患者様の隔離透析、病室等の UV 照射に対応致しました。

また、第 17 回九州・沖縄工学会が沖縄県で開催され当院からも 5 演題発表し、その中で BPA（優秀演題賞）に外間 翔吾がノミネートされました。演題名等詳細は「学会発表及び論文著書」をご参照下さい。

SOLA 沖縄保健医療工学院より 1 名実習生を受け入れ代謝、循環器、ME 機器管理業務に関する実習を実施しました。

2021 年度よりスタートした手術室の器械出し業務の立会い件数も着実に増加しタスクシフト・シェアに貢献していると思います。

各部門の実績の詳細は資料をご参照下さい。

職員数

総数

18 名

職種別

臨床工学士 18 名

理念

臨床工学科は急性期医療としての役割を遂行する為に他部門との連携を密にし、高度な医療技術の提供および機器の保守管理を行い、安心かつ安全な医療の提供を行います。

運営方針

1. 良質な診療支援を行うため、組織、業務の改善に努める。
2. 安心・安全で信頼される診療技術の提供に努める。
3. 医療機器の医療事故防止に努める。
4. 高度医療機器の効率的運用と安全性の確保。
5. 医療機器の標準化・機種統一を積極的に進める。

業務実績

【ME 機器管理実績】

2022 年度は、新規事業として手術室での光学視管の点検を開始しました。

修理依頼・トラブル対応件数について

1. 年度推移

年度	2018	2019	2020	2021	2022
件数	613	604	676	911	702

2. 月推移

月に関わらず問い合わせ件数が一定数あり、臨床工学技士の対応が必要であることがわかります。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
2018	44	49	36	49	52	43	44	50	85	67	46	48
2019	45	52	55	56	60	44	70	45	47	45	38	47
2020	37	43	38	45	62	65	58	61	70	66	60	71
2021	76	44	54	69	129	98	90	135	64	56	31	64
2022	57	59	57	64	47	50	40	49	55	56	70	97

3. 対応割合

トラブル対応は、80.2%が臨床工学技士によって行われており、迅速な対応ができました。

対応者	件数	割合
CE	563	80.2%
業者	139	19.8%

4. 発見 / 現場依頼割合

件数は減少しましたが、手術室は 100 件を超えています。

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
臨床工学科	277	314	439	216
本館 7F	46	35	37	39
本館 6F	33	35	28	33
本館 5F	28	27	16	29
本館 4F	33	18	25	28
本館 3F	13	29	32	26
東館 4F	4	6	15	11
東館 5F	13	23	29	29
ICU	26	23	30	30
HCU	18	20	25	24
手術室	42	71	121	108
救急センター (ER)	27	24	29	42
人工透析室	4	4	3	3
リハビリテーション科	11	18	22	28
外来通院治療室	4	2	1	2
中央処置室	7	5	15	5
東館アンギオ室	2	6	1	2
内視鏡センター	14	8	6	8
内科	-	1	-	-
脳神経外科・耳鼻咽喉科	-	1	10	9
泌尿器科	-	1	-	-
外科・ヘルニアセンター	1	1	-	-
クリニック	1	3	1	4
発熱外来	-	1	-	-

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
その他	-	-	26	26
合計数	604	675	911	702

5. 日常点検集計

人工呼吸器について

点検種類	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
始業点検	520 台 / 年	543 台 / 年	459 台 / 年	541 台 / 年	425 台 / 年
終業点検	423 台 / 年	409 台 / 年	585 台 / 年	452 台 / 年	396 台 / 年
使用中点検 ラウンド点検	1732 台 / 年 5.6 台 / 日	1785 台 / 年 5.7 台 / 日	1607 台 / 年 5.1 台 / 日	1338 台 / 年 4.2 台 / 日	1749 台 / 年 5.6 台 / 日

ポンプについて

機種	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
輸液ポンプ	2047 台 / 年 6.6 台 / 日	2886 台 / 年 9.3 台 / 日	2914 台 / 年 9.4 台 / 日	2751 台 / 年 8.7 台 / 日	2908 台 / 年 9.4 台 / 日
シリンジ ポンプ	1389 台 / 年 4.5 台 / 日	1445 台 / 年 4.7 台 / 日	1714 台 / 年 5.5 台 / 日	1475 台 / 年 4.7 台 / 日	1427 台 / 年 4.6 台 / 日
経腸栄養ポンプ	31 台 / 年	25 台 / 年	46 台 / 年	41 台 / 年	39 台 / 年
フットポンプ	536 台 / 年	747 台 / 年	859 台 / 年	1017 台 / 年	1165 台 / 年
医薬品注入コントローラ	347 台 / 年	400 台 / 年	451 台 / 年	296 台 / 年	322 台 / 年

生体情報モニタについて

生体情報モニタ	2022 年度	合計
セントラルモニタ	日常点検 (貸出先)	4,489
	月毎点検	312
	合計	4,801
BS モニタ	日常点検 (貸出先)	4,939
	月毎点検	1,075
	使用後点検	31
	使用	1,273
	合計	7,318

6. 臨床支援業務

肝腫瘍ラジオ波焼灼術 立ち会い件数の推移

年度	内科	外科	内科 (中止)	外科 (中止)	総数
2018 年度	16	0	0	0	16
2019 年度	18	2	1	0	20
2020 年度	6	3	3	0	12
2021 年度	5	3	0	0	8
2022 年度	7	0	0	0	7

レンタル呼吸業務

院内で不足する人工呼吸器の貸出返却の対応を引き受け対応しています。下表は年間の貸出返却対応件数を示します。マスク式人工呼吸器のレンタルが主です。

年度	NPPV (V60)	NPPV (ASV)	NHF ネーザルハイフロー
2018 年度	156	40	6
2019 年度	185	43	16
2020 年度	126	26	16
2021 年度	127	11	16
2022 年度	112	12	2

【循環器実績】

アンギオ対応実績

月	カテーテル検査						植え込みデバイス					IVCF	PPI		ABL	脳血管 カテーテル	
	CAG	PCI	緊急	総 PCI	IABP	ECMO	TPM	PMI	PMR	MRI	外来		上肢 PTA	下肢 PTA		検査	治療
4月	13	9	3	12	1	0	2	3	1	1	29	0	6	9	2	0	0
5月	14	7	1	8	1	0	2	3	1	1	10	0	3	9	2	0	0
6月	9	15	0	15	0	0	0	0	1	4	38	0	5	8	2	1	0
7月	10	10	1	11	0	1	3	3	1	1	21	0	6	2	2	0	0
8月	5	3	1	4	0	0	2	2	1	0	40	0	5	8	0	1	0
9月	16	8	3	11	3	1	0	3	2	1	36	0	1	4	0	0	1
10月	17	11	0	11	3	2	1	1	2	3	25	0	8	5	4	0	2
11月	13	9	2	11	0	0	2	1	0	1	15	0	8	6	1	2	0
12月	15	7	2	9	2	1	3	4	2	0	28	0	7	7	0	0	1
1月	17	7	3	10	1	2	3	2	0	0	19	0	6	3	0	1	0
2月	17	8	2	10	0	0	0	0	0	0	41	0	2	4	2	0	1
3月	15	9	2	11	1	1	1	2	1	0	37	0	6	8	2	1	1
総合計	161	103	20	123	12	8	19	24	12	12	339	0	63	73	17	6	6

※ CAG は検査のみ、PCI+ 緊急が総 PCI 数になります。

PMI: ペースメーカ植え込み術。PMC: ペースメーカクリニック。PPI: 経皮的末梢動脈形成術。

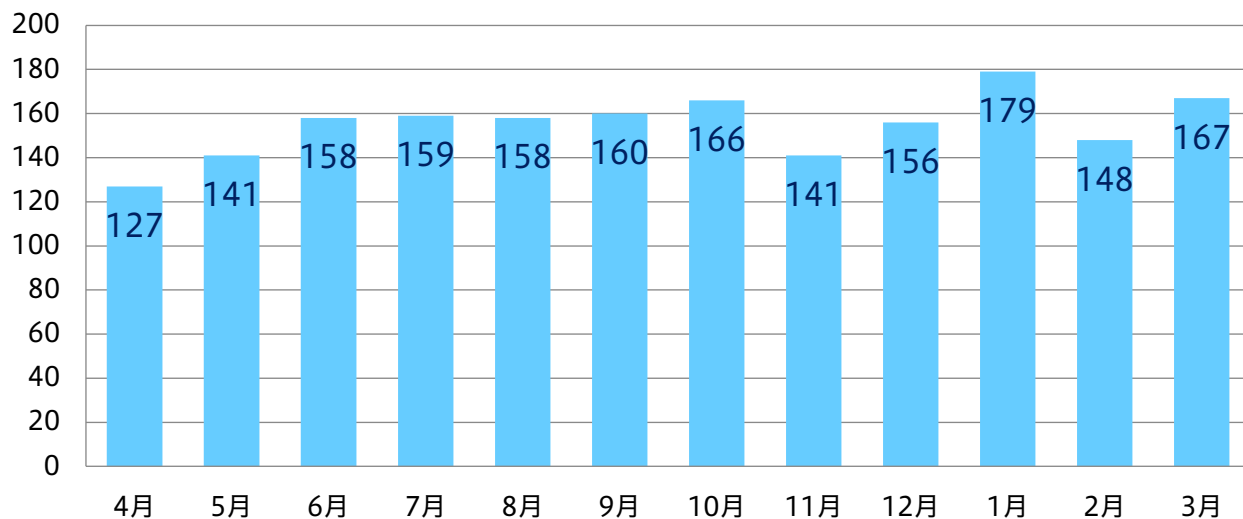
IVCF: 下大静脈内留置フィルター。TPM: 体外式ペースメーカ。

【血液浄化部実績】

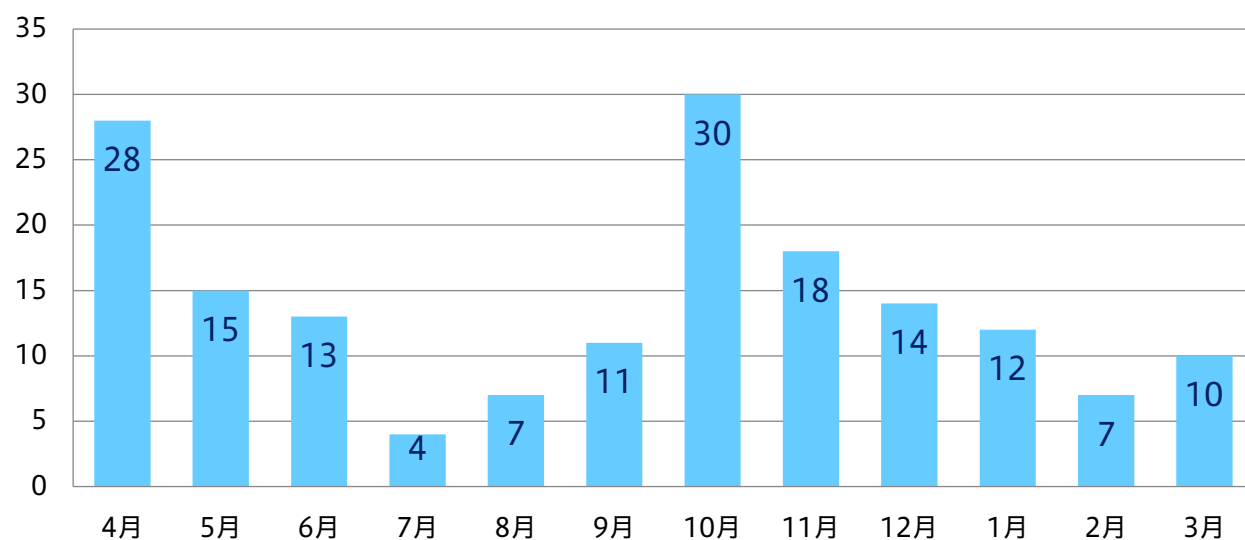
出張血液浄化実績

年月	血液浄化療法										血漿浄化療法			CART	PBSC	合計
	HD (SLED 含)	HDF (SLED-f 含)	CHD	CHF	CH DF	白血球 除去療法		血液吸着			血漿吸 着 ビリルビン吸着	PP				
						GCAP	LCAP	PMX	DHP	LDL		PE	DF PP			
2022.4	18	0	0	0	8	6	0	2	0	0	0	0	0	0	1	35
5	23	0	0	0	9	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35
6	7	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	11
7	20	0	0	0	11	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	35
8	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	16
9	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	4	12
10	4	0	0	0	16	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	22
11	10	0	0	0	15	0	0	0	0	6	0	0	0	0	1	33
12	14	0	0	0	7	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	25
2023.1	10	0	0	0	12	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	26
2	5	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	18
3	2	0	0	0	21	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	25
計	127	0	0	0	108	13	0	6	0	14	0	0	0	0	11	279

エコー下穿刺件数 (20 点) 計 1860 件



シャントエコー検査 (350 点) 計 169 件



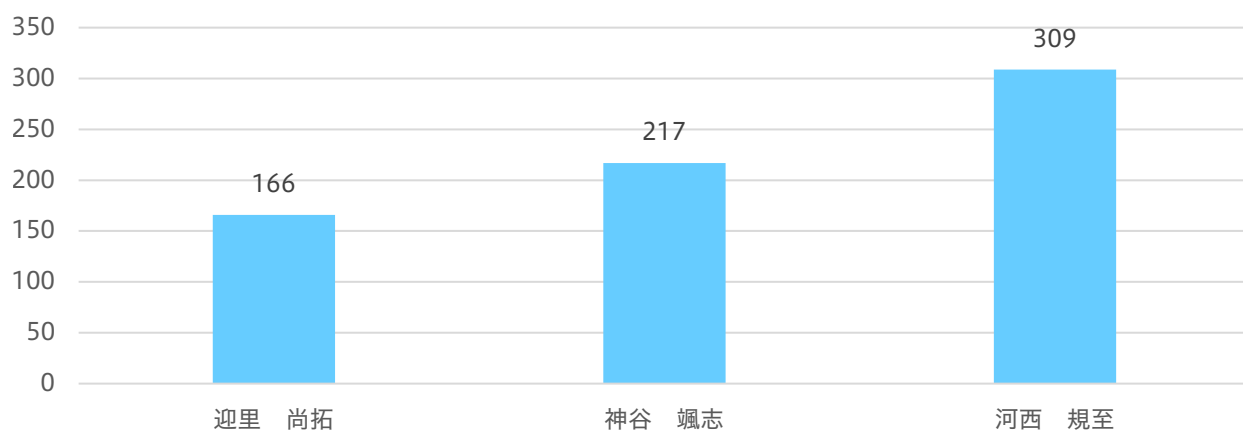
【器械出業務実績】

2021 年より臨床工学科から手術室へ出向し器械だし業務を行っています。

臨床工学科出向者の実績

692 件 / 年

186 術式 / 年



術式（一部抜粋）

術式	件数
水晶体再建術 1. 眼内レンズを挿入する場合	59
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	36
腹腔鏡下胆嚢摘出術	34
骨折観血の手術 1. 大腿	30
経尿道的尿管ステント留置術	23
人工関節置換術 1. 股	21
創傷処理 1. 筋肉、臓器に達するもの（長径 5cm 未満）	18
帝王切開術 2. 選択帝王切開	17
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術を含む）	16
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	16
人工骨頭挿入術 1. 股	15
骨折観血の手術 2. 前腕	13
腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	13
帝王切開術 1. 緊急帝王切開	12
子宮全摘術	12
口蓋扁桃手術 2. 摘出	11
乳腺悪性腫瘍手術 3. 乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない）	10

術式	件数
骨内異物（挿入物）除去術 3. 下腿	10
人工関節置換術 1. 膝	8
腱鞘切開術（関節鏡下によるものを含む）	8
骨折経皮的鋼線刺入固定術（指）[刻み計算電子レセプト用]	8
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用）	7
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用埋込型カテーテル設置 3. 頭頸部その他に設置	7
骨折観血の手術 2. 下腿	7
骨内異物（挿入物）除去術 3. 前腕	7
創傷処理 2. 筋肉、臓器に達するもの（長径 5cm 以上 10cm 未満）	6
鼓室形成手術（耳小骨温存術）	6
子宮附属器腫瘍摘出術（両側）2. 腹腔鏡によるもの	6
半月板縫合術（関節鏡下）	5
子宮悪性腫瘍手術	5
骨折観血の手術 1. 上腕	5

研究業績

学会発表

演題名	学会名	開催地	発表年月日	発表者と研究者
レオカーナ施行への取り組み	第 67 回日本透析医学会学術集会・総会	神奈川県	2022 年 7 月 2 日	仲程 通孝
レオカーナ施行への取り組み	第 17 回九州・沖縄工学会	沖縄県	2023 年 1 月 14 日	仲程 通孝
透析室での急変対応への取り組み ～実際の急変事例を経験して～	第 17 回九州・沖縄工学会	沖縄県	2023 年 1 月 14 日	久貝 慎太郎
学生対象セッション当院の業務内容について	第 17 回九州・沖縄工学会	沖縄県	2023 年 1 月 15 日	野原 剛
当院における携帯電話利用ルール	第 17 回九州・沖縄工学会	沖縄県	2023 年 1 月 15 日	仲松 晋也
薬剤溶出性バルーン（DCB）を使用した VAIT 症例の検討	第 17 回九州・沖縄工学会	沖縄県	2023 年 1 月 15 日	外間 翔吾

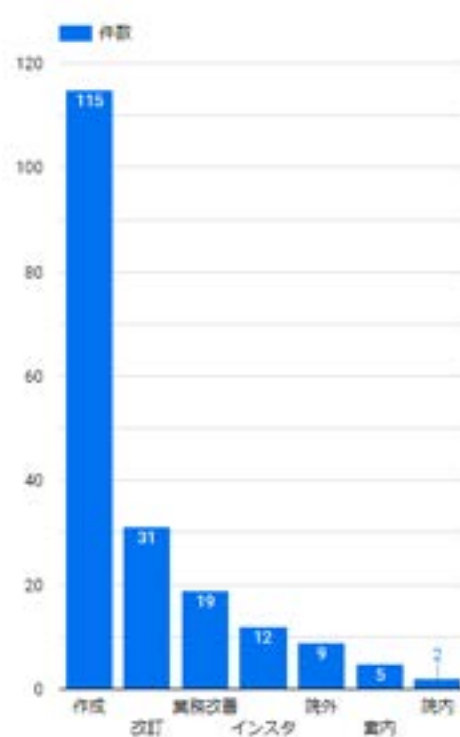
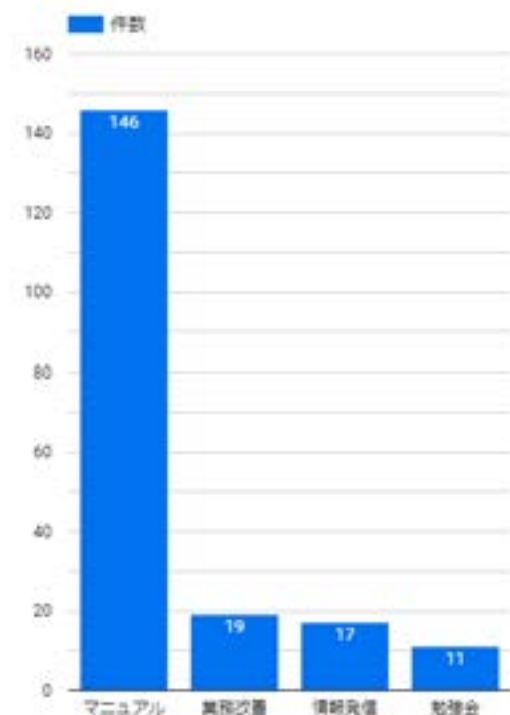
職員向け医療機器研修

講習名	実施内容	実施日	講師
新人看護師向け酸素デバイス研修	酸素デバイス使用方法説明	2022 年 4 月 18 日	伊佐美優羽
除細動器 TEC5631	除細動器更新のため説明会	2022 年 4 月 20 日～ 21 日	日本光電伊波
ハミルトン C1 使用方法説明会	ハミルトン C1 の使用方法	2022 年 5 月 9 日	兼城雅
人工呼吸器と呼吸生理	呼吸生理と人工呼吸器ハミルトンとの関係	2022 年 6 月 8 日	仲松晋也
IABP デモ機説明会	IABP デモ機説明会	2022 年 6 月 6 日	ゼオンメディカル
12 誘導心電計新機種導入説明会	12 誘導心電計の導入説明会	2022 年 6 月 14 日	日本光電伊波
12 誘導心電計新機種導入説明会	12 誘導心電計の導入説明会	2022 年 6 月 15 日	仲松晋也
ペースメーカー勉強会	ペースングフェイラー説明	2022 年 7 月 7 日	屋比久雄飛
輸液・輸血ポンプ使用方法勉強会	輸液・輸血ポンプ使用方法勉強会	2022 年 7 月 25 日	仲松晋也
手術室看護師対象 人工呼吸器勉強会	手術室看護師対象 人工呼吸器勉強会	2022 年 7 月 27 日	兼城雅
A ライン勉強会	A ラインプライミングと、採血方法の実技	2022 年 8 月 5 日	屋比久雄飛
UV ロボ使用法勉強会	操作方法の説明	2022 年 8 月 9 日	屋比久雄飛

講習名	実施内容	実施日	講師
手術室看護師対象 人工呼吸器勉強会 CaseStudy	手術室看護師対象 人工呼吸器勉強会 CaseStudy	2022 年 8 月 23 日	兼城雅
血ガス分析装置（エポック）デモ説明	血ガス分析装置（エポック）デモ説明	2022 年 9 月 27 日	ITI 田淵
IABP 勉強会	原理基本	2022 年 9 月 27 日	屋比久雄飛
新型 ASV(AirCurveTJ)	ASV(AirCurveTJ) 説明会	2022 年 9 月 30 日	外間翔吾
低圧持続吸引器使用方法説明会	低圧持続吸引器使用方法説明会	2022 年 10 月 24 日	兼城雅
低圧持続吸引器使用方法説明会	低圧持続吸引器使用方法説明会	2022 年 10 月 26 日	兼城雅
AED 使用方法説明（更新のため）	AED 使用方法説明	2022 年 10 月 28 日	CE
ECMO 勉強会 1	ECMO の基礎	2022 年 11 月 22 日	外間翔吾
HOT 同調器付きポンベ使用説明会	HOT 同調器付きポンベ使用説明会	2022 年 11 月 25 日	伊佐美優羽
NPPV 装置 NKV 使用方法説明会	NPPV 装置 NKV 使用方法説明会	2022 年 12 月 29 日	兼城雅
CRRT 勉強会	CRRT 原理・管理方法	2023 年 2 月 16 日	内里司

KPI 実績

2022 年度、臨床工学科では KPI を設定し業務に取り組み、マニュアルの改訂や業務改善、情報発信を行いました。



栄養科

栄養科科长 真栄城 ゆかり

2022 年度より ICU、HCU 患者を対象に行う早期栄養管理を開始しました。

経腸栄養・経口食を開始した患者を対象に、医師、看護師、薬剤師、栄養士の多職種で連携し栄養管理を行います。5 月から開始し 670 件介入しました。また、入退院支援室と連携し入院時に栄養指導を実施、前年度と比較し入院栄養指導件数増となりました。

給食管理では慢性的な調理スタッフの人員不足が続く中、他部署からのスタッフの応援や献立、食材の見直しを行い食事提供に影響がないよう業務を行いました。

各認定資格については NST 専門療法士の 40 時間実習へ 1 名参加することができました。コロナウイルスの影響もあり、他学会やセミナーへ参加できず資格取得に至りませんでした。専門療法士の育成やスキルアップに繋がるよう、今後も支援体制を強化していきます。

職員数

総数

2 名

職種別

管理栄養士 7 名

調理師 9 名

調理補助 2 名

食器洗浄 5 名

事務 2 名

認定・資格

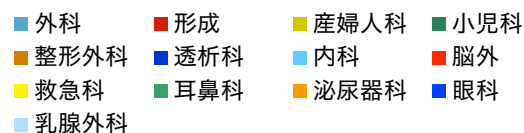
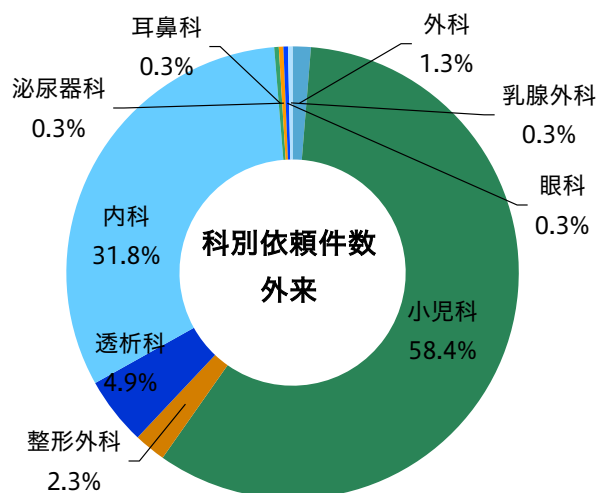
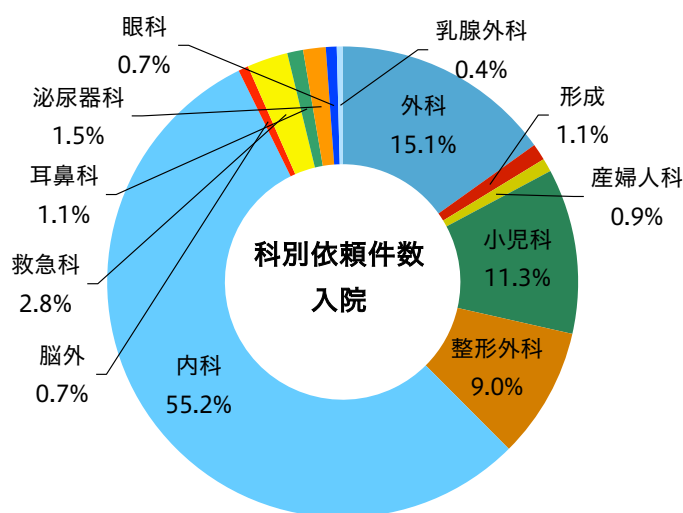
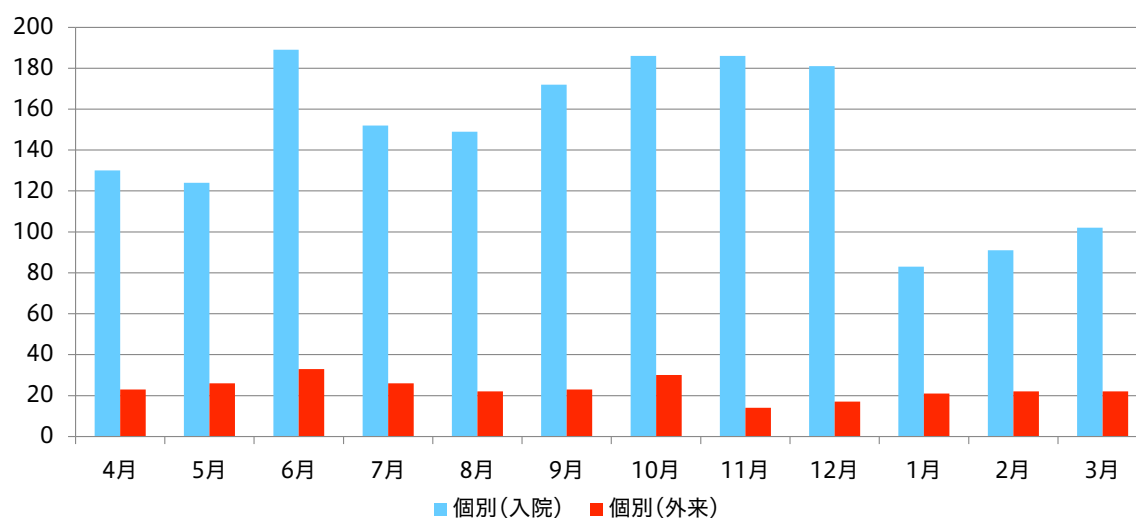
氏名	認定・資格名
久場徳子	健康運動指導士 糖尿病療養指導士 栄養サポートチーム専門療法士
真栄城ゆかり	糖尿病療養指導士 栄養サポートチーム専門療法士
當眞結子	沖縄県地域糖尿病療養指導士 栄養サポートチーム専門療法士

氏名	認定・資格名
高屋美希	沖縄県地域糖尿病療養指導士
棚原佳世	沖縄県地域糖尿病療養指導士
中村 詩	沖縄県地域糖尿病療養指導士
末吉 花穂子	沖縄県地域糖尿病療養指導士

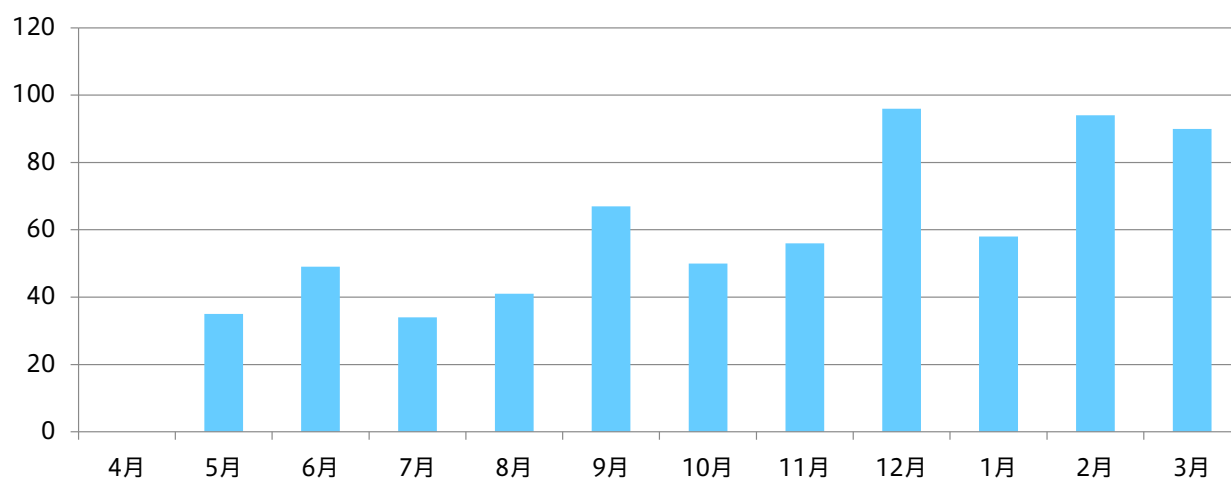
運営方針

- ・患者様のニーズに応える食事を提供します。
- ・衛生面かつ安全面に配慮した業務を行います。
- ・患者様の病態に応じた食事の支援をいたします。

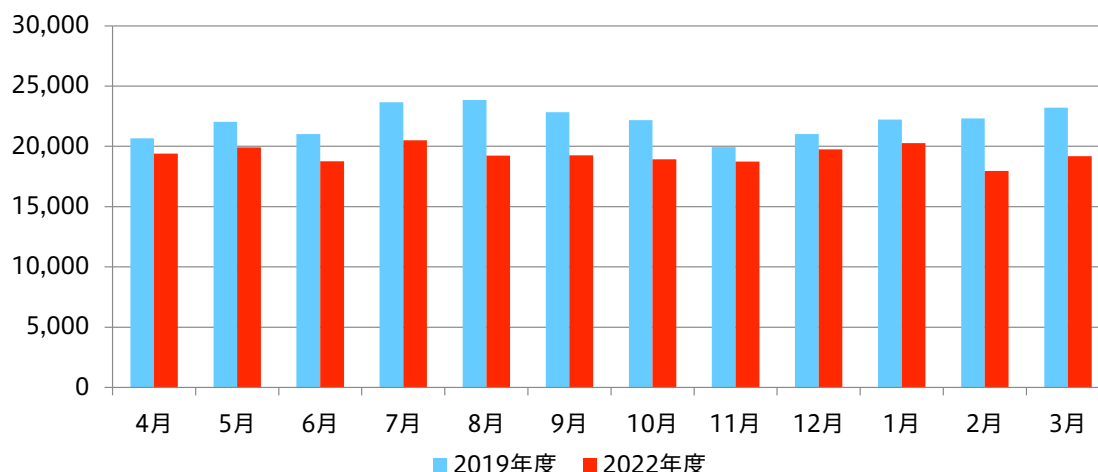
2022 年度栄養指導実施件数



早期栄養管理加算



2019 年度と 2022 年度の月間食数比較



活動実績

科内研修

名称	実施年月日	担当
食品高騰について	2022 年 6 月 15 日	當眞
血液検査について	2022 年 7 月 14 日	久場
夏バテ予防	2022 年 8 月 19 日	棚原
自律神経を考えよう	2022 年 10 月 28 日	末吉
脂肪肝	2022 年 12 月 29 日	高屋
K の早わかり	2023 年 2 月 7 日	久場

研修受講実績

研修名	開催地	実施年月日	参加
糖尿病教室	オンライン	2022 年 4 月 13 日	當眞、中村、末吉、港川、真栄城
がん薬物療法のマネジメント～食欲低下～	オンライン	2022 年 5 月 13 日	中村、末吉
九州沖縄 災害対策セミナー	オンライン	2022 年 6 月 28 日	棚原
高齢者の水分補給	オンライン	2022 年 7 月 5 日	高屋
腸内環境からみた食物繊維の重要性	オンライン	2022 年 7 月 13 日	高屋
五大栄養素から考える静脈栄養管理のポイント	オンライン	2022 年 7 月 27 日	真栄城、高屋、久場
がん集学的治療における栄養管理と ONS に実際	オンライン	2022 年 8 月 9 日	棚原、中村
造血細胞移植医療に関わっていること	オンライン	2022 年 8 月 11 日	當眞
インクレチン関連薬のこれまでとこれから	オンライン	2022 年 8 月 21 日	當眞、高屋、中村、末吉、港川
コロナ禍に多職種で考える糖尿病セミナー	オンライン	2022 年 9 月 15 日	真栄城
がん患者に対する継続的な栄養管理の取り組み	オンライン	2022 年 11 月 17 日	高屋
がん患者さんの食欲低下をケアする	オンライン	2022 年 11 月 25 日	高屋
消化器癌栄養セミナー	オンライン	2022 年 12 月 6 日	高屋
糖尿病と骨粗しょう症	オンライン	2023 年 1 月 26 日	高屋、當眞、中村、末吉
術後早期回復を目指した周術期の体液と疼痛管理	オンライン	2023 年 3 月 15 日	高屋
NST フォーラム	オンライン	2023 年 3 月 25 日	真栄城、當眞

研修会参加

名称	内容	開催地	年月日	参加者
透析療法従事職員研修	透析療法	オンライン	2022 年 8 月 1 日～8 月 3 日	中村 詩
NST 専門療法士研修会	栄養管理	宜野湾記念病院	2022 年 12 月 20 日～12 月 23 日	高屋 美希

講師依頼

題名	開催地	実施年月日	参加
低血糖の対処法	糖尿病委員会	2022 年 6 月 10 日	中村 詩

薬局

薬局長 大関 秀和

部署紹介

医薬品の新規採用とそれに関わる医薬品情報の整備を行っています。特に年々発売数が増えるがん治療領域で抗がん剤プロトコルの作成、改訂を行っています。患者指導箋などを活用し、患者指導に力を入れています。ポリファーマシーと言われる多剤併用について、患者持参薬情報などを活用し取り組みを強化しています。

職員数

総数

23 名

職種別

薬 剤 師 19 名

一般事務 2 名

薬局助手 2 名

認定・資格

氏名	認定・資格名
田中 泉	認定実務実習指導薬剤師
大関秀和	認定実務実習指導薬剤師

氏名	認定・資格名
義田育美	NST 専門療法士

薬局理念

薬物療法のプロとして、安全に、安心な治療が受けられるようにサポートします。

目標

1. 医薬品の安全使用と管理の徹底
2. 多職種と連携した適切な薬物治療の推進
3. 新しい知識・技能の習得

2022 年度計画及び実績

項目		実績
薬剤管理指導	指導料1	1,856 件 (380 点)
	指導料2	7,308 件 (325 点)
	麻薬管理加算	255 件 (50 点)
	退院時加算	450 件 (90 点)
無菌製剤処理料		2063 件 (180 点)
薬剤調整加算		35 件 (150 点)
薬剤総合評価調整加算		55 件 (100 点)
退院時薬剤情報連携加算		65 件 (60 点)
薬学実習受け入れ		0 名
情報配信	DI ニュース	3 報
情報配信	後発品採用率	92.1% (2021 年 3 月 目標 80%以上)
	厚労省通知	0 報
	メーカーの通知	20 報
	エントランス案内	80 報
学会参加	臨床腫瘍薬学会、日本医療薬学会	

採用変更実績

- ・ 5 月 新規採用：8 品目 採用切り替え：7 品目 採用中止：なし
- ・ 9 月 新規採用：9 品目 採用切り替え：10 品目 採用中止：なし
- ・ 1 月 新規採用：6 品目 採用切り替え：8 品目 採用中止：なし

後発品使用率は年間を通して 90% 以上を保っています。

薬品マスターの新規作成及び、後発品目への切り替え設定を行いました。後発品への切り替えでは、患者セットや医師セット、クリニカルパスなどの修正を行いました。更に各部門への切り替え案内を発行し、電子カルテエントランスにて案内を行っています。

がん管理指導料の自動算定のための設定やインスリン管理画面への登録など、薬品マスターの作成、設定業務は多岐に及びます。

2021 年度に引き続き、多くの薬剤の納入不安定などにより薬品の切り替え業務が多く発生しました。

抗がん剤プロトコール新規作成

内科：3 件 外科：2 件

文献や製薬メーカーのパンフレットなどを使用し、投与量の設定や支持療法の決定などを行っています。催吐性リスクや血管外漏出時の薬剤レベルなどの確認を行っています。

COVID-19 への対応

COVID-19 ワクチンの発売により、ワクチンの混注業務や保管管理業務などが発生しました。中城村に協力し集団接種への派遣業務、関連クリニックへのワクチン・使用機材等の払出業務を 1 年通して行いました。

リハビリテーション科

リハビリテーション科療法士長 新垣 健

2022 年度もコロナ禍の中、感染対策を徹底しながら、脳血管疾患リハⅠ、運動器疾患リハⅠ、呼吸器疾患リハⅠの施設基準を満たしつつ、急性期リハビリテーションを提供すべく努めて参りました。

加えて、2021 年度から開始した ICU 入院患者に対する早期離床を目的とした介入を、2022 年度は HCU 入院患者にまで拡大し、医師や看護師等との多職種連携を軸に取り組みました。

また、急性期リハビリテーションに求められる役割を明確にすると共に業務の効率化促進、安定したリハビリテーション科の運営及び運用を目指し、システムの再構築を図りました。今後も引き続き、働きやすい職場作りや環境整備の促進、および新人教育や科内のスペシャリスト育成にできる限り取り組んでいきます。

職員数

総数 45 名

職種別

理学療法士	26 名	言語聴覚士	6 名
作業療法士	11 名	助手	2 名

認定・資格

氏名	資格・認定資格
理学療法士	
新垣 健	がんのリハビリテーション研修終了
波平 静香	呼吸療法認定士 がんのリハビリテーション研修終了
金城 勝一朗	がんのリハビリテーション研修終了
仲村 和也	がんのリハビリテーション研修終了 日本フットケア・足病医学会認定師
知花 勝也	がんのリハビリテーション研修終了
神里 祥子	がんのリハビリテーション研修終了
福地 美香	呼吸療法認定士 がんのリハビリテーション研修終了
天久 真理子	がんのリハビリテーション研修終了
呉屋 絵美里	がんのリハビリテーション研修終了
仲里 かな子	がんのリハビリテーション研修終了

氏名	資格・認定資格
作業療法士	
柴野比 智也	がんのリハビリテーション研修終了
富永 涼子	がんのリハビリテーション研修終了 呼吸療法認定士 公認心理師
宮城 奈津希	がんのリハビリテーション研修終了 呼吸療法認定士
佐々木 正雪	がんのリハビリテーション研修終了 呼吸療法認定士
渡嘉敷 こずえ	がんのリハビリテーション研修終了
言語聴覚士	
大城 盛彦	がんのリハビリテーション研修終了
比嘉 豊子	がんのリハビリテーション研修終了

理念

患者さんの目標（家庭復帰等）に向かって、機能的予後予測に即した、リハビリテーション全体をマネージメントする。

運営方針

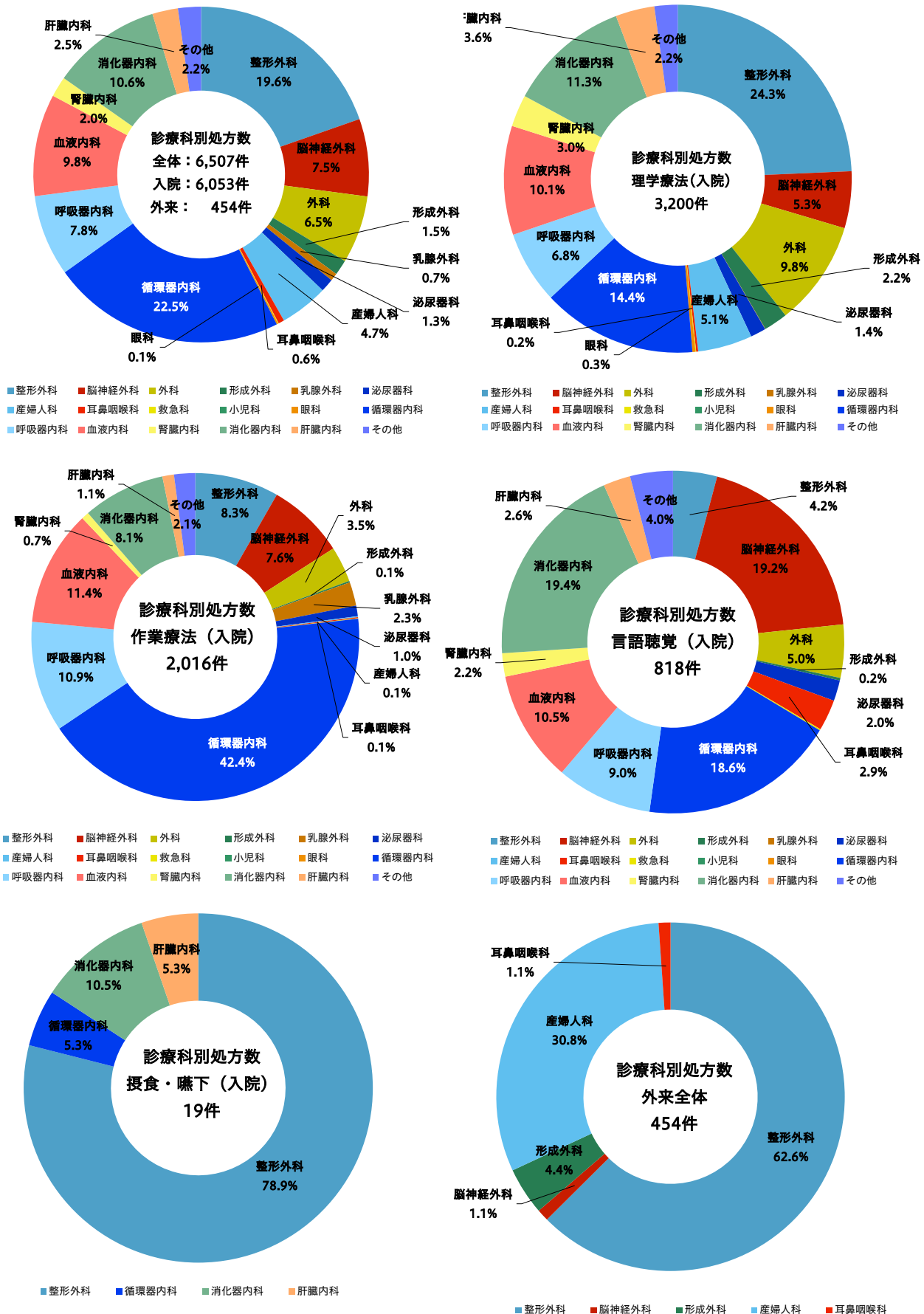
急性期病院におけるリハビリテーションを担い、その役割を明確にし、実践する。

院内外の関連職種間とのコミュニケーションや連携の強化を図る。

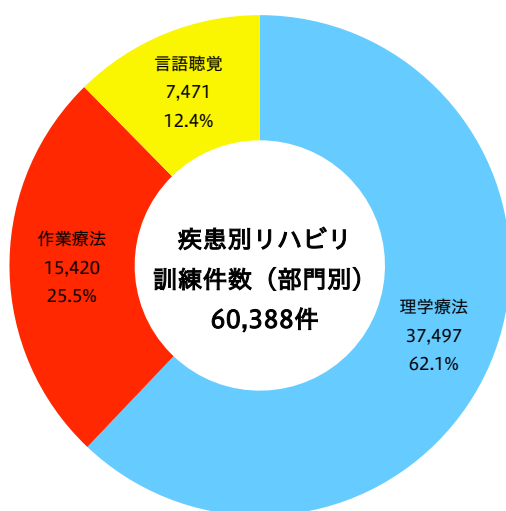
部及び個々の診療技術の向上 / 働きやすい職場作りの推進

検査・治療実績

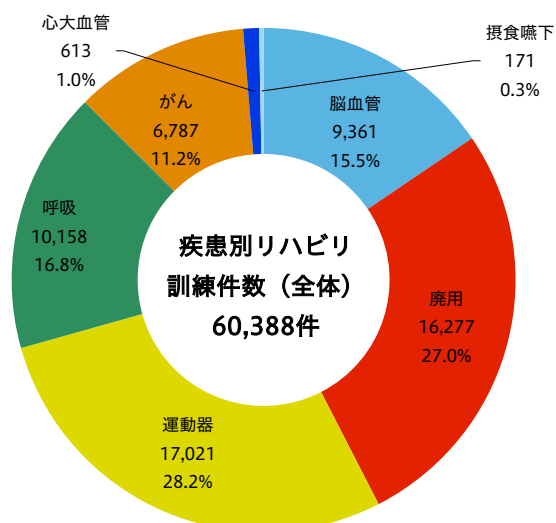
診療科別リハビリテーション処方状況



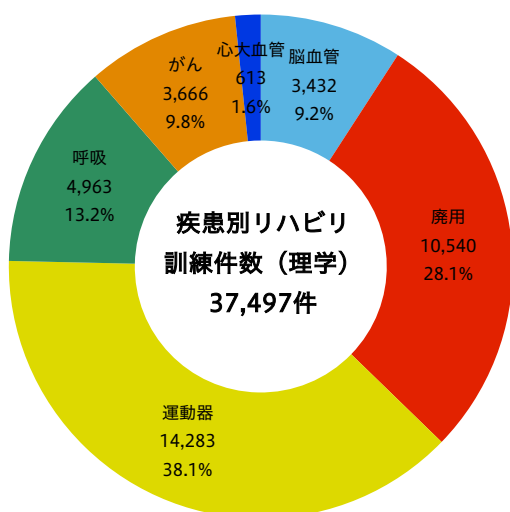
疾患別リハビリテーション実施状況



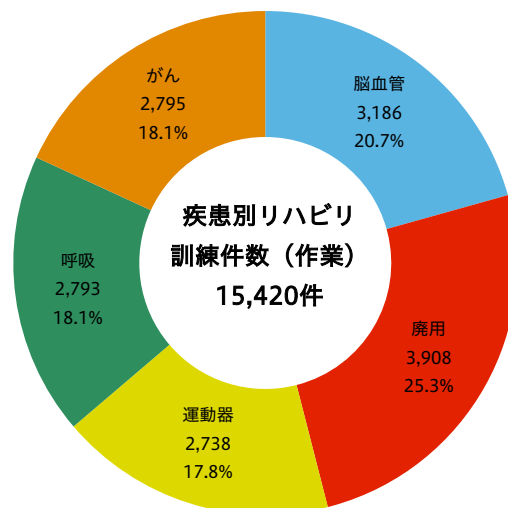
理学療法 作業療法 言語聴覚



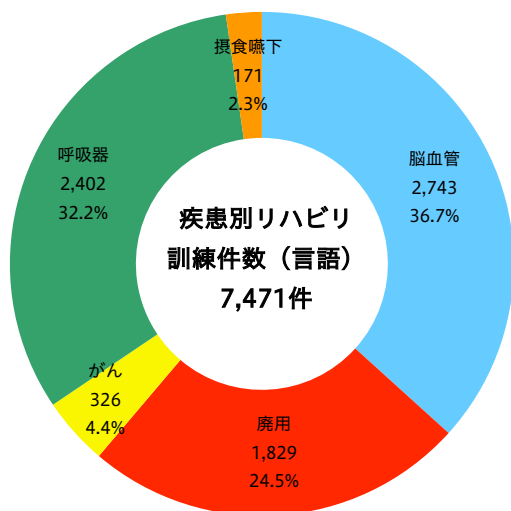
脳血管 廃用 運動器 呼吸
がん 心大血管 摂食嚥下



脳血管 廃用 運動器 呼吸 がん 心大血管

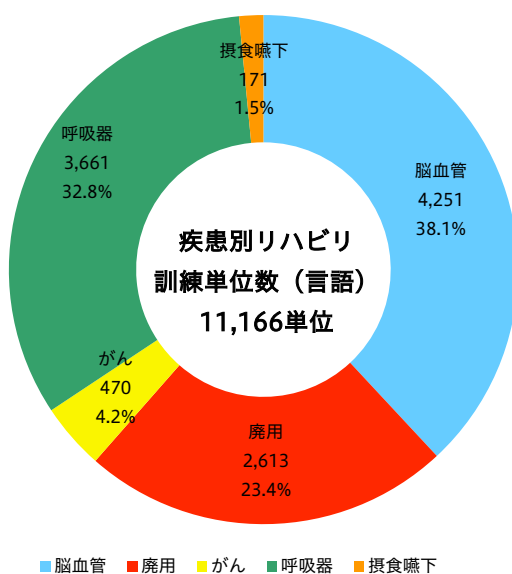
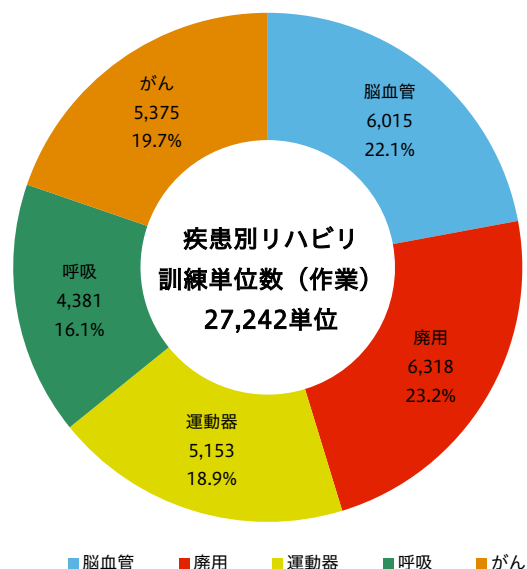
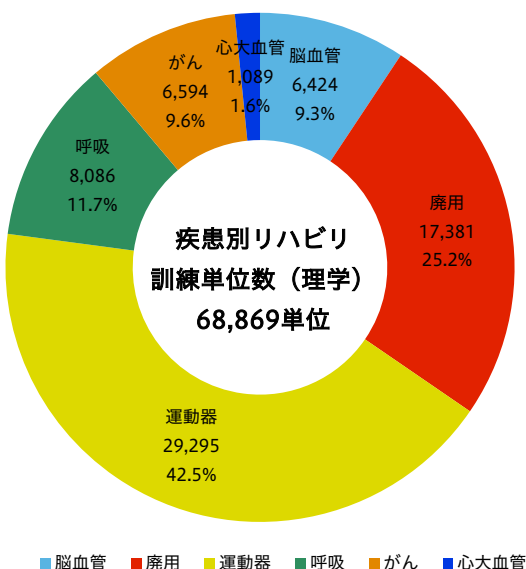
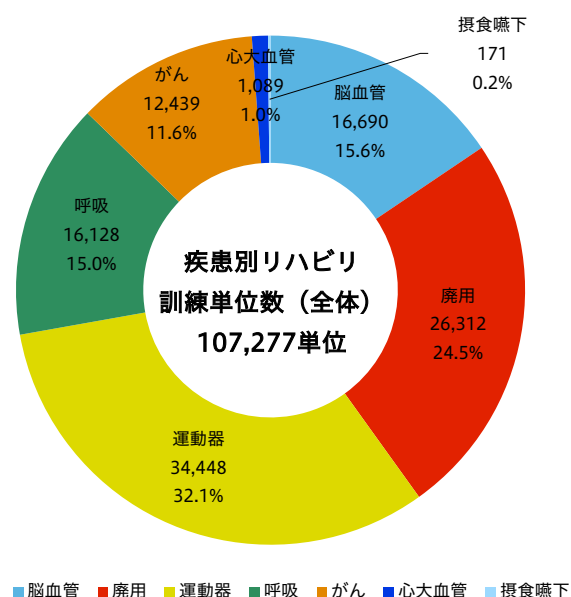
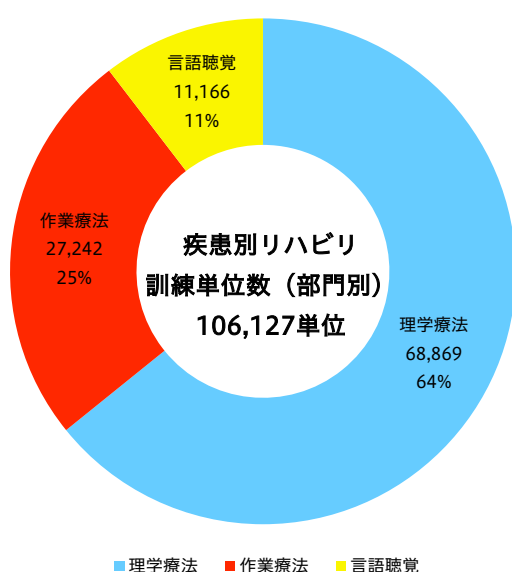


脳血管 廃用 運動器 呼吸 がん



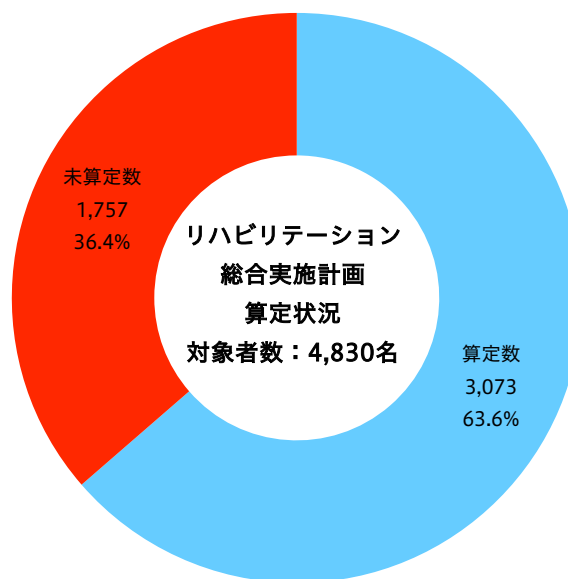
脳血管 廃用 がん 呼吸器 摂食嚥下

疾患別リハビリ訓練単位数



リハビリテーション総合実施計画

対象患者数	4,830
算定数	3,073
未算定数	1,757
算定率	63.6%
未算定率	36.4%
算定点数	921,9000
未算定点数	527,1000



活動実績

■ 算定数 ■ 未算定数

院内講師

名称		開催地	年月日	講師
(講師) 摂食嚥下障害と食事介助の基礎知識	新人看護研修	院内	2022 年 4 月 1 日	大城 盛彦
(講師) 移乗動作について	新人看護研修	院内	2022 年 4 月 1 日	嶺井 春菜、城間 未佳、 屋富祖 彩花、池宮城 優菜、 雄谷 友輔、仲里 かな子、 田場 朗、上江洌 孝太

医療技術部 年度総括

2022 年度も 3 年連続で新型コロナの影響を大きく受け、コロナに振り回された年になりました。

2022 年度のおおよその事業計画では、新型コロナ流行継続と、コロナ感染収束の 2 通りの予測を持っていましたが、結果的に 3 年連続のコロナ感染流行継続となり、計画していた新規採用の学校訪問等が困難になったため各部署とも新卒確保が困難になりました。

薬局では、コロナの影響として医薬品が業者から納入できない事案が多発し、代替品への緊急変更が相次ぎ、薬局はもとより各診療へ混乱が多く発生しました。2023 年度はコロナ収束も進むことから安定的な医薬品の納入は可能だと思われます。また、重要課題としていた薬剤師確保も 1 名の採用に留まり、依然として薬剤師不足からの脱却には至りませんでした。

栄養科は、今後調理師、調理補助、洗い場を外部業者へ委託することでスタッフの安定的な確保と管理栄養士による入院患者の栄養指導を強化し、患者さんの食からの健康増進を計画したいと思います。

リハビリテーション科は在籍していた 1 名の心臓リハビリの PT が退職となったため、心臓リハビリ PT の育成が喫緊の課題となっています。少なくとも 2023 年度までには 2 名の心リハ有資格者を育成したいと思います。また言語聴覚士 (ST) も退職が相次ぎ、かなり限界が来ているので早急に欠員補充を進めたいと思います。

臨床検査科は細胞検査士が 1 名退職となりましたが早めに欠員補充はできたので大きな影響はありませんでした。現在は細胞検査士 2 名ですが次年度に向け、あと 2 名の細胞検査士の有資格者を育成したいと考えています。

臨床工学科のスタッフは欠員もなく安定しています。今後は手術支援で入っている臨床工学士を 2 名から 4 名程度へ増員し、透析、機器管理、手術支援とローテーションを組み合わせながらストレスの少ない枠組みを考えたいと思います。

放射線科は欠員もなく安定的に業務がこなせています。新人も順調に育成できており、今後 1 名での当直業務を任せられる状況にあります。放射線科は高額機器が多くあるので、今後も中長期で購入計画を進めたいと思います。

次年度は、積極的な学校訪問に加え、オンラインがなども活用し、着実に採用活動を行えるような方法を模索し「待ち」の体制ではなく積極的な「攻め」の体制で進めたいと思います。

2022 年度は新型コロナの収束を念頭に置き、各部署とも県内外で学会発表、座長、講師等を計画していましたが、新型コロナは収束することなく大きく蔓延したため、多くの学会が 2022 年度も中止を余儀なくされ計画はほとんど実行できませんでした。その中でも一部の学会はリモートを活用し積極的に発表を行なうなど各部署とも大変工夫し努力されていたように思います。また、病院にとって欠かせない必須の加算や、認定維持に必要な資格は各部署とも努力して更新を継続してきました。これは次年度も継続し、必要な資格は積極的に取得させたいと考えています。

医療技術部は各部署とも感染防止を強く意識し安全安心な業務への取り組みが行われ、職員の陽性者や濃厚接触者を少なからず出したものの、横への感染を最小限に抑えることができ、業務に支障をきたすような事態は避けられたと思います。これは 1 人ひとりが感染防止に注意を注ぎチーム医療を重視した結果だと思われ、高く評価できるものと思われます。

2023 年度はコロナが収束へシフトすると思いますが、気を緩めることなく引き続き感染対策を徹底し、患者さんと職員の安全を第一に業務に取り組みたいと思います。

医療技術部部長 宮城 竜也

医療安全管理室

部門紹介

医療安全管理者 安村 公均

平成 19 年に当院の医療安全部門として、組織横断的活動を行うために病院長を直属とする医療安全管理室が設置されました。統括責任者を副院長の久場とし、看護師 1 名を医療安全管理者（リスクマネージャー）として専従配置しています。また、医療安全管理室が事務局となっている医療安全管理委員会は、診療部門、看護部門、医療技術部門、事務部門の各部門の代表者が参加する総勢 21 名のメンバーで構成され、毎月会議を開催しています。

医療安全管理室 理念

1. 心と心を結ぶ信頼される医療を目指す
2. 医療行為は、治療を目的としたものでなければならない

医療安全管理室 運営方針

1. 医療事故防止の為に安全管理体制を確立し、患者中心の医療そして医療全体の質の向上を図る
2. 医療安全に関する職員への教育・研修、情報の分析、対策の立案、事故発生時の初動対応、再発防止立案、発生予防及び発生した事故の影響拡大の防止等に努める
3. 安全管理体制を組織内に根付かせ機能させる事で、医療機関における安全文化の醸成を促進する

2022 年度 目標

1. 安全風土の醸成（インシデント報告件数 150 件／月以上、オカレンスコール定着、医局報告件数 10 件／月以上）
2. レベル 2 以上 800 件／年以下（うちレベル 3 以上 100 件／年以下）
3. 高齢化に伴うインシデント対策強化による（チューブ・ライン関連、転倒転落、スキンケア）事象の低減
4. スタッフ要因内服関連事象の分析と対策強化

職員数

総数

2 名

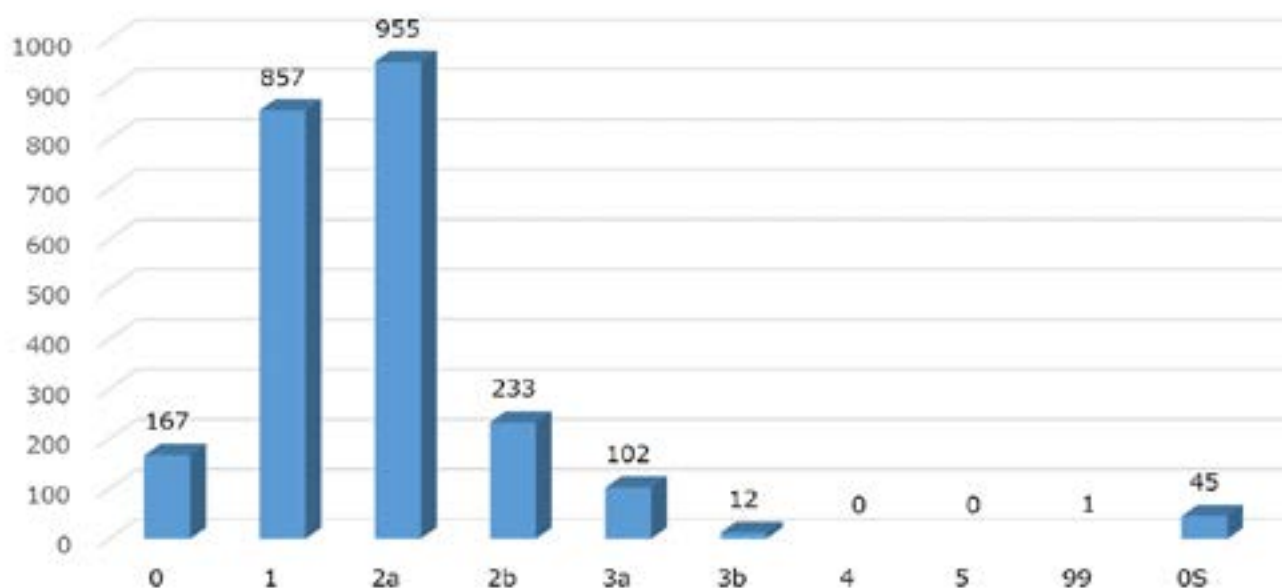
職種別

医療安全管理室 専従看護師 1 名 専従事務 1 名

認定・資格

氏名	認定・資格名
安村 公均	医療安全管理者認定

2022年度 事象レベル毎発生件数：2,372件



患者影響レベル

0: 当該行為が患者に実施される前に気づいた

1: 当該行為が実施されたが患者に変化がなかった【すぐ気づいた為、問題にならなかった】

2a: 当該行為が実施され一時的な観察が必要となった【内部調査が必要になった】

2b: 当該行為が実施され検査が必要となった【内部調査に加え患者家族への対応が発生した】

3a: 当該行為のため簡単な治療や処置を要した【患者家族へ病院として謝罪や説明が必要になった】

3b: 当該行為のため濃厚な治療や処置を要した【患者家族へ謝罪に加え何らかの保障が必要になった】

4: 当該行為により障害が残った

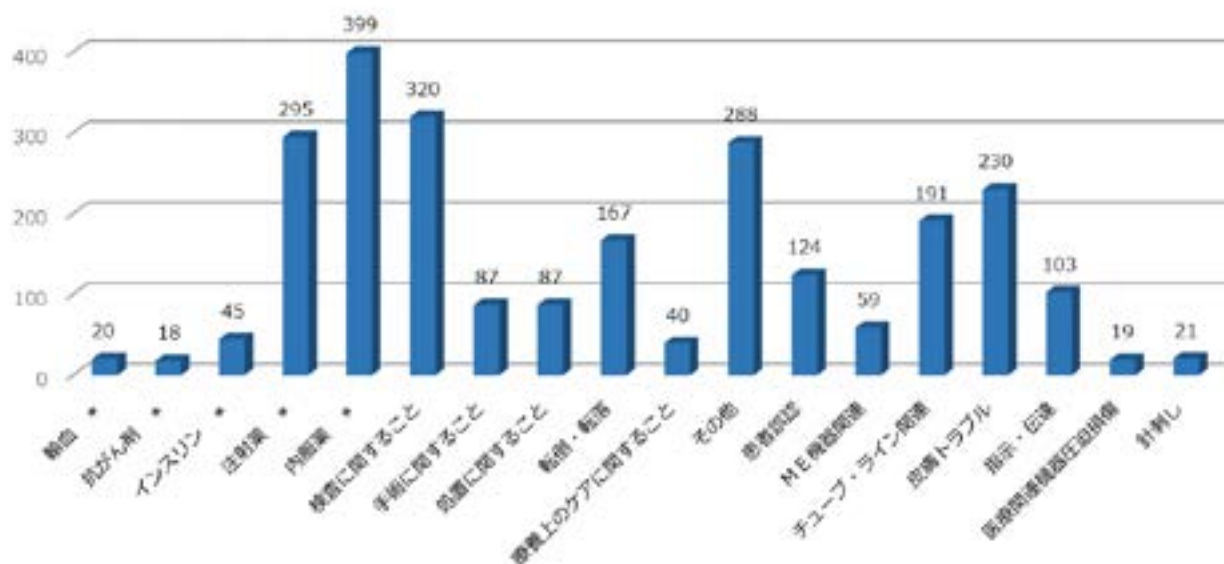
5: 当該行為が死因となった

99: その他(原因不明)

OS: 患者サポート

※「OS」は当院独自の基準で患者サポート委員会で検討し対応を協議しています。

2022年度 事象区分毎発生件数



医療安全管理室 年度総括

2022 年度は、①安全風土の醸成（インシデント報告件数 150 件 / 月以上、オカレンス報告の定着、医局報告件数 10 件 / 月以上）、②レベル 2 以上 800 件 / 年以下（うちレベル 3 以上 100 件 / 年以下）、③高齢化に伴うインシデント対策強化による（チューブ・ライン関連、転倒転落、スキンテア）事象の低減、④スタッフ要因内服関連事象の分析と対策強化を目標に活動しました。

①については、報告件数目標を全ての月でクリアする事ができました。また、全体の約 50% が 0 ～ 1 レベル報告であり、80% が 2a と早い段階での報告でした。事象レベルが低い段階で対策を検討する風土作りについては定着できたと考えています。しかし、目標にしていた医局からのインシデント報告件数については月平均 3.1 件と目標に届かず、継続して取り組んでいきます。合併症などを報告するオカレンス報告についても毎月 30 件程度の報告が得られ、早期に対応する仕組みが維持できました。

②については、1,302 件と目標達成には至りませんでした。955 件が 2a でした。昨年度まで 1 の報告が多かったですが、事象後の経過観察への意識向上から増加したと分析しています。3 以上に関しても 114 件と目標達成できませんでした。3b 事象についても 12 件あり低減に向けて取り組んでいきます。

③についても前年度と比較し、チューブ・ライン関連で 191 (+5) 件、スキンテア 229 (-1) 件と報告件数に差はありませんでした。転倒転落で 167 (-66) 件でした。昨年度台数を増やしたセンサーベッドでの対応ができるようになったことも低減につながったと考えられます。

④については、事象レベルが低い段階での報告が増えたこともあり、399 (+59) 件でした。内服に関連した事象が一番多く、要因の分析とスタッフ要因事象低減に向けて継続し取り組んでいきます。

次年度の課題

①インシデント報告件数 150 件 / 月以上、②オカレンス報告の定着、③医局報告件数 10 件 / 月以上、④内服における事象低減 300 以下 / 年。薬剤部払い出し事象 5 件以下 / 月、⑤レベル 2 以上 850 件 / 年以下（2a → 650 件、2b → 200 件）、レベル 3 以上 100 件 / 年以下（3a → 90 件、3b → 10 件）、⑥高齢化に伴うインシデント分析を目標として対策強化に取り組んでいきます。

医療安全管理室 比嘉 暢

感染対策管理室

部門紹介

感染対策管理室 城間 克也

感染対策管理室は平成 20 年に院長直下の感染に関する諮問機関として設置され、専従看護師が配置されました。感染対策教育は、全職員を対象とする講習会を年 2 回実施。他には、新人教育、研修医研修、看護部中堅研修、助手研修、部署別研修、手指衛生改善活動などを実施しています。

抗菌薬適正使用支援チーム (AST) を平成 30 年に立ち上げ、検査技師 1 名が業務専従のため感染対策管理室に配置されました。抗菌薬適正使用や耐性菌発生抑制への各取り組みを AST の中心となり活発的に活動しています。

感染対策管理室では日々病棟をラウンドし感染対策の実施状況を確認、感染対策に関する問題や課題を挙げ、必要な指導や教育、感染対策マニュアルの見直しや改訂などを通し改善活動を行っています。サーベイランスで得られた情報や結果を基に、ICT 耐性菌ラウンドや AST 抗菌薬適正使用ラウンドを実施。続けて ICT/AST ミーティングを行い現場での感染対策実践や適正な感染症診療への支援に繋がっています。看護部、医療技術部、事務部の各部署より選出されたメンバーで構成される感染対策小委員会の企画運営を行い、全職種で感染対策に挑む体制作りとその実践を遂行しています。

感染管理対策室 理念

感染管理をととして、患者さんが病院を信頼し、安心して質の高い医療を提供できることを目指し活動しています。

職員数

総数

3 名

職種別

専従看護師 1 名

専従検査技師 1 名

一般事務 1 名

認定・資格

氏名	認定・資格名
城間 克也	感染管理認定看護師

氏名	認定・資格名
宮城 健	二級臨床検査士(微生物学)

活動実績

2020 年度の目標と実績 (実績 / 目標)

MRSA 院内発生	18 件 / 50 件以下
針刺し切創・粘膜汚染	20 件 (17・3) / 15 件以下
アルコール製剤使用達成度 (推奨使用量に対し)	73.1% / 100% 以上

血液培養汚染率	1.4% / 3.0% 以下
血液培養複数セット採取率	95.8% / 90% 以上
カルバペネム系 AUD (使用密度) 2013 年度比	23% 減 / 20% 減

主な活動

1) 職員教育

- ・ AST4 職種（医師、看護師、検査技師、薬剤師）対象講習会受講率 78.4%【グループセッション、youtube】
- ・ 全職員対象感染対策講習会（兼 AST 枠）受講率 82.9%【グループセッション、youtube】

2) 感染委員会の開催

- ・ 月 1 回定例開催で 12 回の開催
- ・ 感染小委員会月 1 回定例開催で 9 回の開催（コロナ状況により 2 回、保健所監査対応で 1 回の中止）

3) アウトブレイク調査と対策介入

- ・ 入院病棟における患者及び職員の COVID-19 集団感染 / 濃厚接触者発生への対策介入

4) 職業感染予防および職員フォロー

- ・ 針刺し事例 20 件への介入（状況調査、解決案検討と提示）
- ・ 結核患者 1 症例発生に対し、職員接触者検診 41 名フォロー（追跡フォロー対象選定、行政連携など）
- ・ 職員の COVID-19 濃厚接触者 511 症例の就業制限判断や検査のフォロー

5) 厚生労働省サーベイランス（JANIS）への参加

- ・ 全入院患者部門サーベイランス（耐性菌）、検査部門サーベイランスそれぞれの集計・管理・報告

6) 感染対策向上加算における連携施設との活動

- ・ 向上加算 1 施設間の相互ラウンド
- ・ 向上加算 3 および外来感染対策向上加算施設との 4 回の合同カンファレンス実施（うち 1 回は感染症訓練）

7)AST 活動

- ・ 菌血症患者のモニタリング・介入
- ・ 血液培養の 1 セット提出と汚染事例の監視と介入
- ・ 届出抗菌薬使用（バンコマイシン / チエクール / メロペン）モニタリング
- ・ 届出抗菌薬チエクール / メロペンの AST 多職種カンファレンスを実施（277 件介入し 226 件提案採用、介入採用率 81.5%）
- ・ 整形外科膝手術クリニカルパス改訂（術前・術中抗菌薬投与に関する見直し、術前 MRSA スクリーニングと除菌）、運用開始
- ・ 主要な菌の院内アンチバイオグラム報告
- ・ 連携先クリニックへ推奨経口抗菌薬の資料案内及びアンケート（経口抗菌薬使用状況と案内による行動変化有無）を実施、対象 16 施設中 11 施設回答（回答率 69%）

8) 新興感染症対策

- ・ 新型コロナウイルス感染症に対する法人対応の整備、院内関係部門や委員会との調整、現場対応指導・指揮、院外機関や行政・法規などへの対応や調整

研修・学会参加

名称	開催地	年月日	主催	参加者
沖縄県看護協会研修「感染管理の基礎」	沖縄県看護協会	2022 年 5 月 26 日	沖縄県看護協会	城間克也（講師として）
コロナ禍における看護職のためのメンタルヘルスケア講演会	沖縄県看護協会	2022 年 7 月 19 日	沖縄県看護協会	城間克也
沖縄県看護協会感染管理認定看護師教育課程講義「集中治療室における感染予防策」	沖縄県看護協会	2022 年 7 月 28 日	沖縄県看護協会	城間克也（講師として）
第 1 回沖縄県感染管理認定看護師会シンポジウム	沖縄県立南部医療センター	2022 年 8 月 27 日	沖縄県感染管理認定看護師会	城間克也
第 11 回日本感染管理ネットワーク九州・沖縄支部地方会	福岡県	2022 年 12 月 3 日	日本感染管理ネットワーク九州・沖縄支部	城間克也
令和 4 年度院内感染対策講習会	オンライン研修	2023 年 2 月 28 日	厚生労働省	城間克也

勉強会実施実績

名称	開催地	年月日	演者	対象
院内感染対策新入職オリエンテーション	当院	2022 年 4 月 1 日	城間克也	新入職者全員
院内感染対策研修医 1 年目オリエンテーション	当院	2022 年 4 月 5 日	城間克也	1 年目研修医
"看護部入職者研修療養環境と感染対策、PPE 着脱、手指衛生"	当院	2022 年 4 月 6 日	城間克也	看護部新入職者
看護部入職者研修針刺し事故の対応	当院	2022 年 4 月 19 日	城間克也	看護部新入職者
看護部新人 3 ヶ月フォロー研修接触感染予防策、血液培養検査について	当院	2022 年 6 月 30 日	城間克也	3 ヶ月目新人看護師
看護部 2 年目フォロー UP 研修標準予防策の理解とコロナ濃接防止	当院	2022 年 9 月 5 日	城間克也	2 年目看護師
4 職種対象感染対策講習会	当院	2022 年 10 月 1 日	宮城健	4 職種（医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師）
看護部 3 年目フォロー UP 研修リーダーに求める初動の感染対策	当院	2022 年 11 月 7 日	城間克也	3 年目看護師
感染性胃腸炎ノロウイルス感染症吐物処理対応実地訓練	ケアセンター	2022 年 11 月 25 日	城間克也	ケアセンター看護師、介護士
おもと会沖縄看護専門学校統合実習感染管理について	当院	2022 年 11 月 28 日	城間克也	おもと会沖縄看護専門学校 3 年生
看護部門感染管理領域研修疥癬、ノロウイルス、CD 関連腸炎、結核について	当院	2023 年 1 月 21 日	城間克也	感染リンクナースおよび次期担当者
全職員対象感染対策講習会	当院	2023 年 2 月 1 日	宮城健	全職員対象
感染対策向上加算連携施設合同感染症対策訓練 N95 マスクの適正な使用方法	院外	2023 年 2 月 15 日	城間克也	北中城若松病院、ファミリークリニックきたなかぐすく、中部保健所
看護部新人 1 年目フォロー研修カテーテルと医療関連感染	当院	2023 年 3 月 16 日	城間克也	1 年目新人看護師
当院主催感染症対策訓練 N95 マスクの適正な使用方法	当院	2023 年 3 月 25 日	城間克也	ゆいゆい内科クリニック、中村クリニック、あかし内科クリニック

2023 年度目標

- ・ MRSA 院内発生 50 件以下
- ・ アルコール製剤使用達成度（推奨使用量に対し）100% 以上
- ・ 手指衛生遵守率タイミング① 80% 以上
- ・ 針刺し・切創、皮膚・粘膜汚染 15 件以下
- ・ 血培汚染率 3.0% 以下
- ・ 血液培養複数セット採取率 90% 以上
- ・ カルバペネム系抗菌薬 A U D（抗菌薬使用密度）2013 年度比 20% 減

感染対策管理室 年度総括

2022 年も過去 2 年同様に変異を繰り返し感染力の増した新型コロナウイルスと対峙した年でした。しかしその中でも感染症法の位置づけ五類移行後を見据えた対応策緩和などを模索、実行に移し始めた変換期となる年でもありました。年度始め 4 月はコロナ第 6 波が完全に落ち着くことなく再流行となり、その第 7 波においては沖縄県において過去最大の新規発生数 (8/3 : 6412 人 / 日) を記録。法人内においても 7 ~ 8 月の二ヶ月で職員の感染者と濃厚接触者それぞれの発生数が最多となり、それぞれが 2 ヶ月で 200 名ずつ発生する事態が発生しました。第 7 波中にはこれまでの流行波では経験のない規模のクラスターを経験、発生要因には感染力や発生者数増の影響もありながら、標準予防策徹底の重要性について身を持って学ぶ機会ともなりました。

コロナ対応に追われる中ではありましたが、看護部門における環境ラウンドを再開でき、現場の問題・課題の抽出、改善案の提案や実践介入が行えました。中でも問題の大きかった注射薬調製台の管理が改善することができ、カテ関連血流感染予防に大きく寄与したと考えます。次年度は、職員の手指衛生改善活動を感染リンクスタッフと計画実行し、ほかにも職員教育やデバイス関連感染サーベイランス活動を実行していきます。

抗菌薬適正使用支援チーム (AST) は院外活動も引き続き行い、昨年度の課題について取り組んで参りました。

血液培養の複数セット採取率と汚染率については 2019 年度から 4 年間目標達成が維持され、適切な採血手技が習慣化されています。

2022 年度のカルバペネム系抗菌薬の抗菌薬使用密度 (AUD) は 23 となっており、目標の 24 以下を達成しました。週 1 回の AST 多職種カンファレンスでカルバペネム系抗菌薬を使用している症例について検討し介入を続けたことで不適切な使用が減り、AUD の減少に繋がったと考えています。

経口抗菌薬の適正使用推進を目的とした連携先クリニックへのアンケート調査の回答率は、前回の約 5 割から 7 割 (11/16 施設) となり、協力が得られるようになってきました。推奨する経口抗菌薬に関する資料案内後に、急性気道感染症と尿路感染症に対する処方状況を調査。結果は、急性気道感染症患者に経口抗菌薬を処方している割合は大半が 10% 未満と良好な結果でした。処方された主な経口抗菌薬では、2021 年度に多く回答のあったキノロン系のレボフロキサシンや第 3 世代セファロスポリン系のフロモックスなどが激減しており改善を認めました。尿路感染症患者に対しては 2021 年度からキノロン系のレボフロキサシンを処方する施設が激減し良好な結果が得られました。しかし、一部の施設では依然として第 3 世代セファロスポリン系のバナンの処方を認めました。

院内感染対策講習会の受講率は第 1 回が 78.4%、第 2 回が 82.9% で目標の 90% 以上は達成できませんでした。次年度は新型コロナウイルス感染症に対する更なる対策緩和なども予想されることから、久しぶりに院内で集合開催も検討しています。

引き続き抗菌薬の適正使用の提案を通じ、患者へ理論的な抗菌薬療法の提供と安全で効果的な感染症治療を達成できるよう取り組んで参ります。

新年度も ICT・AST の実働部隊が感染制御と抗菌薬適正使用支援という大きな役割を全うし、法人における医療の質の改善に寄与していきます。

栄養サポート室

部門紹介

栄養サポート室 當眞 結子

栄養サポート（以下 NST）とは、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、リハビリなどの専門スタッフが連携し、それぞれの知識や技術を持ち合い患者さんにとって最適な方法で栄養支援を行う医療チームの事を言います。

当院 NST は、平成 17 年に院長直下の委員会として発足し、同年に NST 稼働施設認定を取得しました。

栄養サポート室 理念

医療チームの一員として、それぞれの専門スタッフが知識や技術を持ち合い患者さんに最適な方法で栄養支援を行う。

栄養サポート室 運営方針

入院患者さんに対し個々の栄養状態を把握し最もふさわしい栄養管理を提言することで、早期回復を助け患者さんの QOL 向上に貢献する。

職員数

総数

1 名

職種別

栄養サポート室 管理栄養士 1 名

認定・資格

氏名	認定・資格名
當眞結子	栄養サポートチーム専門療法士 日本臨床栄養代謝学会

NST 回診&カンファレンスについて

NST 対象患者選択

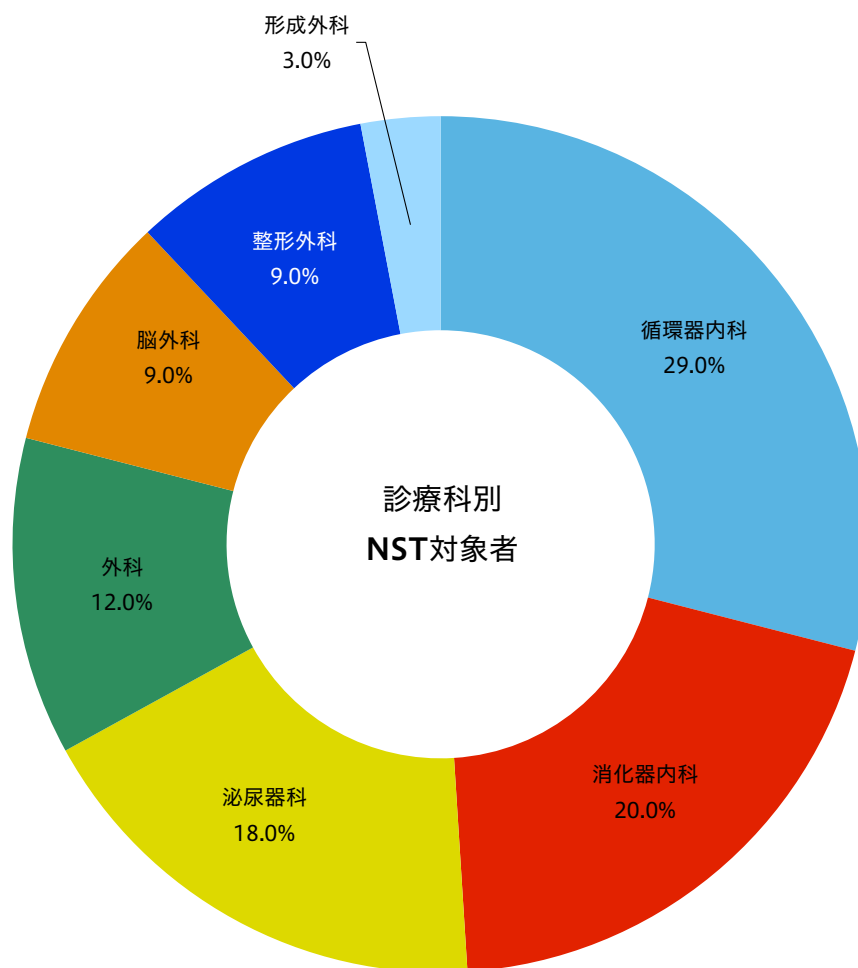
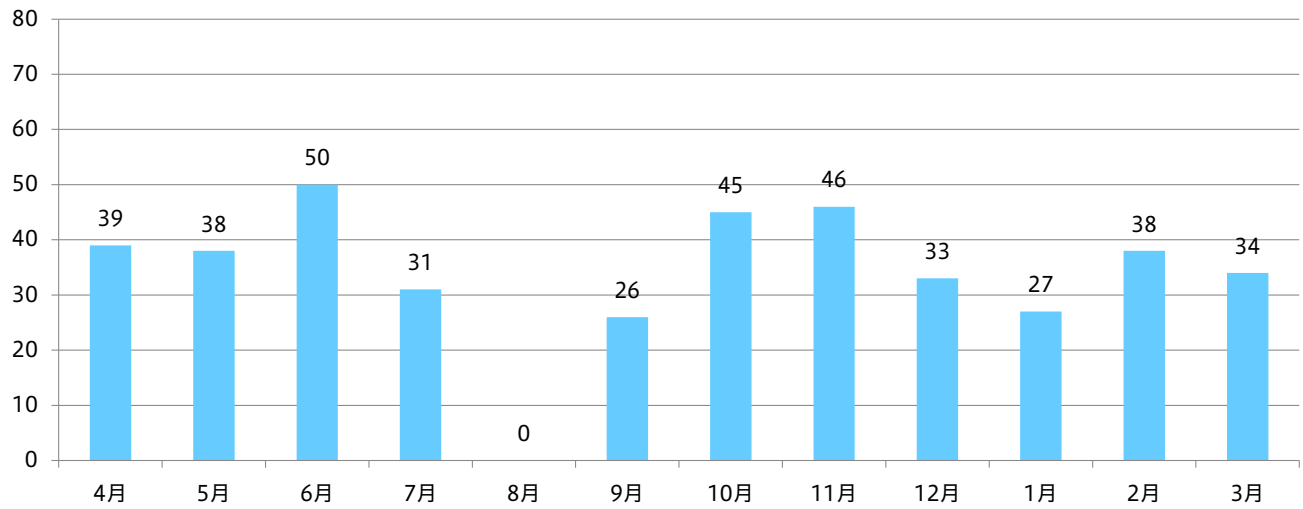
- 回診前週の採血でアルブミン値 3.0mg /dl 以下の患者
- 褥瘡を有してる
- 摂食・嚥下障害がある
- 経腸栄養中のトラブル（下痢・便秘・胃食道逆流・瘻孔トラブルなど）

NST 対象除外

- 術後の採血でアルブミン値が 3.0mg /dl 以下
- ターミナル期の患者（予後が短く介入困難）
- 化学療法中などの患者でも摂食が十分な場合

業務実績

NST 加算件数



活動実績

研修実績

研修名	主催	開催地	開催日	参加者
院内勉強会（栄養科）	NST 委員会	院内	2022 年 11 月 28 日	
第 16 回沖縄 NST フォーラム	大塚製薬工場	那覇	2023 年 3 月 25 日	義田育美（発表）

栄養サポート室 年度総括

2022 年度は、外科部長を栄養サポート室委員長、外科医師 1 名、消化器内科医師 1 名を副委員長とし、看護師 25 名、医療技術部 11 名、事務部 1 名の構成でした。

栄養サポート室では全入院患者さんの中から、採血結果 Alb 値 3.0g/dL 以下の方をカンファレンス対象者としてリスト作成を行い、そのリストからリンクナースにより選出された患者さんを毎週月曜日にカンファレンス及び病棟回診を行っています。

毎月第 2 月曜には NST 委員会も実施しています。

カンファレンスでは適切な静脈経腸栄養剤の選択、食事形態や食事量を検討し、主治医や病棟スタッフへ提案・助言を行った後、フィードバックを重ねる事で栄養状態の改善に努めました。

院外活動として第 16 回沖縄 NST フォーラムにて症例発表を行い、当院の活動を報告できました。また、NST 療法士取得者増加に向けて NST 臨地実習へ看護師 1 名、栄養士 1 名を派遣しました。栄養サポートを学んだスタッフを育成により院内 NST の活性化へ繋げるために次年度も臨地実習への派遣を計画しています。その他にも、創傷カンファレンスへ参加し褥瘡委員会と協働で活動する事で褥瘡の予防からケアに至るまで強化する事ができたと思います。

2018 年度に設立された嚥下チームへも参加し、毎週木曜日の病棟ラウンドとカンファレンスにて高齢や様々な疾病により食べる機能が低下した患者さんが「食べる楽しみ」を得られるように支援しています。

栄養管理は、すべての疾患治療の上で共通する基本的医療のひとつです。症状や疾患に対する専門的な栄養療法の知識を習得し、患者さん個々に応じた栄養管理が実施できるよう取り組んでいきたいと考えております。

内視鏡センター

部門紹介

内視鏡センター長 折田 均

内視鏡センターは日本内視鏡学会の指導施設で、指導医や専門医、消化器内視鏡技師を含む33名が従事しています。当センターでは、通常検査や予防医学センターの検査の他、消化管出血などに対する緊急内視鏡処置も多数行っており、総胆管結石等の胆・膵の処置（ERCP）関連や従来は外科的手術が必要であった、早期の食道癌・大腸癌に対してESD（内視鏡的粘膜剥離術）を取り入れ、2015年には、厚生労働省より全国で7番目、沖縄県で初めてのPOEM（経口内視鏡的食道筋層切開術）を行っています。

職員数

総数 34 名	看護師	15 名
職種別	（うち内視鏡技師	7 名）
指導医 4 名	クラーク	2 名
専門医 8 名	助手	3 名
その他 1 名	臨床工学技士	1 名

担当医師

（2022年6月時点）

	氏名	学会認定など
名誉院長	奥島 憲彦	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会指導医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本スポーツ協会公認スポーツドクター 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器外科学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器外科学会専門医
院長	佐久川 廣	日本肝臓学会指導医 日本感染症学会指導医 ICD 制度協議会認定インフェクションコントロールドクター 日本感染症学会専門医 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会指導医 日本肝臓学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本内科学会指導医
内視鏡センター長	折田 均	日本消化器内視鏡学会指導医 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会指導医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本内科学会指導医

	氏名	学会認定など
消化器内視鏡部長 内視鏡センター副セン ター長	仲本 学	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本消化器がん検診学会認定医 日本がん治療認定医機構認定医 日本内科学会指導医
予防医学センター 副センター長	宮里 稔	日本消化器内視鏡学会専門医 日本東洋医学会認定医 日本内科学会認定内科医
消化器内科部長 5 階病棟医長	宮城 純	日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器がん検診学会認定医 日本内科学会認定内科医 日本内科学会指導医
大腸・肛門外科部長 医局長	阿嘉 裕之	日本大腸肛門病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医
肝臓内科副部長	圓若 修一	日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本肝臓学会専門医
消化器内科医長	仲舩 拓	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医
	洲鎌 理知子	
	小橋川 ちはる	日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本消化器がん検診学会認定医
	川満 美和	日本消化器内視鏡学会専門医
	エリクソン 安香	
	山城 謙人	

内視鏡センター 運営方針

1. インフォームドコンセントを充実させ、受検者の満足に応える医療サービスを提供する。
2. 安全性を確保しつつより高いレベルへの診断能の向上、内視鏡治療の質の向上をめざす。
3. 消化器内視鏡指導施設として、医師及びコメディカルスタッフの指導・育成を行う。

目標

- (1) より高い診療技術の向上
- (2) 患者安全の確保
- (3) 洗浄・消毒の徹底と管理

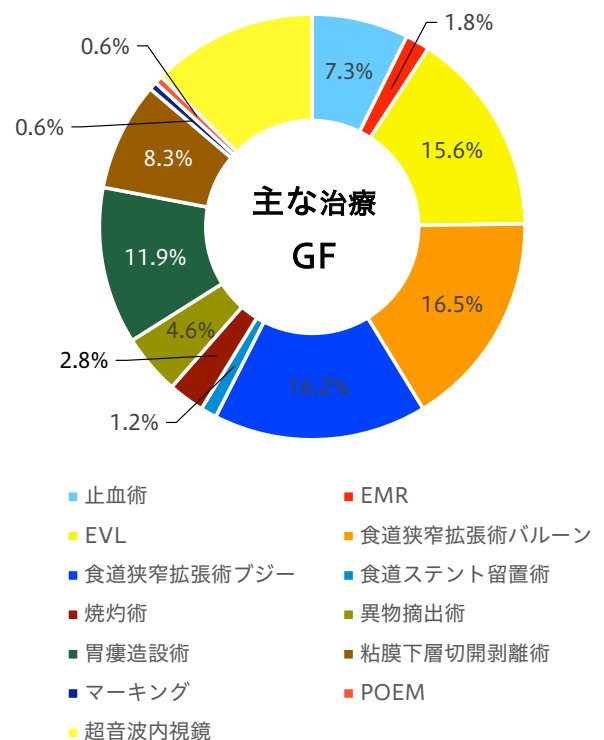
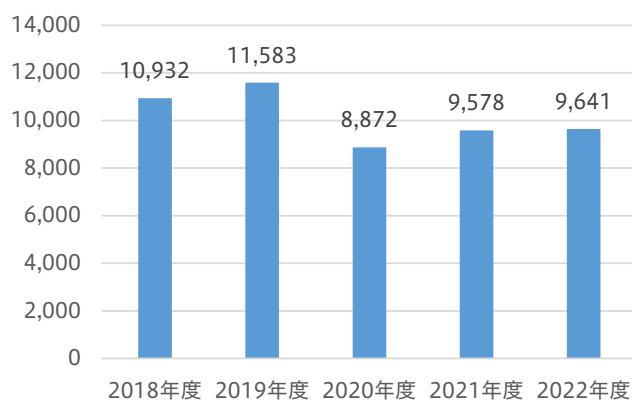
検査・治療件数

内視鏡検査及び内視鏡的治療

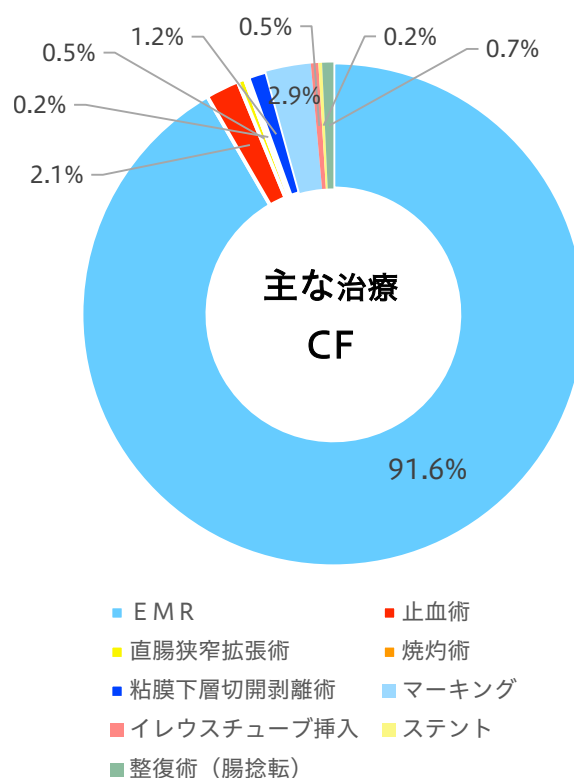
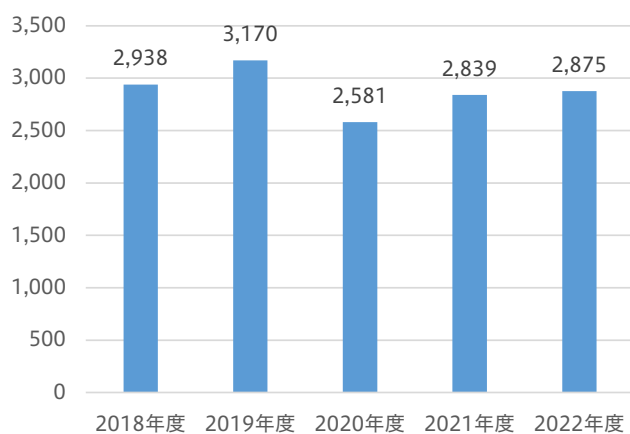
種別	合計
胃内視鏡	9,641
大腸内視鏡	2,875
ERCP	203
小腸内視鏡	3
気管支鏡	37
上部消化管（内訳）	
止血術	24
EMR	6
EVL	51
EIS	0
食道狭窄拡張術バルーン	54
食道狭窄拡張術ブジー	53
食道ステント留置術	4
焼灼術	9
異物摘出術	15
胃瘻造設術	39
粘膜下層切開剥離術	27
マーキング	2
イレウスチューブ挿入	0
POEM	2
超音波内視鏡	41
下部消化管（内訳）	
EMR	384
止血術	9
直腸狭窄拡張術	2

下部消化管（内訳）	合計
異物摘出術	0
焼灼術	1
粘膜下層切開剥離術	5
マーキング	12
イレウスチューブ挿入	2
ステント	1
整復術（腸捻転）	3
胆道・膵管（内訳）	
乳頭切開術（EST）	31
乳頭拡張術（EPBD）	16
乳頭大経口バルーン拡張	1
総胆管結石砕石 / 採石術	39
経鼻胆管ドレナージ（ENBD）	2
胆管stent	141
膵管stent	24
超音波内視鏡	0
ENPD	2
気管支鏡	
経気管支肺生検（TBLB）	23
肺胞洗浄（BAL）	5
気管 / 気管支ステント留置術	0
異物摘出術	1

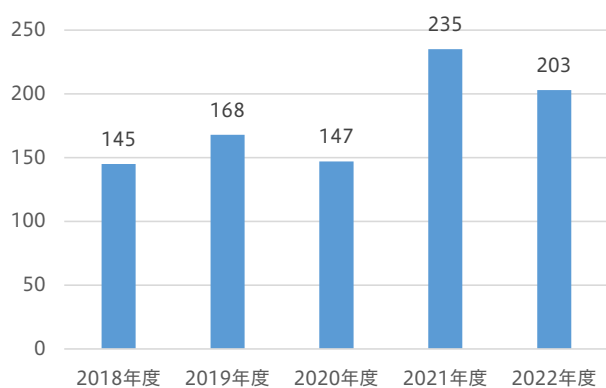
GF 件数



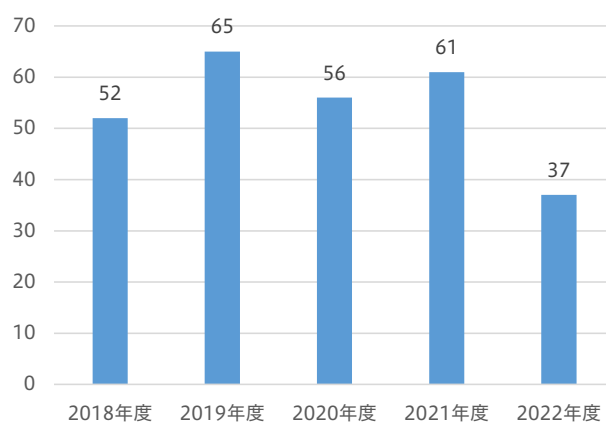
CF 件数



ERCP 件数



BF 件数



内視鏡センター 年度総括

2022 年度の内視鏡件数も新型コロナウイルスの影響を受けてしまいましたが、2023 年 5 月より同ウイルスの感染症法の扱いが 5 類へ移行となり、今後は大きく影響を受けることもなくなりました。とは言え、これからも感染症対策には万全を期しながら業務を行い、内視鏡検査の高い需要に応えていきたいと思っています。

内視鏡センター 折田 均

予防医学センター

部門紹介

予防医学センター長 大城 義人

私たち予防医学センターは、お一人でも多くの地域の皆様に人間ドック健診を受けて頂き、病気をできるだけ早期に発見し早期治療につなげられるよう、また、心臓病・脳卒中・心不全・腎臓病等の発症を予防し、その原因となりうる生活習慣病を抱える方々が、安心して日常生活を送り健康長寿が実現できるようお手伝いさせていただく場を目指しております。受診者の視点に立って個々人の現実の日常生活にできるだけ即した対策を実行できるよう考え提案し、心身両面においてサポートできるよう心がけております。

当センターは、人間ドック健診専門医・指導医、看護師・保健師・放射線技師・臨床検査技師・医療クラーク・医療事務の各職員が、皆で一体となりチーム医療を実践していこうという場所です。

また、消化器内科や内視鏡センター、産婦人科・放射線科・脳神経外科・循環器内科・眼科の各科専門医やスタッフの皆さんが直接参画するプラットフォームとなり、献身的に継続してご協力をいただいております。そういう場所で受診なさった方が、指摘された異常について放置する事なく勇気を持って二次検診を受けることができるよう、当院の各診療科や近隣他施設とネットワークを作って繋がり、専門医・メディカルスタッフの支援・連携をさらに強化しようとしております。

当センターは、2015 年に人間ドック健診専門医研修施設となり、また、2018 年 12 月には本館 8 階全体が人間ドック健診専用のフロアーとなっており、広い空間で眺望よく快適に安心して受診できるように変貌し、2021 年には人間ドック健診施設機能評価で優秀賞を受賞し、年間総受診者数は、徐々に増加しました。コロナ禍によって受診者の皆様にはご不便をおかけしておりますが、昨年度の当センター受診者数は過去最高を記録することができました。コロナ感染対策も大きく変更されましたが、標準的対策を確実に行いつつ、感染状況に応じて柔軟に対応を継続いたします。今後とも受診者の皆様のご期待に応え、築かれた信用を維持できていくよう、コツコツと粛々と謙虚に日々励んでいきたいと思っております。

施設認定

- ・ 日本人間ドック学会人間ドック健診施設機能評価認定
- ・ 全日本病院学会人間ドック実施施設認定
- ・ 特定健診・特定保健指導機関認定

職員数

総数

53 名

職種別

医 師	10 名	臨床検査技師	3 名
保 健 師	5 名	一般事務	12 名
看 護 師	14 名	ク ラ ーク	8 名
管理栄養士	1 名		

医師プロフィール

役職	氏名	専門分野	学会認定など
予防医学センター長	大城 義人	総合内科、循環器内科	日本人間ドック学会人間ドック健診指導医、検診マンモグラフィ読影認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本医師会認定産業医、日本医師会認定健康スポーツ医、医学博士
予防医学センター副センター長	宮里 稔	東洋医学、消化器内科（内視鏡検査）	日本人間ドック学会人間ドック健診専門医、日本内科学会認定内科医
常勤	大城 志乃	内科	日本医師会認定産業医、日本人間ドック学会認定医、日本内科学会認定内科医、検診マンモグラフィ読影認定医
常勤	川田 晃世	消化器内科	日本内科学会認定内科医、日本人間ドック学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器がん検診認定医、日本医師会認定産業医、医学博士
常勤	川満 美和	消化器内科	日本消化器内視鏡学会専門医
非常勤	奥島 しょう子		日本人間ドック学会人間ドック健診専門医、日本人間ドック学会人間ドック健診情報管理指導士、日本医師会認定産業医、検診マンモグラフィ読影認定医、日本人間ドック学会人間ドック健診指導医
非常勤	金城 詩子		日本内科学会認定内科医
非常勤	松元 真紀子		
非常勤	楚南 いずみ		
非常勤	謝花 隆光	消化器内科	日本人間ドック学会人間ドック健診専門医、日本内科学会認定内科医

認定・資格

氏名	名称
安次富 道代	人間ドック健診情報管理指導士（ドックアドバイザー）
桃原 勝美	人間ドック健診情報管理指導士（ドックアドバイザー）
友寄 一乃	人間ドック健診情報管理指導士（ドックアドバイザー）
河上 裕一	第1種衛生管理者免許
宮城 さおり	第1種衛生管理者免許

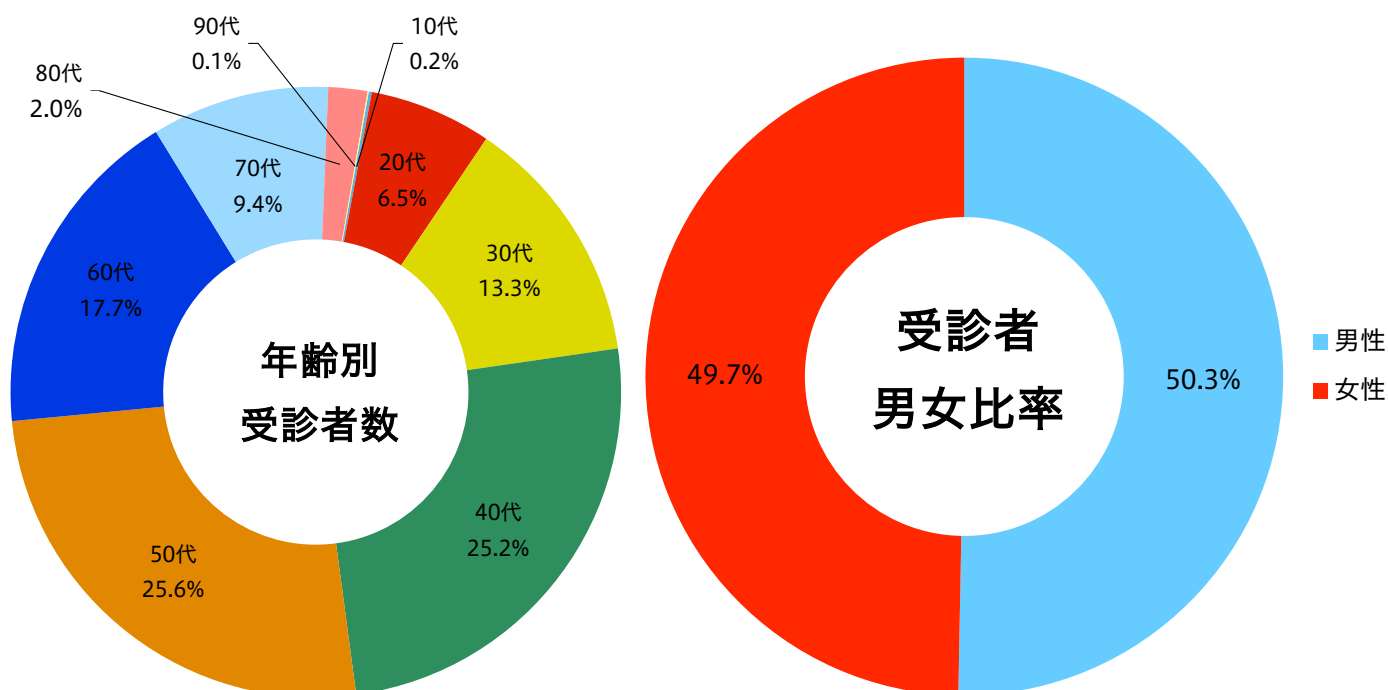
予防医学センター 理念

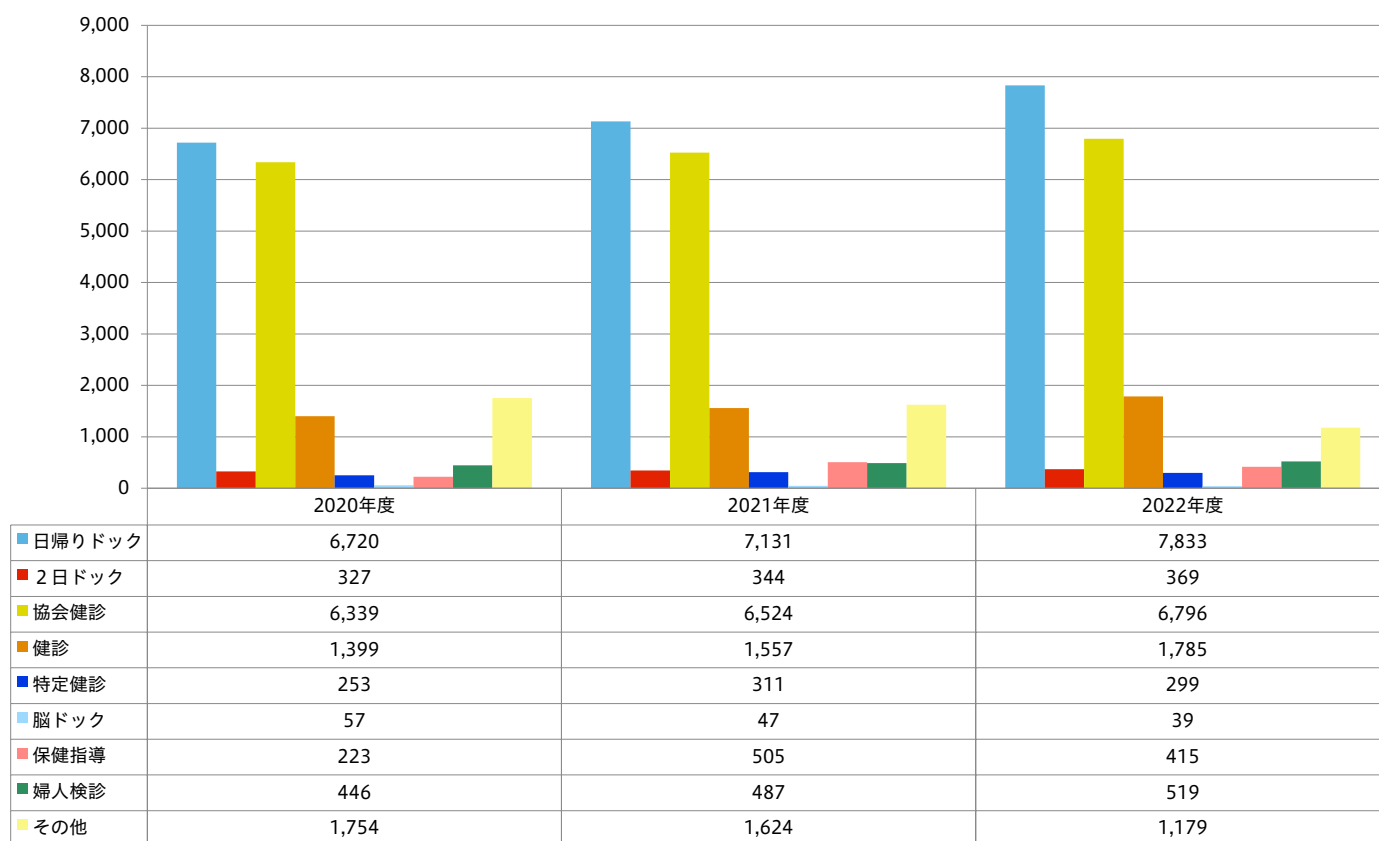
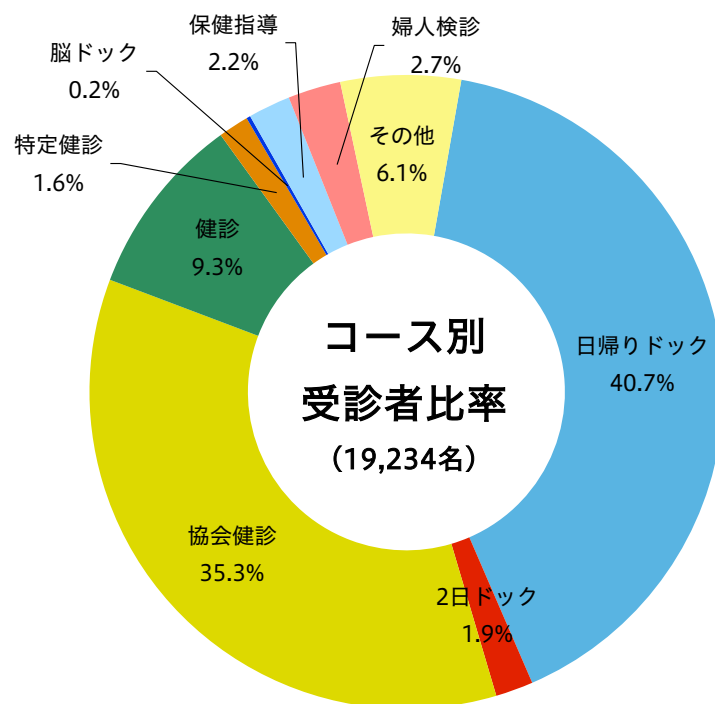
1. 受診者に満足いただけるよう、心のこもった親切・丁寧な接遇につとめます
2. 診断技術と検査の精度向上に心がけ、質の高い信頼される健診に努めます
3. 医師、保健師、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、事務職などスタッフ全員が相互連携協力して、最良の健診サービスに努めます
4. 受診者に満足していただけるよう、健診結果を十分に説明し、かつ事後の健康支援に努めます

予防医学センター 運営方針

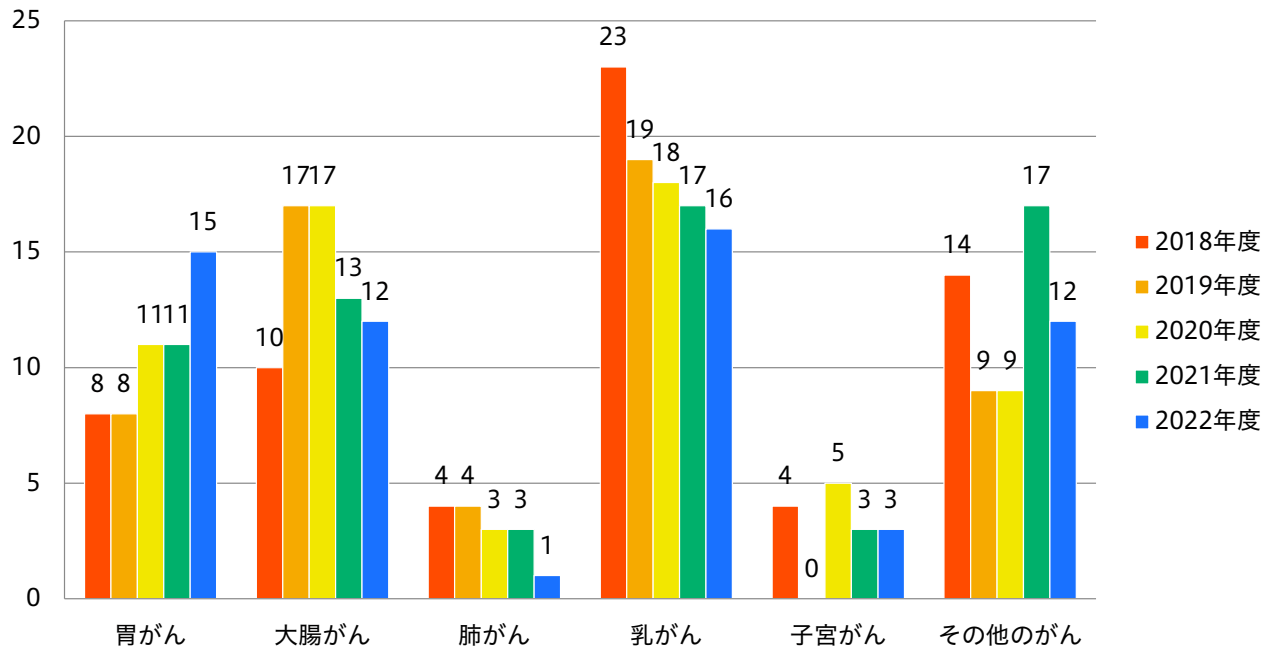
私たちは、受診者との心のふれあいを大切に信頼される予防医学をめざします

2022 年度 ドック・健診の実績





悪性腫瘍発見数



活動実績

院外研修

演題名	主催 (学会名)	場所	日時	参加者
ポリナビワークショップIN沖縄 特定行為・認定看護師の現状と課題	沖縄県看護連盟		2022 年 5 月 7 日	長嶺 厚子
看護師のクリニカルラダーの導入と活用推進・自施設のクリニカルラダーを作成する(1)	沖縄県看護協会	沖縄県看護協会	2022 年 6 月 28 日	高宮 江利子
人間ドック健診情報管理指導士 Web 配信版研修会 (6/3 ~ 7/4 の内 4 日間)	人間ドック学会		2022 年 6 月 3 日 ~ 7 月 4 日	呉屋 みなみ
22 年度 沖縄県看護連盟通常総会	沖縄県看護連盟	ロワジュールホテル	2022 年 7 月 9 日	山内 敦子
裁判例から考える看護実践と看護記録	沖縄県看護協会 (荒井 東京法律事務所 所長・弁護士 荒井俊行 先生)	沖縄県看護協会	2022 年 7 月 14 日	与那城 友子
リーダーシップ研修I〜チーム力を高めるリーダーシップを学ぼう〜 NPO 法人日本看護キャリア開発センター 代表 下山 節子 先生	沖縄県看護協会	沖縄県看護協会	2022 年 9 月 17 日	大嶺 美奈
看護師のクリニカルラダーの導入と活用推進・自施設のクリニカルラダーを作成する(2)	沖縄県看護協会	沖縄県看護協会	2022 年 10 月 7 日	高宮 江利子
医療者のための共有コーチング	沖縄県看護協会	沖縄県看護協会	2022 年 10 月 7 日	安次富 道代
ミッションマネジメントを活用した看護管理	沖縄県看護協会	沖縄県看護協会	2022 年 10 月 22 日	桃原 勝美
第21回乳房超音波技術更新講習会		大阪	2022 年 11 月 6 日	蔵下かおり
リーダーシップ研修II〜プロフェッショナルマネージャーをめざす〜	沖縄県看護協会	沖縄県看護協会	2022 年 11 月 12 日	桃原 勝美
裁判例から考える看護実践と看護記録	沖縄県看護協会	沖縄県看護協会	2022 年 11 月 29 日	与那城 友子
宜野湾市特定保健指導従事者勉強会「CKD について」	宜野湾市	西平医院	2022 年 12 月 22 日	桃原 勝美
看護師のクリニカルラダーの導入と活用推進・自施設のクリニカルラダーを作成する(3)	沖縄県看護協会	沖縄県看護協会	2023 年 1 月 12 日	高宮 江利子

演題名	主催（学会名）	場所	日時	参加者
沖縄県看護連盟リーダー研修「届けよう看護の声を・職能活動」	沖縄県看護連盟	ハーバービューホテル	2023年2月4日	高宮 江利子
看護師のクリニカルラダーの導入と活用推進・自施設のクリニカルラダーを作成する(4)	沖縄県看護協会	沖縄県看護協会	2023年2月7日	高宮 江利子
難病慢性腎臓病重症化予防に関する研修会	南城市	オンライン	2023年3月15日	桃原 勝美

院内研修

演題名	講師	場所	日時	参加者（人数）
乳腺勉強会 粘液がん症例	第1回	1F 生理検査室	2022年4月22日	10人
超音波 症例検討会（心臓・乳腺）	第7回	1F 生理検査室	2022年4月22日	
超音波 症例検討会（胆のう）		8F 検査室	2022年5月14日	
腹部超音波 胆のう症例検討会	第2回	8F 検査室	2022年5月14日	3人
超音波 症例検討会（乳腺）	第8回	1F 生理検査室	2022年5月27日	
乳腺勉強会 浸潤性小葉がん症例	第3回	1F 生理検査室	2022年5月27日	8人
超音波 勉強会（心カテ）	第9回	1F 生理検査室	2022年6月24日	
ワールド（中堅）研修・業務改善報告	安谷屋副部長	西3階看護部横フロア・2階講堂	2022年7月4日～12月19日	大嶺 美奈
精度管理・報告・検討会（肺機能）	第10回	1F 生理検査室	2022年7月29日	
健診オプション検査の流れの確認 乳腺カテゴリー分類の改訂	第11回	1F 生理検査室	2022年8月26日	
領域研修 医療安全	安村師長	西3階看護部横フロア	2022年9月24日	桃原 勝美
精度管理・報告・検討会（健診超音波）	第12回	1F 生理検査室	2022年9月30日	
脳卒中診療とDX	橋本市民病院：吉村 良	2階講堂	2023年10月4日	高宮 江利子
領域研修 DM看護②	糖尿病看護認定看護師 又吉 直美	西3階看護部横フロア	2022年10月18日	山内 敦子
領域研修 救急看護	兼本師長	救急外来	2022年10月18日	山里 尚子
超音波 症例検討会（大動脈弁）	第13回	1F 生理検査室	2022年10月28日	
BLS指導者講習	安村師長	2階講堂	2022年12月11日	長嶺・呉屋
ポリファーマシー	佐藤直行医師・薬局	2階講堂	2022年12月22日	安次富・山内
領域研修 DM看護③	糖尿病看護認定看護師 又吉 直美	西3階看護部横フロア	2023年2月21日	山内 敦子
ラインケア研修		本館9階（元講堂）	2023年3月4日	高宮 江利子・桃原 勝美
最期の時をどう考えるか～プロセスを重視する意思決定支援と倫理～	まどかファミリークリニック：本村 和久	2階講堂または ZOOM	2023年3月17日	高宮 江利子
精度管理・報告・検討会（医師会）	第14回	1F 生理検査室	2023年3月24日	

部署内研修

演題名	講師	場所	日時	参加人数
急変対応シミュレーション		8Fフロア	6月	14名
SNSの危ない使い方～こんな投稿していませんか？	山城 健人 先生	各自（ナースングスキル活用）	6月	36名
正しいアルコールの消毒方法		8Fフロア	8月	27名
腎オプション導入前に（資料回覧にて）	大城 義人 先生	8Fフロア	5月	40名

予防医学センター 年度総括

まずは、2020 年以來の新型コロナウイルスパンデミック、さらにはその後の国際情勢の大きな変化により、私たちの日常生活にも様々な影響が及ぶ中、職員の皆様方が当院の医療の質を維持・向上させるため日々務めておられること、深く敬服するところです。

さて、2022 年度の予防医学センターは、昨年度同様基本的感染対策を講じ通常と変わらない人間ドック健診を継続して遂行できるよう取り組んで来ました。その上で、できるだけ多くの方に人間ドック健診を受けていただけるよう、前年度以上の受診者総数増加を目指してまいりました。2020 年度受診者総数 17,518 名、21 年度は 18,530 名と増加しています。さらに 22 年度はそれまで最高であった 2019 年度 18,829 名を凌駕し 19,234 名へと増加、本年度当初の目標を達成し過去最高となりました。内視鏡センターをはじめ、臨床検査科、放射線科、産婦人科といった関係部署皆様のこれまでと変わらぬ安心の人間ドック健診を粛々と実施し、受診者のご期待にしっかり応えようという真摯な姿勢のおかげだと考えております。

2021 年度より導入した炭酸ガス送気法上部消化管内視鏡検査は、内視鏡センターの全面的協力により、22 年度は対象者をさらに拡大し内視鏡受診者全例に実施することができました。検査後の腹部症状軽減や、前後の検査待ち時間短縮に寄与し、受診者より好評を得ております。

また、2021 年度に新規のオプション検査として導入した心エコー検査の希望者も 22 年度はさらに増加しており受診者のニーズにお応えできたのではないかと思います。

沖縄県は依然として検診受診率の低迷が指摘されており悪性疾患を早期発見し治療に結びつけることや心臓血管病の危険因子を低減し、脳循環器疾患を減少させる事が非常に重要です。当センターでは、2021 年度に「人間ドック健診施設機能評価審査」において受診当日の保健師による対面介入の実績が評価され「優秀賞」を受賞するに至りました。22 年度も引き続き受診者が実践可能な行動変容につながる保健指導を行うとともに、保健師も自らリモート研修などを通して日々学びを継続的行なっております。また、沖縄県医師会を中心に県内検診施設の検診精度均^{きんてんか}霈化の施策が行われている中、その水準を維持・向上すべく担当医師の各種画像検査の結果判定についてのスキルアップもさらに深く追求し謙虚に取り組んでいきたいと存じます。改めまして、2022 年度関係各位の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに今年度も引き続き「チーム医療として受診者目線の人間ドック健診」につき、ご指導、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

予防医学センター長 大城 義人

患者総合支援センター

部門紹介

患者総合支援センター長 西原 実

当センターでは、患者さんがその人らしく、地域に戻ってからも安心して生活が送れるように、院内の様々な多職種チームで連携して支援しています。

①患者にとって良質な入退院支援の流れになっているか。②スタッフのためになっているか。③持続できる取り組みかの3点を意識しながら体制を整えてきました。

地域の関係機関とも連携を図り、外来受診から入院、退院後を見据えた支援を心掛け、患者さんとご家族の総合窓口として、多職種スタッフが協力して対応し、安心して治療を受けていただくことを目指しています。

地域医療の中核を担う急性期病院として、患者さんや地域医療機関からも信頼される病院を目指し、今年度も更に多職種との連携を密にし、質の向上を図るとともに、顔の見える関係づくりのため、症例検討会や勉強会などもコロナウィルス感染対策をしつつ積極的に行っていきます。

職員数

総数

21 名

職種別

医師	1 名	入退院調整看護師	1 名
一般事務	6 名	看護師	7 名
医療ソーシャルワーカー	6 名	クラーク	1 名

認定・資格

認定・資格名	人数
社会福祉士	6
介護支援専門員	3
医療福祉連携士	1
造血細胞移植コーディネーター (認定 HCTC)	1

学会発表

学会名	演題	開催年月日	発表者
第 45 回 日本造血・免疫細胞療法学会 総会	HCTC ワークショップ HCTC の働き方を考える 「医療ソーシャルワーカー (MSW) が HCTC へ～血液内科移植サポートスタッフの業務構築について～」	2023 年 2 月 10 日～2 月 12 日	西田 悠希子

基本理念

私たちは、安全で信頼される医療を地域に提供します。

顔が見える地域連携と入退院調整、相談支援を目指します。

方針

1. 患者、家族、連携先各機関、院内各部署、院外連携機関との連携体制を構築する。
2. 地域包括ケアを見据え、地域医療・介護連携を推進する。
3. 入院前から入院中、退院後の地域生活を見据えて援助する。

目的

1. 患者を中心として、地域社会、連携先各機関と「かりゆし会」とのスムーズな連携を図る。
2. 入院決定時から多職種で連携し、入退院に関連した患者サービスを向上させ、安全・安楽な入院生活を送る為の支援体制を構築する。
3. 社会資源の活用ができ、退院後も安全で安心な環境を整備する。

地域医療連携室

業務内容

- ①紹介患者および逆紹介患者に関する調整業務
- ②各医療機関への広報活動に関する業務
- ③勉強会・講演会・市民公開講座に関する業務
- ④院内各部署、院外関連機関とのより良い連携体制の構築

2022年度総括

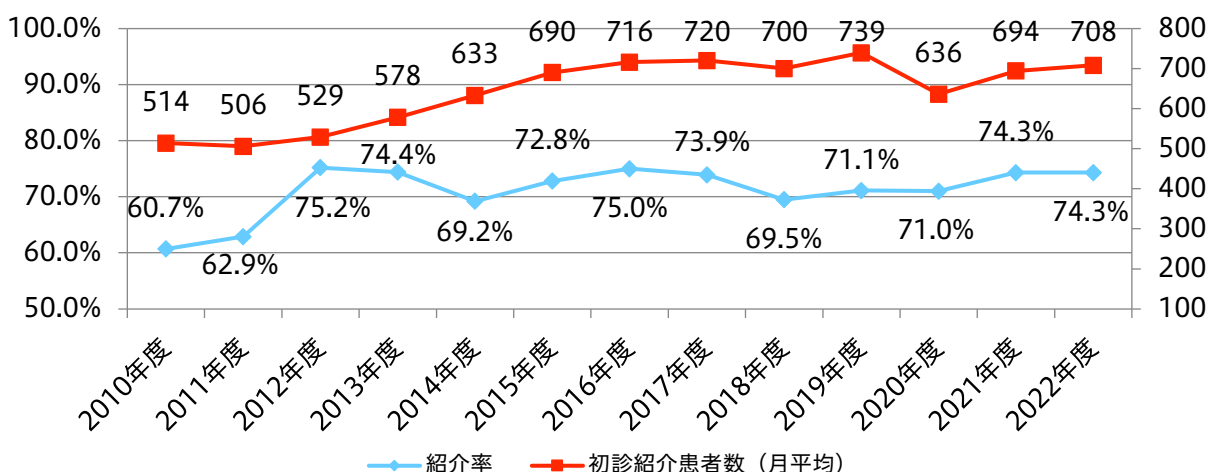
コロナ禍でも紹介件数、逆紹介件数も増加して紹介率は前年度と同率、逆紹介率は増加して地域医療支援病院の承認要件をクリアできました。

無料健康講座や勉強会は感染対策のためにオンラインで実施しました。

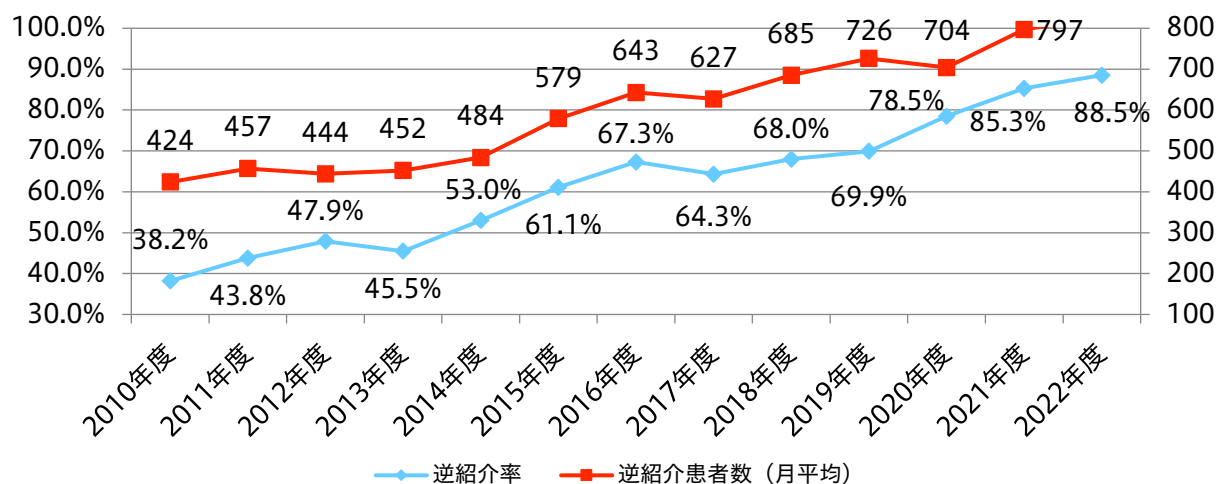
登録医訪問は感染防止のために実施せず目標を達成できませんでした。

2022年度実績

紹介率



逆紹介率



2023年度目標

①社会医療法人としての役割強化

夜間・休日の救急車受入れ件数 年間 1,700 件以上

②地域医療支援病院としての役割強化

目 標：紹介割合 83%以上 逆紹介割合 84%以上

③新規紹介患者への取り組みの更なる強化

登録医療機関の新規開拓 (6 件/年)

登録医訪問 (60 件/年)

④リモートによる無料健康講座の体制構築 (新型コロナウイルス対策)

入退院支援室

入退院支援室業務内容

- 1 入院支援（外来から病棟への橋渡し）
 - ・患者情報の収集
 - ・入院に関わる、検査・手術・治療・入院生活について説明
 - ・入院に必要な書類の作成・説明
 - ・患者・家族の心理的支援
 - ・加算取得に関わる書類作成・患者説明
- 2 院内や地域との橋渡し・調整
 - ・病棟入退院支援看護師・MSW と連携し 7 日以内に共同カンファレンス
 - ・病棟入退院支援看護師・MSW・多職種で退院に向けて支援
- 3 病棟回診 患者カンファレンスへの参加
- 4 退院前合同カンファレンスへの参加
 - ・患者家族・在宅ケアチームとの顔合わせ
 - ・退院後も継続する課題・解決策を検討
 - ・必要時家屋調査・退院後訪問
- 5 地域の医療機関との転院調整
- 6 入退院支援に関する院内のスタッフ教育・多職種への啓蒙活動
- 7 在宅への仕組みづくり
 - ・多職種で連携のリーダーとなり、在宅でも安心して生活できる退院支援の仕組み作り

業務実績

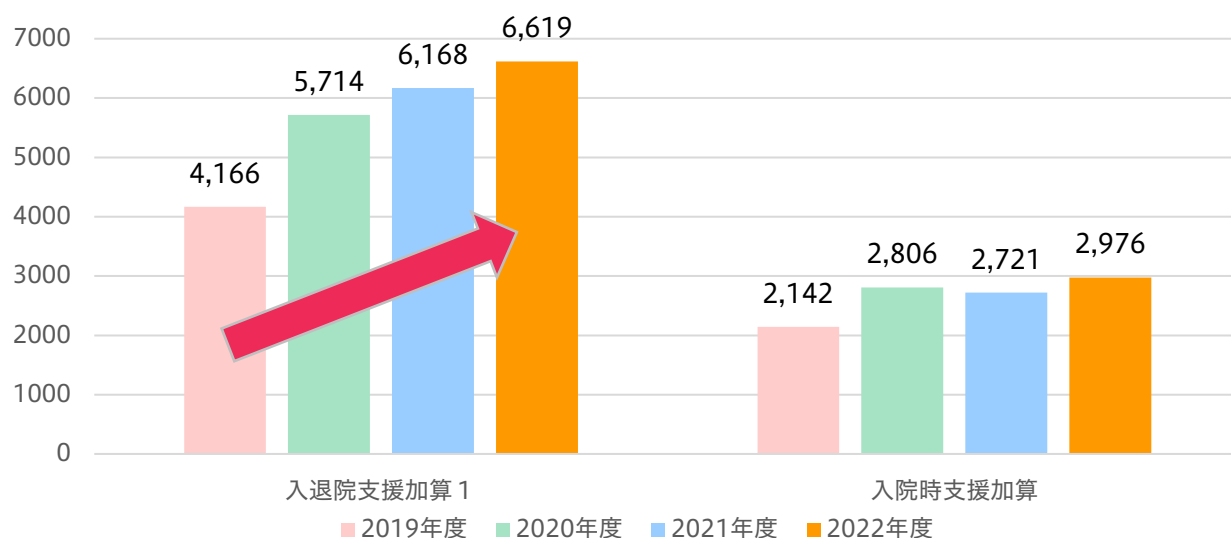
2022年度の活動

年月日	名称
6 月	外科系入院患者用パンフレット作成
7 月	入院時栄養士介入（全診療科）
8 月	眼科バス変更（1泊2日）に伴い、入院前日に入退院支援室で薬剤管理。早朝に入院病棟へ配付し手術出しをスムーズに行う
10 月	外科系入院患者用パンフレット運用開始
2 月	重症患者初期支援加算（重症メディエーター）取得に向けてのマニュアル整備

院外研修実績

名称	開催年月日	参加者
2022 年ポリナビークスショップ in 沖縄	5月7日	下地久美子
2022 年度看護連盟通常総会	7月9日	屋宜鮎美
病院と地域をつなぐ 地域包括ケアを支える看護連携へ	8月26日	屋宜鮎美

入退院支援加算関連実績



2022年度総括

2022 年度も新型コロナウイルス感染症は終息の目処が立たず、感染対策を行いながら患者対応をしてきました。コロナ陽性者の入退院支援はやはり難渋しながらも、前年度と比較すると介入タイミングや経過予測もスムーズになりました。

看護師が入院前から多職種と連携し、退院後を見据えた指導と意志決定に関わり、患者が地域に戻ってからも安心して生活が送れるように関わってきた結果、退院支援件数も増え加算取得に繋げることができました。

次年度も各病棟リンク看護師と密に連携をとり、DPC II 期間を意識した入退院調整、個別性の退院指導を行い、質の高い退院支援を目指し知識向上・スキルアップを図っていきます。

2023年度の取り組み

- ・ 3 指標目標 新規入院患者数（750 人 / 月）病床利用（260）床）在院日数（10.5 日）
定数を遵守した病床管理 重症度、医療・看護必要度を意識した病床運用
（各診療科 各部署との連携強化）
- ・ DPC I・II 期間を意識した退院調整（72%）
- ・ 退院調整・退院指導の充実（病棟入退院支援看護師の業務拡大 地域担当者との連携）
- ・ 患者さんが入院前の生活に戻ることを意識した退院支援の質の向上
- ・ 入院前栄養指導強化
- ・ 入院時に必要な書類の管理徹底 算定可能な加算取得（院内連携の強化）
入退院支援加算：580 件 / 月
入院支援加算：250 件 / 月
総合機能評価加算：100 件 / 月

医療福祉相談室

業務実績

地域包括ケアに関する外部会議等

名称	開催年月日	参加者
西原町 高齢者虐待・障がい者虐待防止対策協議会	通年	高澤
西原町 高齢者・障がい者虐待防止対策協議会実務者会議	通年	高澤
宜野湾市 在宅医療・介護推進会議	通年	高澤
西原町・中城村・北中城村 在宅医療・介護連携推進会議	通年	徳盛
中部地区連携研究会	通年	川満
在宅医療・介護連携推進事業（在宅医との二次連携のための意見交換会）	通年	川満・徳盛・高澤
沖縄県入退院支援連携デザイン事業 小規模離島等市町村意見交換会（ファシリテーター）	2022 年 11 月 24 日	高澤
中部地区地域連携研究会基幹病院会議	2023 年 2 月 27 日	川満

実習生の受け入れ

名称	開催年月日	参加者
沖縄国際大学社会福祉士相談援助実習	2022/8/15-9/14	徳盛

勉強会・研修会への参加

勉強会・研修会名	開催年月日	参加者
めだかのホームルーム（中堅者 MSW の勉強会）	通年	高澤
事例研究研修会	通年	徳盛・高澤・川満彩乃
MSW 協会総会 & 研修会「診療報酬改定」	2022 年 5 月 10 日	高澤
第 1 回周産期メンタルヘルスケアトピック「つながり、つなぐ～産科から精神科への円滑な連携～」	2022 年 6 月 30 日	兼次
全日病 病院医療ソーシャルワーカー研修会	2022 年 7 月 30 日～31 日	兼次
中部地区在宅医療・介護推進連携事業 入退院支援多職種研修会	2022 年 8 月 24 日	高澤
沖縄県 MSW 協会 定例勉強会「ソーシャルワークのプロセス」	2022 年 9 月 1 日	高澤
多職種コンソーシアム実践研修会	2022 年 10 月 23 日	高澤・川満彩乃
がん相談員実務者研修会「終活から考える ACP」	2022 年 10 月 31 日	川満彩乃
志摩の軌跡・地域再生はこうして始まった Home Hospital みんなが帰ってくる場所	2022 年 11 月 11 日	西田・川満彩乃・兼次
九州 MSW 研修会ふくおか大会	2022 年 11 月 19 日～20 日	高澤
MSW 協会定例勉強会「ストレスマネジメント」	2022 年 12 月 1 日	高澤
両立支援コーディネーター WEB ライブ講習	2023 年 2 月 7 日	川満彩乃

職能団体に関する活動

名称	開催年月日	参加者
沖縄県 MSW 協会理事会	通年	高澤
沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 広報部会	通年	高澤
多職種連携ケアマネジメント基盤強化促進事業	通年	高澤
めだかの学校（世話人）	通年	川満彩乃

血液内科移植サポートスタッフ業務

名称	開催年月日	担当者
第 44 回日本造血・免疫細胞療法学会総会	2022 年 5 月 12 日～ 5 月 14 日	西田
HCTCWeb セミナー	2022 年 6 月 4 日	西田
拠点病院研修会「移植のトピックス」	2022 年 6 月 18 日	西田
拠点病院研修会「患者さんの立場から見た造血幹細胞移植」	2022 年 6 月 25 日	西田
浜松造血幹細胞移植研究会 特別講演会	2022 年 7 月 22 日	西田
HCTC セミナー	2022 年 7 月 23 日	西田
口腔管理で移植の予後は変わる	2022 年 8 月 19 日	西田
造血幹細胞移植における感染症のマネジメント最新情報から治療と診断	2022 年 8 月 27 日	西田
就労・就学支援セミナー LTFU 外来を通じて	2022 年 9 月 3 日	西田
造血幹細胞移植拠点病院 ベーシック Web セミナー	2022 年 9 月 10 日	西田
造血細胞移植コーディネーター Web セミナー 「HCTC から見たがいらいおよび入院でのペグフィルグラスチム使用上のポイント」	2022 年 9 月 28 日	西田
ベーシックセミナー「学ぼう移植に必要な HLA の知識」	2023 年 1 月 28 日	西田
第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会	2023 年 2 月 10 日～ 2 月 12 日	西田

その他

名称	開催年月日	参加者
おもと看護学生「老年看護」レクチャー	通年	高澤
ぐしか看護専門学校統合実習	11 月(計3回)	川満慎吾・徳盛
近隣関係機関へのあいさつ回り	8 月・12 月	川満慎吾・徳盛・高澤
相談援助実習報告会	2022 年 1 月 25 日	高澤
相談援助実習 実習生 1 日受け入れ(琉球大学)	2022 年 2 月 25 日	高澤
相談援助実習 懇談会	2022 年 2 月 25 日	徳盛・川満慎吾
研修医へ入退院支援に関するレクチャー	2022 年 3 月 9 日	川満慎吾

2022 年度総括

地域医療支援病院の医療ソーシャルワーカーの役割として、地域包括ケアシステム構築に向けた地域との連携は不可欠となっています。2022 年度は、引き続きコロナ禍に見舞われ様々な制限がある中 ICT 等も活用し、各関係機関との個別協議だけでなく、虐待防止対策会議や沖縄県入退院支援連携デザイン事業、在宅医療介護連携推進会議、及び中部地区連携研究会などへ 1 年を通し積極的に参画してきました。

退院支援においては、入退院支援室や各病棟退院支援リンクナースと協働する院内の入退院支援システムの体制を構築し始めてから 4 年目を迎えました。今年度も入退院支援の質に注目し、個別性を重視した退院支援に取り組むため、日々の退院支援カンファレンスの内容充実等をそれぞれ担当病棟で取り組みました。また支援対象の患者を拡大し、コロナ禍の影響で退院患者総数が大きく減少した月がある中で、今年度も入退院支援加算の取得件数は前年比で増加となりました(今年度 551.6 件/月、前年度 514.0 件/月)。

前年度に引き続き、ソーシャルワークデータシステム(MANBO)を用いて業務分析を行い、各職員や診療科ごとの業務量を分析し、関係機関との連携の傾向把握と強化に取り組みしました。

医療ソーシャルワーカーの質の担保として、ICT を用いることで、県内のみならず県外の各種研修に参加し自己研鑽を積みしました。

血液内科移植サポートスタッフとして、2022 年度から骨髄バンクドナーへの介入も開始し、HCTC の

質の担保として ICT を用いての各研修会へ参加しました。日本造血・免疫細胞療法学会より、HCTC ワークショップ講演（テーマ：HCTC の働き方を考える）の依頼があり、「MSW が HCTC へ～血液内科移植サポートスタッフの業務構築について～」と題して発表を行いました。

2023 年度目標

①地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み

- (1) 行政・介護サービス事業所・医療機関との協議と連携
 - ・「年 3 回、25 ヶ所以上」連携機関との面会（入退院支援加算の算定要件）
 - ・院外会議、研修会への参加
- (2) 在宅医療・介護連携の推進への協力と連携
 - ・中部地区医師会主催の在宅医療・介護連携推進会議に参加

②入退院支援に関する業務構築と算定向上

- (1) 退院支援カンファレンスの充実（DPC を意識した多職種による計画的支援）
- (2) 重症患者初期支援充実加算の取得へ向けた体制作り
- (3) 両立支援の体制構築

③月間の 30 日超え長期入院患者数の減少への取り組み

- (1) 毎月会議にて 30 日超え患者の確認と意識付け（目標：平均 38 人 / 月）

④ソーシャルワークデータシステム（MANBO）による業務評価と分析に向けた取り組み

- (1) 業務評価や近隣関係機関との連携に係る分析

⑤ワークライフバランス

- (1) 月 1 回 MSW 全員同日定時退社
- (2) 残業時間の偏りがないように部署全体で業務の分担をする

⑥病院機能評価に向けた準備

⑦入退院支援関連加算の算定（収入見込み：49,584,000 円）

- (1) 入退院支援加算（700 点）：6,960 件 / 年（580 件 / 月）
- (2) 介護支援等連携指導料（400 点）：96 件 / 年（8 件 / 月）
- (3) 退院時共同指導料（400 点）：120 件 / 年（10 件 / 月）

⑧医療ソーシャルワーカー（入退院支援担当）の質の担保

- (1) 県内・県外の学会及び研修会への参加（各 MSW がそれぞれ 2 回以上参加）
- (2) 関連学会での演題発表（院内研究発表への演題提出）
- (3) 社会福祉士実習の受入
- (4) 新入職者へ部署の教育ラダーに沿った教育

⑨血液内科移植サポートスタッフの質の担保

- (1) 認定 HCTC 更新のための学会・セミナーへの参加
- (2) 移植コーディネーターの育成

⑩設置物・掲示物の充実

- (1) 患者総合支援センターのカウンター近くに掲示版の設置が必要

がん相談支援室

業務内容

がんについての治療や療養生活、社会復帰に伴う疑問や不安を看護師や、医療ソーシャルワーカーが対応しています。

「がん相談支援室」にご相談が出来る事の例

- ・がんについて知りたい
- ・セカンドオピニオンを受けたい
- ・患者会や家族会を探したい
- ・治療に関わる費用を知りたい
- ・治療や副作用について相談したい
- ・痛みや辛さについて相談したい
- ・地域で利用できる制度やサービスを知りたい
- ・治療と仕事の両立について相談したい

2022 年度総括

がんの治療では入院や定期的な通院、自宅療養が必要となる為、仕事や家事、社会活動に影響が及びます。また、治療費や介護保険、福祉サービスに関する内容の相談が多く日々対応しています。

今後も「がん相談支援室」では患者さん、ご家族、地域の方々の様々な相談に対応します。

患者サポート窓口

業務内容

1. 医療従事者と患者との円滑なコミュニケーションを図る。
2. 患者等の不安に寄り添い、入院生活を支援する。
3. 患者サポート相談窓口担当者及び、各部門の担当者が患者等から相談を円滑に実施できるよう支援する。

「患者サポート窓口」のご相談事例

- ・お困りのことがあるとき
- ・誰に尋ねればいいのか分からないとき
- ・当院の対応で不快な思いをされたとき

2022 年度総括

患者サポートカンファレンスを多職種で週 1 回（年間 44 回）開催し、現場にフィードバックすることで相談件数は年々減少しています。

2022 年度の相談件数は 68 件で対応に困ったときには医療安全管理者がスタッフへのアドバイス及び患者対応を行っています。

実績としては医師への不審電話への対策及び職員への再発防止の周知を行いました。コロナ対策としてサーモグラフィでの検温、面会ブースを設置しました。不当な対応を訴える患者等の対応について医師・各師長とカンファレンスを行い対応に困った際には医療安全管理者がスタッフへのアドバイス及び患者対応を行いました。

事務部

部門紹介

経営企画分析室、人事課、財務・経理課、診療支援室、患者総合支援センター、総務課、医事課、管財課、診療情報管理室、企画室、予防医学センター、看護部に178名の職員が所属しています（出向・法人事務局各部門含む）。

職員数

総数

178名

職種別

一般事務	119名	施設係	5名
医師事務作業補助者	21名	調理員	11名
診療情報管理士	7名	警備員	1名
運転手	6名	司書	1名
社会福祉士	6名	屋外植栽管理	1名

法人担当

経営企画分析室

事務副部長 安里 竜

当課は、現在・過去・未来の 3 つのステージで法人運営の課題を発見し、それに取り組み、必要な準備を進める部署です。各種診療支援・経営支援の分析、事業計画の取りまとめ、医療制度に関する情報収集、新規事業の企画等を主な業務としています。2022 年度からは部署の名称を『経営企画分析室』と改め、データ分析に基づく企画調整に専念する部署へと生まれ変わりました。また、昨年度までは経営企画室の配下に、IT・システム業務を行うための電算係と、内外への広報・広告を行うための広報係が所属していましたが、企画業務に専念するために配下から外れ病院事務部長の直下部署へと異動となりました。

職員数

総数

2 名

職種別

一般事務 2 名

運営方針（2023 年 4 月 1 日更新）

1. 新規事業への早期取組
 - a. 新規事業の経営企画面での関与
 - b. 診療体制の活性化
 - c. 研究体制の活性化（臨床倫理・治験体制の強化）
2. 診療支援・経営支援のための情報収集と分析
 - a. 診療実績と収支構造の把握と分析
 - ① DPC データの積極活用
 - ② 原価計算・管理会計の導入
 - ③ ベンチマーク
 - b. 診療マーケティング分析体制の構築
 - ① 事業拡大に向けた広報・地域医療連携への活用
 - c. 医療・介護制度改革の方向性の把握と分析
 - ① 診療報酬改定
 - ② 介護報酬改定
 - ③ 病床機能分化（病床機能報告制度・地域医療構想・地域包括ケア）
 - ④ 5 年後・10 年度の主軸事業の柱だて（施設認定等の高度化の促進）
 - d. 上記取組の現場と経営層への積極的なフィードバック
3. 業務体制の強化
 - a. 経営感覚と現場感覚の両立

企画室の行動指針

1. 業務支援・経営支援のための情報収集・分析・提案

単に情報をあつめるだけではなく、分析し、戦略構築と企画提案につなげる

2. 経営層と運営層への積極的なフィードバック

情報を視える化し、適時のフィードバックを通して、時機を見逃さない

3. 法人理念と事業計画を基軸にする

いかなる場合でも過去・現在・未来を俯瞰し、法人理念と事業計画に沿って今やるべきことを判断し、ニーズの掘り起こしとそれに答える企画提案を実現することで、顧客に貢献する

4. コスト意識を持つ

1円を積み上げる努力（現場の汗）、1円を使う責任（重み）を忘れない

5. 現場へ足を運び、現場力を身につけること

経営活動の力点・支点・作用点はいずれもすべて現場に存在するので、現場へと積極的に足を運び、現場のニーズや課題を引き出すコミュニケーションを怠らない

6. 企画室の顧客は「地域社会」と「法人（各施設、部署、職員、患者と利用者）」

患者さんや利用者、その家族、地域住民、連携機関、行政はもちろんのこと、法人内の各施設、部署、職員もすべて「顧客」として接する

交流会

名称	開催地	開催時期
電子カルテユーザ会システム管理者部会役員会（参加）	オンライン	2022年5月
電子カルテユーザ会世話人会（おきなわユーザ会）（参加）	オンライン	2022年7月
電子カルテユーザ会（おきなわユーザ会）（参加）	オンライン	2022年9月
電子カルテユーザ会世話人会（おきなわユーザ会）（参加）	オンライン	2023年1月

事務局活動

名称	部門	開催時期
理事会事務局	共通	月1回定例
経営会議事務局	共通	月2回定例
運営委員会事務局	共通	月2回定例
事業継続計画マネジメント会議事務局	共通	通年
算定率向上ワーキンググループ事務局（各種加算）	共通	通年
地域災害拠点病院設備整備事業事務局（補助事業）	共通	通年
新型コロナウイルス関係の補助事業事務局（病床確保計画・病床確保料）	共通	通年

年度総括

2022 年 1 月の新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）の再流行を引きずっての、2022 年度スタートとなりました。

新型コロナウイルス感染症の入院受入れのため、即応病床と休止病床を合わせると、実に許可病床数の 16% もの病床をコロナ診療のために割かざるを得ない状況が続いていました。当院は体制面と構造面の両面で専用病棟を維持することが難しく、コロナが出現した当初から、地域の感染状況を総合的に判断しながら、受入れのための病床を増減させるフレキシブルな確保体制を続けています。

コロナ病床を確保した結果、空床となった経営的損失の穴埋めのために、病床確保料という国からの補助金制度があります。当院は専用病棟ではなく、既存の一般病棟の一部を隔離してコロナ入院を受け入れています。国の制度ですと専用病棟を用意していれば補助金が高額ですが、当院のような運用だと、専用病棟の補助の 72% ほどしか補助されません。当院の入院診療単価は 1 床 1 日あたり 68,000 円ですが、補助は 52,000 円と、確保しているだけで赤字となるような状態でした。そういう状態でも可能な限り病床を確保して患者を受入れてきたということです。

医療系団体による調査結果によると、コロナ入院受入病院の多くが、医業収支で赤字となり、病床確保料などの補助金収益で最終利益が黒字となる異常事態が続いています。補助金で黒字化となるのは長期的にはリスクが相当高い状態だと考えています。補助金は短期的にはコスト回収という直接利益に還元される性質を持ち合わせていますが、医業活動による収益ではなく、病院力と経営力を反映する数字ではないからです。2022 年度初頭からは、医業収支で黒字を目指して、コロナ診療と非コロナ診療のバランスを模索し、悩みに悩む日々が続いています。

コロナ流行により、患者の受療行動にも大きな変化が生じていると感じています。明らかに軽症の救急患者が当院に搬送されてくることが増えています。また、疾患別の入院患者数の推移を見ると、誤嚥性肺炎を始めとした呼吸器系疾患の新規入院が減少しています。高齢者の感染対策が充実されたことが要因のひとつと言われていますが、恐らく、コロナの受入れの中心となった急性期とそれ以外の病院とで、扱う疾患・病態の棲み分けが急速に進行しているような気がします。

2023 年 5 月 8 日をもって、コロナの感染症法上の分類が 5 類へと切り替わります。医療業界にとっても大きなターニングポイントとなるでしょう。ただし県内の多くの病院はまだ院内のゼロコロナ対策を継続する印象が強いと感じています。面会や外泊をはじめとした患者さんの権利や、職員の行動制限をどこまで復権させ、満足する形に持っていけるか、ここがコロナ受入医療機関の次なる壁となるでしょう。

さて、2022 年下半年からは、定年再雇用で企画業務をサポートしてくれた職員が退職し、企画担当が再度 1 人体制となりました。サポートする調整業務を制限せざるを得なくなり、現場の皆さんにもご迷惑をおかけしていると思います。企画担当の欠員は、短期的視点で経験豊富な中途採用で補充したいところですが、長期的視点だと若手を育成する必要性も強く感じています。

今後も、制限・延期していた企画業務の再開に向けて、日々奮闘する日々が続きます。

財務・経理課

財務・経理課課長代行 大山 朝史

職員数

総数

5 名

職種別

一般事務 5 名

運営方針

1. 財務・経理内容の的確な開示を行い、経営実態の理解を図る。
2. 正確且つ迅速に経理に関する経営資料を作成する。
3. 各部門の予算執行状況を把握する。

2023 年度目標

1. 法人外部監査の窓口部署として、指摘事項の改善に向けた取組みを行う。
2. 業務ローテーションにより、業務負担を平準化し有給休暇取得の促進と残業削減を目指す。
3. キャッシュレス化を推し進め、現金取扱業務を整理する。
4. 「インボイス制度」および「電子取引データ保存義務化」への対応を進める。

人事課

人事課 係長 仲地 貴弘

職員数

総数

9 名

職種別

一般事務	7 名	臨床心理士	1 名
産業保健師	1 名		

運営方針

～当課役割～

法人経営方針に合わせ、職員個人の育成と適材配置が出来る仕組みを醸成する人事制度の構築を目指すと共に関連法規対応に努め、職員が働きやすい環境整備に努める。

1. 人事管理

1-1 正確な人事管理情報（配転・教育・評価・賞罰等）の構築

1-2 部署定数の管理及び入退職の可視化

1-3 現行の労働法規および関連法に則した規程の策定・更新

2. 労務管理

2-1 事務手続きの電子申請化促進

2-2 働き方関連法に則した運用整備

3. 人材育成

3-1 人事評価制度の導入準備

3-2 評価制度に応じた階層別研修の構築

4. 健康支援

4-1 全職員の働きやすい環境を目指し、心身のフォローを行う

4-2 各調査結果に基づき、課題改善に向けた取組みを行う

4-3 疾病を抱えても働きやすい職場環境づくりに取り組む（両立支援）

活動実績

業務実績

年月日		名称
通年		4 社会医療法人 人事情報交換会 1 回/月 C19 対応特別手当支給 (2022.4 ～ 2023.3)
2022 年	4 月	就業規則改定 (特別休暇・リフレッシュ特別年休)
	5 月	新入職員健康相談実施
	6 月	春季健診事後措置実施
	7 月	ミニ企業説明会 (ハローワーク沖縄) 高校生インターンシップ受入 (COVID-19 関連にて中止) 看護部主催オープンホスピタル (看護職)
	8 月	事務総合職 第 1 回オンライン企業説明会 職員新型コロナワクチン接種

年月日		名称
2022 年	9 月	2023 年度採用看護師採用試験（個別面接・リモート面接） 事務総合職 第 2 回オンライン企業説明会 職員 B 型肝炎ワクチン接種（1 回目）
	10 月	2023 年度採用看護師採用試験（個別面接・リモート面接） 看護部主催オープンホスピタル（看護助手） 職員 B 型肝炎ワクチン接種（2 回目） 就業規則（給与規程・育児休業規程・介護休業規程）改定 最低賃金改定（月給基本給、時間給）
	11 月	かりゆし会人事労務管理マネジメント研修会 開催 職員ストレスチェック実施 セルフケア研修会（動画作成・配信） 開催 秋季健診事後措置実施 職員インフルエンザワクチン接種 職員新型コロナワクチン接種
	12 月	就業規則（医師の働き方改革関連）改定
2023 年	1 月	院内研究発表会事務予選にて課員が発表 2023 年度採用看護職入職説明会 院内研究発表会事務本選にて課員が発表
	2 月	ゲートキーパー養成講習会 開催 HPKI カード（医師資格証）申請
	3 月	ラインケア研修会（4 日・6 日） 開催 職員 B 型肝炎ワクチン接種（3 回目） 職員満足度調査実施

研修実績

名称	年月日	参加者
認定ハラスメント相談員Ⅱ種研修	2022 年 11 月	1 名受講
両立支援コーディネーター基礎研修	2022 年度	3 名受講

診療支援室

診療支援室課長 比嘉 須奈子

職員数

総数

30 名

職種別

医師事務作業補助係 24 名

秘書担当 3 名

卒後臨床研修事務係 3 名

認定・資格

認定・資格名	人数
診療情報管理士	6

認定・資格名	人数
医師事務作業補助技能認定資格	19

運営方針

1. 医師が安心して診療に専念できる環境を作る
2. 医師の事務的業務の負担軽減を図る
3. 初期から専門研修まで充実した研修が行えるよう、あらゆる方向から支援する
4. 他部門とのスムーズな連携・協働に努める
5. 専門的知識、技術の向上をめざして自己啓発に努める

医師事務作業補助係

業務計画

1. 外来業務においては予習を徹底し、定期検査や必要な検査等のモレをふせぐ
2. クリニカルパス担当を各チーム 1 名ずつへ増員し、迅速なパス作成ができるようにする
3. チーム持ち回りで、科ごとのミニ勉強会を開く
4. 院内外の勉強会への参加
5. 上司との定期的な面談を行い、自己評価とスキルアップを図る

活動実績

文書作成

名称	2019	2020	2021	2022
一般診断書	532	565	494	494
生命保険文書	2,094	1,758	1,690	1,382
介護主治医意見書	412	262	287	303
傷病手当金請求書	625	816	917	614
医療要否意見書	665	543	583	547
特定疾患調査票	291	70	335	305
身障 / 年金診断書	217	161	285	222
自賠責診断書	840	706	714	652
その他	2,085	2,144	2,256	2,283
合計	7,761	7,025	7,561	6,802

名称	2019	2020	2021	2022
退院サマリー	751	645	748	575
高額コメント	151	36	33	36
NCD（外科手術症例登録）	925	835	840	904

統計業務

- ・ 日本胸部外科学会食道分野学術調査
- ・ 日本内視鏡外科学会症例報告
- ・ 日本外科学会指定施設年次報告
- ・ 日本ヘルニア学会症例報告
- ・ 日本血液学会疾患登録
- ・ 日本造血細胞移植データセンター全国調査
- ・ 外科研修関連施設実績報告（琉大・東京女子医大・大阪大学）

学会業務

名称	開催地	年月日
沖縄ヘルニア研究会	県内	2022 年 1 月 8 日

卒後臨床研修事務係

研修医の実績については医局部門をご覧ください

活動実績

卒後臨床研修事務局主催のレクチャー、講演会等

内容	開催地	日程
群星沖縄臨床研修センター長 徳田安春先生による教育回診	当院	毎月第 1・第 3 木曜日
新研修医オリエンテーション	当院	2022 年 4 月 5 日～ 8 日
群星沖縄新研修医オリエンテーション	サザンビーチホテル	2022 年 4 月 4 日
ミシガン大学 Clinical Associate Professor Dr.Jeffrey Rohde による教育回診	当院	2022 年 11 月 17 日
基本的臨床能力評価試験の実施（オンライン）	当院	2023 年 1 月 17 日～ 30 日
ミシガン大学 Clinical Associate Professor Dr.Virginia Sheffield による教育回診	当院	2023 年 2 月 22 日
感染症コンサルタント 青木眞先生による感染症教育回診	当院	2023 年 3 月 16 日
群星沖縄ポートフォリオ	当院	2023 年 3 月 6 日

セミナー・勉強会・会議等への参加

内容	開催地	日程
初期臨床研修運営協議会	当院	毎月第 2・第 4 火曜日
群星沖縄定例会議（オンライン）	当院	毎月第 2 月曜日
令和 4 年度第 1 回臨床研修病院長等会議	県医師会館	2022 年 5 月 16 日
2022 年度第 1 回卒後臨床研修管理委員会（現地開催 + 書面会議）	当院	2022 年 6 月 2 日
琉球大学関連協力病院協議会への参加（オンライン）	当院	2022 年 10 月 12 日
三病院合同内科専門研修管理委員会への参加（オンライン）	当院	2023 年 2 月 7 日
2022 年度第 2 回卒後臨床研修管理委員会（現地開催 + 書面会議）	当院	2023 年 3 月 2 日
琉球大学専門研修プログラム連絡協議会への参加（オンライン）	当院	2023 年 3 月 15 日
広報誌「LIFE」作成委員会	当院	不定期

医学生・院外研修医の受け入れ

内容	日程
琉球大学医学部 5 ～ 6 年次クリニカルクラークシップ (延べ 48 名)	2022 年 4 月 18 日～2023 年 3 月 10 日
医学生病院見学受け入れ (延べ 55 名：県外 35 名、県内 20 名)	2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日
琉球大学病院より研修医受け入れ 1 年目 1 名 (総合内科、呼吸器内科、消化器内科) 2 年目 3 名 (外科、麻酔科)	2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日
浦添総合病院より研修医受け入れ 2 年目 3 名 (産婦人科、小児科)	2022 年 6 月、10 月、2023 年 2 月
中部徳洲会病院より研修医受け入れ 1 年目 1 名 (産婦人科) 2 年目 1 名 (産婦人科)	2022 年 7 月、2023 年 1 月
友愛医療センターより研修医受け入れ 2 年目 4 名 (小児科、放射線科、総合内科、眼科)	2022 年 6 月、8 月、9 月、11 月
大浜第一病院より研修医受け入れ 2 年目 2 名 (整形外科、形成外科)	2022 年 5 月、7 月
中頭病院より研修医受け入れ 2 年目 1 名 (血液内科)	2023 年 2 月

リクルート活動

内容	開催地	日程
群星沖縄病院説明会	オンライン	2022 年 5 月 28 日
レジナビフェア 2022 東京	東京都	2022 年 6 月 19 日
当院主催病院説明会	現地開催+オンライン	2022 年 7 月 2 日
レジナビフェア 2022 大阪	大阪府	2022 年 7 月 3 日
群星沖縄病院説明会	オンライン	2022 年 7 月 9 日
レジナビフェア 2022 福岡	福岡県	2022 年 7 月 10 日
マイナビ沖縄県特集 Web セミナー	オンライン	2022 年 9 月 24 日
当院主催学生向けセミナー	現地開催+オンライン	2023 年 1 月 7 日
第 14 回沖縄県初期臨床研修指定病院合同説明会	Web にて動画掲載	2023 年 1 月 14 日～28 日
群星沖縄臨床推論甲子園	オンライン	2023 年 1 月 28 日
当院主催病院説明会	現地開催+オンライン	2023 年 3 月 4 日
レジナビフェア 2023 東京	東京都	2023 年 3 月 19 日

研修参加実績

内容	開催地	日程
新研修医 AHA BLS Provider コース (1 年目研修医 8 名参加)	当院	2022 年 4 月 9 日
新研修医 AHA ACLS Provider コース (1 年目研修医 8 名参加)	当院	2022 年 4 月 23 日・24 日
第 5 回沖縄県緩和ケア研修会 2021(2 年目研修医 7 名、1 年目研修医 1 名参加)	当院	2023 年 2 月 18 日

その他

内容	開催地	日程
第 31 回 mmc/ 第 18 回三重大学医学部附属病院合同指導医養成講習会 (医師 1 名参加)	三重県	2022 年 10 月 7 日・8 日
第 34 回日本医師会指導医のための教育ワークショップ (医師 1 名参加)	東京都	2022 年 11 月 5 日・6 日
2022 年度 RyuMIC 指導医養成講習会 (医師 1 名参加)	西原町	2023 年 1 月 21 日・22 日

附随業務部門 食堂とまと



店舗



ドック食

食堂とまと 平安山 良親

院内食堂として、病院敷地奥の別館1階で営業を行っています。お客様の約7割が病院職員で、平日の日替わりランチ、店舗販売の弁当は、職員割引で提供し職員食堂の役割も担っております。

また、当院人間ドック受診者向けの昼食メニューも食堂とまとで調理を行い、8階人間ドックの専用レストランにて提供しております。

メニュー

日替わりランチ、みそ汁定食、豆腐チャンプルー定食、さんま定食、ポークたまご定食、カツカレー、カレー、沖縄そば、日本そば（きつね）、うどん（きつね）、ライス、サラダ、弁当（みそ汁付）
タコライス、スパゲティ（ミートソース・カルボナーラ）

営業時間：月曜日～土曜日 11:30～15:00

定休日：日曜日、祝日、年末年始

職員数

総数

11名

職種別

調理師 3名

調理補助 7名

調理員 1名

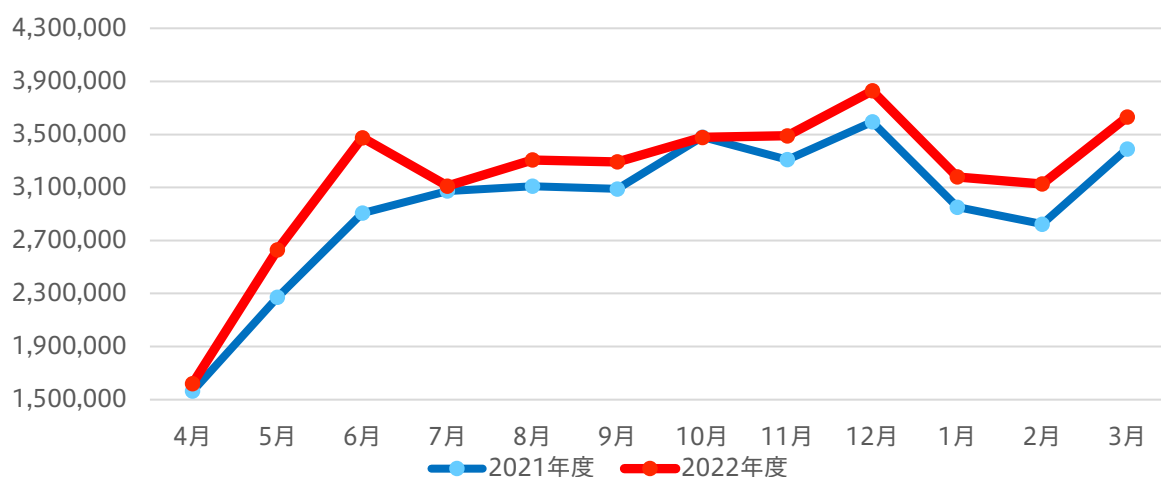
経営方針

職員や来院者に対し、「笑顔で親切ハートライフ病院」を合言葉にして、安全・安心で美味しい食事を提供していきます。

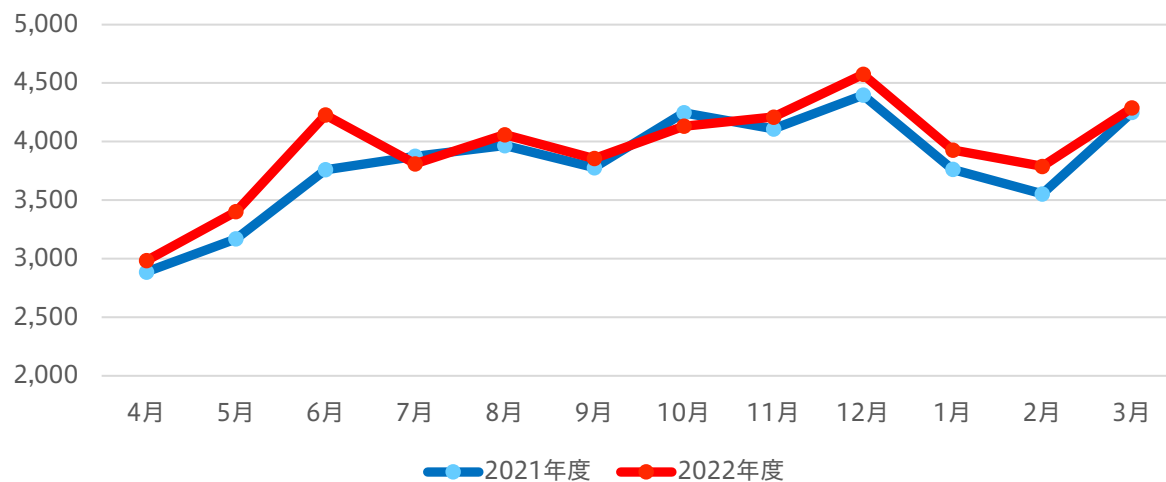
活動報告

- ・弁当新メニューの追加
- ・人間ドックメニューの変更業務実績

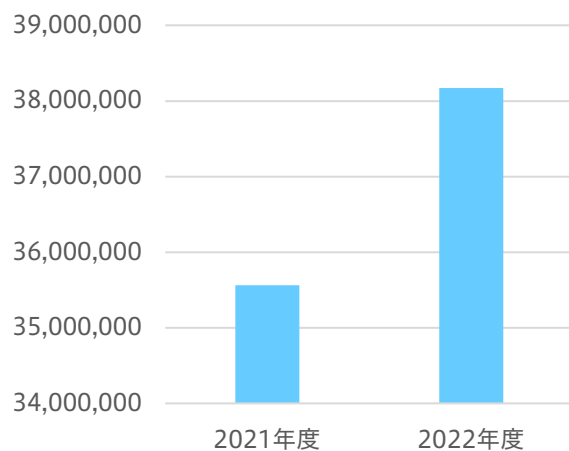
売上推移



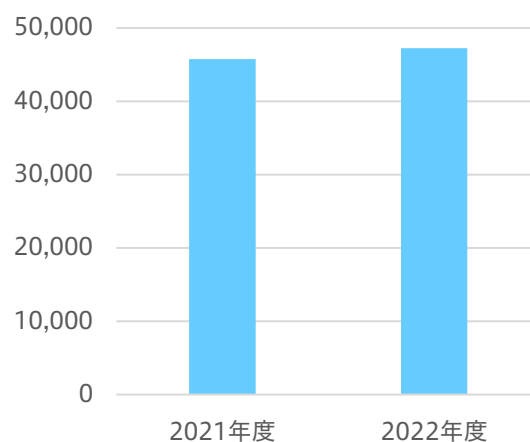
客数推移



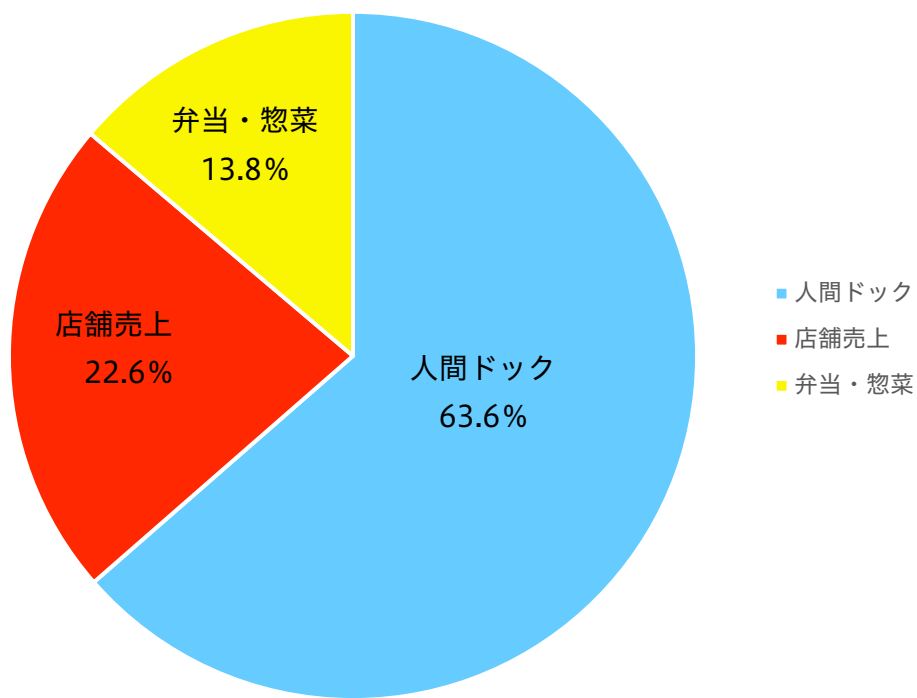
総売上高推移



総客数推移



売上割合



法人事務局 年度総括

ここでは主にハートライフクリニック、ハートライフ地域包括ケアセンター、はーとらいふ保育園、人事課、財務経理課、経営企画室、診療支援室に触れさせていただきたいと思います。

2022 年度も前年度に引き続きコロナ禍に始まりコロナ禍で終了しました。

そのような中、各部署の職員は感染予防に務めながら職務を全うしたと思います。本当にお疲れ様でした。

【ハートライフクリニック】

2020 年度はコロナの影響が直撃して、経営的に大打撃を受けましたが、2021 年度にはほぼ回復し、2022 年度のクリニックでは受診者数は増加に転じていました。そんな中、ベテラン職員の定年退職や休職など、厳しい 1 年となりました。2022 年 4 月に本院から異動してきた山内美咲師長は、1 年目からマンパワー的な問題を多く抱える前途多難なスタートとなりましたが、外来クラークのローテーション勤務の導入や看護師の診療科を超えた応援体制を強化するなど、初年度から非常に良い働きを見せてくれてクリニック運営を助けてくれました。

また、院長の山本医師、副院長の與座医師を中心とした医局の先生方や、コメディカル部門、医事課、その他すべての職員の頑張りもあり、2022 年度は過去最高の患者数・収益を実現しています。

事務部では、2023 年度に新しく宮城淳事務長を迎える予定です（本院の外来医事課長を兼任）。宮城事務長にはこれまで本院の医事課長として培ってきた経験を生かして、今後も当クリニックが地域の皆様のためのクリニックとして発展できるようにクリニックをまとめていってほしいと思います。

医療業界のみならず、様々な業種で人材不足が叫ばれている中、当クリニックも同様の課題を抱えていますが、地域の皆様のためにも山本院長を中心として乗り越えていくと思います。

先述しましたが、私は 2022 年 3 月末でクリニック事務長職を宮城(新)事務長へ譲ることとなりました。これからもクリニックにはかかり続けるのですが、一つの区切りとしてこれまで一緒に頑張り、支えて下さった皆様へ感謝の意を表して、総括とさせていただきます。

【ハートライフ地域包括ケアセンター】

2022 年度、ハートライフ地域包括ケアセンターは、過去最高の収益をあげた 2021 年度とは変わり厳しい 1 年となりました。5 月にセンター内でコロナのクラスターが発生し、新規入居者の受け入れや各種サービスの利用制限を実施せざるを得ない状況となりました。また 11 月下旬には主に高齢化を原因とする入居者様の入院の増加や、コロナ禍の物価高騰対策としてやむを得ず実施した利用料金の値上げなどの影響で入居者数が減少しました。このことは当センターの収益に直接影響を及ぼしたため、2022 年度は大変厳しい 1 年となりました。そんな中でも職員の皆さんは入居者様・利用者様のために一丸となって努力してくれましたので、影響は甚大ではありましたが、最小限に食い止めてくれたと思います。

2023 年度も当センターでは、地域社会の皆様に貢献できる、職員が誇りをもって働ける職場を目指して精進してまいりたいと思います。

【はーとらいふ保育園】

はーとらいふ保育園は、2021 年度に続き、2022 年度も新型コロナウイルス関連の理由で、通園中の保育園へ通えなかった職員のお子さんを対象とした『一時預かりサービス』を実施し、14 件の利用があ

りました。利用数はそれほど多くはありませんでしたが、微力ながら医療現場の最前線で働く職員の後方支援になったと考えています。

また、他園の休園日（慰霊の日、年末、年度末）の一時預かりも行い、14件の利用がありました。これまで以上に多くの職員に利用してもらえる保育園となれるよう、『集団生活への体験保育』『入職復職される保護者の準備期間をサポートするための一時預かり』などの取り組みを行って参ります。

2022年度からは、地域の皆様にも当園を利用していただけるように、地域の方の利用枠（2枠）を設け、入園児を受け入れました。地域住民の皆様との交流を深めるきっかけになればと思います。

2023年度からは更に地域枠を拡大し、宜野湾市、西原町、与那原町のお子様も受け入れる事となる予定です。

今年度も職員の皆様とのお子様にとってより良い保育園、利用しやすい保育園となれるよう、金城久乃園長をはじめ、職員の皆様と努力していきたいと思っています。

【人事課】

2022年度も人事課では比嘉康文法人事務副部長のリーダーシップのもと、多くのことに新たに取り組んでおります。以下、2022年度に人事課が取り組んだ主な項目を記載致します。

- ・ 育児休業規程、介護休業規程の改定（2022年10月1日）→育児休業が取りやすい職場環境の整備（特に男性職員の育児休業等の取得促進）と介護休業が取得しやすい環境整備
- ・ 就業規則改定（2023年1月1日）→医師の働き方改革に向けた取り組み
- ・ 医師の労働時間・自己研鑽、休日、勤務間インターバル、代償休息などの取決め
- ・ 契約職員の特別休暇（冠婚葬祭）、リフレッシュ特別年休の付与日数を正職員と統一
- ・ 時給、月給基本給の最低賃金改定
- ・ 県立高等学校の就業体験（インターンシップ）の受入れ受託（コロナにて中止）
- ・ 産業保健業務は産業保健師を中心とした治療と仕事の両立支援を職員も含め地域で開始（両立支援コーディネーター基礎研修3名受講）
- ・ 公認心理士による職員向けセルフケア研修会の開催

2022年4月から人事課に仲地貴弘さんが新しく加わりました。昨年度途中には総合職採用の新人、新川樹さんも加わるなど、部署の人数も増え、法人の中での重要性も増えています。そんな中、人事課の立ち上げから尽力して下さった比嘉康文副部長が2022年度いっぱい病院事務部へ異動となります。しかし、この原稿を執筆している2023年5月中旬現在も、比嘉副部長へ様々なことでアドバイスをいただくなど、まだまだ教えていただくことが山積している状況です。

2023年度の人事課も様々な課題を抱えておりますが、地力をつけて法人職員のために（もちろんそれが法人を利用して下さる患者様や利用者様のためにもなると信じて）部署一丸となって精進していく所存です。

【財務・経理課】

2022年度、財務・経理課は大山朝史課長代行（2023年4月1日時点、課長）のもと、通常業務（現金出納、財務諸表作成など）、法人監査では大きな問題もなく無事に業務を遂行できております。また、前年度に課題にあげた法人規模拡大へ対応するための課員増員に関しましても、理事の先生方のご理解を得られ、

2023 年 1 月より新しい仲間が財務経理課に加わります。法人職員も全体で 1000 名を超えており 2023 年度も多忙な 1 年になることが予測されますが、大山課長、古井主任を中心とした中で、他の職員も順調に力をつけておりますので、正確かつ堅実な業務遂行を継続してくれるものと期待しています。

【経営企画分析室】

2022 年度も経営企画分析室は、経営に寄与する重要な情報の発信・提案に加えて、法人のコロナ対策・コロナ関連の補助金においても中心的な役割を担っていました。当会がコロナ禍にも関わらず経営的に成り立っていたことについては様々な要因がありますが、経営企画室の働きが大きな力となっております。本当にお疲れ様でした。

2023 年度、経営企画分析室は新しい職員 1 名が加わり、正職員 2 名体制となりますので、安里副部長を中心として、ますます法人経営に寄与する働きに期待したいと思います。

【診療支援室】

診療支援室は医師事務作業補助係、秘書係、卒後臨床研修事務係で構成されています。

まず医師事務作業補助係では、欠員補充もままならない中、診療科のニーズに合わせて柔軟な対応ができるように努めていました。特に 1 人診療科の先生のフォローを優先して行うよう体制を整えるなど、医師の負担軽減の役目をしっかりと果たしてもらいました。

卒後臨床研修事務係では、前年度に引き続き 2022 年度も初期研修の応募者が過去最高かつ、フルマッチで無事に定数 7 名の採用となりました。これもひとえに、普天間光彦研修委員長、佐藤直行副研修委員長はじめ、医局の先生方、そして裏方として支えてくれた研修医担当事務の皆さんの力があってのことだと思います。大変お疲れ様でした。

秘書の皆さんは、コロナ禍で多忙な先生方を診療以外の面で支え、さらにこれまでより一歩踏み込んだ対応を心がけてもらうようにしました。今年度からは医師の働き方改革に向けて人事課と協力して色々な取り組みを始めてもらいましたが、今後も引き続きどうぞよろしくお願いします。

本課の診療支援室という名称の通り、今後もスムーズに診療が行えるよう医療現場に対して適切な支援を継続してくれることを期待しています。

以上が法人事務局部長としての 2022 年度の総括になります。

2023 年度もかりゆし会の発展のため、そしてかりゆし会を利用して下さっている多くの方々のために精進して参りたいと思います。

法人事務部長 仲地 智俊

病院担当

医事課

医事課 課長 宮城 淳

職員数

総数

43 名

職種別

一般事務 43 名

認定・資格

認定・資格名	人数
診療情報管理士	2

運営方針

1. 患者さんには（目配り・気配り・誠心誠意）
2. 細分化業務の早期構築（量から質の人材育成）
3. 請求漏れ発生の防止（診療では補助・保険では本業の心）
4. 新入職員及び職員教育・研修の充実と実施

業務計画

1. 2022 年 4 月に診療報酬改定が実施され、2025 年に向けて当院の方向性を決めることがますます重要となってくる。急性期一般入院料 1（7 対 1 入院料）を算定基本としていくために医事課として、社会保険中央審査会議論内容を把握しながら、早期情報収集、情報提供、方針決定後にも保険請求の知識向上、医療法に基づいた請求を行う。
2. 今年度は新型コロナ対応が 9 月まで慌ただしく続き、病棟運営にもかなり影響が出た。10 月から平常時の対応へ向けていくが、コロナ対応が常に付きまとっていた。次年度からは国の方針が感染症 5 類へと移行するにあたり、新たな方針で病棟運営を行っていくので、情報をキャッチして業務を行っていく。
3. 看護必要度のⅠからⅡへの変更となり、引き続き看護部と協同し精度並びに安定したデータ化を進める。
4. 落ち穂ひろいの継続。加算取得により増収となっている項目もあるので、算定継続と新たな項目の洗出しを行う。
5. 紹介・逆紹介の取り組みを他職種と協力し実績を上げる。外来については逆紹介推進の取り組みを図る。
6. 5 年後を見据えての人材育成。まずは人材の確保。業務改善を行い人材の安定化を図る。働きやすい職場環境を目指す。

活動実績

セミナー・勉強会などへの参加

名称	開催地	年月日	参加者
病院経営 Web セミナー iMedy 株式会社	オンライン	2022 年 5 月 12 日	宮城（医事）、佐和田（総務）
第 1 回沖縄県 SSI ユーザー医事交流会	県医師会	2022 年 6 月 17 日	宮城・新垣・田中（医事）、宮城（電算）
MDV「落穂ひろい作戦 実践講座」	オンライン	2022 年 9 月 28 日	宮城・新垣・田中（医事）、佐和田（総務）
病院経営 Web セミナー iMedy 株式会社	オンライン	2022 年 10 月 27 日	宮城（医事）、佐和田（総務）

実習生受け入れ

実習校	期間	受入れ人数
沖縄中央学園	2022 年 10 月 13 日～10 月 31 日	1 名

その他

名称	開催地	年月日	参加者
日経ビジネスグループ模擬面接官	沖縄市	2022 年 5 月 28 日	宮城

管財課

管財課用度係

用度係 係長 諸見里 和也

職員数

総数

8 名

職種別

一般事務 8 名

運営方針

物品の安全・安定供給

- ・ 各現場へ必要物品の安定供給をする為に定数物品・注文物品等、発注から納品まで敏速に実行できる体制を構築する。
- ・ 使用後も廃棄処理時に有害物質を出さない、環境に優しい物品の採用。
- ・ 患者さん・職員に対し、安全に配慮した物品の採用。
- ・ 物品の標準化。標準化する事により、使用方法の統一が図れ、安全かつコスト削減にもつなげる。
- ・ 医療材料説明添付文書通り順守し管理する。

物品管理

- ・ 在庫管理・定数管理の強化。定期的に定数を見直し、適正な定数をを目指す。
- ・ 年 2 回の、棚卸を実施。適正な在庫数を維持管理する。
- ・ SPD システムのバージョンアップを図り、維持管理の強化。
- ・ 機器の不具合・故障等の場合、現場に出来るだけ支障の無い様に、速やかに対応する。
- ・ 災害拠点病院に適した維持管理。
- ・ 事務什器備品の資産管理。

イントラの整備

- ・ イントラ整備に伴い、各種申請書、請求伝票連絡関係等の電子化の推進。
※電子申請を 2019 年 10 月より本院・事務部がトライアル開始。2020 年 4 月本院・地域包括支援センター運用開始。各申請書は徐々に拡大予定。

係員の教育

- ・ 勉強会、県内外への研修、見学等の積極的な参加に努める。
- ・ 患者様の安心・安全の為、医療従事者として出来る最善策を日々、研究実践する。

理念

患者の安心・安全のため、部署として、病院職員として出来る最善の策（行為）を日々、研究・実践する。

用度係活動実績

業務計画

1. 医療改定に伴う医療材料、日用品の見直し。
 - ・ 昨年度同様にコロナ禍の中で患者さんの安全、安心も勿論、全ての職員も守る！を念頭に感染防護品の選定や提案等を常に医師や看護師、医療技術者とディスカッションし感染予防に対し最善を尽くした。
2. 係員の教育とスキルアップ。
 - ・ 取扱い材料がどの様な診療で使用されるかなどを紐づけて教育した。
 - ・ 各業者対応や発注業務、納品書の入力業務を援助なしで対応出来る様に指導し、対応できるようになった。
3. 災害、感染症予防対策
 - ・ 2021 年 11 月 12 日（金）Act Against COVID-19 院内発表（新垣主任）
 - ・ コロナ禍で職員に対し感染症予防対策として防護ガウン、N95 マスク、ニトリル手袋等の感染対策資材を現場へ安定供給出来た。
4. 事務備品の資産管理の徹底。
 - ・ 実践し管理シールにて運用出来ている。
5. 新規治療（医療事業）に対するサポートと提案。
 - ・ 今後も新規治療がある場合、取扱店や金額交渉、納期の確認など、臨機応変に対応出来る体制を作る。

収入計画

1. 購入材料引き率目標の設定
2. 新型コロナウイルス・インフルエンザによる各補助金の活用（今後も継続）

人員計画

- ・ 係員の心身のバランス（ワークライフバランス）の取れた職場の環境作り。
- ・ 昨年度同様に新型コロナウイルス感染拡大を受け、国や県からコロナ補助金での医療材料や衛生材料、医療機器などの申請や、申請が下りた材料の臨時倉庫へ搬入、病棟への払い出しなど。又、コロナ病棟の整備等で残業時間が増え、来年度は院内物流管理システムの導入スケジュールリングや主要部署と委員会等でヒアリングし、スムーズに開始できるように電子カルテ上の医療材料マスタ整理や処置行為への紐付を行う。
- ・ 2022 年 2 月より手術室 1 名派遣に伴い提案や勉強会、材料及び資産管理の膨大な作業が見える為に人員 1 名の増員確保を希望する。

設備計画

1. 医療材料、日用品の安心、安全、清潔をもって管理が出来る広い倉庫の確保。
 - ・ 現在の倉庫が狭く、廊下に陳列する環境にあり消防からの指摘事項となっている。
 - ・ 災害拠点病院に係る医療材料の定着した場所の確保。
- ※現在 9 階ドック跡地を期間限定で利用中。倉庫は定着した場所の確保を来年度も継続していきたい。

2. 院内物流管理システム導入

- ・ 院内物流管理システムの導入 2020 年 3 月（理事会承認済） 導入予定：2023 年 7 月頃

活動実績

セミナー・講習会・勉強会への参加

名称	開催地	年月日	参加者名
購買室のプロフェッショナリズム in OKINAWA	那覇市	2022 年 9 月 25 日（日）	新垣・石垣
第 25 回医療材料マネジメント研究会オンラインシンポジウム 「医療材料の値上がりおよびサプライチェーンの問題」	オンライン	2022 年 11 月 20 日（日）	諸見里

管財課施設管理係

施設管理係 係長 具志堅 徳明

職員数

総数

5 名

職種別

施設技術者 5 名

認定・資格

資格名	人数
第 3 種電気主任技術者	2
第 1 種電気工事士	2
第 2 種電気工事士	5
1 級電気施工管理士	1
消防設備士特類・乙 6・7 類	1
消防設備士甲種 1 類～ 5 類	2
自衛消防業務	3
1 級ボイラー技士	1
2 級ボイラー技士	4

資格名	人数
ボイラー整備士	1
危険物取扱者乙 4 類	5
2 級管工事施工管理技士	1
2 級土木施工管理技士	1
第 2 種冷凍機械責任者	2
エネルギー管理員	2

運営方針

安全管理と省エネに務める。

理念

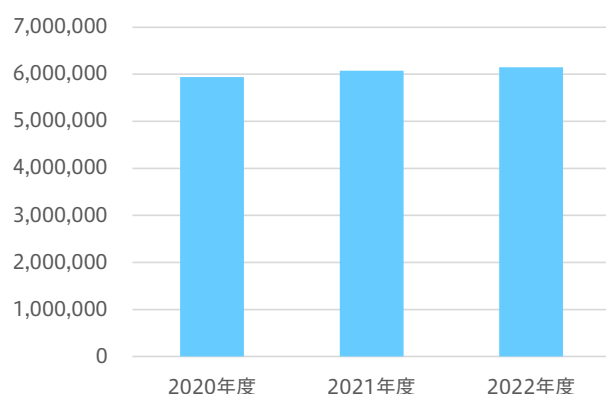
関係法令等を遵守し施設内を常に最良の状態に維持管理する。予防保全的業務を実施し、設備の耐用年数の延長を図り省エネルギーの達成に務める。

業務実績

ハートライフ病院

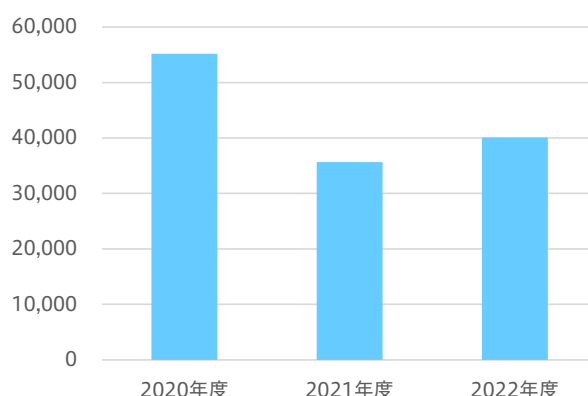
総電力量 (単位 :kwh)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
kwh	5,938,150	6,075,380	6,145,620
対前年比	3.2% 減	2.3% 増	1.2% 増



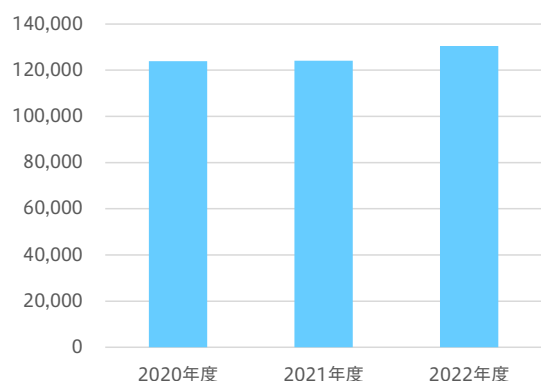
蓄熱電力量 (単位 :kwh)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
kwh	55,197	35,670	40,079
対前年比	56.3% 減	35.3% 減	12.4% 増

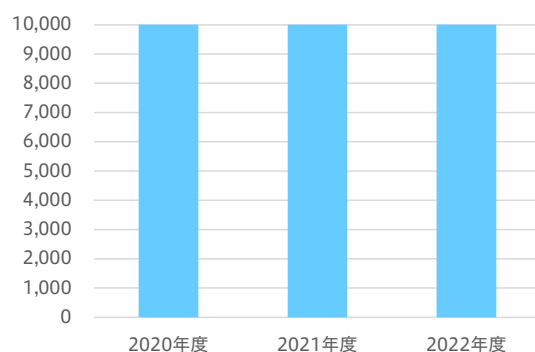


A 重油使用量（ボイラ）（単位：ℓ）

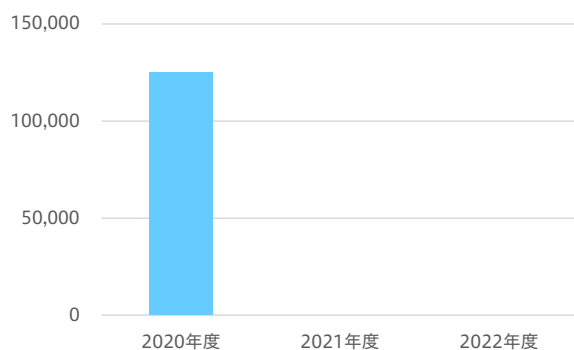
	2020 年度	2021 年度	2022 年度
ℓ	123,854	124,146	130,431
対前年比	1.8% 増	0.2% 増	5.1% 増

**上水道使用量（単位：m³）**

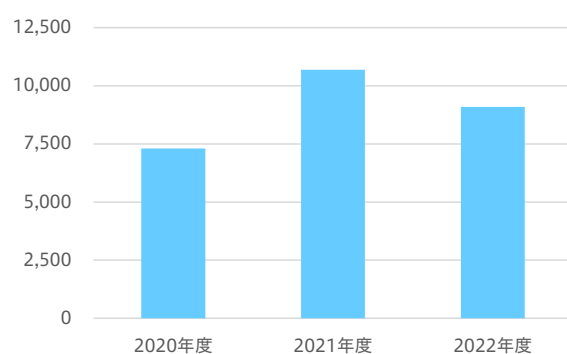
	2020 年度	2021 年度	2022 年度
m³	50,204	46,209	47,602
対前年比	12.8% 増	8.0% 減	3.0% 増

**A 重油使用量（常用発電機）（単位：ℓ）**

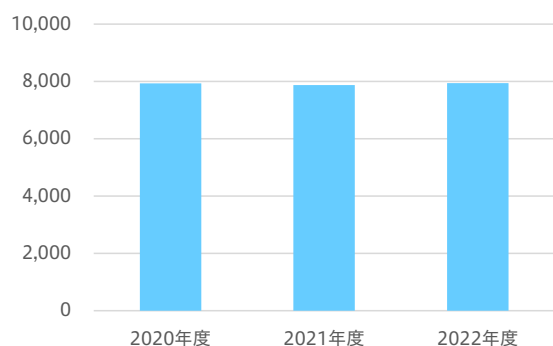
	2020 年度	2021 年度	2022 年度
ℓ	124,925	0	0
対前年比	24.4% 減	100% 減	0

**中水道使用量（単位：m³）**

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
m³	7,301	10,687	9,093
対前年比	56.6% 減	46.3% 増	15.0% 減

**LPG 使用量（厨房）（単位：m³）**

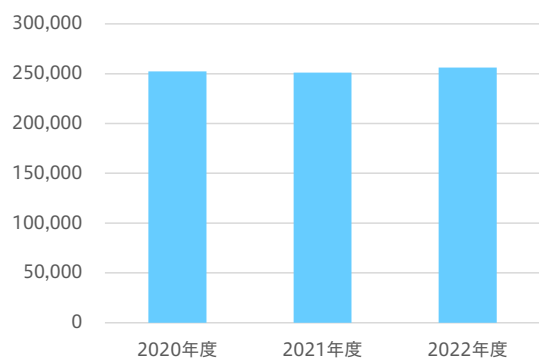
	2020 年度	2021 年度	2022 年度
m³	7,930	7,873	7,940
対前年比	6.9% 減	0.7% 減	0.8% 増



ハートライフクリニック

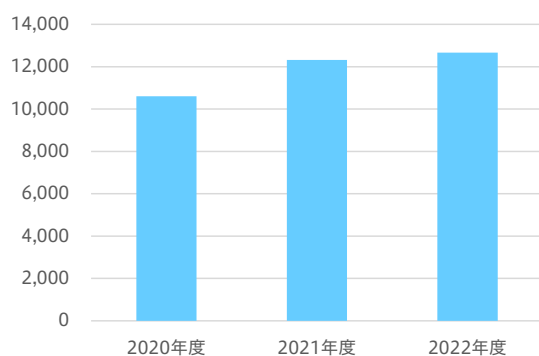
総電力量 (単位 :kwh)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
kwh	252,211	251,025	256,210
対前年比	0.2% 減	0.4% 減	2.1% 増



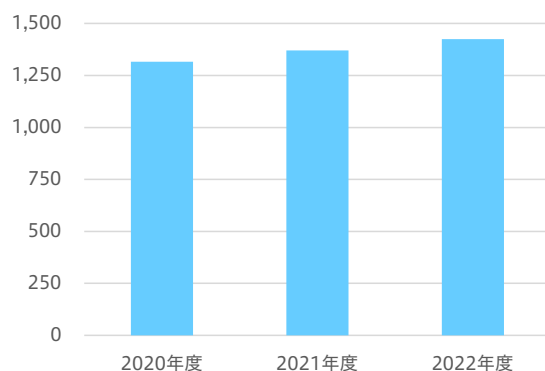
LPG 使用量 (単位 :m³)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
m³	10,605	12,316	12,663
対前年比	6.3% 減	16.1% 増	2.8% 増



上水道使用量 (単位 :m³)

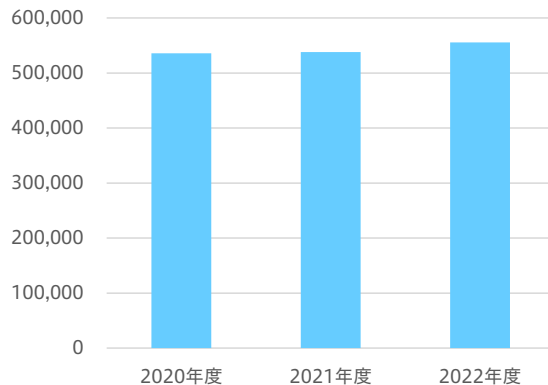
	2020 年度	2021 年度	2022 年度
m³	1,316	1,370	1,425
対前年比	18.6% 減	4.1% 増	4.0% 増



ハートライフ地域包括ケアセンター

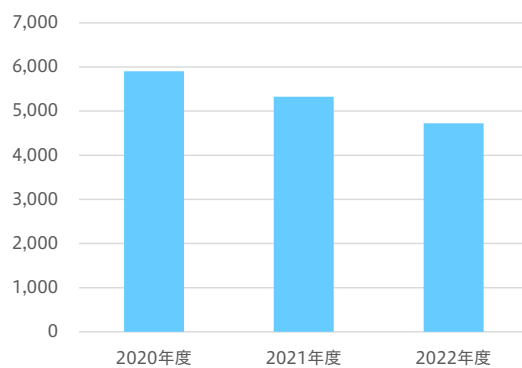
総電力量 (単位 :kwh)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
千 kwh	535,867	538,166	555,437
対前年比	7.7% 増	0.4% 増	3.2% 増



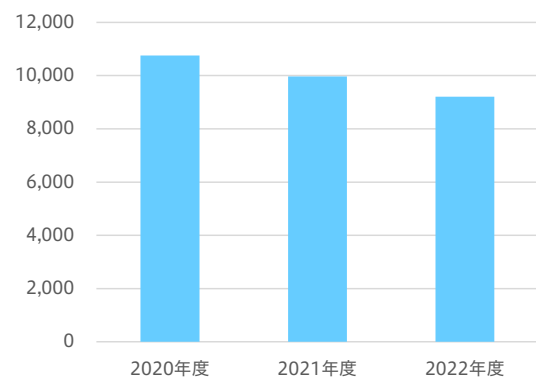
LPG 使用量 (単位 :m³)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
千 kwh	5,901	5,328	4,726
対前年比	12.7% 増	9.7% 減	11.3% 減



上水道使用量 (単位 :m³)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
千 kwh	10,751	9,967	9,210
対前年比	12.2% 増	7.3% 減	7.6% 減



法人全体エネルギー原油換算量

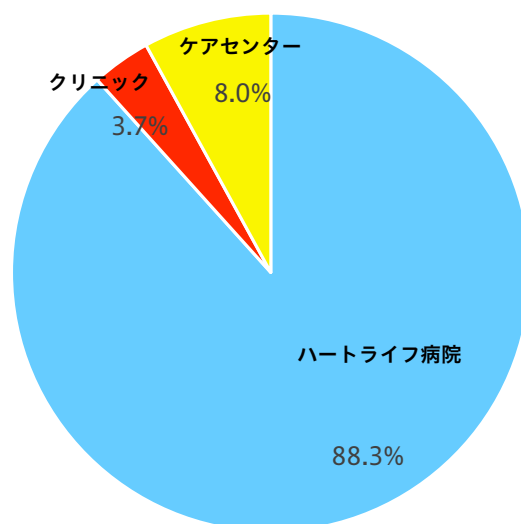
	本院		クリニック		老人ホーム	
	2021	2022	2021	2022	2021	2022
電力	1,563	1581	65	66	138	143
LPG	21	22	33	34	14	13
A重油	116	131	-	-	-	-
合計	1,700	1734	98	100	152	156

2020 年度 法人合計	2022 年度 法人合計
1,950	1990

令和 4 年度 エネルギー原油換算量 1,990KL 【前年度比（2.1% 増）】

法人各施設エネルギー使用量比率

2022年度



2022 年度（令和 4 年度）は、法人全体でエネルギー原油換算値が、対前年比 2.1%増加しました。
2023 年度（令和 5 年度）は、電気料金の値上げも実施されるので、本院・クリニック・ケアセンター共に連携して省エネに努めていきたいと思ひます。

活動実績

セミナー・講習会・勉強会への参加

名称	開催地	年月日	参加者名
第一種電気工事士法定講習	那覇市	2022 年 9 月 6 日	比屋根 斉
危険物取扱者保安講習	浦添市	2022 年 9 月 12 日	玉城一也
危険物取扱者保安講習	沖縄市	2022 年 9 月 21 日	具志堅徳明
消防設備士講習	浦添市	2022 年 10 月 12・13 日	比屋根 斉
消防設備士講習	浦添市	2022 年 10 月 12 日	比屋根 宗
消防設備士講習	浦添市	2022 年 10 月 13 日	具志堅徳明
第一種電気工事士法定講習	那覇市	2022 年 10 月 25 日	具志堅徳明
蓄電池設備整備資格者再講習	オンライン	2023 年 1 月 11 日	具志堅徳明
エネルギー管理資質向上再講習	オンライン	2023 年 2 月 10 日	具志堅徳明
ラインケア研修会	2 階講堂	2023 年 3 月 6 日	具志堅徳明
ラインケア研修会	2 階講堂	2023 年 3 月 6 日	比屋根 斉
医療ガス安全講習	那覇市	2023 年 3 月 15 日	高江洲和彦

管財課 施設係 各設備点検業務状況

4 月	本館：(エレベーター点検・ダムウェーター点検・厨房害虫防除作業・第一種圧力容器性能検査)
	ケアセンター：(受変電設備定期点検・受水槽清掃)
5 月	本館：(消防設備点検・エレベーター点検・ダムウェーター点検・簡易専用水道検査)
	クリニック：(簡易専用水道検査・受変電設備定期点検)
6 月	ケアセンター：(受水槽清掃・簡易専用水道検査・BEMS 定期点検)
	本院：(飲料水水質検査・エレベーター点検・ダムウェーター点検・害虫防除作業・東館フィルター清掃)
7 月	ケアセンター：(受変電設備点検)
	本院：(エレベーター点検・ダムウェーター点検・厨房害虫防除作業・特定施設排水水質検査)
8 月	氷蓄熱全館空調改修工事開始・本館フィルター清掃・東館非常用発電機法定点検
	クリニック：(受変電設備法定点検・)
9 月	本院：(エレベーター点検・ダムウェーター点検・第一種圧力容器性能検査・第一原水槽バキューム清掃)
	クリニック：(消防設備法定点検)
10 月	ケアセンター：(受変電設備点検・BEMS 定期点検)
	本院：(エレベーター点検・ダムウェーター点検・ばい煙濃度測定・蒸気、温水ボイラー点検整備)
11 月	(東館空調フィルター、換気扇清掃)
	クリニック：(受変電設備定期点検)
12 月	ケアセンター：(BEMS 定期点検)
	本院：(本館、東館受変電設備法定点検・院内害虫防除作業・ダムウェーター点検・エレベーター点検)
1 月	(手術室 1.2.3.5.6 室 HEPA フィルター取替)
	ケアセンター：(受変電設備定期点検)
2 月	本院：(防火・防災管理点検・ダムウェーター点検・エレベーター点検・厨房害虫防除作業)
	クリニック：(受変電設備定期点検)
3 月	本院：(エレベーター点検・ダムウェーター点検・建築設備定期検査・東館フィルター清掃)
	第一種圧力容器性能検査・クリニック：(非常用発電機年次点検)
4 月	ケアセンター：(非常用発電機年次点検・受変電設備法定点検・)
	本院：(エレベーター点検・ダムウェーター点検・本館フィルター清掃)
5 月	クリニック：(受変電設備定期点検・GHP 簡易点検)

※施設名表記の無いものはハートライフ病院

企画室

電算係

係長 宮城 克己

認定・資格

認定・資格名	認定・資格名
第二種情報処理技術者	日本商工会議所簿記検定試験 2 級
システムアドミニストレータ	Cisco certified network associate
第一級陸上特殊無線技士	Cisco certified network professional(BSCI)
デジタル第一種工事担当者	Cisco certified network professional(BCMSN)
ソフトウェア開発技術者	Microsoft certified professional(70-270)
医療情報技師	電気工事士 2 種

運営方針

1. IT への理解力と応用力を身に着け、院内の IT 環境の充実に努める
2. 院内ネットワークの有効活用
3. 電子カルテ・部門システムの理解と磨き上げ
4. スキルの向上
 - a) プログラミング、ドキュメント化技術の向上
 - b) 病院業務への理解を深め、業務効率の向上に努める

活動報告

- ・ ネットワーク障害対応
- ・ インターネットスポットのパスワード管理
- ・ 電子カルテ用ウィルスチェックソフトのライセンス更新
- ・ 電子カルテ定期サービスパック適用
- ・ RDS を利用したおきなわ津梁ネットワーク閲覧
- ・ 患者待ち時間調査結果集計
- ・ クリニカルパス大会サポート
- ・ 電子カルテバージョンアップ
- ・ 緩和ケア学会サポート
- ・ IT 推進委員会の開催（1 回／月）
- ・ 財務統計処理
- ・ 不要 IT 機器の廃棄
- ・ IT 機器の自前修理による修理費用、買換え費用の削減
- ・ 遠隔読影構築
- ・ PACS サーバーリプレース
- ・ 電子カルテ端末入替

年度総括

前年から引き続きコロナウィルス流行の波が訪れる状況でコロナ渦での勤務対応を継続してきました。また、スタッフが 1 名減ったこともあり、多忙な年であったと感じました。

実績としてはオンライン資格確認や JED システム等の安定稼働の実現、AI 問診システムの適用診療科の拡大を行っております。また、1 名が医療情報技師資格を取得しました。

2023 年度は処方箋の一回量処方への移行や電子処方箋の導入を予定しています。また、PACS サーバーリプレース、電子カルテバージョンアップの作業を継続で行っております。今後も更なるスキルアップと効率のよい対応・作業を心がけて業務を遂行していきたいと考えております。

広報係

係長 知念 政治

活動目的

広報専任担当者 2 名で、病院・クリニック・地域包括ケアセンター・保育園の各種広報活動を行っています。

中心業務は各施設の現状や PR ポイント、新規業務などをホームページや広報誌、マスメディア等を通じ内外に発信する事ですが、その活動に関わる情報の収集から取材・撮影を行い、広報誌や公式サイト、デジタルサイネージコンテンツなどの作成を行ったり、報道機関向け資料の作成なども行います。また、定期的に開催される「かりゆし会広報委員会」事務局を運営し、施設内における掲示物などに関する規定を作成・管理を行ったり、全体の広報方針や広告関連予算を審議し理事会への提案も行います。毎年度の年報作成についても「かりゆし会年報作成委員会」事務局を運営し作成業務にあたっております。また、医学生と研修医を対象とした広報誌「LIFE」を作成し、県内外の医学生・研修医に医療職の魅力を発信しています。

認定・資格

認定・資格名	人数
システムアドミニストレータ	1
サーティファイ web クリエイター能力検定試験 上級	1
サーティファイ Flash クリエイター能力認定試験 上級	1

認定・資格名	人数
ユニバーサルデザインコーディネーター	1
ウェブ解析士	1

主な報道・取材対応

区分	内容	掲載媒体	年月日
取材対応	「耐えられない」医療現場を去る人 戻る人の思い	RBC NEWS Link	2022 年 8 月 15 日
取材依頼・対応	第 1 回おきなわ子どもメディカルラリー	RBC NEWS Link	2023 年 2 月 23 日

事務局運営

- ・ かりゆし会広報委員会
- ・ かりゆし会年報作成委員会
- ・ 広報誌 LIFE 製作委員会

活動実績

名称	開催地	年月日	参加者
第1回おきなわ子どもメディカルラリー運営サポート	当院	2023年2月23日	知念政治

セミナー・勉強会などへの参加

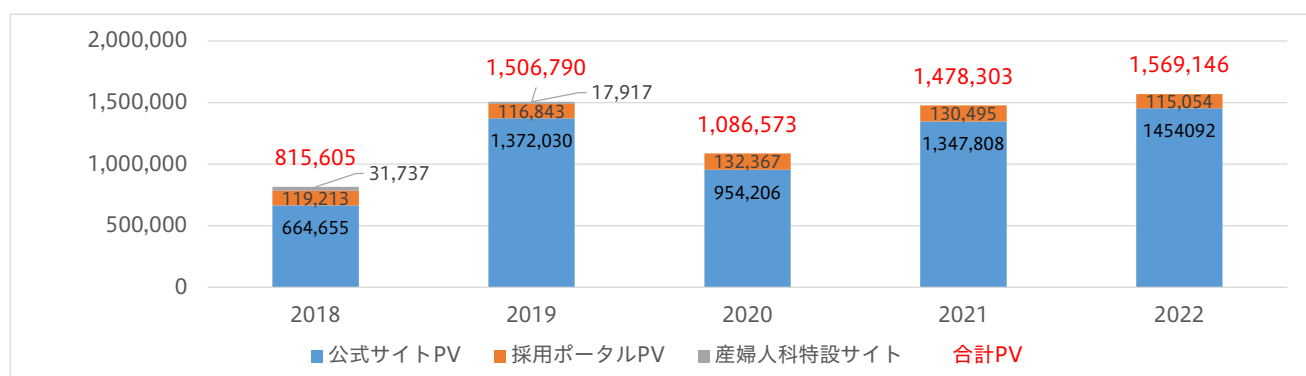
名称	開催地	年月日	参加者
第4回初学者・医療従事者向け研修 サイバーセキュリティは難しい？ ～自分たちでできる対策と組織を守るための意識～	オンライン	2023年3月3日	仲田尚正
サイバーセキュリティコンサルタントに学ぶ WEB サイトのセキュリティ問題の現状と対策方法	オンライン	2023年3月22日	知念政治

公式サイト統計

ページ閲覧数（PV）推移

※ 産婦人科特設サイトは 2017 年 9 月 1 日より公開しました

※ 2019 年 12 月 26 日に公式サイトリニューアルを実施し、産婦人科特設サイトを閉鎖しました



診療情報管理室

診療情報管理室課長代行 新垣 淳

職員数

総数

10 名

職種別

診療情報管理士 9 名（病歴担当 6 名、がん登録担当 3 名）

一般事務 1 名（病歴担当 1 名）

認定・資格

認定・資格名	人数
診療情報管理士	9

事業計画・評価

項 目	概 要	達成率	評価
【業務（収入）計画】 業務全般に対する取組み の内容及び、展望につい て	●適切な DPC データの作成 ・「部位不明・詳細不明コード」の使用割合 10%未満の維持（目標 3%未満） ・DPC データの様式間の記載矛盾のあるデータの件数が全体の 1%未満の維持 ・様式 1 の未コード化傷病名である傷病名の割合の 2%未満の維持	100%	3 項目の目標値をクリアすることが出来た
	●DPC の機能評価係数Ⅱアップに向けて ・①保険診療指数、②効率性指数、③複雑性指数、④カバー率指数、⑤救急医療指数、⑥地域医療指数 の各指数アップへ向けてデータの分析力を学ぶ ・副傷病名漏れへの対策（目標 20%）	-	2021 年度に比べ全体的に下がった。③複雑性係数の下げ率が他の係数に比べ大きかった。要因分析が課題。副傷病名漏れ対策は目標を達成できた
	●分析ツールの活用の充実（MEDE-ARROWS、EVE、MedicalCode、SSIScope）	50%	コロナ禍にて分析ツールの Web 研修会等が開催されるようになったので、積極的に参加し活用の充実を図りたい
	●病院指標の作成と公開他	100%	各診療科の部長等へ評価コメントを依頼し、期日までに自院ホームページへアップ、機能評価係数への評価が行なわれた
	●診療・研究・経営に役立つ統計・分析資料の作成	50%	各部署や医師等から依頼された資料への対応はできたが、当部署からの積極的な発信が出来ていない
	●診療録の監査（量的・質的）の実施の継続及び内容の充実を図る	50%	診療録委員会にて 2 ヶ月毎（偶数月）に診療録の監査を実施しているが、監査項目の見直し等の検討が必要
	●カルテ廃棄の作業（保管スペースの確保）	10%	死亡退院後 11 年経過した退院カルテの廃棄作業に今年度から開始出来た（※廃棄対象 H14.01-H23.12DC 分）
【要員計画】 計画を実行する為に必要 な要員	●人員は現状の 9 名から 10 名へ（病歴担当 7 名（診療情報管理士 6 名 + 契約 1 名）、がん登録担当 3 名（診療情報管理士 3 名）	100%	令和 04 年度の退院患者総数が 9,066 名、コロナ感染の影響で伸び率が悪く、令和 03 年度比で 178 名増であった。退院患者 2,000 名に 1 名の診療情報管理担当者を配置すれば、診療録管理体制加算の基準はクリアするが、課長代行が他部署と兼務の為 1 名増となった
【教育研修計画】 年間スケジュールの作成	●診療情報管理士による全職員向けの DPC 勉強会の継続	0%	コロナ禍にて勉強会の開催は出来なかった
	●DPC 夏期セミナー等への参加	100%	WEB での研修会や学会への参加は出来た
	●がん登録研修等への参加	100%	がん登録担当が参加
	●令和 4 年度「かりゆし会研究発表会」へ演題発表	100%	かりゆし会研究発表会で 2 題発表出来た
	●学会発表の継続	0%	発表出来ず

項 目	概 要	達成率	評価
【設備計画】 機器の更新・新規購入、 修繕、備品（平成 27 年 中に申請した物品も記載 して下さい）	●特に予定なし	-	-

活動実績

研修・勉強会などへの参加

名称	日時	開催地	参加者
第 404 回 日本医療・病院管理学会例会	2022 年 4 月 23 日	オンライン	真栄平久美子、我如古理咲子、大城克枝、田河美智代
日本診療情報管理士会 Web ミーティング（岡山）	2022 年 6 月 22 日	オンライン	我如古理咲子
第 5 回、第 6 回よくわかる DPC 制度セミナー 第 8 回、第 9 回ゼロから始める ARROWS 基本操作セミナー	2022 年 7 月 8 日	オンライン	真栄平久美子、大城克枝、我如古理咲子、田河美智代、新垣美帆
セルフケア研修	2022 年 7 月 14 日	オンライン	大城克枝、新垣美帆
日本診療情報管理士会 令和 4 年度 全国研修会	2022 年 7 月 23 日	オンライン	我如古理咲子
医療の質向上のためのコンソーシアム特別企画 2022	2022 年 7 月 30 日	オンライン	真栄平久美子
第 111 回 診療情報管理士生涯教育研修会	2022 年 7 月下旬	オンライン	真栄平久美子
日本診療情報管理士会 Web ミーティング（岡山）	2022 年 8 月 17 日	オンライン	我如古理咲子
令和 4 年度 第 2 回緩和ケア・在宅医療部会 研修ワーキング Web 会議	2022 年 8 月 23 日	オンライン	宮平奈美子
第 6 回 ARROWS スキルアップセミナー	2022 年 8 月 31 日	オンライン	真栄平久美子、大城克枝、我如古理咲子、田河美智代、新垣美帆
院内がん登録実務中級認定者研修 WEB	2022 年 9 月 1 日	オンライン	宮平奈美子、兼濱亜紀、仲田京子
診療録管理体制加算対応セミナー	2022 年 9 月 30 日	オンライン	真栄平久美子、我如古理咲子、大城克枝、田河美智代、新垣美帆
沖縄県がん診療連携協議会・ベンチマーク部会・がん登録ワーキンググループ（WEB）	2022 年 10 月 7 日	オンライン	宮平奈美子
令和 4 年度 第 3 回緩和ケア・在宅医療部会 研修ワーキング Web 会議	2022 年 11 月 16 日	オンライン	宮平奈美子
第 48 回日本診療情報管理学会学術大会	2022 年 11 月 30 日	オンライン	真栄平久美子
日本診療情報管理士会 九州・沖縄ブロック限定 オンライン会議	2022 年 12 月 3 日	オンライン	我如古理咲子
日本ヘルニア学会・沖縄支部主催 第 10 回沖縄ヘルニア研究会	2023 年 1 月 8 日	沖縄県医師会館	兼濱亜紀
第 113 回 診療情報管理士生涯教育研修会	2023 年 1 月 15 日	オンライン	真栄平久美子
第 16 回 北九州診療情報管理勉強会	2023 年 1 月 21 日	オンライン	我如古理咲子
ラインケア研修	2023 年 3 月 6 日	2 階講堂	宮平奈美子、真栄平久美子
R4 年度 院内がん登録研修会	2023 年 3 月 25 日	琉大医学部臨床講義棟 2 階大会議室	宮平奈美子、兼濱亜紀、仲田京子

総務課

総務課課長 富里 等

職員数

総数

13 名

職種別

一般事務	4 名	司書	1 名
保安警備	1 名	屋外植栽管理	1 名
患者送迎サービス係	6 名		

運営方針

- ・ 事務処理の迅速化を図る
- ・ 各部署に対する支援強化を図る
- ・ 職場環境の整備に努める
- ・ ワークライフバランスの推進

活動実績

院内行事運営など

年月日	名称
2022 年 4 月 1 日・3 日	入職式・新入職員オリエンテーション
2022 年 8 月 22 日	ハートライフ病院開院 33 周年記念品配布
2022 年 10 月 1 日	慶弔見舞金規定改定（第 7 条 5：選定療養費関連）
2022 年 10 月 1 日	公用車運転前後アルコールチェック運用開始
2022 年 10 月 24 日	患者満足度調査 外来部門・透析室・予防医学センター・内視鏡センター：10 月 24 日～25 日 入院部門：10 月 29 日
2023 年 1 月 4 日	院内成人式
2023 年 1 月 12 日	食堂とま利用職員向けぜんざいを提供（無料サービス）

事務部 年度総括

はじめに、ここ数年は毎年同じことを記載していますが、2022 年度も振り返りますとまた新型コロナウイルスに振り回された 1 年でした。第 7 波が長期間に渡って猛威を奮い、診療制限を行わざるを得ない状況になりました。2021 年度同様に国や県からの協力金、補助金のおかげで当期利益は黒字となりましたが、医業利益に限っては赤字となってしまいました。通常の診療・医療レベルに戻すためにも、1 日も早く新型コロナウイルス感染症が「収束」し、そして「終息」に向かうことを願っています。

今年度は、これまでにない自然災害に直面した年でもありました。5 月の大雨の影響で、病院裏手で崖崩れが発生しました。不運にも、崖崩れが発生した場所近くには、4 月から始めた 2 回線受電のための予備電力受電盤装置を設置していましたので、やむなく一時的に受電盤装置を撤去して予備電力の受電を停止しました。担当部署協力の下、崖崩れの初期対応を迅速に行いましたので、それ以外には大きな被害がなかったことがせめてもの救いです。その後、幸いにも県から土砂災害防止施設整備事業補助金の交付が決定されましたので、2023 年度中には災害場所の復旧作業および予備電力の受電を再開する予定です。

ところで、2022 年度事務部総合職は 1 名しか採用できませんでした。複数人数採用出来る枠があるにも関わらず 1 名しか採用出来なかったことには何らかの原因、要因があるかと思しますので、次年度採用に向けて分析を行いより多くの応募者が募る魅力ある病院事務部にしていきたいと考えています。

さて、2023 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが季節性インフルエンザと同様の「5 類」へ移行されることになります。そこでここ数年間中止、延期されてきましたさまざまな行事、催し物等が復活実施される予定です。しかしコロナウイルス感染症が終息した訳ではありませんので、これからも病院としては勿論の事、自主的な感染対策に留意してさまざまなイベントに対応していきたいと存じます。

また、2023 年度はコロナの補助金、助成金が大幅に減らされることになります。本来業務の医業収益を黒字化にもっていくために、これまで以上に事務部職員一同が経営状況を把握して、経営に参画していくことが必要不可欠と考えています。

今後も例年通り様々な困難を「笑顔で親切」のスローガンの下、職員一丸となって乗り切っていく所存です。

事務部長 當銘 秀之

委員会活動

医療安全管理委員会

委員会名	医療安全管理委員会	開催日	毎月第 3 金曜日
委員長名	高良 誠	構成人数	17 名
事務局・担当部署	医療安全管理室	担当者名	安村公均
活動目的	1) 医療事故防止のための安全管理体制を確立し、患者を中心にした医療の質向上をはかる。 2) インシデント事象の情報を収集し、分析から対策の確立をはかる。		
今年度の 主な活動内容	1) 医療事故防止対策の検討及び研究に関すること 2) 医療事故の原因調査に関すること 3) 事象対策に関すること 4) 事象防止のための提言に関すること 5) 事故発生防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること 6) リスクマネージャー養成に関すること		
備考			

医療ガス安全・管理委員会

委員会名	医療ガス安全・管理委員会	開催日	年 1 回 (不定期)
委員長名	島袋 泰	構成人数	25 名
事務局・担当部署	臨床工学科	担当者名	野原 剛
活動目的	医療ガス（診療に供給する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気、窒素をいう）設備の安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的とする。 1. 医療ガス設備について実施責任者に保守点検を行わせること。監督責任者は、実施責任者による業務を指導、監督する。 2. 帳簿を備え、行った保守点検業務について記録を作成し保存する。 3. 医療ガス設備に係る新設及び増設工事・部分改造・修理等に当たっては臨床各部門にその旨周知徹底を図り、使用に先立って厳正な試験・検査を行い、安全を確保する。 4. 医療施設内の各部門に医療ガスにかかわる知識を普及し、啓発に努める。 5. その他医療ガスに関わる事項。		
今年度の 主な活動内容	1. 医療ガス設備保守点検結果報告 2. 要改善箇所の改善・修復		
備考			

医療事故対策委員会

委員会名	医療事故対策委員会	開催日	適宜
委員長名	秋元芳典	構成人数	11 名
事務局・担当部署	医療安全管理室	担当者名	安村公均
活動目的	病院で発生した医療事故、訴訟問題への迅速な対応を行う。		
今年度の 主な活動内容	1) 医療事故発生の事実及び経過の確認に関すること 2) 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること 3) 医療事故発生に伴う対応策に関すること 4) 訴訟等の対応策に関すること		
備考			

医療廃棄物委員会

委員会名	医療廃棄物委員会	開催日	不定期開催
委員長名	佐久川 廣	構成人数	22 人
事務局・担当部署	管財課	担当者名	宮里 毅
活動目的	・医療廃棄物の管理に関する基準を定め、医療廃棄物を適正に処理し、感染を防止する。		
今年度の 主な活動内容	・4 月の新人オリエンテーションにて、委員会活動報告と廃棄物処理の説明を行う。 ・感染性や非感染性廃棄物の廃棄不備などを写真にて記録し、関係部署へ注意喚起を行う。 ・電子マニフェスト化の運用開始。		
備考			

院内感染対策委員会

委員会名	院内感染対策委員会	開催日	毎月第3月曜日等
委員長名	普天間光彦	構成人数	14名
事務局・担当部署	感染対策管理室	担当者名	城間克也
活動目的	ハートライフ病院の感染管理のため、院内感染に関する意思決定機関として関連事項の調査・審議を行う。		
今年度の主な活動内容	1) 院内感染対策委員会の開催 月1回定例開催で年度12回の開催 2) 委員会における調査・報告内容 ICT(感染制御チーム)報告 ①サーベイランス(耐性菌/抗酸菌/インフルエンザウイルス/CD/針刺し・切創の発生報告) ②手指衛生状況(アルコール製剤使用量、手指衛生遵守率) ③耐性菌アウトブレイク監視(MRSA) ④JANISサーベイランス事業(全入院部門) ⑤COVID-19関連(院内対応と状況、職員濃厚接触者状況など) AST(抗菌薬適正使用支援チーム)報告 ①抗菌薬使用状況(総使用量、指定抗菌薬、使用届出) ②AUD(抗菌薬使用密度) ③血液培養分離 ④菌血症・届出抗菌薬モニタリングの介入・フィードバック報告 ⑤血液培養の複数セット採取率と汚染率 ⑥JANISサーベイランス事業(検査部門)		
備考			

安全衛生委員会

委員会名	安全衛生委員会	開催日	毎月第3金曜日
委員長名	佐久川 廣	構成人数	13名
事務局・担当部署	総務課	担当者名	富里 等、國吉葉子、嘉数百合
活動目的	職員の健康保持及び、健康増進を図る 職員のメンタル不調の予防 職場の安全確保・環境改善を図る		
今年度の主な活動内容	1. 2022年4月 春季職員健診実施(健診後事後措置実施 6月～) 2. 2022年4月 職場巡視(1～3部署/月) 通年 3. 2022年8月 職員新型コロナワクチン接種実施 4. 2022年9月 職員B型肝炎ワクチン接種(1回目) 5. 2022年10月 職員B型肝炎ワクチン接種(2回目) 6. 2022年10月 秋季職員健診(健診後事後措置実施 11月～) 7. 2022年11月 職員ストレスチェック実施 8. 2022年11月 セルフケア研修会(動画作成・配信)開催 9. 2022年11月 秋季健診事後措置実施 10. 2022年11月 職員インフルエンザワクチン接種 11. 2022年11月 職員新型コロナワクチン接種実施 12. 2023年2月 ゲートキーパー養成講習会開催 13. 2023年3月 ラインケア研修会(4日・6日)開催 14. 2023年3月 職員B型肝炎ワクチン接種実施		
備考			

NST 委員会

委員会名	NST 委員会	開催日	毎月第2月曜日
委員長名	宮平 工	構成人数	40名
事務局・担当部署	栄養科	担当者名	當眞結子
活動目的	1. 低栄養にある患者のアセスメントを多職種で行い適切なアドバイスをを行う 2. リンクナースの育成を行い、栄養サポートに対する質の向上を図る 3. NST活動活発化にむけてNST専門療法士の取得を目指す		
今年度の主な活動内容	1. 低栄養にある患者のアセスメントを多職種で行い適切なアドバイスを行った。年間加算取得は407件だった。 2. リンクナースの育成を行い、栄養サポートに対する質の向上を図った。症例検討会は3回実施できた。又、栄養士による勉強会も開催した。 3. NST活動活発化にむけてNST専門療法士の候補2名を選出し、NST臨地実習へ派遣した。 4. 沖縄NSTフォーラムにて症例発表を行った。		
備考			

エネルギー管理委員会

委員会名	エネルギー管理委員会	開催日	奇数月の第 2 金曜日
委員長名	西原 実	構成人数	7 名
事務局・担当部署	管財課	担当者名	宮里 毅
活動目的	・各事業所の光熱費などが適正に使用されているかを年間を通して管理する。 ・省エネ器具や補助金などを活用して、光熱費の削減に努める。		
今年度の主な活動内容	1. 全館空調機更新工事を行った 2. 契約電力を業務用Ⅱ型から業務用へ変更 3. 個別空調機更新を予算化		
備考			

栄養管理委員会

委員会名	栄養管理委員会	開催日	毎月第 3 火曜日
委員長名	宮平 工	構成人数	15 人
事務局・担当部署	栄養科	担当者名	真米城 ゆかり
活動目的	栄養管理の充実、向上とその適正な運営（栄養管理、給食に関する問題点の改善及び対策）		
今年度の主な活動内容	1. 嗜好調査の結果報告（年 4 回実施） 2. 食事変更、欠食等の時間外オーダー件数報告 3. スプーン洗浄開始に伴う取り決め事項 4. 食事形態の統一（並～ミキサー） 5. 入院時栄養指導の報告（入退院支援室での介入） 6. 温冷配膳車の部品等を破損した際の報告（修理依頼や部品調達に時間を要するので速やかな報告をするよう各病棟に周知しています） 7. 濃厚流動の入力方法		
備考			

がん対策推進委員会

委員会名	がん対策推進委員会	開催日	毎月第 3 木曜日
委員長名	西原 実	構成人数	11 名
事務局・担当部署	診療情報管理室	担当者名	兼濱 亜紀
活動目的	がん診療を行う医療機関として、県、他医療機関との連携を取りながら、より充実したがん診療の提供の推進を図る。		
今年度の主な活動内容	1. セカンドオピニオンの受け入れ、および他院への依頼 2. 緩和ケア病院への紹介 3. がん患者さんへの在宅退院支援 4. 沖縄県緩和ケア研修会の運営開催 2023 年 2 月 18 日（参加者 17 名：院内 12 名、院外 5 名） 5. がん対策推進企業アクションからの情報紙（ニュースレター vol.8 ～ 29）を冊子置き場、各部署へ配布 6. 患者向けがんの小冊子（がん治療情報）を関連診療科に配布 7. 2020 年症例の沖縄県院内がん登録集計報告書 10 冊を関係部署、および患者用として関連診療科外来へ配布 8. 沖縄県がん患者妊孕性温存療法研究促進事業について患者へ情報提供として冊子等を設置 9. 2021 年症例の全国がん登録、院内がん登録の提出（717 件） 10. 国立がん研究センター主催の院内がん登録予後調査支援事業への参加 11. 国立がん研究センター主催の院内がん登録 QI 研究への参加 12. がん対策推進企業アクションセミナー・アンケート調査への参加 13. 協議会、研修会、セミナーへの参加（Web 開催） ・沖縄県がん診療連携協議会傍聴参加 2022 年 5 月、8 月、11 月、2023 年 2 月の計 4 回（宮平・国吉・伊集・伊礼） ・緩和ケア・在宅医療部会研修ワーキンググループ参加 2022 年 8 月 11 月（宮平）2023 年 2 月（西原） ・沖縄県がん診療連携協議会がん登録ワーキンググループ参加 10 月（宮平）		
備考			

化学療法委員会

委員会名	化学療法委員会	開催日	毎月第1木曜日
委員長名	西原 実	構成人数	12名
事務局・担当部署	薬局	担当者名	大関秀和
活動目的	当院で実施するすべての化学療法の医学的、薬学的、安全性及び経済学的評価を行い、その選択、購入、配布、及び使用等に関する勧告を行う。		
今年度の主な活動内容	・ プロトコールシステムの整備・改定 新規レジメン登録件数 15 件 ・ マニュアルの整備・改定（血管外漏出のフローチャート改訂） ・ 院内勉強会の開催（年 2 回：血管外漏出時に使用されるサビーン注について、血管外漏出の対応について）院内 476 名、院外 8 名の参加があった。 ・ 安全キャビネットの定期点検（フィルター交換等のメンテナンス） ・ 閉鎖式デバイスの導入・運用 無菌調製処理量の算定（2,063 件 / 年） ・ 化学療法加算増加・がん患者指導料の算定増加への取り組み 外来腫瘍化学療法診療料1（抗悪性腫瘍剤を投与した場合）700 点：1,325 件 外来腫瘍化学療法診療料1（その他必要な管理を行った場合）400 点：366 件 ・ 免疫チェックポイント阻害薬に関する連携強化		
備考			

呼吸器ケア委員会

委員会名	呼吸器ケア委員会	開催日	毎週水曜日
委員長名	普天間 光彦	構成人数	38 名
事務局・担当部署	臨床工学科	担当者名	兼城 雅
活動目的	1) 人工呼吸器からの離脱支援：ウィニング計画の立案と実施、コンサルテーション。 2) 人工呼吸器装着患者の合併症予防のための支援。 3) 呼吸器関連デバイスの更新や運用検討。 4) 酸素療法や人工呼吸器使用に関する勉強会の定期的な開催。 5) 毎月第 2 水曜日にミーティングを行い意見交換やケアに関する情報収集を行う。		
今年度の主な活動内容	1) 毎週水曜日に行う院内ラウンド【2022 年度は年間 195 名に対してラウンド実施】 ①対象患者は人工呼吸器装着中で呼吸器から離脱を目標としている患者、もしくは離脱困難で長期間呼吸器管理が必要な患者や在宅人工呼吸器に移行する可能性のある患者への介入 ②病棟看護師やリハビリスタッフからの要請で酸素療法実施中の患者のデバイス選定やコンサルテーション 2) 人工呼吸器関連のデバイス変更や更新時の機器・デバイス選定への寄与		
備考			

個人情報保護委員会

委員会名	個人情報保護委員会	開催日	年 2 回（5 月・10 月）
委員長名	仲地智俊（個人情報保護管理責任者）	構成人数	5 名
事務局・担当部署	事務部	担当者名	仲地智俊
活動目的	社会医療法人かりゆし会において、個人情報保護計画を策定し、実施・評価・改善を行い、当法人職員に対して、個人情報保護を遵守する重要性を理解させ、実際に個人情報が適切に取り扱われることを活動目的とする。		
今年度の主な活動内容	1. 2023 年 4 月 新職員オリエンテーション 新入職員オリエンテーションにて個人情報保護に関する説明 2. 委員による令和 4 年度の個人情報保護法改定のポイントに関する勉強会		
備考			

診療録管理委員会

委員会名	診療録管理委員会	開催日	毎月第 4 水曜日
委員長名	普天間 光彦	構成人数	16 名
事務局・担当部署	診療情報管理室	担当者名	新垣 淳
活動目的	診療録管理委員会は、診療録帳票の検討、記載要領及び診療録の適切で効率的な利用、保管の為に必要な事項を調査、検討するため、また、診療情報の適用の可否を審議することを目的とする。		
今年度の主な活動内容	委員会毎月 1 回定例とし、第 4 水曜日に開催することを原則とする。 1) 検査伝票、診療帳票等の新規作成、改定に関する事 2) 入院、外来診療録の整備と質的向上の為に諸条件に関する事 3) 診療に関する諸様式の整備改定に関する事 4) 診療情報管理室の効率的な管理運営に関する事 5) 診療録管理に関する事 6) 診療情報の提供に関する事 7) その他		
備考			

卒後臨床研修管理委員会

委員会名	卒後臨床研修管理委員会	開催日	年 2 回 (6 月・3 月)
委員長名	佐久川 廣	構成人数	50 名
事務局・担当部署	臨床研修センター	担当者名	古謝 穂乃佳
活動目的	本委員会は、当院研修プログラムの管理及び研修計画の円滑な実施や研修管理委員会に関する事項について連携し、より具体的な業務を行う。また、卒後臨床研修管理委員会の運営に関し必要な事項を審議するため、卒後臨床研修委員会運営協議会を設置している。		
今年度の主な活動内容	1. 2022 年度採用初期研修医第 19 期生 (8 名) の紹介 2. 2022 年度スケジュールの確認 3. 2021 年度採用初期研修医第 18 期生 (7 名) の修了判定 (院内委員:現地開催、院外委員:書面会議) 4. 研修医からの意見・要望等の取り入れ・検討		
備考			

大規模修繕委員会

委員会名	大規模修繕委員会	開催日	不定期開催
委員長名	佐久川 廣	構成人数	8 名
事務局・担当部署	管財課	担当者名	宮里 毅
活動目的	・病院機能維持のため、大規模改修工事の中長期計画を策定し、計画的に修繕計画を実施する。 ・2022 年度の予算 :6,290 万円を理事会承認を得る。		
今年度の主な活動内容	1. 2 回線受電設備応急処置工事を完了 2. 土砂崩れのボーリング調査 3. 土砂崩れの擁壁測量設計業務完了 4. 非常用発電機の補助金交付決定		
備考			

地域医療支援病院運営委員会

委員会名	地域医療支援病院運営委員会	開催日	年 1 回 (8 月)
委員長名	佐久川 廣	構成人数	20 名
事務局・担当部署	地域医療連携室	担当者名	金城司・新垣りか
活動目的	ハートライフ病院が地域などからの要請に適切に対応し、地域における医療確保に必要な支援を行うために、必要な事項を審議する目的で地域医療支援病院運営委員会を設置する。		
今年度の主な活動内容	コロナウィルス感染状況を鑑みて開催していません。		
備考	年度に 1 回以上委員会を開催する。		

治験審査委員会

委員会名	治験審査委員会	開催日	毎月第2火曜日
委員長名	嘉川春生	構成人数	11名
事務局・担当部署	治験管理センター	担当者名	田中健嗣
活動目的	治験を行う為に必要な第3者機関(院長の諮問機関)として、「GCP、臨床研究法」に従って、すべての被験者の人権の保護、安全の保持および福祉の向上を図ることを目的とする。治験を開始する前から終了後に至るまで、その責務は継続するものである。		
今年度の主な活動内容	稼働治験数:3件		
備考			

薬事審議委員会

委員会名	薬事審議委員会	開催日	5・8・2月 第3金曜日
委員長名	普天間 光彦	構成人数	12名
事務局・担当部署	薬局	担当者名	田中健嗣
活動目的	毎年、多くの医薬品が開発され、新たに薬価収載されている。この数多くの市販される医薬品の中から、患者個々の病態や経済性に考慮した医薬品を選定することは、薬物療法を適正に行うにあたって重要な事である。また、同種・同効の医薬品ならびに後発医薬品が多く薬価収載されており、これらの医薬品を無秩序に購入し使用することは、医学・薬学・経済面から見ても合理的であるとはいえない。さらに新規購入医薬品が増えることで、使用されなくなった既存の薬剤の整理を行わない限り、採用医薬品は増加し過剰在庫による経済的負担と、医薬品を管理する人的、スペース的負担を増加させる。従って薬物療法の適正化と、医薬品管理業務における、医薬品の流通を円滑に行う為に、薬事審議委員会を設置する。		
今年度の主な活動内容	委員会の役割 ◎ 新規採用医薬品の採用 ◎ 後発医薬品の採用方法 ◎ 既採用医薬品の再評価の必要性 ◎ 陳旧化した医薬品の取り扱い ◎ 同種・同効薬の再評価 ◎ 院内製剤の採否の決定 ◎ 医薬品の適正な使用方法の協議 ◎ 医薬品の副作用及び感染症の協議 ◎ 在庫医薬品の適切な管理と運用 ◎ 病院医薬品集・医薬品情報等について ◎ 臨床試用医薬品の採否の決定 その他の審議事項 ◎ 構成委員の改訂 ◎ CoVid19 対応薬剤の採用 ◎ CoVid19 対応ワクチンの採用 ◎ 供給不安定薬剤の供給体制の検討・対応 2022年度 審議実績 ◎ 新規採用: 20種・27規格 ◎ 採用切り替え: 7種・8規格 ◎ 後発への切り替え: 18種・25規格		
備考			

輸血療法委員会

委員会名	輸血療法委員会	開催日	奇数月第 1 金曜日
委員長名	比嘉 宇朗	構成人数	8 名
事務局・担当部署	臨床検査科	担当者名	蔵下 恒
活動目的	輸血療法の安全な実施及び血液製剤の適正使用を図ることを目的し、輸血療法に係る全般を議題、検討内容とする。		
今年度の主な活動内容	- 血液製剤使用状況の確認：製剤毎、医師毎の使用状況の集計を行い、大量使用症例は内容の検討を行いました。 - 廃棄血の発生状況を検討し対策をおこないました。 ※廃棄血液金額：2021 年度（536,864 円）⇒ 2021 年度（491,574 円）で減少している。 - 輸血管理料－Ⅱ（110 点）の申請を行いました。 ※血液製剤（アルブミン製剤を含む）の使用患者に月 1 回を限度として算定される。 - 輸血適正加算－Ⅱ（60 点）はアルブミン製剤の使用量が基準値に満たず、申請できませんでした。 - 沖縄県合同輸血療法委員会への参加。 ※他院の資料を参考に当院との比較検討も行った。 2022 年、輸血関連インシデントの発生状況と内容の検討を実施した。		
備考	2022 年度：輸血管理料－Ⅱ加算は申請可能です。 輸血適正加算－Ⅱは、FFP・アルブミンの使用量により加算申請出来ませんでした。 - 廃棄血金額を 50 万円以下に抑えることを年度目標としています。（今年度は達成）		

臨床検査適正委員会

委員会名	臨床検査適正委員会	開催日	奇数月第 1 水曜日
委員長名	宮城 敬	構成人数	6 名
事務局・担当部署	臨床検査科	担当者名	斎藤辰好
活動目的	臨床検査は診療の補助として行われるもので、疾病の診断・治療・予後を判断するための重要な情報を提供するものである。 質の高いデータを迅速に提供できるよう努力する事が大切である。 上記をサポートする事を目的とする。		
今年度の主な活動内容	委員会は基本年 6 回開催する。また必要に応じ臨時に開催する - 臨床検査が関わる業務の範囲の検討 - 検査精度管理、機器選定ならびに導入計画 - 検査項目や、正常値の検討 - 新規検査の導入や検査中止の検討 - その他		
備考			

倫理委員会

委員会名	倫理委員会	開催日	不定期
委員長名	秋元 芳典	構成人数	10 名
事務局・担当部署	薬局	担当者名	田中健嗣
活動目的	社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院（以下、「病院」という。）の職員が行う医療行為および医学研究（以下、「医療行為等」という。）において、「ヘルシンキ宣言」（2000 年エジンバラ修正、2002 年ワシントン総会で注釈追加）を尊重し、国内の倫理指針の趣旨にそって、倫理的配慮が図られているかどうかを審議することを目的とする。		
今年度の主な活動内容	- 医療にかかる法律の順守に関する事項 - 患者の権利に関する事項 - 医療行為等をめぐる生命倫理に関する事項 - 臓器移植および新治療法の採用に関する事項 - その他、病院長または委員長が必要と認めた事項 議題数：20 件		
備考	新法に則った、倫理委員会の体制作りに取り組んでおります。		

DPC 委員会

委員会名	DPC 委員会	開催日	毎月第 3 金曜日
委員長名	宮平 工	構成人数	15 名
事務局・担当部署	診療情報管理室	担当者名	新垣 淳
活動目的	DPC 委員会は、DPC 対象病院として DPC 業務の適正な運用を図るために審議検討をすることを目的とする。		
今年度の主な活動内容	1) 適切なコーディングを行う体制に関すること。 2) 診断及び治療方法の適正化標準に関すること。 3) 院内で標準的な診断及び治療方法の周知徹底に関すること。 4) その他 DPC 業務に係る課題に関すること。		
備考			

緩和ケア委員会

委員会名	緩和ケア委員会	開催日	毎週第 4 月曜日
委員長名	花城直次	構成人数	32 名
事務局・担当部署	看護部	担当者名	宮城幸江、高宮里沙
活動目的	がん患者及び家族の治療や症状、生活や精神的不安など感じている苦痛に対して、医師、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、MSW、臨床心理師がチームとして協働し、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルの面からケアを提案し、苦痛の軽減や療養の場所、生活を見据えて支援していく。		
今年度の主な活動内容	緩和ケアチームラウンド件数 71 人、183 回 / 年。身体症状への介入依頼が 8 割を超えていた。 転帰として、自宅退院 25 件、ホスピス 9 件、在宅サービス利用 6 件、死亡退院 18 件であった。 1. 緩和ケア診療加算取得とマニュアルの見直し 2. 緩和ケア診療加算 (390 点) 年間目標 50 件→10 件 / 年 個別栄養食事管理加算 (70 点) 3 件 / 年 3. 多職種の見点で症例検討を実施し、他職種や他病棟におけるケアや知識を共有する。 実施件数 5 件 4. 看護師 1 年目へ緩和ケア研修の実施、COVID-19 罹患者へ緩和ケアに関する症例検討会の実施 5. がん性疼痛緩和指導管理料 (200 点) 目標件数 200 件 / 年→295 件		
備考			

診療報酬対策委員会

委員会名	診療報酬対策委員会	開催日	毎月第 4 月曜日
委員長名	佐久川 廣	構成人数	8 名
事務局・担当部署	医事課	担当者名	伊集 準
活動目的	当院目標査定率 0.14% の達成に努める		
今年度の主な活動内容	1) 保険診療に関する事 2) 請求漏れ、査定減の対策に関する事 3) 保険請求事務等の改善に関する事 4) レセプト作成、点検に関する事		
備考			

IT 推進委員会

委員会名	IT 推進委員会	開催日	毎月第 3 水曜日
委員長名	普天間 光彦	構成人数	16 名
事務局・担当部署	企画室電算係	担当者名	宮城克己
活動目的	電子カルテ・オーダリングシステムをはじめとした院内情報システム (機器) の導入から開発、運営・保守に関する全般の検討を行い、院内 IT 環境の充足を図る。		
今年度の主な活動内容	1. 医事・オーダリング・電子カルテなどの医業システムの導入・運用方法の検討と管理 2. グループウェアなどの情報サービス・業務システムの検討 3. 上記 1 と 2 に係るネットワークの検討 4. IT 導入に伴うセキュリティ管理 5. IT 機器購入の検討 6. 各部門システムの導入、運用検討、保守等の管理 7. 職員の IT 知識の向上 8. 電子カルテバージョンアップ検討～実施		
備考			

クリニカルパス委員会

委員会名	クリニカルパス委員会	開催日	毎月第 3 月曜日
委員長名	宮平 工	構成人数	36 名
事務局・担当部署	経営企画室電算係	担当者名	高橋慎二
活動目的	クリニカルパスを充実することで、医療の質の向上を図る 患者中心の安全な医療を提供する クリニカルパスを充実させ、業務の効率化を図るとともに、職員の業務負担軽減を図る 在院日数の短縮を図るとともに、コスト削減を担う パス大会の円滑な運用を図る		
今年度の 主な活動内容	パスの作成・運用、勉強会の開催、パス大会の開催、その他		
備考			

救急総合診療部委員会

委員会名	救急総合診療部委員会	開催日	毎月第 2 金曜日
委員長名	三戸正人	構成人数	21 名
事務局・担当部署	救急外来 ER-Aide	担当者名	森元 一晟
活動目的	救急総合診療部の体制（人材確保を含む）を整える。 問題点の検討や改善など要望を早めに対応できるような正式なルートをつくる。		
今年度の 主な活動内容	1. 救急搬送患者、時間外救急患者の受入れに關しての流れや問題点、救急総合診療部に關するすべての職種のワークライフバランスを考えながら、話し合いをもち、解決策を考え、活動目的を達成する。 2. 救急総合診療部小委員会にて初期問題を検討する。重要事項に關しては、救急総合診療部委員会で再検討し、救急総合診療部委員会としての承認を得る。その後議事録は、翌月の運営委員会で報告する。		
備考	救急総合診療部小委員会は、月に1回以上（第1金曜日）、救急総合診療部委員会は毎月（第2金曜日）1回開催とする。		

投書対策委員会・患者満足度向上委員会

委員会名	投書対策委員会・患者満足度向上委員会	開催日	毎月第 3 金曜日
委員長名	佐久川 廣	構成人数	6 名
事務局・担当部署	事務部・総務課	担当者名	富里 等
活動目的	患者さん等からのご意見を収集し、医療サービス向上に繋げること。		
今年度の 主な活動内容	患者さん等に対する接遇とコミュニケーションの質並びに待ち時間短縮の向上に努めた。 患者さん等からのご意見に対応。 患者満足度調査実施。 快適な療養環境に努めた。		
備考			

透析機器安全管理委員会

委員会名	透析機器安全管理委員会	開催日	3ヶ月毎、第2月曜日
委員長名	内里 司	構成人数	5名
事務局・担当部署	臨床工学科	担当者名	内里 司
活動目的	透析機器安全管理委員会は血液透析業務における医療設備、医療機器に関連した安全管理及び品質管理を目的とし設置する。		
今年度の主な活動内容	(1) 透析教育修練カリキュラムの整備に関する事。 (2) 透析液管理マニュアル完備に関する事。 (3) 透析機器及び水処理装置の保守・点検等の管理計画の策定に関する事。 (4) 管理記録、測定記録、報告書の作成並びに保管、管理に関する事。 (5) 職員への適正使用のための研修実施に関する事。 (6) 関連医療情報の安全使用のために必要となる情報の収集、その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施に関する事。 (7) その他、透析液に関する事。		
備考	透析機器安全管理委員会会議は3ヶ月毎に1度実施する。有事の際は臨時会議を実施する。		

広報委員会

委員会名	広報委員会	開催日	5月、8月、11月、2月の第2水曜日
委員長名	渡慶次 学	構成人数	7名
事務局・担当部署	企画室広報係	担当者名	知念政治
活動目的	1) 各施設の現状、新規業務などをホームページや広報誌、新聞等を通じて院外にPRする。 2) 各施設の情報を収集・審議し、広報方針を決定する。 3) 広報・広告関連予算を審議し、理事会へ提案する。 4) 各施設における掲示物などに関して、規定を作成する。		
今年度の主な活動内容	広報係より事業に関する広報・広告活動を提起し多職種で検討を行う。職員のプライバシー保護の観点からプロフィールなどの顔写真の取り扱いについて協議を行い運用変更を行った。 広告運用の見直しを行い、広告費対前年度比 -22.4% を達成。		
備考			

年報作成委員会

委員会名	年報作成委員会	開催日	不定期
委員長名	嘉川春生	構成人数	15名
事務局・担当部署	企画室広報係	担当者名	仲田尚正
活動目的	かりゆし会年報の企画・データ収集・作成およびそれらのデータ保全。		
今年度の主な活動内容	1. 2021年度かりゆし会年報の企画およびデータ収集、編集、製本(全310ページ)。 2. 科別実績報告をオンデマンド配信 3. 2022年度年報の企画		
備考			

手術室運営委員会

委員会名	手術室運営委員会	開催日	不定期
委員長名	島袋泰	構成人数	33 名
事務局・担当部署	手術室	担当者名	東恩納小百合
活動目的	手術を安全に、確実に遂行していくためには手術室の円滑な運営が大切であり、病院の管理体制職員・設備などをふまえ、効率よく管理運営される事を目的とする。 手術スケジュールの調整に関する事、安全管理・感染管理に関する事、設備に関する事、器機の保守点検、新規購入等について協議し、その時々の問題解決機関となる。 議事録は別ファイル「手術室運営会議録」に保管する。		
今年度の主な活動内容	2022 年度は新型コロナウイルス感染症による手術制限の影響を受け活動実績はありません。		
備考			

台風対策委員会

委員会名	台風対策委員会	開催日	必要時（原則 13 時開催）
委員長名	西原 実	構成人数	16 名（医局・看護部・医療技術部・事務部）
事務局・担当部署	事務部 総務課	担当者名	吉川 忍・富里 等
活動目的	1. コンディション発令（台風対策）の有無、病院診療及び、職員出勤の有無などを検討し決定する。 2. コンディション解除の日時を検討し、病院診療時間および職員の出勤時間などを決定する。		
今年度の主な活動内容	・ 台風 11 号接近に伴う対策会議開催		
備考			

ICU・HCU 合同運営委員会

委員会名	ICU・HCU 合同運営委員会	開催日	不定期
委員長名	島袋 泰	構成人数	21 名
事務局・担当部署	ICU	担当者名	内間幸人
活動目的	診療科間、多職種の連携を密にし、より効率的な ICU 運営、HCU 運営を目指す。 重症患者（救急・術後・外傷）診療の質の向上に向けた教育と業務の効率化を図る。		
今年度の主な活動内容	・ HCU の入室基準についての検討 ・ ICU と HCU の面会時間についての検討 ・ 必要度の状況確認		
備考			

図書委員会

委員会名	図書委員会	開催日	年 2 回（5 月・10 月）
委員長名	秋元 芳典	構成人数	5 名
事務局・担当部署	総務課・図書係	担当者名	宮城映子
活動目的	ハートライフ病院図書室の適正な管理運営を図るため、必要な事項等を審議検討することを目的とする。		
今年度の主な活動内容	・各部署購入図書・雑誌検討 ・データベース利用検討 ・廃棄資料検討 ・文献複写依頼 ・蔵書点検 ・所蔵目録作成 ・オンラインセミナー告知（「Up To Date」等） ・電子ジャーナルサービス「医書 j p. オールアクセス」導入 ・定期購読雑誌 30 タイトル購読中止：「医書 j p. オールアクセス」導入のため ・外来待合室雑誌 8 タイトル購読中止：コロナ禍のため ・看護部雑誌、図書室管理へ移行		
備考			

人事検討委員会

委員会名	人事検討委員会	開催日	毎月第2金曜日
委員長名	佐久川 廣	構成人数	6名
事務局・担当部署	法人事務局 人事課	担当者名	比嘉康文
活動目的	1. 医療の質、向上に寄与するための人材確保 2. 各部門の現状把握・分析をし、適正人員及び適正人件費を検討し、経営に寄与する。 3. 職員の採用（増員・補充・異動・その他）は人事検討委員会を通して検討する。承認後は理事会調整会議にて再審議し、増員等新規に関しては理事会の承認を得る。 4. 昇進・昇格人事を検討し、理事会へ提案し承認を得る。 5. 業務委託の検討		
今年度の主な活動内容	2022（令和4）年度の人事検討委員会開催数12回。承認された事案は理事会調整会議及び理事会で審議され決定される。主な審議内容は、①昇進人事②業務拡張に伴う増員③退職・産休に伴う補充④障がい者雇用⑤給与表・資格手当見直し⑥その他処遇改善手当の見直しなどがある。 2022年度は、かりゆし会全体で161名を採用した。（ハートライフ病院130名、ハートライフクリニック9名、地域包括ケアセンター17名、保育事業4名、附随附帯業務1名） <主な定数増> 看護部：看護師（透析室）増員3名 事務部：社会福祉士増員1名 看護部：看護師派遣採用10名 薬剤師：派遣採用1名 栄養科：調理補助派遣採用3名 臨床工学科：臨床工学技師増員1名 人事課：リクルート専任増員1名 クリニック：看護師正職枠増1名 クリニック：クラーク増員1名 ケアセンター：看護師増員1.5名 ケアセンター：理学療法士増員1名		
備考			

教育・研修管理委員会

委員会名	教育・研修管理委員会	開催日	不定期
委員長名	釜野 武志	構成人数	12名
事務局・担当部署	看護部 / 事務部	担当者名	比嘉康文
活動目的	医療・看護・医療技術、組織管理・運営、患者接遇、医療連携（ネットワーク）、IT等に関する教育・研修を充実させ、人材の育成と医療レベルの標準化、向上に寄与する。 全職員対象及び委員会・部門別の教育、研修を一括管理する。		
今年度の主な活動内容	1. 全職員対象の講演会、研修会実施の確認 2. 各部門の学生実習受入状況の確認 3. 医療安全・感染対策などの研修状況の確認		
備考			

診療材料検討委員会

委員会名	診療材料検討委員会	開催日	不定期
委員長名	西原 実	構成人数	18 名
事務局・担当部署	管財課用度係	担当者名	諸見里和也
活動目的	①診療材料及び、医療消耗品に係る方針に関する事 ②診療材料の高額案件や、纏め買い等で高額となる申請に関する事 ③購買管理・在庫管理・使用管理に関する事 ④発注事務等の改善に関する事 ⑤診療材料に関する職員教育及び啓蒙に関する事 ⑥新規治療に関わる医療材料の審議に関する事 ⑦全各号に定めるものの他、理事長が必要と認める事項		
今年度の 主な活動内容	審議採用案件 1. 透析回路変更 2. UT フィルター生産終了による後継品へ変更 3. エシエロンカートリッジ業者委託から買取へ変更 4. バイクリル 3-0 の統一 5. マイクロライン採用 6. 環境クロスからアメジストワイパーへ変更 7. 滅菌ガウン 8. ハーモニックバルクキット纏め買い 9. 間歇導尿デイスボカテーテル導入 10. 麻酔用ジャバラ、人工鼻、フィルタの採用 11. スパイラル挿管チューブの変更 12. メパッチクリア SG 採用 13. 穴あきドレープ採用変更 14. エンドカット採用 15. 滅菌ラップ採用		
備考			

ワークライフバランス委員会

委員会名	ワークライフバランス委員会	開催日	毎月第 4 木曜日
委員長名	佐久川 廣	構成人数	11 名
事務局・担当部署	事務部・総務課	担当者名	富里 等
活動目的	全職員のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進する		
今年度の 主な活動内容	1. 医師および医療従事者の負担軽減推進 2. 医師当直明け午後勤務休日の推進 3. タイムレコーダ打刻徹底周知（実労働時間の把握） 4. 職員満足度調査（2022 年 10 月実施）安全衛生委員会、人事課との共同 5. 36 協定の遵守、特別条項の遵守 6. 年次有給休暇の管理（法定 年 5 日取得） 7. 働き方改革関連への対応		
備考			

患者サポート委員会

委員会名	患者サポート委員会	開催日	毎週木曜日
委員長名	西原 実	構成人数	7 名
事務局・担当部署	医事課外来	担当者名	桑江 高
活動目的	1. 医療従事者と患者との円滑なコミュニケーションを図る 2. 患者等の不安に寄り添い、入院生活を支援する 3. 患者サポート相談窓口担当者及び各部門の担当者等が患者等からの相談を円滑に実施できるよう支援する		
今年度の主な活動内容	・ 不当な対応を訴える患者の対応について、医師・各師長とカンファレンスを行い、対応に困った際には医療安全管理者がスタッフへのアドバイス及び患者対応を行う。 ・ 毎週木曜日の委員会にて報告書及び投書にてあがった事案について検討・対策を行った。 ・ 2022 年度は計 44 回の委員会を実施し患者サポート案件 68 件について協議し対応・改善を図った。 ・ 医師への不審電話への対策及び職員への再発防止の周知を行った。 ・ サーマーブースでの検温対策及び面会ブースの設置（継続）。 ・ 院内駐車場の整備を行った。 ・ 外線電話が繋がりにくいとの報告を受け対策を行った。		
備考			

QI 委員会

委員会名	QI 委員会	開催日	不定期
委員長名	佐久川 廣	構成人数	11 名
事務局・担当部署	経営企画分析室	担当者名	安里 竜
活動目的	当院は 2012 年度より引き続き日本病院会主催の「QI プロジェクト 2020」に参加しております。QI (Quality Indicator) とは「医療の質の指標」を意味しています。		
今年度の主な活動内容	・ QI プロジェクト 2022 年度 41 項目の臨床指標データの収集。 ・ 本誌の「医療の質 Quality Indicator (QI)」のページでデータをご覧いただけます。		
備考			

物品購入検討委員会

委員会名	物品購入検討委員会	開催日	毎月第一金曜日
委員長名	西原 実	構成人数	13 名
事務局・担当部署	管財課	担当者名	宮里 毅
活動目的	・ 委員会の年間予算内で、現場に必要な物品を検討し優先順位をつけて必要物品を購入すること。 ・ 年度内に購入が難しい物品などは、次年度の予算で購入するように調整する。		
今年度の主な活動内容	・ 2022 年度の物品購入委員会で審議し、理事会で承認を得た案件は 50 件で、総額約 36,358 万円の医療機器などを購入した。		
備考			

災害対策委員会

委員会名	災害対策委員会	開催日	毎月第 3 金曜日
委員長名	西原 実	構成人数	18 名
事務局・担当部署	総務課	担当者名	富里 等・安里 健二
活動目的	災害発生時、来院する傷病者に対し、迅速・的確に対応し適切な災害医療を提供することを目的とする。火災発生時の初期消火・通報・避難誘導訓練の定期実施（2 回 / 年度）		
今年度の主な活動内容	2022 年 4 月 消火訓練実施（消火器の取扱い・消火用散水栓の取扱い） 2022 年 4 月 C19 災害対策本部会議と情報共有・連携 * 通年 2022 年 10 月 火災・避難訓練実施 2022 年 12 月 大規模災害対策訓練実施（机上訓練・実動訓練） 2022 年 12 月 他施設主催 災害対応 ADVANCE コース見学（災害本部に特化した訓練） 2023 年 2 月 当院主催子どもメディカルラリーへの協力		
備考			

無料健康講座委員会

委員会名	無料健康講座委員会	開催日	毎月第 3 木曜日
委員長名	西原 実	構成人数	4 名
事務局・担当部署	地域医療連携室	担当者名	金城 司
活動目的	地域に向けて医療に関する教育・啓蒙活動を行う。		
今年度の主な活動内容	1. 近隣の老健施設とコロナウィルスに関する勉強会をオンライン（ZOOM）にて行った 2. インターネット環境がない自治会などでのオンライン講座開催のため、モバイルWi-Fiを導入 3. 現地開催ができない状況をふまえ、ホームページで健康に関する知識等を学べる動画を企画・作成・準備する		
備考			

施設基準検討委員会

委員会名	施設基準検討委員会	開催日	毎月第 2 木曜日
委員長名	佐久川 廣	構成人数	10 名
事務局・担当部署	総務課 施設基準係	担当者名	佐和田 安彦
活動目的	1. 医療法で定める医療機関の職員配置、健康保険法等での規定に基づく基本診療料・特掲診療料等に対し、施設基準の提案・検討・申請を積極的に行う。 2. 多職種間の連携を図り、情報の共有・施設基準申請の促しを図っていき、医療機関の機能・設備・診療体制を定め、安全やサービス等の価値を高める。		
今年度の主な活動内容	1. 入院基本料、特掲診療料等の施設基準状況の把握及び管理 2. 新規施設基準項目の届出検討 3. 算定率向上ワーキンググループ報告内容の共有 4. 令和 4 年度診療報酬改定新施設基準の届出検討 5. 二次性骨折予防継続管理料届出（2022 年 10 月算定開始） 6. 外来腫瘍化学療法診療料 1 届出（2022 年 4 月算定開始） 7. 緊急整復固定加算及び緊急挿入加算届出（2023 年 2 月算定開始） 8. 腹腔鏡下リンパ節群郭清術届出（2023 年 1 月算定開始） 9. 重症患者初期支援充実加算届出（2023 年 4 月運用開始までの取り組み） 10. 厚労省病床機能・外来機能報告の対応		
備考			

広報誌 LIFE 制作委員会

委員会名	広報誌 LIFE 制作委員会	開催日	不定期
委員長名	奥島 憲彦	構成人数	10 名
事務局・担当部署	経営企画室広報係	担当者名	仲田尚正
活動目的	研修医および医師の採用、連携診療所等の連携強化を目的とした広報誌「LIFE」を発行する。		
今年度の主な活動内容	1. 第 6 号の企画・構成 発行：形成外科・整形外科 特集 16 ページ 700 部発行 2. 第 7 号の企画・構成 発行：産婦人科特集 12 ページ 700 部発行 3. 第 8 号の企画・構成 4. LIFE 特設ページの更新（6～7 号分）		

摂食嚥下委員会

委員会名	摂食嚥下委員会	開催日	毎月第2水曜日 毎週木曜日ラウンド
委員長名	赤澤 幸則	構成人数	31名
事務局・担当部署	リハビリテーション科	担当者名	大城 盛彦
活動目的	・入院患者の誤嚥性肺炎防止 ・摂食機能療法加算取得 ・リンクナースを通して病棟での摂食嚥下についての周知		
今年度の主な活動内容	・毎週木曜日ラウンド実施 ・ラウンドでは耳鼻科医師、言語聴覚士、看護師、栄養士、歯科衛生士、薬剤師、多職種でラウンドを行い摂食嚥下障害のある患者の問題を明らかにし、誤嚥性肺炎、窒息などのリスクを各分野からのアドバイスを基に病棟のケアに活かせる様に努めています。 ・ミーティングでは摂食機能療法加算の状況の報告や、病棟看護師の食事介助、口腔ケアなどの日々のケアなどの問題点を確認し、そこをラウンドに反映させるような関わりをし看護師の質向上にも努めています。		
備考			

褥瘡対策委員会

委員会名	褥瘡対策委員会	開催日	毎月第1火曜日
委員長名	立津 朝成	構成人数	50名
事務局・担当部署	褥瘡対策管理室	担当者名	宮平 良太
活動目的	1. 入院患者の褥瘡発生を予防する 2. 褥瘡発生（入院時に有する）患者に対して適切なケアを実施する 3. 褥瘡ケアに対する質の向上 4. スタッフへ褥瘡に関連した教育の実施 5. 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の取得		
今年度の主な活動内容	毎週火曜日：褥瘡ハイリスク患者カンファレンス 第2・4火曜日：褥瘡回診 毎週火曜日に、専従看護師と病棟専任看護師にて褥瘡ハイリスク患者のカンファレンスを行い、褥瘡予防ケア計画を立案し、病棟看護師にて実践しています。 隔週火曜日には、形成外科医師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、専任看護師、病棟専任看護師で回診を行っています。回診では、医師から看護師または患者自身へ処置の指導、理学療法士によるポジショニングなどの指導を実施し、褥瘡予防に努めています。低栄養状態にある患者を対象に、管理栄養士さらにはNSTチームと連携し栄養管理方法について検討を行っています。 また、退院後の処置や自宅での褥瘡予防などの指導を行い退院後を見据えた活動にも力を入れています。		
備考			

ポリファーマシー対策委員会

委員会名	ポリファーマシー対策委員会	開催日	2ヶ月に1回 第1金曜日
委員長名	佐藤 直行	構成人数	5名
事務局・担当部署	医事課	担当者名	仲宗根 豊
活動目的	多種類の服薬を行っている患者の処方薬剤を総合的に評価・調整する。		
今年度の主な活動内容	入院時の持参薬より、対象者を抽出。多職種によるカンファレンスを実施し、処方内容の変更や中止を行った。 薬剤総合評価調整加算（100点）+ 薬剤調整加算（150点）→ 34件 薬剤総合評価調整加算（100点）のみ→ 24件 薬剤総合評価調整管理料（250点）→ 1件 院内勉強会開催（看護師対象）		
備考			

病床利用率向上対策委員会

委員会名	病床利用率向上対策委員会	開催日	毎週火曜日
委員長名	佐久川 廣	構成人数	58 名
事務局・担当部署	医事課・入退院調整	担当者名	宮城淳・外間真紀子
活動目的	病床間及び関連部門との連絡調整を行い、病床の効率的運用について情報を共有する ・新規入院患者数 病床利用率の向上 ・DPC II 期間での退院調整 ・診療報酬加算取得可能分野の算定率向上		
今年度の 主な活動内容	1. 委員会における報告内容 ①病院全体の病床利用の推移 ②週次の診療科別実績（新規入院 病床利用） ③各病棟の DPC 入院期間 III 患者の割合 ④重症度、医療・看護必要度の推移 ⑤新型コロナウイルス感染症に関する報告 2. 活動内容 ①各部署の師長・各診療科部長・主治医間で情報共有し円滑な退院支援を行う ②紹介患者は断らない（病院全体での地域医療連携の推進及び充実） ③柔軟な病床管理（病院各部署のチームでベットコントロールを担う）		
備考			

新型コロナウイルス感染症災害対策本部会議

委員会名	新型コロナウイルス感染症災害対策本部会議	開催日	毎週金曜日
委員長名	西原 実	構成人数	24 名
事務局・担当部署	経営企画室	担当者名	比嘉 靖
活動目的	当法人の新型コロナウイルス感染症への運営方針に関する意見調整、意思決定、予算管理に関すること		
今年度の 主な活動内容	1. 法人・病院全体の運営に関わる事項 2. 下部会議から上がってきた事項の審議 3. 予算管理		
備考			

新型コロナウイルス感染症連絡会議

委員会名	新型コロナウイルス感染症連絡会議	開催日	毎週月曜・水曜・金曜
委員長名	三戸 正人	構成人数	32 名
事務局・担当部署	感染対策室	担当者名	城間 克也
活動目的	当法人の新型コロナウイルス感染症への診療方針に関する情報共有、意見調整、意思決定に関すること		
今年度の 主な活動内容	1. C19 診療に関する事項の共有 2. 班間の課題のすり合わせ		
備考			

ハートライフクリニック 2022年度 年次報告

Annual report of Heartlife Clinic 2022



理念

わたしたちは心と心をつなぐ信頼される医療をめざします

基本方針

1. 生活習慣病の自立支援
2. 小児プライマリー（初期）医療
3. 地域循環型医療（かかりつけ医との連携）
4. 生活習慣病改善の指導で健康長寿を目指す
5. 研修教育クリニック（地域の医療関係者を含めて）
6. 健全な医療経営
7. 笑顔で親切



ハートライフクリニック

年報発刊によせての挨拶



2022年度の年報を発刊するにあたりハートライフクリニックの現状を報告いたします。

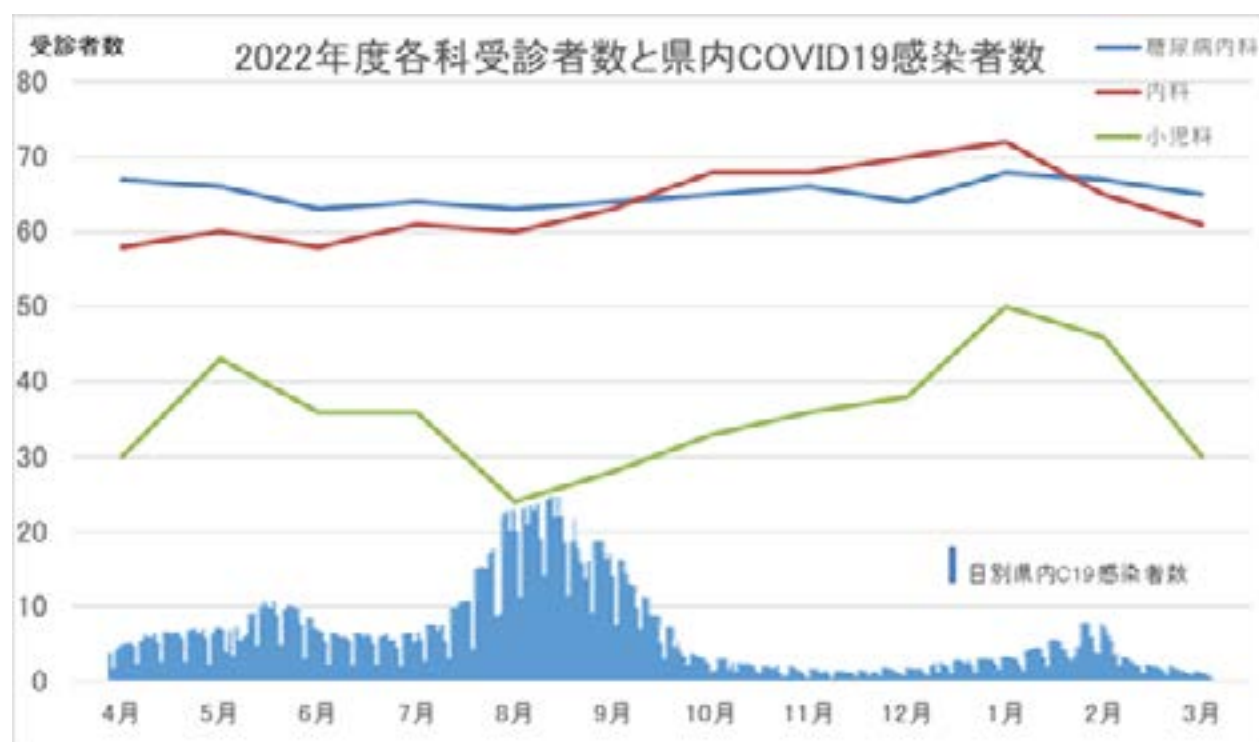
昨今の外来診療はCOVID-19感染（C19と略）の影響を考慮せずには成り立たない状況となっています。2022年度もハートライフクリニックでは前年度と同様の感染対策を継続しました。通院患者さまの多くは基礎疾患を持たれている感染に対するハイリスク者になります。その対策として玄関においてサーモグラフィーでのトリアージ、発熱や症状のある方の隔離室や車内での待機、入館前の感染症抗原検査など、ご不便をおかけしましたがクリニック内部でのクラスターの発生はなく、安全な診療を提供できました。次年度からは感染症法の分類で5類に移行しますが、ハイリスク者にとって安全なウイルスに変わったわけではありませんので、今しばらく感染対策にご協力をお願いいたします。

さて、2022年度のハートライフクリニック各診療科受診者動向を見た場合、次ページのグラフでお示したように、C19流行の影響は小児科で目立っていました。この時期に小児が沢山C19に罹患したのではなく複雑な要因が合わさって受診者数が減っていたと考えられます。小児科受診者数については9月以降、例年通りのパターンで増加しています。内科も大きなC19感染のピークがおさまった9月頃から受診者数の増加が見られました。糖尿病内科では通年でC19流行とは関係なく通院されていました。

ハートライフクリニックでは各科の医師、看護師、栄養士、検査技師、健康運動指導士がそれぞれの得意分野を活かして外来診療を実施しており、メディカルクラーク、クラーク、医事課スタッフが診療運営をサポートしています。これからも患者さまからハートライフクリニックに受診してよかったとおっしゃって頂けるような診療を提供できるように努力したいと思います。

年報ではハートライフクリニックの各部署の活動を報告いたします。地域の皆様には元気を持ち帰って頂けるようなハートライフクリニックを目指して頑張る所存です。これからも皆様のお力添えをお願い申し上げます。

社会医療法人かりゆし会ハートライフクリニック
院長 山本 壽一



クリニック概要

(2022 年 4 月 1 日現在 / データ作成 ハートライフクリニック 野村)

組織概要

施設名

社会医療法人かりゆし会 ハートライフクリニック

所在地

〒903-0101 沖縄県中頭郡西原町字掛保久 288 番地

連絡先

電話 (098) 882-0810 (代表)

FAX (098) 882-0820

ホームページ <https://www.heartlife.or.jp/clinic/>

管理者一覧

理事長 安 里 哲 好

院長 山 本 壽 一

施設概要

敷地面積及び建物概要

敷地面積 5,866.90㎡ 建築面積 2,674.97㎡ 延べ床面積 5,959.94㎡

規模構造 鉄筋コンクリート造 地上 2 階建

職員数

総数 59 名

職種別

(2022 年 4 月 1 日現在 / データ作成 人事課 玉那覇)

職種	人数	職種	人数	職種	人数
常勤医師	5	クラーク	5	管理栄養士	2
非常勤医師	14	保育士	1	理学療法士	1
看護師	12	臨床検査技師	3	一般事務	7
准看護師	1	放射線技師	1	その他	7

指導医・専門医・認定医

(2022 年 3 月 31 日時点 データ作成 企画室広報 仲田)

名称	人数
日本呼吸器学会専門医	1
日本骨粗鬆症学会認定医	1
日本循環器学会専門医	1
日本糖尿病学会研修指導医	2
日本糖尿病学会専門医	5
日本透析医学会専門医	1
日本内科学会指導医	1

名称	人数
日本内科学会総合内科専門医	4
日本内科学会認定内科医	7
日本内分泌代謝科指導医	2
日本内分泌代謝科専門医	3
日本小児科学会専門医	2

指定医療一覧

1. 保険医療機関
2. 生活保護指定医療機関
3. 被爆者一般疾病医療機関
4. 各指定難病医療機関
5. 各指定小児慢性特定疾病医療機関
6. 労災保険指定医療機関

診療体制

標榜診療科目

糖尿病内科・内科・小児科

その他、専門外来など

- 禁煙外来

受付時間（診療科により異なります）

月曜日～金曜日 午前 7:45～11:30
午後 13:00～16:30
土曜日（内科/2020年4月まで診療）
午前 7:45～11:30

診療時間（診療科により異なります）

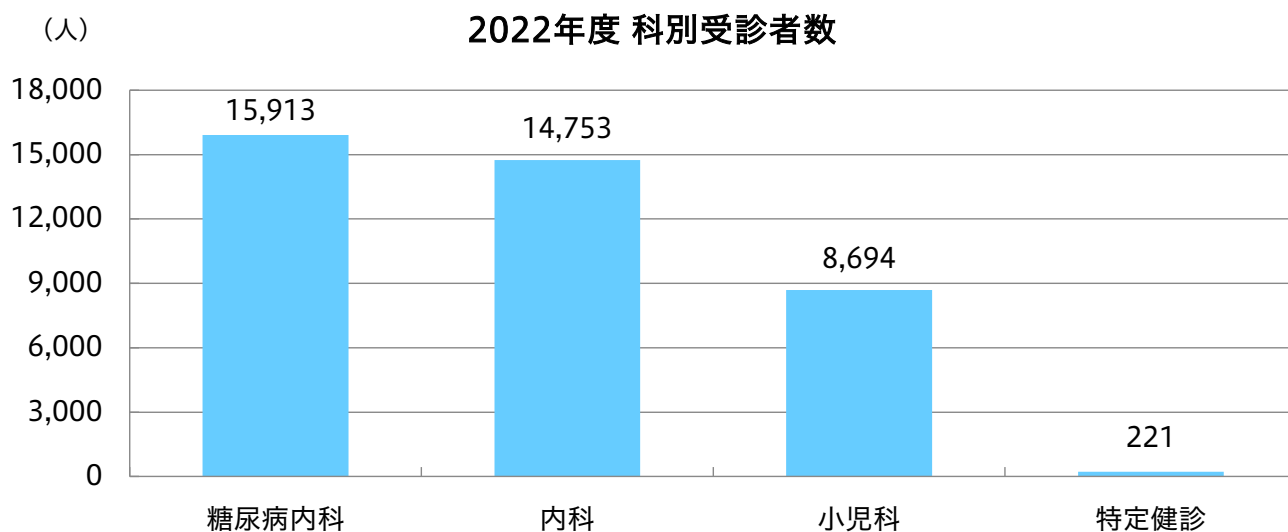
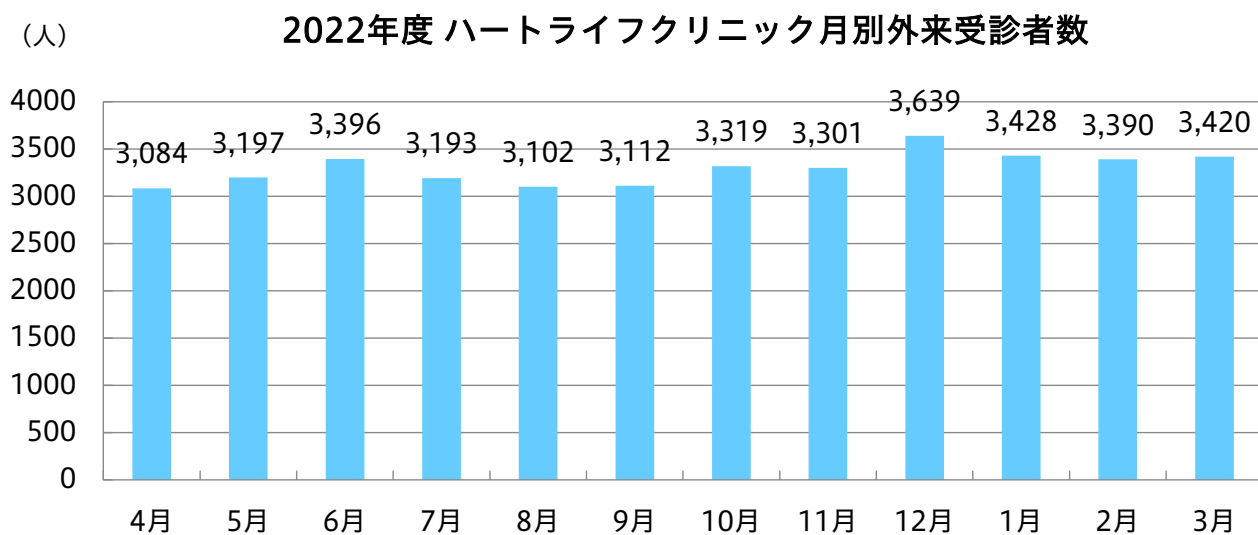
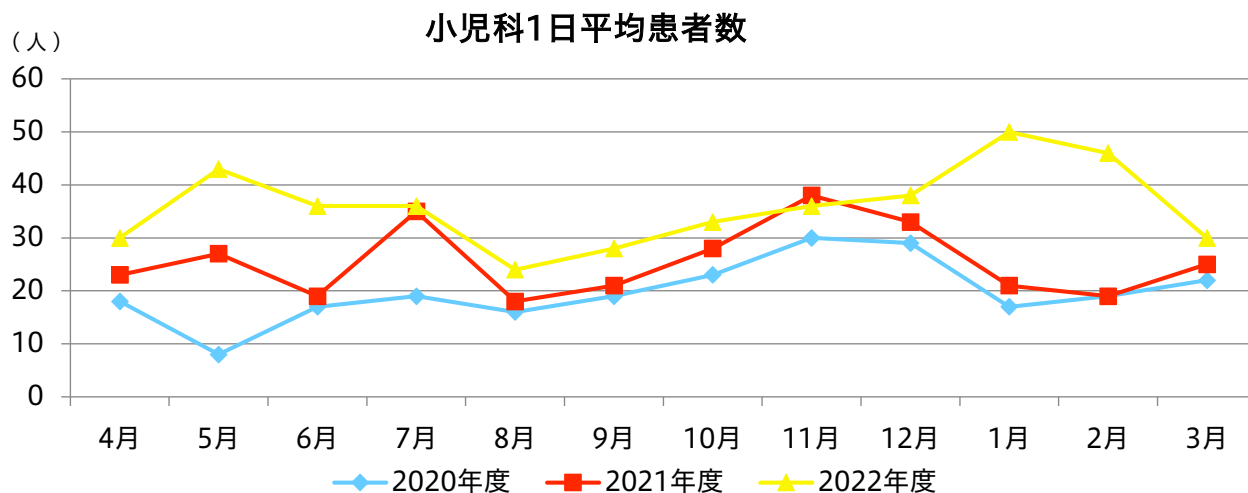
月曜日～金曜日 午前 9:00～12:00
午後 14:00～17:30
土曜日（内科/2020年4月まで診療）
午前 9:00～12:00

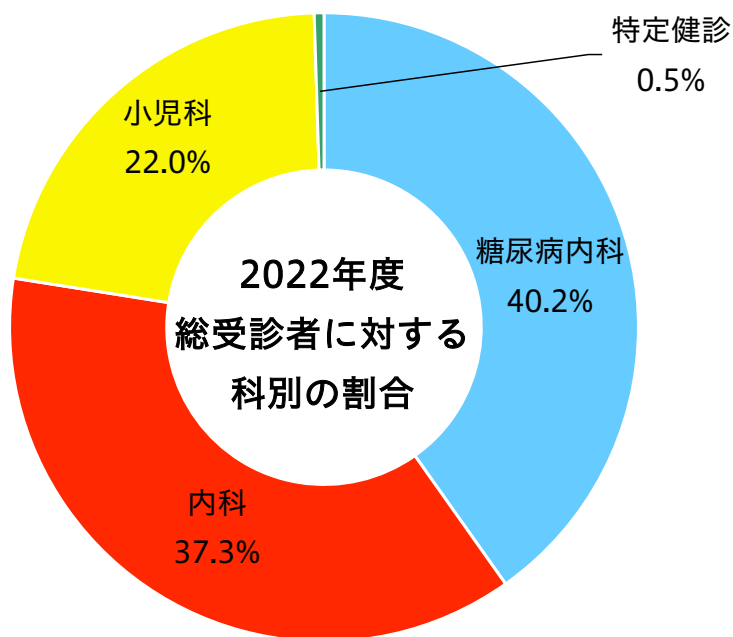
休診日

糖尿病内科/水曜日午後・土曜日・日曜日・祝祭日

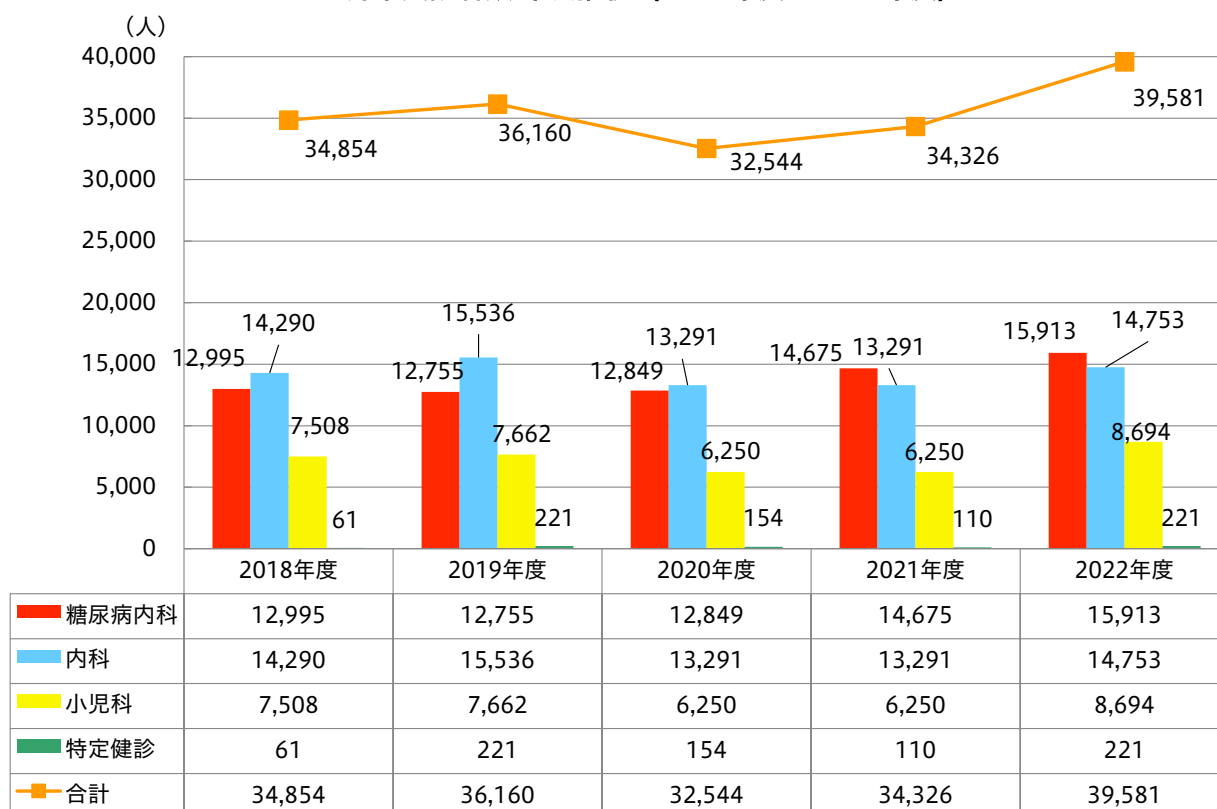
内科/土曜日・日曜日・祝祭日

小児科/月曜日午後（予防接種のみ）・水曜日午後（予防接種のみ）・土曜日・日曜日・祝祭日

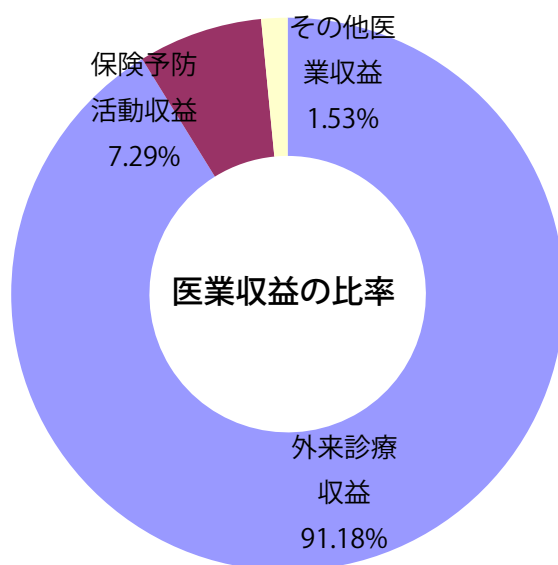




外来受診者数 年次推移 (2018年度～2022年度)



ハートライフクリニック財務情報



ハートライフクリニック 部門別業務実績

糖尿病内科

部門紹介

糖尿病内科副部長 小原 正也

ハートライフクリニック糖尿病内科は、糖尿病患者様の健康と生活の質を向上させるために、多岐にわたるサービスを提供しています。治療薬については、最新の医療技術を導入し、患者様の状態に合わせた治療を行っています。また、血糖測定方法も最新のものを導入し、患者様の血糖値を正確に測定し、治療の効果を確認しています。

具体的には糖尿病治療薬については、当科では1型糖尿病患者様へのニーズに沿ったインスリンポンプ療法として、血糖値に応じ自動でインスリン設定を調整してくれるオートモードを搭載したミニメド770G システムを導入しています。昨年はツイミ^{かんけつ}グといった新薬が発売され、SGLT2i は心不全やネフローゼ症候群に対して適応を拡大し、さらに治療の裾野を広げております。

血糖測定方法では、デクスコム G6 が間歇スキャンの保険適応を拡大してフリースタイルリブレと同等の価格で患者さんに提供できるようになりました。アラート機能があるので無自覚低血糖がある方やリブレのかざし忘れがあり blank が多い方などに好評です。

療養指導については、糖尿病の専門の資格を持つ看護師、栄養士、理学療法士、健康運動指導士が、それぞれの専門分野を生かして、糖尿病患者様の健康管理を支援しています。糖尿病患者会や交流会の開催も行っており、患者様同士の情報交換や支援の場として、また、啓蒙活動としても役立っています。

さらに、ハートライフクリニック糖尿病内科は、社会貢献活動にも力を入れています。例えば、今年一年は YouTube で各テーマに対し、各々の立場から情報発信と啓蒙活動を行う予定です。その他にも糖尿病患者会「ハッピーハート会」、1型糖尿病患者の交流会「ポパイの会」を定期的に開催しております。毎年11月14日の世界糖尿病デーに合わせて活動し、院内掲示や診療に役立つノベルティを配布し、糖尿病に関する啓蒙活動に協力しています。

また、当院の理学療法士が運営する疾病予防運動施設 Ryuew-ZA では、医師の運動処方箋の下、糖尿病の方を中心に本格的な運動プログラムを提供しています。さらに、管理栄養士プロデュースの Healthy cafe ohana では、健康的な食事の提供に力を入れ、患者様の健康維持に貢献しています。

職員数

総数 24 名

医師 7 名（常勤 2 名、非常勤 5 名）

メディカルクラーク 6 名

看護師 7 名

クラーク 2 名

管理栄養士 2 名

認定・資格

名称	人数
日本糖尿病療養指導士	6

名称	人数
沖縄県地域糖尿病療養指導士	2



研究業績

学会発表

学会名	演題	開催地	発表年月日	発表者と研究者
沖縄県栄養士会研究発表会	当クリニックにおける「持続グルコースモニタリング」を使用した栄養指導の実際	オンライン	2022年12月2日(土)	只野みね子、新垣優子
第42回食事療法学会	リブレプロを活用した栄養指導	オンライン	2023年3月4日(土)	只野みね子

活動実績

講演会

講演会	演題	開催地	発表年月日	発表者と研究者
中部地区医師会糖尿病医療ネットワーク委員会第 3 回勉強会	糖尿病と骨粗鬆症	オンライン	2023 年 1 月 26 日（水）	小原正也

講義

大学・学部	期間	教科	講師
琉球大学農学部 亜熱帯生物資源科学科	2022 年 6 月～8 月	臨床栄養学実習Ⅰ	新垣優子
琉球調理製菓専門学校	2022 年 10 月 6 日・13 日	ローカーボ	新垣優子

患者教育活動

ハッピーハート会

ハッピーハート会とは患者様と交流を持つ事と健康維持、増進を目的とした会です。

糖尿病患者様とご家族を対象に、看護師、運動療養士、管理栄養士、医師、多職種で共同した活動をしています。新型コロナウイルス感染症の影響をうけ 2019 年から 3 年間は対面のイベントを控えています。ハッピーハート会の会員様へ糖尿病学会発行の月刊誌（さかえ）を毎月配布しています。

又、糖尿病センターの待合室にブースを設けハッピーハート会の活動内容をポスターで案内しています。



月刊誌さかえ



ハッピーハート会のポスター

糖尿病月間

11月14日は「世界糖尿病デー」です。

ハートライフクリニックでは毎年、インスリンの発見者フレデリック・バンディング博士の誕生日に制定された11月14日の「世界糖尿病デー」と関連させてイベントを行っております。今年度は「あなたが作る人生100年+1 ちむどんだんな毎日を！」を標語に掲げ、11月1日～30日の期間を「糖尿病月間」とし、来院者や地域の方々に向けて糖尿病に関する啓蒙活動を行いました。前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮し、展示や体験イベントは控え、来院者へ院長からのメッセージクリアファイルの配布、院内通路に糖尿病豆知識パネルを設置しました。



糖尿病豆知識パネル

院長からの
メッセージクリアファイル

栄養の日

日本栄養士会が主催する栄養ワンダー 2022「栄養と環境」に於いて、サステナブルな管理栄養士のこわざ 100 のスライドを作成しました。

期間：2022年8月1日～7日



糖尿病教室

糖尿病教室では、看護師や理学療法士など様々な専門家の講話を通して、糖尿病のセルフケアに役立つ情報や知識を提供します。また、患者さん同士でセルフケアの工夫や苦労話を共有する場にもなり、より良いセルフケアを学ぶ機会になります。コロナウイルス感染症の影響に伴い 2022 年度は ZOOM でのオンライン講演となりました。

開催日	テーマ	講演者	参加者
2021 年 4 月 13 日	①深く知ってほしい!たんぱく質と塩 ②たらの香味中華	①医師 小原正也 ②管理栄養士 新垣・只野	38 名参加 (患者 23 名)
2021 年 6 月 8 日	①糖尿病と熱中症予防 ②涼しく室内でできる運動	①看護師 島袋・松堂・嘉手苅・玉那覇 ②リユーザ 長嶺・高原	23 名参加 (患者 9 名)
2021 年 8 月 10 日	①糖尿病の新しい治療薬について ②知って得する運動療法!〜こむら返り対策〜	①医師 山本壽一 ②リユーザ 長嶺・高原	20 名参加 (患者 10 名)
2021 年 10 月 12 日	災害時の備えについて	看護師 久高・屋我・秦 管理栄養士 新垣・只野	19 名参加 (患者 8 名)
2021 年 12 月 14 日	①糖尿病の治療薬について ②誰にも気づかれず「こっそり運動」	①薬剤師 玉城 ②リユーザ 長嶺・高原	14 名参加 (患者 8 名)
2022 年 2 月 8 日	①糖尿病に関連した検査の話 ②旬の野菜簡単クッキング	①臨床検査技師 大城 ②管理栄養士 新垣・只野	21 名参加 (患者 5 名)



糖尿病外来教室リハーサルの様子



待合室にて外来教室の案内と動画配信



糖尿病教室
ホームページ



自宅にて糖尿病外来教室の視聴が可能

内科

内科 上地 華代子

部門紹介

内科では、高血圧や脂質異常症などの生活習慣病の治療、喘息、COPD等の呼吸器疾患、特定健診、予防接種業務他、健診からの紹介患者の2次精査および様々な症状の初診患者を多く受け入れ、診療しております。

循環器内科医・呼吸器内科医は常勤しており咳や胸痛、呼吸苦等対応可能です。消化器症状には腹部エコー他、ハートライフ病院と連携し内視鏡検査も積極的に行っております。

また2022年6月より禁煙外来を再開しております。チャンピックスの供給停止の為、ニコチネルパッチにて行っており累計84回の禁煙指導を行い、前年度の1.5倍となっております。

特定健診受診患者数は年間221人で昨年の2倍と年々受診者が増えております。

2022年度も新型コロナウイルスのワクチン接種を行い、3,142名の接種を行いました。2年連続3,000人超となっております。

発熱外来にてコロナ関連検査を開始し、ハートライフ病院と協力しPCRを中心に、年間250人の検査を行うことができました。

職員数

総数 11名

医師 4名（常勤2名 非常勤2名） クラーク 2名

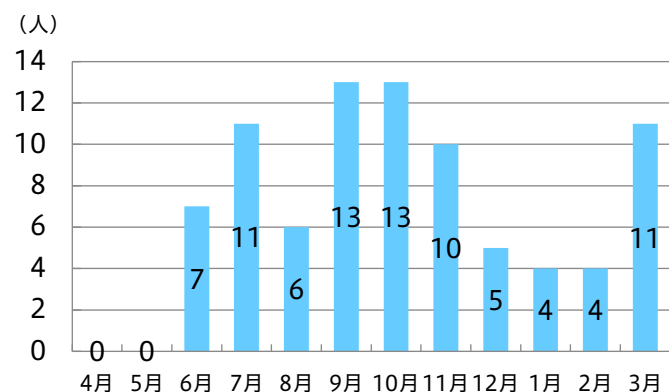
看護師 4名

業務実績

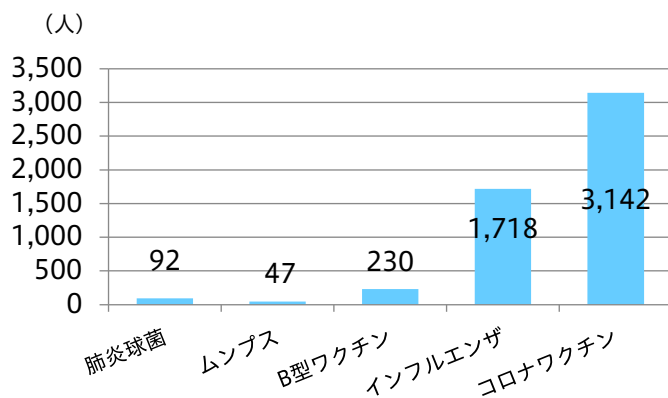
内科 月別外来受診者数



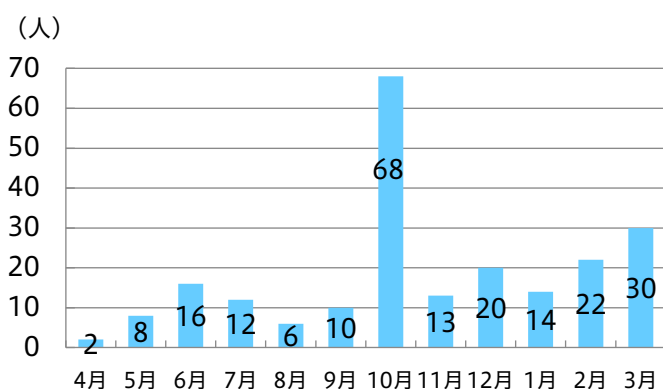
禁煙外来受診者数



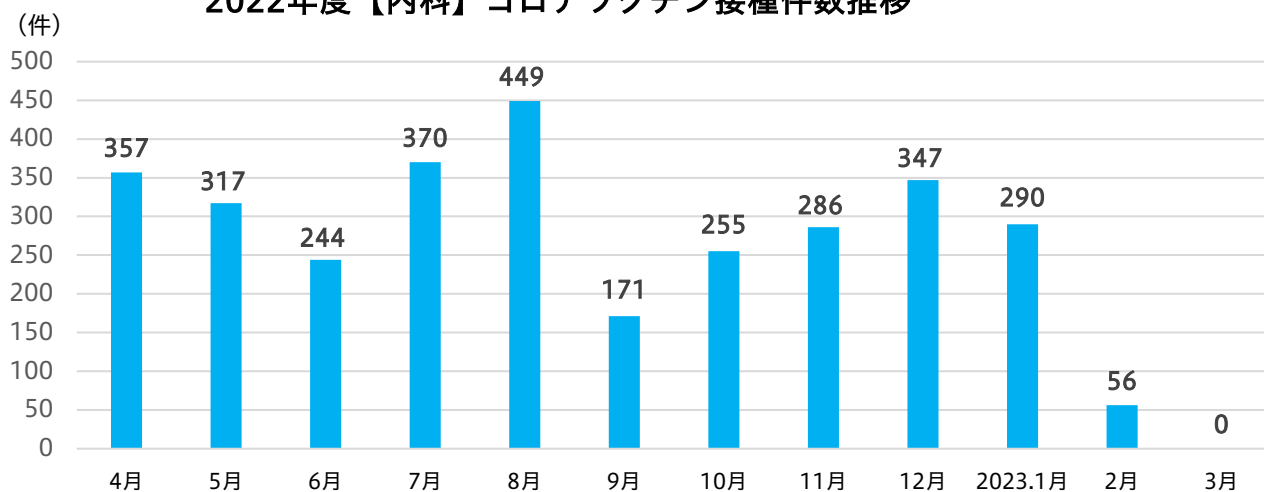
予防接種・ワクチン接種実施数



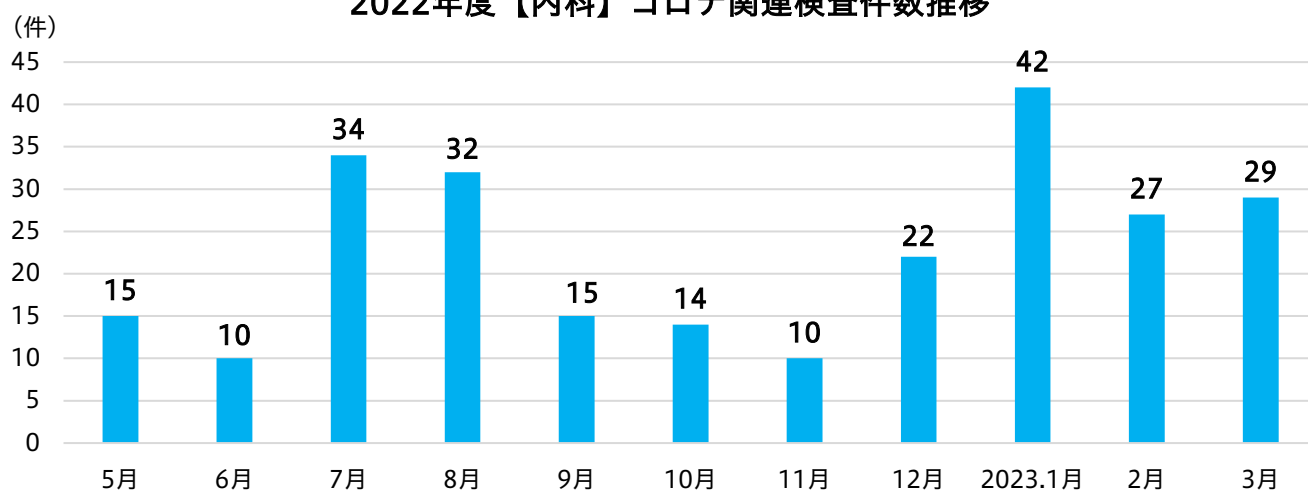
特定健診受診者数



2022年度【内科】コロナワクチン接種件数推移



2022年度【内科】コロナ関連検査件数推移



禁煙外来実績

本管理料を算定した患者数 (期間: 2022 年 4 月～2023 年 3 月)	① 28 名
---	--------

①のうち、当該期間後の 6 月末日までに 12 週間にわたる計 5 回の禁煙治療を終了した者	② 16 名
--	--------

②のうち、禁煙に成功した者	③ 11 名
---------------	--------

5 回の指導を最後まで行わずに治療を中止した者 (①ー②) のうち、中止時に禁煙していた者	④ 4 名
---	-------

ニコチン依存症管理料の初回の治療の年間の算定回数 (前年 4 月 1 日から当年 3 月末日までの1年間)	⑤ 28 名
--	--------

ニコチン依存症管理料の年間の延べ算定回数 (前年 4 月 1 日から当年 3 月末日までの1年間における初回から 5 回目までの治療を含む)	⑥ 107 回
---	---------

喫煙を止めたものの割合 = (③ + ④) / ①	53%
---------------------------	-----

治療の平均継続回数 = ⑥ / ⑤	3.8 回
-------------------	-------

小児科

小児科 川満 豊

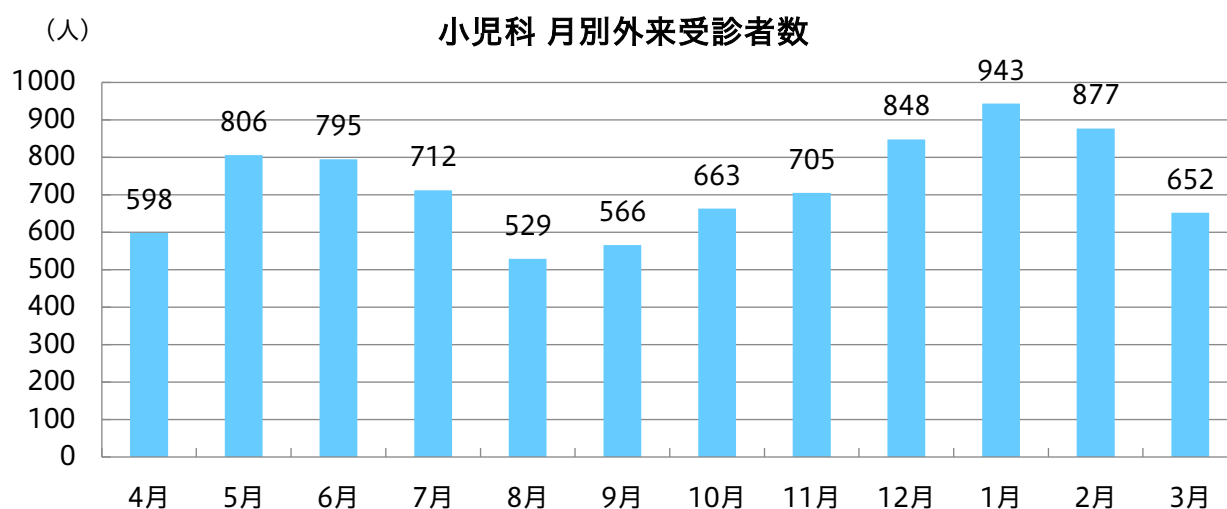
部門紹介

小児科では小児一般外来を行っております。ハートライフクリニックの医師と主に琉球大学附属病院小児科医局から派遣していただいている非常勤医師で診療にあたっています。月、水曜日の午後、予防接種も行っております。

当クリニックの小児科内は、プレイルームを広めにとっており、お子さんが安心して怖がらずに来院できるように工夫しています。

対応が困難な検査や入院が必要となる専門的な治療は、他の医療機関やハートライフ病院などと連携して治療を行います。

業務実績



附属施設

疾病予防運動施設 Ryuew-ZA（リューザ）

疾病予防運動施設 Ryuew-ZA 長嶺 敦司

部門紹介

疾病予防運動施設 Ryuew-ZA（リューザ）はハートライフクリニックと併設しているため、医師による運動処方箋をもとに医学的視点を加味し、安心して効果的な運動による疾病予防が可能です。

リューザには理学療法士が常駐しており、また、健康運動指導士といった運動の専門家が一人ひとりの身体の状態に合った運動プログラムを作成し、健康づくりを全面的にサポートします。

2022 年度もコロナウイルス感染予防対策のため、当施設は休館となりました。業務内容を変更し、当クリニック糖尿病内科患者への体組成測定の実施と運動指導、運動・健康情報誌「リューザニュース」、糖尿病外来「オンライン講座」、かりゆし会広報誌「あすなろ」への掲載、YouTube へ動画配信など運動療法の啓蒙活動を積極的に行いました。

職員数

総数 2 名

理学療法士 1 名

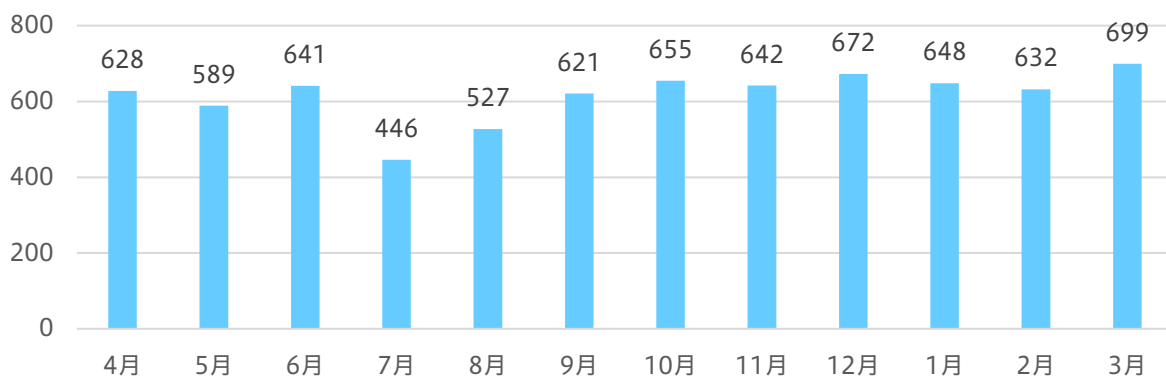
健康運動指導士 1 名

資格・認定

- ・ 日本糖尿病療養指導士
- ・ 沖縄県地域糖尿病療養指導士
- ・ 健康運動指導士

業務実績

体組成計測件数



活動実績

講義

テーマ	開催地	年月日	講師
糖尿病の運動療法	医療法人おもと会 沖縄リハビリテーション福祉学院(与那原町)	2022 年 12 月 6 日(火)	長嶺 敦司
糖尿病の運動療法	医療法人おもと会 沖縄リハビリテーション福祉学院(与那原町)	2022 年 12 月 9 日(金)	長嶺 敦司

無料健康講座

名称	開催地	年月日	講師
認知症予防に効果的な運動	翁長公民館(オンライン)	2022 年 5 月 23 日(月)	長嶺 敦司
認知症予防に効果的な運動	北浜公民館(オンライン)	2023 年 3 月 8 日(水)	長嶺 敦司

情報誌関連(QRコードよりコンテンツを閲覧できます)

リューザニュース

テーマ	発行月	担当
コロナ禍における世代別運動不足の問題	4 月	高原早陽香
コロナ禍における運動不足の問題 パート 2	8 月	高原早陽香
ラジオ体操第 2 の効果	10 月	高原早陽香
爪と歩行の関係について	12 月	高原早陽香
軽視するとコワイ! 骨粗しょう症	2 月	高原早陽香



広報誌あすなろへの寄稿

タイトル	号	監修
チャレンジ!「効果的なウォーキング」	No.109 春号	長嶺 敦司
夏本番!熱中症を予防しよう!運動編	No.110 夏号	長嶺 敦司
ラジオ体操第2	No.111 秋号	長嶺 敦司
ヘルスリテラシーって何?	No.112 新年号	長嶺 敦司



オンライン糖尿病教室

テーマ	発行月	担当
「熱中症予防」～涼しく室内でできる運動～	2022年6月8日(水)	長嶺 敦司
「知って得する運動療法!」～こむら返り対策～	2022年8月10日(水)	長嶺 敦司
誰にも気づかれずに「こっそり運動」	2022年12月14日(水)	長嶺 敦司



ヘルシーカフェ ohana

ヘルシーカフェ ohana 管理栄養士 新垣 優子

部門紹介

クリニック内に健康管理のサポートを目的とした管理栄養士が運営するヘルシーカフェ オハナが併設されています。利用者層は、主に外来受診患者さんとそのご家族、職員になっています。カフェでは、ヘルシーランチや日替わりバランス弁当などを提供しています。

沖縄の文化的特徴として肉料理や揚げ物が振る舞われる行事が多く、糖質、脂質、塩分の過剰摂取が繰り返されます。そこで、カフェでは揚げ物や脂質、塩分を控えた料理を提供することで食習慣の改善を促しています。

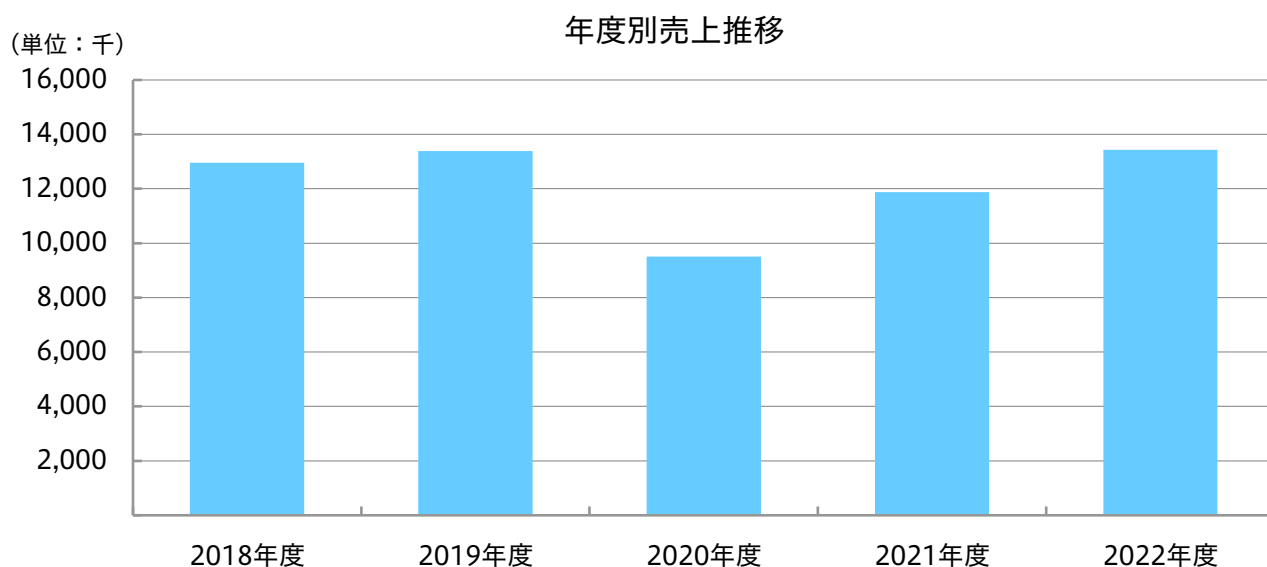
2022 年度もコロナの影響でテイクアウトのみの営業を行っており、ランチ弁当、サンドやお握りなど手軽に食べられる商品を販売しています。また、かりゆし会職員より弁当や軽食、スイーツの注文を受け、ハートライフ病院への配達を始めました。今後も、食生活が気になる職員の食事サポートを続けて行きたいと思います。

職員数

総数 3 名

調理師 1 名

調理補助 2 名



ハートライフ地域包括ケアセンター 2022年度 年次報告

Annual report of Heartlife area comprehensive care center 2022



理念

わたしたちは、心と心をつなぐ信頼される医療と介護をめざします

運営方針

1. 自分や自分の家族がして欲しいと思うケアを提供します。
2. いつでも笑顔で親切なケアを提供します。
3. 利用者の方の個性や楽しみを尊重し、その人らしく笑顔で日常生活を送れるように優しさと温かみのあるケアを提供します。
4. 医療と介護の連携により、切れ目のない支援を提供します。
5. 職員がやりがいと誇りを持って、働ける環境を作ります。

年報発刊によせての挨拶



1. はじめに

当ケアセンターは、2015年7月の開所から8年目を迎えることができました。これもひとえに入居者様やそのご家族様、そして関係する皆様のおかげと感謝申し上げます。

さて、わが国で2020年から始まった新型コロナウイルスの感染拡大は3年が経過しました。

2022年は、当センターでも新型コロナウイルスのクラスターが発生し、その際には入居者様、ご家族様はじめ、関係する皆様には多大なご不便とご心配をおかけしましたことをこの場を借りてお詫び致します。当センターでは、本院（ハートライフ病院）の医師、看護師、感染対策室、DMATチームによる指導・協力のもと、職員が一丸となって新型コロナウイルスの拡大防止に努めました。数名の職員の罹患の影響でマンパワーが低下した中、過酷な業務と不安の日々でしたが、入居者様やご家族様から「頑張ってください」のお声掛けや、メッセージ付きのある差し入れ等に元氣と勇氣をいただきました。

コロナ感染症第8波の際には、クラスター防止対策として各フロアでデイサービスを実施しました。その際は職員の固定配置を行った影響で業務が煩雑となり、結果的に職員の負担が増えることになりました。管理者として苦悩する日々でしたが、その様な厳しい状況を全職員が耐え忍んだ結果、無事に第8波を乗り越えることができました。改めて全職員と関係各位の皆様には心から感謝申し上げます。

2022年度の平均入居者数は94名でした。新規入居者数は前年度を僅かに上回っていましたが、昨年度に比べ転居された方が増加していました。ご病気の進行により身体管理が病院の対象となり療養型の医療機関へ入院のため転居となった方が2名、料金関連の理由で他施設へ転居された方が8名でした。当センターが管理料金などを値上げさせていただいた背景には、様々な物価・人件費の高騰があり、質の高い医療・介護サービスを提供し続けるためには苦渋の決断でした。入居者様や関係者様にはご理解とご協力を賜り感謝致します。この様な社会情勢は2023年度も継続し厳しい経営状況が続くと予測しておりますが職員一丸となって乗り越えていく所存でございます。

各事業所の運営については、下半期にハートライフ病院など、医療機関へ入院する方が増加したことや感染対策の為の利用者数制限に伴い収益が減少しました。入院する入居者様が増えた理由としては、殆どの方の場合で加齢による持病の悪化があげられ、更に入院した場合の入院日数が長期化しているケースが多くみられました。

高齢者施設におけるコロナ感染防止では、各種サービスの利用者数制限は必要不可欠です。経営的な打撃は小さくないのですが、今後も必要時はその措置を取らざるを得ないと考えております。

2022年度の大きな変化として、12月末でのヘルパーステーションの閉鎖があります。主な閉鎖理由は、①サービス提供責任者の確保難 ②有料老人ホーム介護職員の多重業務における心的負担軽減 の2点となりま

す。ヘルパーステーションは閉鎖することになりましたが、今後もこれまで以上に質の高い日常生活援助を提供していく所存です。

訪問看護ステーションは複数の産育休者がいたことや、12 月末まで 1 名にヘルパーステーションのサービス提供責任者を担ってもらった影響でマンパワー不足の状況もございましたが、訪問リハビリ職員の活躍もあり昨年同様の実績を維持できています。これからも、いわゆる「子育ては社会全体で協力して行うもの」という考え方を実行できる職場でありたいと考えています。ケアプランセンターも年度途中に退職者があり厳しい状況でしたが、残った職員の頑張りで質を低下させることなく、安定したサービスプランの作成ができていたと思います。現在はケアマネジャーの採用も順調に推移しており、次年度に向けて明るい材料となっております。

2022 年度は各部門のマンパワー低下に職員のコロナ罹患が追い打ちをかけ大変な状況でしたが、全職員が本当に頑張ってくれました。心から感謝致します。ご協力下さったご家族様と、理事長はじめ理事の先生方、本院感染対策室、ハートライフ病院、ハートライフクリニックはじめ法人職員の皆様には心から感謝致します。

2. 2022 年度の目標と振り返り

A. 居住環境

①安全・安心な生活空間の提供

→クラスター防止対策として、感染対策の徹底と、入居者様及び職員の健康管理を徹底した。

②サービスの質向上

→入居者様への娯楽として通常のイベントに加え、餅つき大会や年越しそば等を職員が振る舞う等して行動制限中の入居者様に沢山の笑顔がみられた。

B. 職員が働きやすい職場環境

①離職率 20%以下の継続

→全体では 20%、介護職のみ 19%。

②ケアセンター全体（有料老人ホーム、デイサービス）の介護職員の確保。

→目標に 2 名不足。

③移乗用リフトの使用

→操作手技を全ての職員が習得。負担軽減及び腰痛対策に絶大な効果を発揮した。

④ヘルパーステーション閉鎖による多重業務の回避

→2022 年 12 月末でヘルパーステーションを廃止して職員負担の軽減と今あるマンパワーでの効率的な介護サービスの提供につなげられた。

⑤オムツの種類の変更

→次年度へ継続課題。

⑥ユニフォーム変更（介護職・看護職）

→実施済み。センターの雰囲気明るくなった。

⑦残業時間低減

→一部未達成。人員不足にて今後も継続課題。

C. 安定経営とサービスの質確保のための利用者増（2023年1月時点平均値）

- ①住宅型有料老人ホーム：月平均入居者数 97 名以上の維持
→実績 94.4 名。
- ②デイサービス：1 日平均利用者数 59 名以上の達成
→実績 57.2 名。2 月以降減予測。
- ③訪問看護ステーション：1 か月の延べ件数 750 件以上の達成
→実績 649 件。マンパワー不足により利用者増できなかった。
- ④ヘルパーステーション：1 か月の延べ件数 450 件の達成
→実績 245 件。※ 2022 年 12 月末でヘルパーステーション閉鎖。
- ⑤ケアプランセンター：ケアマネジャー 1 人あたり 30 人の達成（管理者は 15 名）
→人員不足により 30 名以上を担当しており昨年同様。

3. 2023 年度への展望

2020 年から始まったコロナ禍も 2023 年 5 月に国の感染症分類が 2 類から第 5 類へ移行されることで、ひとつの区切りを迎えることになります。しかし、我々高齢者施設においては今後も常に感染対策を念頭に置き、慎重かつ柔軟な対応を心掛け、入居者様・ご家族様に安心していただける生活環境と良質な介護・医療サービスの提供を維持していきたいと思います。

団塊の世代が 75 歳を迎え、介護を必要とする方の人口が最大値に達するといわれている 2025 年を目前に（沖縄県は数年遅れると予測されています）、介護労働者不足が深刻化する中、高齢者施設経営の明暗を分けるのは介護職の確保と処遇の改善が鍵になると言われています。当センターでも 2022 年度はマンパワーに余裕があるわけではない中、コロナ休（コロナ感染または濃厚接触による職場が付与する公休）が追い打ちをかける厳しい状況でした。そんな中でも管理者としては「職員をしっかりと休養させる、今いる職員を大事にする」を強く意識してきました。今後も多様化する社会情勢の中で職員の高齢化も踏まえて、職員の心身の健康管理に注視し、永く働き続けられる職場風土の構築を目指します。お陰様で 2022 年 11 月から 12 月にかけては 7 名の介護新入職者を迎えることができ、僅かではありますが、現場に潤いを感じています。現在、看護職・介護職の協力体制も良好で、次年度は更に強靱なチーム力が醸成されることを期待しています。一方で「若年層職員の確保と育成」が課題であり早期に対策を講じなければなりません。課題は山積ですが職員の定着・安定こそが良質なサービス提供の源であり、安定した経営と考えています。これからも入居者様・ご家族様に満足して頂ける高齢者施設を目指して努力して参りますので、当センターの運営に関しまして、関係各位の皆様のご理解とご協力、ご支援の程、よろしくお願いいたします。

社会医療法人かりゆし会
ハートライフ地域包括ケアセンター
センター長 宮平 典子

施設概要

組織概要

施設名

ハートライフ地域包括ケアセンターを総称として、5 事業所で構成される。

1. 住宅型有料老人ホームはーとらいふ
2. デイサービスはーとらいふ
3. ヘルパーステーションはーとらいふ
4. 訪問看護ステーションはーとらいふ
5. ケアプランセンターはーとらいふ

所在地

〒903-0103 沖縄県中頭郡西原町字小那覇 1606 番地

連絡先

電話 (098)944-3300 (代表)

ホームページ <https://www.heartlife.or.jp/care/>

管理者一覧

理 事 長	安里 哲好
セ ン タ ー 長	宮平 典子
事 務 長	仲地 智俊

職員数

総数

71 名

内訳

センター長	1 名
事務長（法人事務局部長）	1 名
事務係長	1 名

●有料老人ホーム

介護職員	24 名（訪問介護兼務）
相談員	2 名（デイサービス相談員兼務）
環境整備	3 名

●デイサービス

介護職員	16 名
柔道整復師	3 名
相談員	1 名

●訪問看護

看護師	13 名（デイサービス兼務）
理学療法士	1 名

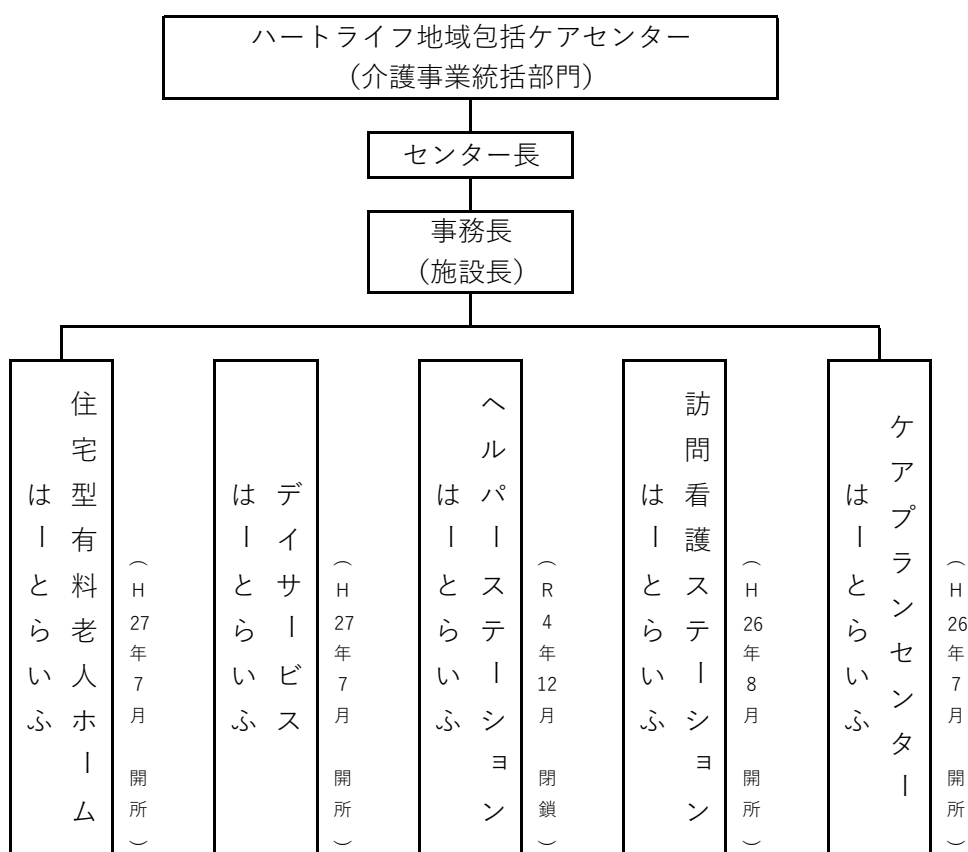
●訪問介護

介護職員	4 名
------	-----

●ケアプランセンター

ケアマネージャー	3 名
----------	-----

組織図



2022 年度 利用者実績

住宅型有料老人ホーム はーとらいふ

稼働実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
新規入居者数	2	0	3	3	1	1	0	2	3	2	2	4	23	1.9
短期入所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
月末入居者数	97	92	93	96	97	97	95	94	92	92	89	91	1125	93.8
退去者数	2	4	2	0	0	2	1	3	5	4	3	2	28	2.3
内：死亡者数	0 (0)	2 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (1)	1 (2)	2 (1)	1 (0)	0 (2)	1 (0)	10 (8)	0.8 (0.7)
看取者数	0	2	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	7	0.6
入院者数	179	209	131	118	72	138	96	183	180	220	149	73	1748	145.7
訪問診療利用者数	18	17	15	18	18	18	18	17	18	18	18	19	212	17.7
平均介護度	3.3	3.2	3.2	3.2	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2

※死亡者数の () は入院先で亡くなった方。

デイサービス はーとらいふ

稼働実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
新規利用	3	0	2	3	1	2	0	1	3	2	3	3	23	1.9
利用実人数	93	91	89	91	92	94	92	91	90	86	87	90	1086	90.5
利用延べ人数	1,500	1,411	1,463	1,509	1,603	1,542	1,527	1,455	1,501	1,314	1,337	1,518	17,680	1473.3
稼働日数	26日	25日	26日	26日	27日	26日	26日	26日	27日	24日	24日	27日	-	26日
一日平均数	57.7	56.4	56.3	58.0	59.4	59.3	58.7	56.0	55.6	54.8	55.7	56.2	57.0	57.0
平均介護度	3.3	3.3	3.3	3.3	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	3.2	3.2	3.3	3.3	3.3

ヘルパーステーション はーとらいふ

稼働実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
新規利用	3	0	2	2	3	1	0	1	1	-	-	-	13	1.4
利用実人数	25	22	21	25	24	24	22	26	24	-	-	-	213	23.7
延べ人数	307	282	277	284	283	271	280	239	236	-	-	-	2,459	273.2
稼働日数	30日	31日	30日	31日	31日	30日	31日	30日	31日	-	-	-	-	31日
一日平均数	10.2	9.1	9.2	9.2	9.1	9.0	9.0	8.0	7.6	-	-	-	8.9	8.9
平均介護度	3.4	3.5	3.5	3.4	3.5	3.2	3.7	3.6	3.5	-	-	-	3.5	.35

訪問看護ステーション はーとらいふ

稼働実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
新規利用	4	0	4	2	1	2	3	1	4	2	4	4	31	2.6
利用実人数	102	97	97	99	100	102	101	101	99	97	96	100	1191	99.3
延べ人数	753	593	739	781	782	782	782	741	778	733	666	796	8,926	743.8
稼働日数	30日	31日	30日	31日	31日	30日	31日	30日	31日	31日	28日	31日	-	30日
一日平均数	25.1	19.1	24.6	25.2	25.2	26.1	25.2	24.7	25.1	23.6	23.8	25.7	24.5	24.5
平均介護度	3.2	3.3	3.2	3.2	3.3	3.3	3.2	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.2	3.2

ケアプランセンター はーとらいふ

稼働実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
新規利用	4	2	2	2	2	2	0	1	1	0	0	0	16	1.3
利用実人数	115	116	117	116	118	112	99	97	99	94	98	86	1267	105.6

はーとらいふ保育園 2022年度 年次報告

Annual report of Heartlife Nursery 2022



理念

私たちは心と心を結ぶ親子の絆を深める保育を目指します。

保育方針

保育園の特質を生かし、家庭や地域と連携を取りながら乳幼児期に必要な
心身共にすこやかな成長を保育方針とします

保育目標

よくあそぶ子

好奇心豊かな子

表現豊かな子



年報発刊によせての挨拶



社会医療法人かりゆし会は一とらいふ保育園は、2017年に設立し、2023年4月で7年目を迎えます。はとらいふ保育園をご利用くださった方や、現在ご利用いただいておりますの方々、また当園に携わる各部署の方々のお力添えによるものであり、皆様のご協力とご理解に心より厚く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症に惑わされた3年間、保護者の方を招いた保育園行事も開催できておりませんが、感染対策に取り組む中で状況を把握しながら少しずつ開催していく予定です。

幼い園児は感染症に弱いため、引き続き保護者の皆様には玄関でのAI機能搭載体温計測カメラシステムでの検温、園児は受入れの際の検温の実施、園内消毒、玩具や園児が触れるすべての物の清拭、保育室の換気をし、空気清浄機の稼働、園児への手洗いの励行を継続し、安心して園生活が送れるようにしてまいります。

また、他園に通うお子さんの一時預かり（慰霊の日、年末など）も継続して行い、昨年も当会で働く職員の方にご利用いただき、微力ながらも貢献できればと思っております。『一時預かり保育』に関しては、入職や復職をされる職員のお子さんを入園前の慣らし保育として、1～2ヶ月前より受け入れをする事で保護者もお子さんも徐々に園生活に慣れ、生活リズムが整うよう配慮しました。2023年度も他園に入園希望の当会職員のお子さんも『集団生活の体験入園』としてご利用される方のニーズに応えながら継続していく予定です。

また、昨年度より『地域枠』を設け、中城村在住のお子さん2名を受け入れましたが、西原町、宜野湾市、与那原町の方からのお問合せが多いことから今年度は拡大して受け入れております。

また、ホームページも開設し、保護者の皆様に安心していただけるよう、お子さんの園での日々の様子をブログに、園からのお知らせをホームページに掲載しています。当会の職員のみならず地域の方々も閲覧し入園についての問い合わせも増えております。

開園以来、行っておりました『親子うんどう会』も新型コロナウイルス感染症により、令和2年からは園庭にて『ミニミニうんどう会』に変更して園児のみの参加とし、日頃の保育の中で実践しているお遊戯や体操、うんどう遊び、リズム遊びを元気よく披露してくれました。

子どもたちは幼いながらも、色々なものを見て感じて表現します。その思いに職員ひとりひとりが寄り添い、花や野菜を育てる体験を通し新たな感性を育て、園生活が充実できるよう努めてまいります。

社会医療法人かりゆし会は一とらいふ保育園 園長 金城 久乃

施設概要

当園は、社会医療法人かりゆし会の職員のお子さまを対象に、お預かりする保育園（企業主導型保育事業）です。育児中のかりゆし会職員が「仕事と育児の両立と充実」を提供できるように平成 29 年 4 月に設立しました。

組織概要

施設名

社会医療法人かりゆし会 は一とらいふ保育園

所在地

〒901-2417 沖縄県中頭郡中城村字伊集 159 番地

連絡先

電話 098-987-6543

FAX 098-987-6544

管理者一覧

理事長 安 里 哲 好

園 長 金 城 久 乃

職員数

総数

職種別

園長 1 名

保育補助 2 名

保育士 8 名

事務（連携推進担当） 1 名

理念

私たちは心と心を結ぶ親子の絆を深める保育を目指します。

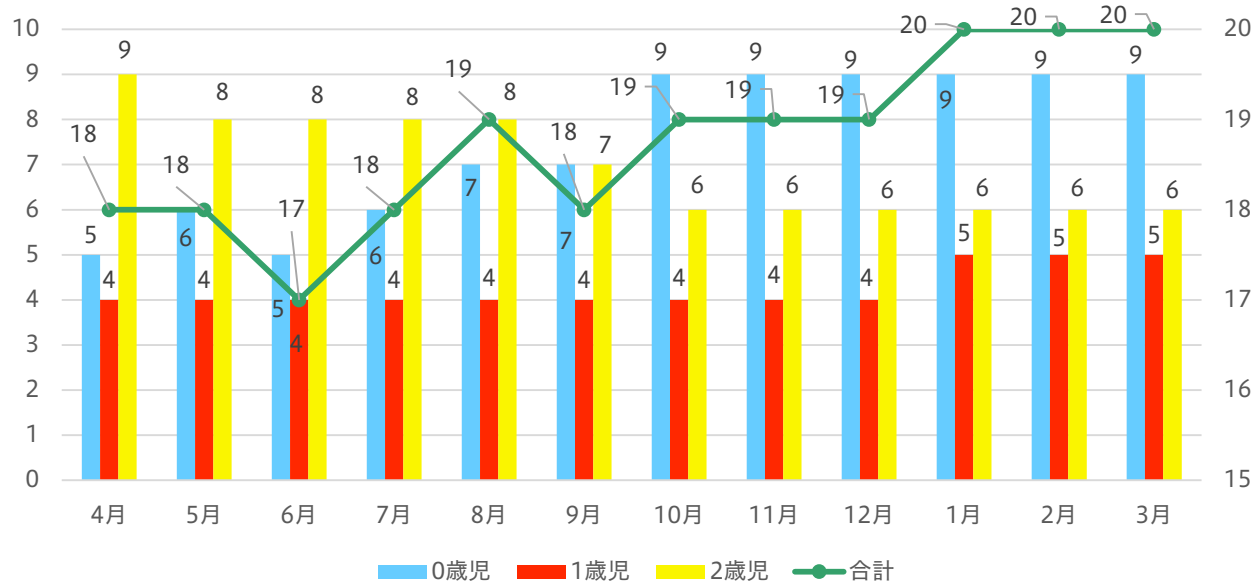
保育方針

保育園の特質を生かし、家庭や地域と連携を取りながら乳幼児期に必要な心身共にすこやかな成長を保育方針とします。

保育目標

- ・ よくあそぶ子
- ・ 好奇心豊かな子
- ・ 表現豊かな子

2022 年度園児在籍数



園行事・活動

4月	入園式 / 野菜の植え付け (オクラ・二十日ネギ・ゴーヤー)
5月	内科健診
6月	歯科健診 / 尿検査
7月	七夕 / 水あそび
8月	水あそび
9月	うどんあそび
10月	ハロウィンパーティー / 尿検査
11月	内科健診 / 歯科健診 / ミニミニうどん会
12月	クリスマス会 / 記念撮影 / 総合避難訓練
1月	正月あそび
2月	節分豆まき
3月	ひな祭り / お芋ほり / 年度保育修了

毎月行事 誕生会 / 避難訓練 / 身体測定

研修・勉強会実施報告

名称	場所	日時	参加者
AED 使用方法 講師：救急蘇生法研修会 指導者 作業療法士 大見謝勝人	はーとらいふ保育園	4月	全職員
保育施設における事故防止及び事故発生時の対応	はーとらいふ保育園	4月	全職員
毎月の避難訓練計画書の作成について	はーとらいふ保育園	5月	全職員
企業主導型保育事業 水遊び、ビニールプール遊びについての危機管理	はーとらいふ保育園	6月	全職員
那覇市保育所にて乳児死亡事故 睡眠時の危機管理	はーとらいふ保育園	8月	全職員
企業主導型保育事業 園児の誤飲及び窒息事故について 食事の危機管理	はーとらいふ保育園	9月	全職員
企業主導型保育事業 保育安全研修	オンライン	9月	比嘉希美
沖縄県子育て支援課 保育スキルアップ向上研修	オンライン	10月	金城久乃
沖縄県社会福祉協議会 食品衛生管理研修	オンライン	10月	屋良智子
NPO 法人 CAP センター主催 児童虐待防止研修	中城村役場	10月	喜久川妙子
企業主導型保育事業 食育アレルギー研修	オンライン	11月	前田美恵

名称	場所	日時	参加者
企業主導型保育事業 施設長研修	オンライン	11 月	金城久乃
企業主導型保育事業 乳児保育研修	オンライン	12 月	喜久川妙子
企業主導型保育事業 マネジメント研修	オンライン	12 月	伊波旬子
企業主導型保育事業 保健衛生研修	オンライン	1 月	照屋尚美

2021 年度立入調査 / 監査実施報告

名称	日時
児童育成協会による立入調査 企業主導型保育事業	12 月

2023 年度の計画

1. 新型コロナ感染症以外の感染症に対する対策の強化
2. 安全環境の整備（保育室及びベランダ、園庭、水遊び等）
3. 園児絵本、エプロンシアターやペープサートの実施
4. 職員間の連携
5. 働きやすい職場の環境整備
6. 五感を使った畑の管理や食育の体験
7. 一時預かりの受け入れ
8. 新型コロナ感染症により休園となった他園へ通う子の受け入れ（継続）
9. 入職、復職前の一時預かり保育（慣らし保育）
10. 集団生活前の体験保育
11. 園だより、園生活の様子のブログや写真掲示
12. Healthy Cafe Ohana の手作りおやつ提供（お誕生会・クリスマス会）
13. 10、ミニミニうどんどう会、近隣散歩

かりゆし会の1年

写真で振り返る ゆし会の1年

2022年4月1日～2023年3月31日

2022年4月1日	入職式・新入職員オリエンテーション
2022年4月1日	春季職員健診
2022年4月28日	職員対象 新型コロナワクチン接種(12歳以上)
2022年7月11日	院内献血
2022年8月8日	職員対象 新型コロナワクチン接種(4回目)
2022年8月15日	職員対象 新型コロナワクチン接種(4回目)
2022年8月16日	科別実績報告会(オンデマンド配信)
2022年8月22日	ハートライフ病院 開院34周年
2022年9月5日	永年勤続表彰
2022年9月13日	保健所立入検査
2022年9月14日	職員B型肝炎予防接種(集団①)
2022年10月3日	秋季職員健診
2022年10月26日	職員B型肝炎予防接種(集団②)
2022年11月9日	職員インフルエンザワクチン接種(集団①)
2022年11月16日	職員インフルエンザワクチン接種(集団②)
2022年11月22日	職員対象 新型コロナワクチン接種(5回目)
2022年11月25日	職員対象 新型コロナワクチン接種(5回目)
2022年12月12日	院内献血
2023年3月17日	職員満足度調査
2023年3月22日	職員B型肝炎予防接種(集団③)
2023年3月24日	初期臨床研修医研修修了式



2022年度入職式



新人看護師BLS研修



東部消防本部との合同訓練



多数傷病者事案 消防合同訓練1日目



多数傷病者事案 消防合同訓練2日目



献血運動推進協力者表彰



火災避難訓練



院内研究発表会



おきなわ子どもメディカルラリー



臨床研修医第18期研修修了式

2022 年 社会医療法人かりゆし会 永年勤続者

勤続 30 年（1992 年 1 月 1 日～12 月 31 日入職者）

1. 嘉陽 陽子	ハートライフ病院 5 階病棟
2. 玉那覇 美幸	ハートライフクリニック 外来
3. 真栄城 ゆかり	ハートライフ病院 栄養科
4. 桑江 高	ハートライフ病院 医事課 外来保険
5. 内間 善一	ハートライフ病院 総務課 患者送迎係
6. 新垣 りか	ハートライフ病院 地域医療連携室 病診連携
7. 安里 恵美子	ハートライフ病院 5 階病棟
8. 新垣 絹子	ハートライフ病院 7 階病棟
9. 與那嶺 敬子	ハートライフ病院 東館 HCU

勤続 20 年（2002 年 1 月 1 日～12 月 31 日入職者）

1. 玉村 生子	ハートライフ病院 5 階病棟
2. 勝連 しのぶ	ハートライフ病院 5 階病棟
3. 金城 隆也	ハートライフ病院 6 階病棟
4. 知念 恵子	ハートライフ地域包括ケアセンター 訪問看護ステーション はーとらいふ
5. 金城 こずえ	ハートライフ病院 外来
6. 仲松 勝彦	ハートライフ病院 臨床検査科
7. 金城 奈津子	ハートライフ病院 臨床検査科
8. 吉岡 綾子	ハートライフ病院 栄養科
9. 今畑 友理子	ハートライフ病院 臨床検査科
10. 伊禮 勇一	ハートライフ病院 薬局
11. 比屋根 宗	ハートライフ病院 管財課 施設係
12. 宮平 奈美子	ハートライフ病院 診療情報管理室 病歴
13. 富里 等	ハートライフ病院 総務課 庶務係
14. 宮城 映子	ハートライフ病院 総務課 図書
15. 中里 常子	ハートライフ病院 総務課 庶務係
16. 嘉川 春生	ハートライフ病院 泌尿器科
17. 普天間 光彦	ハートライフ病院 呼吸器内科
18. 折田 均	ハートライフ病院 消化器内科
19. 宮城 美和子	ハートライフ病院 東館 4・5 階病棟

編集後記

2022 年度もコロナ禍で迎えた 3 年目でした。2022 年 8 月の第 7 波、12 月の第 8 波と大きな波が押し寄せました。沖縄県のコロナ陽性患者数は累計で 58 万人を超えています。沖縄では第 7 波直後の自然感染由来の免疫レベルが高かったため第 8 波の流行が遅く、規模が小さかったともいわれています。しかしながら今後も予断を許さない状況です。

このたび、2022 年度の年報が作成されました。コロナ禍 3 年目どうにか乗り切りましたが、これからも互いに油断することなく細心の注意を払いながら日常業務に臨めればと思います。2022 年度もありがとうございました。データ収集にご協力いただいた職員の皆様に感謝申し上げ、またご健康を願ひまして編集後記と致します。

年報作成委員会委員長 嘉川 春生

データ収集にご協力頂いた、各部署の皆様ありがとうございました。

年報作成委員会の皆様お疲れ様でした。

◇年報作成委員会◇

委員長	嘉川 春生（泌尿器科部長）
委員	安谷屋 佳子（看護部副部長）
	松田 優二（放射線科副技師長）
	石新 紘也（ハートライフ地域包括ケアセンター係長）
	知念 政治（企画室広報係係長）
	仲松 泉（メディカルクラーク係長）
	新垣 優子（ヘルシーカフェ ohana 主任）
	金城 美加（メディカルクラーク副主任）
	内間 善一（総務課）
	田河 美智代（診療情報管理室）
	宮城 映子（総務課図書係）
企画調整・編集	仲田 尚正（企画室広報係主任）

社会医療法人かりゆし会 年報
第 29 巻 2022 年度年報 2023 年 9 月

編集発行人 社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院
年報作成委員会

〒 901-2492 沖縄県中頭郡中城村字伊集 208 番地
電話 . (098) 895-3255 (代) FAX. (098) 895-2534
URL. <https://www.heartlife.or.jp/>